

改 正 後	現 行																																																																										
<h2 style="margin: 0;">1. 土 工</h2> <p>① [略]</p> <p>② 機械施工の共通事項</p> <p>1. 機種の選定</p> <p>1-1 [略]</p> <p>1-2 標準作業量による適用機種の標準 [略]</p> <p>1-2-1 機種選定表（抜根・排根作業）</p> <p style="text-align: center;">表 1. 2 機種選定表（抜根・排根作業）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">機 種</th> <th style="width:40%;">規 格</th> <th style="width:40%;">摘 要 区 分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">湿地レーキドーザ （農用地造成工事）</td> <td>13t級 <u>排出ガス対策型（第2次基準値）</u></td> <td>対象面積が2ha未満の場合</td> </tr> <tr> <td>16t級 <u>排出ガス対策型（第2次基準値）</u></td> <td>” 2ha以上の場合</td> </tr> </tbody> </table> <p>（注） [略]</p> <p>1-2-2 機種選定表（締固め作業）</p> <p style="text-align: center;">表 1. 3 機種選定表（路床・路体・築堤）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">使 用 機 種</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">摘 要</th> </tr> <tr> <th style="width:10%;">機 種</th> <th style="width:10%;">規 格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">振 動 ロ ー ラ</td> <td>排出ガス対策型（第<u>3</u>次基準値）搭乗式・コンバインド型 3～4t</td> <td>締固め幅が1.0m以上2.5m未満の場合</td> </tr> <tr> <td>ハンドガイド式 0.8～1.1t</td> <td>締固め幅が1.0m未満の場合</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">振動コンパクタ</td> <td>前進型 <u>通称90kg級</u></td> <td>構造物付近等で振動ローラの使用が不適当な場合、且つ締固め幅が45cm以上の場合</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">タ ン パ</td> <td><u>通称60～80kg級</u></td> <td>構造物付近等で振動ローラの使用が不適当な場合、且つ締固め幅が35cm以上の場合</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表 1. 4 機種選定表（埋戻し）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">使 用 機 種</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">摘 要</th> </tr> <tr> <th style="width:10%;">機 種</th> <th style="width:10%;">規 格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">振 動 ロ ー ラ</td> <td>排出ガス対策型（第<u>3</u>次基準値）搭乗式・コンバインド型 3～4t</td> <td>締固め幅が1.0m以上2.5m未満の場合で、且つ対象土量が500m<sup>3</sup>以上の場合</td> </tr> <tr> <td>ハンドガイド式 0.8～1.1t</td> <td>構造物付近等の搭乗式振動ローラの使用が不適当な場合で、締固め幅が1.0m以上の場合</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">振動コンパクタ</td> <td>前進型 <u>通称90kg級</u></td> <td>締固め幅が45cm以上の場合</td> </tr> </tbody> </table>	機 種	規 格	摘 要 区 分	湿地レーキドーザ （農用地造成工事）	13t級 <u>排出ガス対策型（第2次基準値）</u>	対象面積が2ha未満の場合	16t級 <u>排出ガス対策型（第2次基準値）</u>	” 2ha以上の場合	使 用 機 種		摘 要	機 種	規 格	振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型（第 <u>3</u> 次基準値）搭乗式・コンバインド型 3～4t	締固め幅が1.0m以上2.5m未満の場合	ハンドガイド式 0.8～1.1t	締固め幅が1.0m未満の場合	振動コンパクタ	前進型 <u>通称90kg級</u>	構造物付近等で振動ローラの使用が不適当な場合、且つ締固め幅が45cm以上の場合	タ ン パ	<u>通称60～80kg級</u>	構造物付近等で振動ローラの使用が不適当な場合、且つ締固め幅が35cm以上の場合	使 用 機 種		摘 要	機 種	規 格	振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型（第 <u>3</u> 次基準値）搭乗式・コンバインド型 3～4t	締固め幅が1.0m以上2.5m未満の場合で、且つ対象土量が500m <sup>3</sup> 以上の場合	ハンドガイド式 0.8～1.1t	構造物付近等の搭乗式振動ローラの使用が不適当な場合で、締固め幅が1.0m以上の場合	振動コンパクタ	前進型 <u>通称90kg級</u>	締固め幅が45cm以上の場合	<h2 style="margin: 0;">1. 土 工</h2> <p>① [略]</p> <p>② 機械施工の共通事項</p> <p>1. 機種の選定</p> <p>1-1 [略]</p> <p>1-2 標準作業量による適用機種の標準 [略]</p> <p>1-2-1 機種選定表（抜根・排根作業）</p> <p style="text-align: center;">表 1. 2 機種選定表（抜根・排根作業）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">機 種</th> <th style="width:40%;">規 格</th> <th style="width:40%;">摘 要 区 分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">湿地レーキドーザ （農用地造成工事）</td> <td>13t級</td> <td>対象面積が2ha未満の場合</td> </tr> <tr> <td>16t級</td> <td>” 2ha以上の場合</td> </tr> </tbody> </table> <p>（注） [略]</p> <p>1-2-2 機種選定表（締固め作業）</p> <p style="text-align: center;">表 1. 3 機種選定表（路床・路体・築堤）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">使 用 機 種</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">摘 要</th> </tr> <tr> <th style="width:10%;">機 種</th> <th style="width:10%;">規 格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">振 動 ロ ー ラ</td> <td>排出ガス対策型（第<u>1</u>次基準値）搭乗式・コンバインド型 3～4t</td> <td>締固め幅が1.0m以上2.5m未満の場合</td> </tr> <tr> <td>ハンドガイド式 0.8～1.1t</td> <td>締固め幅が1.0m未満の場合</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">振動コンパクタ</td> <td>前進型90kg</td> <td>構造物付近等で振動ローラの使用が不適当な場合、且つ締固め幅が45cm以上の場合</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">タ ン パ</td> <td>60～80kg</td> <td>構造物付近等で振動ローラの使用が不適当な場合、且つ締固め幅が35cm以上の場合</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表 1. 4 機種選定表（埋戻し）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">使 用 機 種</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">摘 要</th> </tr> <tr> <th style="width:10%;">機 種</th> <th style="width:10%;">規 格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">振 動 ロ ー ラ</td> <td>排出ガス対策型（第<u>1</u>次基準値）搭乗式・コンバインド型 3～4t</td> <td>締固め幅が1.0m以上2.5m未満の場合で、且つ対象土量が500m<sup>3</sup>以上の場合</td> </tr> <tr> <td>ハンドガイド式 0.8～1.1t</td> <td>構造物付近等の搭乗式振動ローラの使用が不適当な場合で、締固め幅が1.0m以上の場合</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">振動コンパクタ</td> <td>前進型90kg</td> <td>締固め幅が45cm以上の場合</td> </tr> </tbody> </table>	機 種	規 格	摘 要 区 分	湿地レーキドーザ （農用地造成工事）	13t級	対象面積が2ha未満の場合	16t級	” 2ha以上の場合	使 用 機 種		摘 要	機 種	規 格	振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型（第 <u>1</u> 次基準値）搭乗式・コンバインド型 3～4t	締固め幅が1.0m以上2.5m未満の場合	ハンドガイド式 0.8～1.1t	締固め幅が1.0m未満の場合	振動コンパクタ	前進型90kg	構造物付近等で振動ローラの使用が不適当な場合、且つ締固め幅が45cm以上の場合	タ ン パ	60～80kg	構造物付近等で振動ローラの使用が不適当な場合、且つ締固め幅が35cm以上の場合	使 用 機 種		摘 要	機 種	規 格	振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型（第 <u>1</u> 次基準値）搭乗式・コンバインド型 3～4t	締固め幅が1.0m以上2.5m未満の場合で、且つ対象土量が500m <sup>3</sup> 以上の場合	ハンドガイド式 0.8～1.1t	構造物付近等の搭乗式振動ローラの使用が不適当な場合で、締固め幅が1.0m以上の場合	振動コンパクタ	前進型90kg	締固め幅が45cm以上の場合
機 種	規 格	摘 要 区 分																																																																									
湿地レーキドーザ （農用地造成工事）	13t級 <u>排出ガス対策型（第2次基準値）</u>	対象面積が2ha未満の場合																																																																									
	16t級 <u>排出ガス対策型（第2次基準値）</u>	” 2ha以上の場合																																																																									
使 用 機 種		摘 要																																																																									
機 種	規 格																																																																										
振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型（第 <u>3</u> 次基準値）搭乗式・コンバインド型 3～4t	締固め幅が1.0m以上2.5m未満の場合																																																																									
	ハンドガイド式 0.8～1.1t	締固め幅が1.0m未満の場合																																																																									
振動コンパクタ	前進型 <u>通称90kg級</u>	構造物付近等で振動ローラの使用が不適当な場合、且つ締固め幅が45cm以上の場合																																																																									
タ ン パ	<u>通称60～80kg級</u>	構造物付近等で振動ローラの使用が不適当な場合、且つ締固め幅が35cm以上の場合																																																																									
使 用 機 種		摘 要																																																																									
機 種	規 格																																																																										
振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型（第 <u>3</u> 次基準値）搭乗式・コンバインド型 3～4t	締固め幅が1.0m以上2.5m未満の場合で、且つ対象土量が500m <sup>3</sup> 以上の場合																																																																									
	ハンドガイド式 0.8～1.1t	構造物付近等の搭乗式振動ローラの使用が不適当な場合で、締固め幅が1.0m以上の場合																																																																									
振動コンパクタ	前進型 <u>通称90kg級</u>	締固め幅が45cm以上の場合																																																																									
機 種	規 格	摘 要 区 分																																																																									
湿地レーキドーザ （農用地造成工事）	13t級	対象面積が2ha未満の場合																																																																									
	16t級	” 2ha以上の場合																																																																									
使 用 機 種		摘 要																																																																									
機 種	規 格																																																																										
振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型（第 <u>1</u> 次基準値）搭乗式・コンバインド型 3～4t	締固め幅が1.0m以上2.5m未満の場合																																																																									
	ハンドガイド式 0.8～1.1t	締固め幅が1.0m未満の場合																																																																									
振動コンパクタ	前進型90kg	構造物付近等で振動ローラの使用が不適当な場合、且つ締固め幅が45cm以上の場合																																																																									
タ ン パ	60～80kg	構造物付近等で振動ローラの使用が不適当な場合、且つ締固め幅が35cm以上の場合																																																																									
使 用 機 種		摘 要																																																																									
機 種	規 格																																																																										
振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型（第 <u>1</u> 次基準値）搭乗式・コンバインド型 3～4t	締固め幅が1.0m以上2.5m未満の場合で、且つ対象土量が500m <sup>3</sup> 以上の場合																																																																									
	ハンドガイド式 0.8～1.1t	構造物付近等の搭乗式振動ローラの使用が不適当な場合で、締固め幅が1.0m以上の場合																																																																									
振動コンパクタ	前進型90kg	締固め幅が45cm以上の場合																																																																									

タ	ン	パ	通称60～80kg級	締固め幅が35cm以上の場合
---	---	---	------------	----------------

(注) [略]

### ③ 振動ローラ締固め

1. [略]

#### 2. 施工歩掛

各作業の施工歩掛は、次表を標準とする。

表 2. 1 日当り施工量 (1日当り施工量)

工種	規格	単位	数量
路床	排出ガス対策型 (第3次基準値) 搭乗式・コンバインド型 3～4t	m <sup>3</sup>	78
	ハンドガイド式 0.8～1.1t	〃	43
路体築堤	排出ガス対策型 (第3次基準値) 搭乗式・コンバインド型 3～4t	〃	86
	ハンドガイド式 0.8～1.1t	〃	50
埋戻	排出ガス対策型 (第3次基準値) 搭乗式・コンバインド型 3～4t	〃	86
	ハンドガイド式 0.8～1.1t	〃	50

### 3. 単価表

(1) 振動ローラ締固め 100m<sup>3</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
振動ローラ運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 搭乗式・コンバインド型 3～4t、 又はハンドガイド式 0.8～1.1t	日	100/D	表 2. 1
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
振動ローラ	排出ガス対策型 (第3次基準値) 搭乗式・コンバインド型 3～4t 級	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→17 機械賃料数量→1.60
振動ローラ	ハンドガイド式 0.8～1.1t 級	機-31	運転労務数量→1.00 燃料消費量→5.7 機械賃料数量→1.44

### ④ 盛土・埋戻

1. [略]

#### 2. 施工歩掛

表 2. 1 [略]

表 2. 2 埋戻歩掛 (10m<sup>3</sup>当り)

	人力まき出し	人力はね付け	人力はね付け	締固め
--	--------	--------	--------	-----

タ	ン	パ	60～80kg	締固め幅が35cm以上の場合
---	---	---	---------	----------------

(注) [略]

### ③ 振動ローラ締固め

1. [略]

#### 2. 施工歩掛

各作業の施工歩掛は、次表を標準とする。

表 2. 1 日当り施工量 (1日当り施工量)

工種	規格	単位	数量
路床	排出ガス対策型 (第1次基準値) 搭乗式・コンバインド型 3～4t	m <sup>3</sup>	78
	ハンドガイド式 0.8～1.1t	〃	43
路体築堤	排出ガス対策型 (第1次基準値) 搭乗式・コンバインド型 3～4t	〃	86
	ハンドガイド式 0.8～1.1t	〃	50
埋戻	排出ガス対策型 (第1次基準値) 搭乗式・コンバインド型 3～4t	〃	86
	ハンドガイド式 0.8～1.1t	〃	50

### 3. 単価表

(1) 振動ローラ締固め 100m<sup>3</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
振動ローラ運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) 搭乗式・コンバインド型 3～4t、 又はハンドガイド式 0.8～1.1t	日	100/D	表 2. 1
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
振動ローラ	排出ガス対策型 (第1次基準値) 搭乗式・コンバインド型 3～4t 級	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→17 機械賃料数量→1.60
振動ローラ	ハンドガイド式 0.8～1.1t 級	機-31	運転労務数量→1.00 燃料消費量→5.7 機械賃料数量→1.44

### ④ 盛土・埋戻

1. [略]

#### 2. 施工歩掛

表 2. 1 [略]

表 2. 2 埋戻歩掛 (10m<sup>3</sup>当り)

	人力まき出し	人力はね付け	人力はね付け	締固め
--	--------	--------	--------	-----

区分	(人力投入)	(人力投入) + 人力まき出し	人力タコ	タンパ		振動コンパクト	
				区分I	区分II	区分I	区分II
土質名	普通 作業員	普通 作業員	普通 作業員	普通 作業員	特殊 作業員	特殊 作業員	特殊 作業員
砂・砂質土	0.68	0.43	1.11	0.70	0.34	0.56	0.20
粘性土・礫質土	0.85	0.48	1.33	0.71			0.34

(注) 1.・2. [略]  
3. 締固めに使用する機械の規格は、下記を標準とする。  
タンパ 通称 60～80 kg級、振動コンパクト 前進型 通称 90 kg級  
4. ～7. [略]

3. [略]

### ⑤ 不整地運搬

1.・2. [略]

### 3. 機種を選定

不整地運搬に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機 械 名	規 格
不整地運搬車	排出ガス対策型 (2011年規制) クローラ型 油圧ダンプ式 <u>通称</u> 8.0～11.0t <u>積級</u>

### 4. 施工歩掛

不整地運搬車による日当り運搬量は、次表を標準とする。

表 4. 1 日当り運搬量 (クローラ型油圧ダンプ式 通称 8.0～11.0t 積級) (m<sup>3</sup>/日)  
[略]

### 5. 単価表

(1) 不整地運搬 100m<sup>3</sup>当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
不整地運搬車運転	排出ガス対策型 (2011年規制) クローラ型・油圧ダンプ式 <u>通称</u> 8.0～11.0t <u>積級</u>	日	100/D	表 4. 1
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型 (2011年規制) クローラ型・油圧ダンプ式 <u>通称</u> 8.0～11.0t <u>積級</u>	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>148</u> 機械損料数量→1.69

⑥ [略]

## 2. 共通工

区分	(人力投入)	(人力投入) + 人力まき出し	人力タコ	タンパ		振動コンパクト	
				区分I	区分II	区分I	区分II
土質名	普通 作業員	普通 作業員	普通 作業員	普通 作業員	特殊 作業員	特殊 作業員	特殊 作業員
砂・砂質土	0.68	0.43	1.11	0.70	0.34	0.56	0.20
粘性土・礫質土	0.85	0.48	1.33	0.71			0.34

(注) 1.・2. [略]  
3. 締固めに使用する機械の規格は、下記を標準とする。  
タンパ 60～80 kg級、振動コンパクト 前進型 90 kg級  
4. ～7. [略]

3. [略]

### ⑤ 不整地運搬

1.・2. [略]

### 3. 機種を選定

不整地運搬に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機 械 名	規 格
不整地運搬車	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 油圧ダンプ式 8.0～11.0t

### 4. 施工歩掛

不整地運搬車による日当り運搬量は、次表を標準とする。

表 4. 1 日当り運搬量 (クローラ型油圧ダンプ式 8.0～11.0t) (m<sup>3</sup>/日)  
[略]

### 5. 単価表

(1) 不整地運搬 100m<sup>3</sup>当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
不整地運搬車運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型・油圧ダンプ式 8.0～11.0t	日	100/D	表 4. 1
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型・油圧ダンプ式 8.0～11.0t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>140</u> 機械損料数量→1.69

⑥ [略]

## 2. 共通工

①・② [略]

③ コンクリートブロック積（張）工

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 張ブロック工

表3.1 張ブロック工 (10m<sup>2</sup>当り)

工種	材料	職種	歩掛
張工	張ブロック	世話役	0.15 人
		ブロック工	0.30 //
		普通作業員	0.43 //
		バックホウ(クローラ型) 標準型・クレーン機能付 (排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量0.45m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t)	0.30 日

(注) 1.~7. [略]

3-2 [略]

4. [略]

5. 単価表

(1) 張ブロック（空張）工10m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表3.1
ブロック工		//		//
普通作業員		//		//
張ブロック		m <sup>2</sup>	10	
目地モルタル		m <sup>3</sup>		(3)単価表 必要に応じて計上する
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付 排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量0.45m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	日		表3.1
計				

(2)・(3) [略]

(4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付 排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量0.45m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →52 機械賃料数量 →1.35

④ [略]

①・② [略]

③ コンクリートブロック積（張）工

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 張ブロック工

表3.1 張ブロック工 (10m<sup>2</sup>当り)

工種	材料	職種	歩掛
張工	張ブロック	世話役	0.15 人
		ブロック工	0.30 //
		普通作業員	0.43 //
		バックホウ(クレーン機能付) (排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )2.9t吊)	0.30 日

(注) 1.~7. [略]

3-2 [略]

4. [略]

5. 単価表

(1) 張ブロック（空張）工10m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表3.1
ブロック工		//		//
普通作業員		//		//
張ブロック		m <sup>2</sup>	10	
目地モルタル		m <sup>3</sup>		(3)単価表 必要に応じて計上する
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )2.9t吊	日		表3.1
計				

(2)・(3) [略]

(4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )2.9t吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →52 機械賃料数量 →1.35

④ [略]

⑤ 機械（不整地運搬車）小運搬

1. ・ 2. [略]

3. 作業歩掛

機械（不整地運搬車）小運搬歩掛は、次表を標準とする。

表3. 1 機械（不整地運搬車）小運搬歩掛

材 料 名	規 格	1回 当り 積載 量	積卸し歩掛		運 転 労 務	単 位	運 搬 量					備 考	
			特殊作業 員	普通作業 員			30～ 50m	100 m 未満	150 m 未満	200 m 未満	250 m 未満		300 m 未満
砂・砂 利・栗 石	排出ガス対策型（第2次 基準値） クローラ型・ 油圧ダンプ式 積載質量 通称4.0～5.0t積級	m <sup>3</sup> 2.34	—	—	m <sup>3</sup> / 日	別 途 計 上 す る	71.1	65.1	60.2	55.4	50.6	45.7	積み み 経 費 を 別 途 計 上 す る
コ ン ク リ ー ト		1.49	—	人/m <sup>3</sup> 0.0075			34.2	31.3	28.0	25.3	23.1	21.3	
コ ン ク リ ー ト 二 次 製 品	クローラ型・ クレーン装置付 積載質量 3.5t クレーン装置 2t吊	t 2.80	人/t 0.0188	人/t 0.0310	ton/ 日	別 途 計 上 す る	41.9	39.6	36.8	34.2	32.1	30.2	
鋼管類 φ450 mm未満		3.17	0.0152	0.0168			51.2	48.1	44.4	41.2	38.4	36.0	
セ メ ン ト 類		2.88	0.0221	0.0221			36.3	34.6	32.4	30.5	28.8	27.3	
陶 管		0.60	0.0442	0.0442			16.2	14.6	13.0	11.6	10.4	9.5	

(注) 1. ～6. [略]

4. 単価表

(1) 不整地運搬車1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
不整地運搬車運転	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型・油圧ダンプ式 積載質量 通称4.0～5.0t積級 クローラ型・クレーン装置付積 載質量 3.5t クレーン装置2t 吊	日	1.0	
普通作業員		人	積卸し歩掛×1日当 り運搬量	表3. 1
特殊作業員		〃	〃	〃
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
不整地運搬車	クローラ型・クレーン装置付積 載質量 3.5t クレーン装置2t 吊	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→30 機械損料数量→2.10

⑤ 機械（不整地運搬車）小運搬

1. ・ 2. [略]

3. 作業歩掛

機械（不整地運搬車）小運搬歩掛は、次表を標準とする。

表3. 1 機械（不整地運搬車）小運搬歩掛

材 料 名	規 格	1回当り 積 載 量	積卸し歩掛		運 転 労 務	単 位	運 搬 量					備 考	
			特殊作業 員	普通作業 員			30～50 m	100 m 未満	150 m 未満	200 m 未満	250 m 未満		300 m 未満
砂・砂 利・栗 石	排出ガス対策型（第1次 基準値） クローラ型・ 油圧ダンプ式 積載質量 4.0～5.0t	m <sup>3</sup> 2.34	—	—	m <sup>3</sup> / 日	別 途 計 上 す る	71.1	65.1	60.2	55.4	50.6	45.7	積み み 経 費 を 別 途 計 上 す る
コ ン ク リ ー ト		1.49	—	人/m <sup>3</sup> 0.0075			34.2	31.3	28.0	25.3	23.1	21.3	
コ ン ク リ ー ト 二 次 製 品	クローラ型・ クレーン装置付 積載質量 3.5t クレーン装置 2t吊	t 2.80	人/t 0.0188	人/t 0.0310	ton/ 日	別 途 計 上 す る	41.9	39.6	36.8	34.2	32.1	30.2	
鋼管類 φ450mm 未 満		3.17	0.0152	0.0168			51.2	48.1	44.4	41.2	38.4	36.0	
セ メ ン ト 類		2.88	0.0221	0.0221			36.3	34.6	32.4	30.5	28.8	27.3	
陶 管		0.60	0.0442	0.0442			16.2	14.6	13.0	11.6	10.4	9.5	

(注) 1. ～6. [略]

4. 単価表

(1) 不整地運搬車1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
不整地運搬車運転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・油圧ダンプ式 積載質量4.0～5.0t クローラ型・クレーン装置付積 載質量 3.5t クレーン装置2t 吊	日	1.0	
普通作業員		人	積卸し歩掛×1日当 り運搬量	表3. 1
特殊作業員		〃	〃	〃
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
不整地運搬車	クローラ型・クレーン装置付積 載質量 3.5t クレーン装置2t 吊	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→30 機械損料数量→2.10

	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型・油圧ダンプ式 積載質量 <u>通称</u> 4.0~5.0 t <u>積級</u>	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>84</u> 機械損料数量→1.57
--	--	------	--

⑥ [略]

⑦ プレキャスト法砕工

1.・2. [略]

3. 土質改良工

使用する機械の機種、規格は次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	摘 要
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 <u>最大吊上能力</u> 25t 吊	プレキャストブロック設置 中詰材設置
バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup>	中詰材設置

(注) [略]

4. ~ 6. [略]

7. 敷砂利

敷砂利投入が必要な場合は、次表を標準とする。

表7.1 敷砂利施工歩掛 (10m<sup>2</sup>当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
普通作業員		人	1.0
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup>	h	2.0

(注) [略]

8. 中詰工

中詰工施工歩掛は、次表を標準とする。

表8.1 中詰工施工歩掛

名 称	規 格	単 位	中 詰 区 分				
			中 詰 ブロック (100m <sup>2</sup> )	客 土 (100m <sup>3</sup> )	植 生 土のう (1,000袋)	割石又は 栗石 (10m <sup>3</sup> )	砕 石 (10m <sup>3</sup> )
世 話 役		人	1.2	5.3	1.6	1.0	0.5
ブ ロ ッ ク 工		〃	4.4	—	—	—	—
法 面 工		〃	—	6.0	2.7	—	—
普通作業員		〃	8.0	36.4	12.0	6.6	3.1
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 <u>最大吊上能力</u> 25t 吊	日	(注) 6	6.2	0.9	0.5	—
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup>	h	—	—	—	—	5.4
諸 雑 費 率		%	10	—	—	—	—

(注) [略]

	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型・油圧ダンプ式 積載質量4.0~5.0 t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>77</u> 機械損料数量→1.57
--	---	------	--

⑥ [略]

⑦ プレキャスト法砕工

1.・2. [略]

3. 土質改良工

使用する機械の機種、規格は次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	摘 要
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	プレキャストブロック設置 中詰材設置
バックホウ	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )	中詰材設置

(注) [略]

4. ~ 6. [略]

7. 敷砂利

敷砂利投入が必要な場合は、次表を標準とする。

表7.1 敷砂利施工歩掛 (10m<sup>2</sup>当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
普通作業員		人	1.0
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )	h	2.0

(注) [略]

8. 中詰工

中詰工施工歩掛は、次表を標準とする。

表8.1 中詰工施工歩掛

名 称	規 格	単 位	中 詰 区 分				
			中 詰 ブロック (100m <sup>2</sup> )	客 土 (100m <sup>3</sup> )	植 生 土のう (1,000袋)	割石又は 栗石 (10m <sup>3</sup> )	砕 石 (10m <sup>3</sup> )
世 話 役		人	1.2	5.3	1.6	1.0	0.5
ブ ロ ッ ク 工		〃	4.4	—	—	—	—
法 面 工		〃	—	6.0	2.7	—	—
普通作業員		〃	8.0	36.4	12.0	6.6	3.1
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	(注) 6	6.2	0.9	0.5	—
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )	h	—	—	—	—	5.4
諸 雑 費 率		%	10	—	—	—	—

(注) [略]

9. [略]

10. 単価表

(1) プレキャストブロック設置100㎡当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D	表4. 1、表5. 1
ブロック工		〃	1×100/D	〃
普通作業員		〃	3×100/D	〃
ブロック		個		
敷砂利		m³		単価表(2) 必要に応じて計上する
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(2011年規制) 油圧伸縮ジブ型最大吊上能力25t吊	日	1×100/D	表5. 1
諸雑費		式	1	表6. 1
計				

(注) D:日当り施工量

(2) 敷砂利10m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表7. 1
砂利		m³		[10×(1+補正係数)] (表7. 2)
バックホウ運転	排出ガス対策型(第3次基準値) クロー型バケット容量0.8m³	h		表7. 1
計				

(3) 中詰ブロック設置100㎡当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表8. 1
ブロック工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ブロック		個		
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(2011年規制) 油圧伸縮ジブ型最大吊上能力25t吊	日		表8. 1(注) 6 必要に応じて計上する
諸雑費		式	1	表8. 1
計				

(4) 中詰客土設置100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表8. 1
法面工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
客土		m³		[100×(1+補正係数)] (表8. 2)
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(2011年規制) 油圧伸縮ジブ型最大吊上能力25t吊	日		表8. 1
計				

(5) 中詰植生土のう設置1,000袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要

9. [略]

10. 単価表

(1) プレキャストブロック設置100㎡当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D	表4. 1、表5. 1
ブロック工		〃	1×100/D	〃
普通作業員		〃	3×100/D	〃
ブロック		個		
敷砂利		m³		単価表(2) 必要に応じて計上する
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(2011年規制) 油圧伸縮ジブ型25t吊	日	1×100/D	表5. 1
諸雑費		式	1	表6. 1
計				

(注) D:日当り施工量

(2) 敷砂利10m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表7. 1
砂利		m³		[10×(1+補正係数)] (表7. 2)
バックホウ運転	排出ガス対策型(第3次基準値) クロー型山積0.8m³(平積0.6m³)	h		表7. 1
計				

(3) 中詰ブロック設置100㎡当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表8. 1
ブロック工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ブロック		個		
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(2011年規制) 油圧伸縮ジブ型25t吊	日		表8. 1(注) 6 必要に応じて計上する
諸雑費		式	1	表8. 1
計				

(4) 中詰客土設置100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表8. 1
法面工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
客土		m³		[100×(1+補正係数)] (表8. 2)
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(2011年規制) 油圧伸縮ジブ型25t吊	日		表8. 1
計				

(5) 中詰植生土のう設置1,000袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要

世話役		人		表8. 1
法面工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
植生土のう		袋	1,000	単価表(8) 必要に応じて計上する
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(2011年規制) 油圧伸縮ジブ型最大吊上能力25t吊	日		表8. 1
計				

(6) 中詰割石又は栗石設置10m<sup>3</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表8. 1
普通作業員		〃		〃
割石又は、栗石		m <sup>3</sup>		[10×(1+補正係数)] 表8. 2
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(2011年規制) 油圧伸縮ジブ型最大吊上能力25t吊	日		表8. 1
計				

(7) 中詰碎石設置10m<sup>3</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表8. 1
普通作業員		〃		〃
砕石		m <sup>3</sup>		[10×(1+補正係数)] (表8. 2)
バックホウ運転	排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型バケット容量0.8m <sup>3</sup>	h		表8. 1
計				

(8) [略]

(9) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型バケット容量0.8m <sup>3</sup>	機-1	

⑧ [略]

⑨ 安定処理工(自走式土質改良工)

1.・2. [略]

3. 自走式土質改良機設置・撤去工

3-1 機種を選定

使用する機械の機種・規格は次表を標準とする。

表3. 1 機種を選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量
自走式土質改良機設置・撤去	自走式土質改良機	[解砕・固化材混合式] 通称20t級	台	1

(注) [略]

世話役		人		表8. 1
法面工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
植生土のう		袋	1,000	単価表(8) 必要に応じて計上する
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(2011年規制) 油圧伸縮ジブ型25t吊	日		表8. 1
計				

(6) 中詰割石又は栗石設置10m<sup>3</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表8. 1
普通作業員		〃		〃
割石又は、栗石		m <sup>3</sup>		[10×(1+補正係数)] 表8. 2
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(2011年規制) 油圧伸縮ジブ型25t吊	日		表8. 1
計				

(7) 中詰碎石設置10m<sup>3</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表8. 1
普通作業員		〃		〃
砕石		m <sup>3</sup>		[10×(1+補正係数)] (表8. 2)
バックホウ運転	排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )	h		表8. 1
計				

(8) [略]

(9) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )	機-1	

⑧ [略]

⑨ 安定処理工(自走式土質改良工)

1.・2. [略]

3. 自走式土質改良機設置・撤去工

3-1 機種を選定

使用する機械の機種・規格は次表を標準とする。

表3. 1 機種を選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量
自走式土質改良機設置・撤去	自走式土質改良機	[解砕・固化材混合式] 機械質量20t級	台	1

(注) [略]

3-2 [略]

#### 4. 土質改良工

[略]

##### 4-1 機種の選定

使用する機械の機種・規格は次表を標準とする。

表4.1 機種選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量
固化材投入、攪拌・土質改良	自走式土質改良機	[解砕・固化材混合式] <u>通称</u> 20 t級	台	1
改良対象土投入	バックホウ	超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型 <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup>	"	1

(注) [略]

4-2~4-5 [略]

#### 5. 単価表

(1) [略]

##### (2) 土質改良工 100m<sup>3</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D	表4.2、表4.3
特殊作業員		"	1×100/D	"
固化材		t		表4.4、式4.1
自走式土質改良機運転	[解砕・固化材混合式] <u>通称</u> 20 t級	日	100/D	表4.1、表4.3
バックホウ運転	超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型 <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup>	"	100/D	"
諸雑費		式	1	表4.5
計				

(注) [略]

##### (3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
自走式土質改良機運転	[解砕・固化材混合式] <u>通称</u> 20 t級	機-24	燃料消費量→122 機械損料数量→ 1.84
バックホウ	超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型 <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→106 機械賃料数量→ 1.80

### 3. コンクリート工

①・② [略]

#### ③鉄筋工

##### 1. 適用範囲

本資料は、河川・海岸・道路・水路・橋梁・トンネル等の鉄筋構造物のうち、現場における加工・組立及び継手に適用する。  
なお、鉄筋は普通鉄筋、異形棒鋼を問わず適用できるものとする。また、鉄筋工の継手は重ね継手を標準とし、ガス圧接継手

3-2 [略]

#### 4. 土質改良工

[略]

##### 4-1 機種の選定

使用する機械の機種・規格は次表を標準とする。

表4.1 機種選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量
固化材投入、攪拌・土質改良	自走式土質改良機	[解砕・固化材混合式] <u>機械質量</u> 20 t級	台	1
改良対象土投入	バックホウ	超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型 <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )	"	1

(注) [略]

4-2~4-5 [略]

#### 5. 単価表

(1) [略]

##### (2) 土質改良工 100m<sup>3</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D	表4.2、表4.3
特殊作業員		"	1×100/D	"
固化材		t		表4.4、式4.1
自走式土質改良機運転	[解砕・固化材混合式] <u>機械質量</u> 20 t級	日	100/D	表4.1、表4.3
バックホウ運転	超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型 <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )	"	100/D	"
諸雑費		式	1	表4.5
計				

(注) [略]

##### (3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
自走式土質改良機運転	[解砕・固化材混合式] <u>機械質量</u> 20 t級	機-24	燃料消費量→122 機械損料数量→ 1.84
バックホウ	超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型 <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→106 機械賃料数量→ 1.80

### 3. コンクリート工

①・② [略]

#### [新設]

や機械式継手(グラウト)、機械式継手(ねじ加工)の場合は材料費・設置手間を別途計上する。

### 1-1 適用出来る範囲

#### 1-1-1 加工・組立

- (1) 一般構造物(鉄筋径:10mm~51mm)
- (2) 橋梁用床版(鉄筋径:13mm~25mm)
- (3) 場所打ち杭の鉄筋かご(鉄筋径:13mm~35mm)
- (4) トンネル内構造物(鉄筋径:10mm~51mm)
- (5) 差筋および杭頭処理(鉄筋径:10mm~51mm)

#### 1-1-2 継手

- (1) 鉄筋構造物の組立作業における手動式(半自動式)のガス圧接継手
- (2) 鉄筋径16mm~51mmまでのガス圧接継手
- (3) 現場で打設する鉄筋コンクリート構造物の組立作業における軸方向鉄筋の機械式継手工
- (4) ロックナットが無く、有機系グラウト材を用いるねじ節鉄筋継手(グラウト固定方式)
- (5) スリーブ圧着ネジ継手、摩擦圧接ネジ継手
- (6) 鉄筋径13mm~51mmまでの機械式継手

### 1-2 適用出来ない範囲

#### 1-2-1 加工・組立

- (1) ダム本体工事における鉄筋工
- (2) 鉄筋工の歩掛が個別に設定されている工種(コンクリートブロック積(張)工、コンクリート舗装工、橋梁地覆補修工、ポストテンション桁製作工、PC橋架設工、ポストテンション場所打ホロスラブ橋工、ポストテンション場所打箱桁橋工、伸縮装置工、沓座拡幅工)

#### 1-2-2 継手

- (1) 熱間押抜法によるガス圧接継手
- (2) プレキャスト(継手内蔵)、コンクリート打継面(鉄筋継手を一断面に集めて配置)の接合
- (3) ロックナット付、無機系グラウト材を用いるねじ節鉄筋継手(グラウト固定方式)
- (4) モルタル充填継手

## 2. 施工概要

### 2-1 施工内容

#### 2-1-1 加工・組立

鉄筋を設計図に示された形状及び寸法に一致するように、鉄筋加工機等を用いて加工し、鉄筋結束線等により組立てる工法である。

#### 2-1-2 ガス圧接継手

2本の鉄筋を酸素とアセチレンなどの可燃性ガスの火炎によって金属端面を高温に加熱し、同時に軸方向の圧力をかけることで接合を行う工法である。

#### 2-1-3 機械式継手(グラウト)

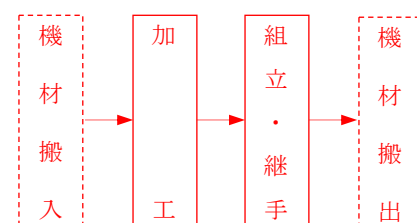
2本の鉄筋を、カプラー(スリーブ)と鉄筋の隙間に高強度のグラウト材を注入・硬化させることで接合を行う工法である。

#### 2-1-4 機械式継手(ねじ加工)

2本の鉄筋を、グラウトを使わず、ロックナット等をトルクレンチ等で締め付けることで機械的に固定し接合を行う工法である。

### 2-2 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

### 3. 施工歩掛

#### 3-1 加工

##### 3-1-1 施工歩掛

加工の歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 加工歩掛 (1t 当り)

名 称	単 位	規 格	鉄 筋 径 (mm)						
			10~13	16~25	29~32	35	38	41	51
世 話 役	人		0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
鉄 筋 工	人		2.3	1.7	1.2	1.1	1.0	1.0	0.8
普通作業員	人		0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ラフテレーンクレーン運転	日	油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t 吊	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04
諸 雑 費	%		12						

- (注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。  
 2. 鉄筋強度、長さを問わず、同一歩掛とする。  
 3. ラフテレーンクレーンは賃料とする。  
 4. フック鉄筋以外の定着工法用の鉄筋加工費、鉄筋のねじ切り加工費は別途計上する。  
 5. フレア溶接を行う場合は、フレア溶接費用を別途計上する。  
 6. 諸経費は鉄筋曲機・鉄筋切断機・電力にかかる経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。  
 7. 鉄筋加工に伴う現場内小運搬を含む。

#### 3-1-2 鉄筋使用量

鉄筋の使用量は次式による。

$$\text{使用量 (t)} = \text{設計量 (t)} \times (1+K) \dots \dots \dots \text{式 3.1}$$

K: ロス率

表3.2 ロス率(K)

ロ ス 率	+0.03
-------	-------

#### 3-2 組立

##### 3-2-1 一般構造物

一般構造物における組立の歩掛は、次表を標準とする。

表3.3 組立歩掛(一般構造物) (1t 当り)

名 称	単 位	規 格	鉄 筋 径 (mm)							
			10~13	16~25	29~32	35	38	41	51	
世 話 役	人		0.5	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	
鉄 筋 工	人		3.5	2.9	2.1	1.7	1.4	1.2	1.1	
普通作業員	人		0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	
ラフテレーンクレーン運転	日	油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t 吊	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	
諸 雑 費	%		8				11			

- (注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。

2. 鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。
3. ラフテレーンクレーンは賃料とする。
4. 組立架台や組立鋼材（形鋼）を必要とする場合には、別途計上する。
5. 組立に伴う現場内小運搬を含む。
6. 諸雑費は鉄筋結束機及び結束線、ハッカー、スペーサ等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。

### 3-2-2 橋梁用床版

橋梁用床版における組立の歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 4 組立歩掛(橋梁用床版) (1t 当り)

名 称	単 位	規 格	鉄 筋 径 (mm)	
			13	16~25
世 話 役	人		0.4	0.4
鉄 筋 工	〃		3.2	2.6
普 通 作 業 員	〃		0.2	0.2
ラフテレーンクレーン 運 転	〃	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t 吊	0.07	0.07
諸 雑 費	%		14	

- (注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。
2. 鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。
  3. ラフテレーンクレーンは賃料とする。
  4. 組立架台や組立鋼材（形鋼）を必要とする場合には、別途計上する。
  5. 組立に伴う現場内小運搬を含む。
  6. 諸雑費は鉄筋結束機及び結束線、ハッカー、スペーサ等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。

### 3-2-3 場所打鉄筋かご

場所打鉄筋かごにおける組立の歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 5 組立歩掛(現場打鉄筋かご) (1t 当り)

名 称	単 位	鉄 筋 径 (mm)			
		13	16~25	29~32	35
世 話 役	人	0.4	0.3	0.2	0.2
鉄 筋 工	〃	2.8	2.1	1.6	1.1
普 通 作 業 員	〃	0.2	0.2	0.1	0.1
諸 雑 費	%	6			

- (注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。
2. 鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。
  3. 組立架台を必要とする場合には、別途計上する。
  4. 組立に伴う現場内小運搬を含む。
  5. 場所打杭用かご筋をあらかじめ掘削坑内以外において組立てる場合に適用し、掘削坑内でかご状に組立てる場合については「一般構造物」を適用する。
  6. 固定金具や補強材（補強リング）の設置手間は含むが、材料費は含まない。
  7. 場所打杭用かご筋は、固定金具、補強材およびスペーサの重量は含めない。ただし、補強材およびスペーサに異形棒鋼または丸鋼を使用する場合は、補強材およびスペーサの重量を加算する。
  8. 諸雑費は鉄筋結束機及び結束線、ハッカー等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。

### 3-2-4 トンネル内構造物

トンネル内構造物における組立の歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 6 組立歩掛(トンネル内構造物) (1t 当り)

名 称	単 位	規 格	鉄 筋 径 (mm)						
			10~13	16~25	29~32	35	38	41	51
トンネル 世話役	人		0.5	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
トンネル 特殊員	//		3.5	2.9	2.1	1.7	1.4	1.2	1.1
トンネル 作業員	//		0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
ラフテレー ンクレーン 運 転	日	油圧伸縮ジブ型排 出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t吊	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11
諸 雑 費	%		8			11			

- (注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。  
 2. 鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。  
 3. ラフテレーンクレーンは賃料とする。  
 4. 組立架台や組立鋼材(形鋼)を必要とする場合には、別途計上する。  
 5. 組立に伴う現場内小運搬を含む。  
 6. 諸雑費は鉄筋結束機及び結束線、ハッカー、スペーサ等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。

### 3-2-5 差筋および杭頭処理

差筋および杭頭処理の組立歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 7 組立歩掛(差筋および杭頭処理) (1t 当り)

名 称	単 位	鉄 筋 径 (mm)						
		10~13	16~25	29~32	35	38	41	51
世 話 役	人	0.5	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
鉄 筋 工	//	3.3	2.8	2.0	1.6	1.3	1.1	1.0
普 通 作 業 員	//	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
諸 雑 費	%	2						

- (注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。  
 2. 鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。  
 3. 組立に伴う現場内小運搬を含む。  
 4. 諸雑費は電気溶接機、電力にかかる経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。

### 3-3 継手

#### 3-3-1 ガス圧接継手

構造物等によりガス圧接を必要とする場合には、次表を標準とする。

表 3. 8 ガス圧接継手歩掛 (100 箇所当り)

名 称	単 位	鉄 筋 径 (mm)					
		16~25	29~32	35	38	41	51
世 話 役	人	0.2	0.5	0.6	0.8	0.9	1.5
鉄 筋 工	//	0.5	1.3	1.7	2.1	2.5	4.2
溶 接 工	//	1.2	2.9	4.3	5.0	6.1	10.2

普通作業員	人	0.4	1.0	1.3	1.6	1.9	3.2
アセチレンガス	kg	5.0	6.5	21.0	35.0	38.5	105.0
酸素	m <sup>3</sup>	5.0	6.5	14.0	23.0	27.4	70.0
諸雑費	%	8					

- (注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。  
2. 鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。  
3. 径違いの接合の場合は上位規格の径を適用する。  
4. 圧接前の配筋および圧接後の鉄筋の切断費用、試験費用は含まない。  
5. 諸雑費はガス圧接装置・電力にかかる経費等の費用であり、労務費の合計額に諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。

### 3-3-2 機械式継手(グラウト)

#### (1) 施工歩掛

構造物等により機械式継手(グラウト)を必要とする場合には、次表を標準とする。

表3.9 機械式継手(グラウト)歩掛 (100箇所当り)

名称	単位	鉄筋径(mm)						
		13	16~25	29~32	35	38	41	51
世話役	人	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
鉄筋工	人	3.4	4.0	4.5	4.7	4.8	5.0	5.3
普通作業員	人	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
諸雑費	%	1						

- (注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。  
2. 鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。  
3. 径違いの接合の場合は上位規格の径を適用する。  
4. グラウト材については、必要量を計上する。  
5. 諸雑費は手動式注入器等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。

#### (2) グラウト材使用量

グラウト材の使用量は次式による。

$$\text{使用量(個)} = \text{設計量(個)} \times (1+K) \dots\dots\dots \text{式3.2}$$

K:ロス率

表3.10 ロス率(K)

ロス率	+0.03
-----	-------

### 3-3-3 機械式継手(ねじ加工)

構造物等により機械式継手(ねじ加工)を必要とする場合には、次表を標準とする。

表3.11 機械式継手(ねじ加工)歩掛 (100箇所当り)

名称	単位	鉄筋径(mm)						
		13	16~25	29~32	35	38	41	51
世話役	人	0.8	1.0	1.2	1.3	1.3	1.4	1.5
鉄筋工	人	1.3	1.7	2.1	2.2	2.4	2.5	2.7
普通作業員	人	0.3	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6
諸雑費	%	1						

- (注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。  
2. 鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。  
3. 径違いの接合の場合は上位規格の径を適用する。  
4. 鉄筋本体の材料費は異形棒鋼を計上する。  
5. 諸雑費はトルクレンチ等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。

#### 4. 単価表

##### (1) 鉄筋加工 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3.1
鉄筋工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型排出ガス 対策型 (2014 年規制) 最大吊上能力 25t 吊	日		〃
鉄筋材料	径〇〇mm	t		式 3.1
諸雑費		式	1	表 3.1
計				

##### (2) 鉄筋組立(一般構造物) 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3.3
鉄筋工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型排出ガス 対策型 (2014 年規制) 最大吊上能力 25t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	表 3.3
計				

##### (3) 鉄筋組立(橋梁用床版) 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3.4
鉄筋工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型排水ガス 対策型 (2014 年規制) 最大吊上能力 25t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	表 3.4
計				

##### (4) 鉄筋組立(場所打鉄筋かご) 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3.5
鉄筋工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	表 3.5
計				

##### (5) 鉄筋組立(トンネル内構造物) 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3.6
鉄筋工		〃		〃
普通作業員		〃		〃

ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型排出ガス 対策型(2014年規制) 最大吊上能力25t吊	日		〃
諸 雑 費		式	1	表3.6
計				

(6) 鉄筋組立(差筋および杭頭処理)1t 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表3.7
鉄 筋 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
諸 雑 費		式	1	表3.7
計				

(7) ガス圧接継手 100 箇所当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表3.8
鉄 筋 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
アセチレンガス		Kg		〃
酸 素		m <sup>3</sup>		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(8) 機械式継手(グラウト)100 箇所当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表3.9
鉄 筋 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
継 手		セット	100	
グラウト材		個		式3.2
諸 雑 費		式	1	表3.9
計				

(9) 機械式継手(ねじ加工)100 箇所当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表3.11
鉄 筋 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
継 手		セット	100	
諸 雑 費		式	1	表3.11
計				

## 4. 基礎工

## 4. 基礎工

① 鋼管・既製コンクリート杭工（パイルハンマ工）

1.・2. [略]

3. 機種を選定

機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
クローラ式杭打機	油圧ハンマ・直結三点支持式	台	1	ヤットコ使用の場合計上する。
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) <u>バケツ容量</u> 0.28 m <sup>3</sup>	〃		
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラジジブ型排出ガス対策型(第2次基準値) <u>最大吊上能力</u> 50~55t吊	〃		

(注) 1.・2. [略]

3-1 [略]

4. ~ 6. [略]

7. 単価表

(1) 鋼管・既製コンクリート杭打工 10本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	T <sub>d</sub> × 1	表 4. 1
と び 工		〃	T <sub>d</sub> × 2	〃
溶 接 工		〃	T <sub>d</sub> × 1 (2)	〃、( ) 内は、鋼管杭径 800mm 以上の場合
杭		本	10	
クローラ式杭打機運転	油圧ハンマ 直結三点支持式	日	T <sub>d</sub>	図 3. 1、図 3. 2
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>バケツ容量</u> 0.28m <sup>3</sup>	〃	T <sub>d</sub>	ヤットコ使用時計上する
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラジジブ型排出ガス対策型(第2次基準値) <u>最大吊上能力</u> 50~55t吊	〃	T <sub>d</sub>	必要に応じて計上する
諸 雑 費		式	1	表 6. 1、表 6. 2
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	
クローラ式杭打機	油圧ハンマ 直結三点支持式	機-18	運転労務数量 →1.00 機械損料数量 →1.77 燃料消費量 →下記のとおりとする。	
			ラム質量	燃料消費量 (ℓ / 日)
			2 t	87
			4 ~ 4.5 t	129

① 鋼管・既製コンクリート杭工（パイルハンマ工）

1.・2. [略]

3. 機種を選定

機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
クローラ式杭打機	油圧ハンマ・直結三点支持式	台	1	ヤットコ使用の場合計上する。
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>山積</u> 0.28 m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.2 m <sup>3</sup> )	〃		
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラジジブ型排出ガス対策型(第2次基準値) 50~55t吊	〃		

(注) 1.・2. [略]

3-1 [略]

4. ~ 6. [略]

7. 単価表

(1) 鋼管・既製コンクリート杭打工 10本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	T <sub>d</sub> × 1	表 4. 1
と び 工		〃	T <sub>d</sub> × 2	〃
溶 接 工		〃	T <sub>d</sub> × 1 (2)	〃、( ) 内は、鋼管杭径 800mm 以上の場合
杭		本	10	
クローラ式杭打機運転	油圧ハンマ 直結三点支持式	日	T <sub>d</sub>	図 3. 1、図 3. 2
バックホウ 運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>山積</u> 0.28m <sup>3</sup> <u>平積</u> 0.2m <sup>3</sup>	〃	T <sub>d</sub>	ヤットコ使用時計上する
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラジジブ型排出ガス対策型(第2次基準値) 50~55t吊	〃	T <sub>d</sub>	必要に応じて計上する
諸 雑 費		式	1	表 6. 1、表 6. 2
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	
クローラ式杭打機	油圧ハンマ 直結三点支持式	機-18	運転労務数量 →1.00 機械損料数量 →1.77 燃料消費量 →下記のとおりとする。	
			ラム質量	燃料消費量 (ℓ / 日)
			2 t	87
			4 ~ 4.5 t	129

			6.5～8t	154
			10～2.5t	177
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) バケット容量 0.28 m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →3.5 機械賃料数量 →1.6	
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラジジブ型排出ガス対策型(第2次基準値) 最大吊上能力 50～55t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →27 機械損料数量 →1.13	

②・③ [略]

④ 鋼管・既製コンクリート杭工（中掘工）

1.・2. [略]

3. 機種を選定

施工機械の機種・規格と適用杭径は、次表を標準とする。

表 3.1 機種を選定

機種	規格	単位	数量			摘要
			施工杭径 φ400mm以上 φ800mm未満		施工杭径 φ800mm以上 φ1,000mm未満	
			掘削長 32m以下	掘削長 32m超え		
クローラ式 アースオーガ	アースオーガ中掘機・直結三点支持式 オーガ出力 55kW 掘削杭径 φ400～1,200mm リーダ長 21～33m	台	1	—	—	打撃方式で施工する場合のモンケン 10tを含む。
	アースオーガ中掘機・直結三点支持式 オーガ出力 90kW 掘削杭径 φ400～1,200mm リーダ長 21～33m	”	—	1	1	
クローラクレーン	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧駆動式 ウインチ・ラジジブ型 最大吊上能力 50～55t 吊	”	1	—	—	
	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧駆動式 ウインチ・ラジジブ型 最大吊上能力 80t 吊	”	—	—	1	

			6.5～8t	125
			10～2.5t	177
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.2m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →3.5 機械賃料数量 →1.6	
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラジジブ型排出ガス対策型(第2次基準値) 50～55t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →27 機械損料数量 →1.13	

②・③ [略]

④ 鋼管・既製コンクリート杭工（中掘工）

1.・2. [略]

3. 機種を選定

施工機械の機種・規格と適用杭径は、次表を標準とする。

表 3.1 機種を選定

機種	規格	単位	数量			摘要
			施工杭径 φ400mm以上 φ800mm未満		施工杭径 φ800mm以上 φ1,000mm未満	
			掘削長 32m以下	掘削長 32m超え		
クローラ式 アースオーガ	アースオーガ中掘機・直結三点支持式 オーガ出力 55kW 公称杭径 φ400～1,200mm リーダ長 21～33m	台	1	—	—	打撃方式で施工する場合のモンケン 10tを含む。
	アースオーガ中掘機・直結三点支持式 オーガ出力 90kW 公称杭径 φ400～1,200mm リーダ長 21～33m	”	—	1	1	
クローラクレーン	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧駆動式 ウインチ・ラジジブ型 50～55t 吊	”	1	—	—	
	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧駆動式 ウインチ・ラジジブ型 80t 吊	”	—	—	1	

バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2014年規制) バケット容量 0.5m <sup>3</sup>	〃	1	1	1	掘削土の処理 作業(穴埋作 業及び簡易な 整正を含む)
------------------	---	---	---	---	---	--------------------------------------

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1・5-2 [略]

5-3 諸雑費

諸雑費は、労務費、機械損料及び運転経費の合計金額に表 5.7～表 5.10 の率を乗じた金額を計上する。

5-3-1・5-3-2 [略]

5-3-3 鋼管杭(グラウト方式)

中掘工(グラウト注入)による鋼管杭打込の諸雑費は、グラウト材(セメントミルク)、溶接ワイヤ、鋼管吊具、吊ワイヤ、裏当てリング及びストッパー、銅バンド、ずれ止め、ずれ止め用ストッパー、オーガスクリュー、オーガヘッド、ヤットコ、足場材(敷鉄板)賃料及び設置・撤去・移設、半自動アーク溶接機損料、空気圧縮機(排出ガス対策型)、モルタルプラント運転及び電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコの有無及びずれ止め、ずれ止め用ストッパーの有無にかかわらず本諸雑費率を適用できる。また、配合用水、機器洗浄等に用いる上水道等が必要な場合は、別途計上する。

表 5.9 諸雑費率(鋼管杭) (%) [略]

5-3-4 既製コンクリート杭(グラウト方式)

中掘工(グラウト注入)による既製コンクリート杭打込の諸雑費は、グラウト材(セメントミルク)、溶接ワイヤ、吊ワイヤ、オーガスクリュー、オーガヘッド、ヤットコ、足場材(敷鉄板)賃料及び設置・撤去・移設、半自動アーク溶接機損料、空気圧縮機(排出ガス対策型)、モルタルプラント運転及び電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコの有無にかかわらず本諸雑費率を適用できる。また、配合用水、機器洗浄等に用いる上水道等が必要な場合は、別途計上する。

表 5.10 諸雑費率(既製コンクリート杭) (%) [略]

6. 単価表

(1) 中掘工(打撃打止め)による鋼管・既製コンクリート杭打込み 10本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	T <sub>d</sub> × 1	表 4.1
とび工		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃
普通作業員		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃
溶接工		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃 必要に応じて計上する
杭		本	10	
アースオーガ中掘機 運		日	T <sub>d</sub>	表 3.1
クローラクレーン 運	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧駆動式 ウインチ・ラジジブ型最大吊上能 力〇〇t吊	〃	T <sub>d</sub>	〃
バックホウ (クローラ型)運	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) バケット容量 0.5m <sup>3</sup>	〃	T <sub>d</sub>	〃

バックホウ	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2014年規制) クローラ型 山積 0.5m <sup>3</sup> (平積 0.4m <sup>3</sup> )	〃	1	1	1	掘削土の処理 作業(穴埋作 業及び簡易な 整正を含む)
-------	---	---	---	---	---	--------------------------------------

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1・5-2 [略]

5-3 諸雑費

諸雑費は、労務費、機械損料及び運転経費の合計金額に表 5.7～表 5.10 の率を乗じた金額を計上する。

5-3-1・5-3-2 [略]

5-3-3 鋼管杭(グラウト方式)

中掘工(グラウト注入)による鋼管杭打込の諸雑費は、グラウト材(セメントミルク)、溶接ワイヤ、鋼管吊具、吊ワイヤ、裏当てリング及びストッパー、銅バンド、ずれ止め、ずれ止め用ストッパー、オーガスクリュー、オーガヘッド、ヤットコ、足場材(敷鉄板)賃料及び設置・撤去・移設、半自動アーク溶接機損料、空気圧縮機(排出ガス対策型)、モルタルプラント運転及び電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコの有無及びずれ止め、ずれ止め用ストッパーの有無にかかわらず本諸雑費率を適用できる。

表 5.9 諸雑費率(鋼管杭) (%) [略]

5-3-4 既製コンクリート杭(グラウト方式)

中掘工(グラウト注入)による既製コンクリート杭打込の諸雑費は、グラウト材(セメントミルク)、溶接ワイヤ、吊ワイヤ、オーガスクリュー、オーガヘッド、ヤットコ、足場材(敷鉄板)賃料及び設置・撤去・移設、半自動アーク溶接機損料、空気圧縮機(排出ガス対策型)、モルタルプラント運転及び電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコの有無にかかわらず本諸雑費率を適用できる。

表 5.10 諸雑費率(既製コンクリート杭) (%) [略]

6. 単価表

(1) 中掘工(打撃打止め)による鋼管・既製コンクリート杭打込み 10本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	T <sub>d</sub> × 1	表 4.1
とび工		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃
普通作業員		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃
溶接工		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃 必要に応じて計上する
杭		本	10	
アースオーガ中掘機 運		日	T <sub>d</sub>	表 3.1
クローラクレーン 運	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧駆動式 ウインチ・ラジジブ型〇〇t吊	〃	T <sub>d</sub>	〃
バックホウ運	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型 山積 0.5m <sup>3</sup> (平積 0.4m <sup>3</sup> )	〃	T <sub>d</sub>	〃

諸 雑 費		式	1	表 5. 7、表 5. 8
計				

(注) [略]

(2) 中掘工（グラウト注入）による鋼管・既製コンクリート杭打込み 10 本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	T <sub>d</sub> × 1	表 4. 1
と び 工		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃
特 殊 作 業 員		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃
普 通 作 業 員		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃
溶 接 工		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃 必要に応じて計上する
杭		本	10	
アースオーガ中掘機 運 転		日	T <sub>d</sub>	表 3. 1
クローラクレーン 運 転	排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧駆動式 ウインチ・リフティング型 <u>最大吊上能力</u> 〇〇t 吊	〃	T <sub>d</sub>	〃
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運 転	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型（2014年規制） <u>バケツト容量</u> 0.5m <sup>3</sup>	〃	T <sub>d</sub>	〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 9、表 5. 10
計				

(注) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
クローラ式アースオーガ	アースオーガ中掘機・ 直結三点支持式 オーガ出力 55kW <u>掘削</u> 杭径 φ 400～1,200mm リーダ長 21～33m	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →57 機械損料数量 →1.46
〃	アースオーガ中掘機・ 直結三点支持式 オーガ出力 90kW <u>掘削</u> 杭径 φ 400～1,200mm リーダ長 21～33m	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →69 機械損料数量 →1.46
クローラクレーン	排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧駆動式ウインチ・リフティング型 <u>最大吊上能力</u> 50～55t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →56 機械損料数量 →1.46
〃	排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧駆動式ウインチ・リフティング型 <u>最大吊上能力</u> 80t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →82 機械損料数量 →1.46
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型（2014年規制） <u>バケツト容量</u> 0.5m <sup>3</sup>	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →45 機械損料数量 →1.52

⑤ 場所打杭工（大口径ボーリングマシン工）

1.・2. [略]

諸 雑 費		式	1	表 5. 7、表 5. 8
計				

(注) [略]

(2) 中掘工（グラウト注入）による鋼管・既製コンクリート杭打込み 10 本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	T <sub>d</sub> × 1	表 4. 1
と び 工		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃
特 殊 作 業 員		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃
普 通 作 業 員		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃
溶 接 工		〃	T <sub>d</sub> × 1	〃 必要に応じて計上する
杭		本	10	
アースオーガ中掘機 運 転		日	T <sub>d</sub>	表 3. 1
クローラクレーン 運 転	排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧駆動式 ウインチ・リフティング型〇〇t 吊	〃	T <sub>d</sub>	〃
バ ッ ク ホ ウ 運 転	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型（2014年規制） <u>クローラ型 山積</u> 0.5m <sup>3</sup> <u>(平積 0.4m<sup>3</sup>)</u>	〃	T <sub>d</sub>	〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 9、表 5. 10
計				

(注) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
クローラ式アースオーガ	アースオーガ中掘機・ 直結三点支持式 オーガ出力 55kW <u>公称</u> 杭径 φ 400～1,200mm リーダ長 21～33m	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →57 機械損料数量 →1.46
〃	アースオーガ中掘機・ 直結三点支持式 オーガ出力 90kW <u>公称</u> 杭径 φ 400～1,200mm リーダ長 21～33m	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →69 機械損料数量 →1.46
クローラクレーン	排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧駆動式ウインチ・リフティング型 50～55t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →56 機械損料数量 →1.46
〃	排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧駆動式ウインチ・リフティング型 80t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →82 機械損料数量 →1.46
バ ッ ク ホ ウ	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型（2014年規制） <u>クローラ型 山積</u> 0.5m <sup>3</sup> <u>(平積 0.4m<sup>3</sup>)</u>	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →45 機械損料数量 →1.52

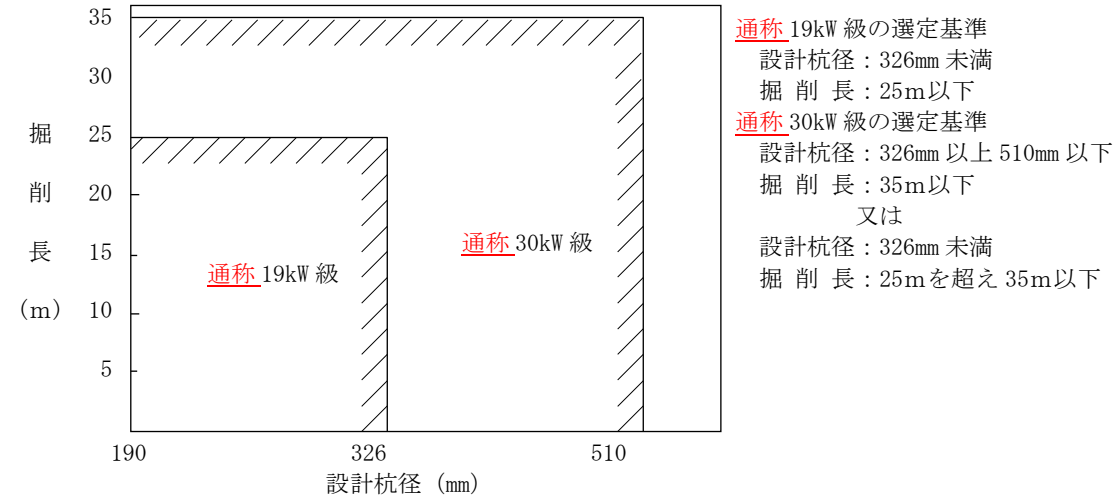
⑤ 場所打杭工（大口径ボーリングマシン工）

1.・2. [略]

### 3. 機種を選定

#### 3-1 大口径ボーリングマシンの選定

施工機種の選定は、次図を標準とする。



(注) 現場条件により機械の搬入が困難で、これにより難しい場合は別途考慮する。

図3.1 大口径ボーリングマシンの選定

#### 3-2 補助機種の選定

鋼管、H形鋼の建込み、大口径ボーリングマシンの移動は付属のウインチで施工することを標準とするが、下記現場及び作業条件により補助機種が必要な場合は、別途計上する。

現場及び作業条件

- ① 施工場所より10m以内に材料置場を設けることができない場合。
- ② 民家、構造物、その他の施設等を破損又は、危険にさらすおそれがある場合。
- ③ 水路等の連続的な凹凸の障害により大口径ボーリングマシン付属ウインチによる施工が困難な場合。

表3.1 機種を選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
資材等の現場内小運搬、鋼管、H形鋼の建込み、溶接、大口径ボーリングマシンの移動	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2014年規制) 最大吊上能力 25t 吊	台	1	必要に応じて計上する

(注) 1.・2. [略]

### 4. [略]

### 5. 施工歩掛

杭1本当り施工日数 (T<sub>c</sub>)

H形鋼杭の場合・・・T<sub>c</sub>=T<sub>1</sub>+T<sub>2</sub>+T<sub>3</sub> (日/本) (式5.1)

鋼管杭の場合・・・T<sub>c</sub>=T<sub>1</sub>+T<sub>2</sub>+ (T<sub>3</sub>×α) ( " ) (式5.2)

T<sub>1</sub>: 杭1本当りの削孔日数 ( " )

T<sub>2</sub>: 杭1本当りの準備・建込等、充填日数 ( " )

T<sub>3</sub>: 杭1本当りの溶接日数 ( " )

α: 鋼管板厚補正係数

(注) T<sub>3</sub>は立継溶接(※1)により継杭を施工する場合に計上する。

なお、機械式継手(※2)により継杭を施工する場合にも適用できるが、T<sub>3</sub>及び溶接工は計上せずに、費用等を別途計上とする。

※1 立継溶接・・・鋼材を大口径ボーリングマシンのウインチ等で建込みながら溶接する施工方法。

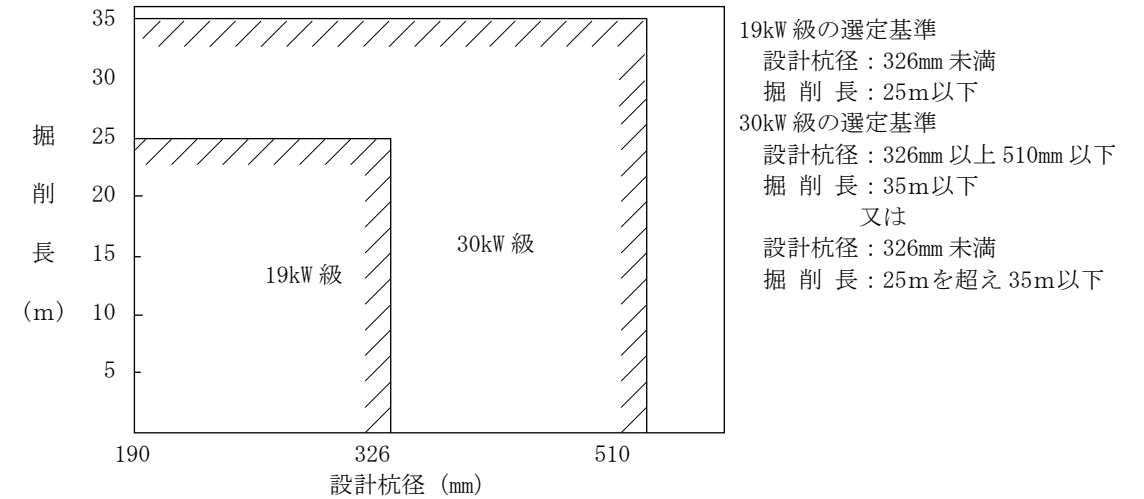
※2 機械式継手・・・あらかじめ杭の上下端部に工場で溶接取付された継手部材を現地で自重等により嵌合させる構造のもの。

①杭2本当りの削孔日数 (T<sub>1</sub>)

### 3. 機種を選定

#### 3-1 大口径ボーリングマシンの選定

施工機種の選定は、次図を標準とする。



(注) 現場条件により機械の搬入が困難で、これにより難しい場合は別途考慮する。

図3.1 大口径ボーリングマシンの選定

#### 3-2 補助機種の選定

鋼管、H形鋼の建込み、大口径ボーリングマシンの移動は付属のウインチで施工することを標準とするが、下記現場及び作業条件により補助機種が必要な場合は、別途計上する。

現場及び作業条件

- ① 施工場所より10m以内に材料置場を設けることができない場合。
- ② 民家、構造物、その他の施設等を破損又は、危険にさらすおそれがある場合。
- ③ 水路等の連続的な凹凸の障害により大口径ボーリングマシン付属ウインチによる施工が困難な場合。

表3.1 機種を選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
資材等の現場内小運搬、鋼管、H形鋼の建込み、溶接、大口径ボーリングマシンの移動	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2014年規制) 25t 吊	台	1	必要に応じて計上する

(注) 1.・2. [略]

### 4. [略]

### 5. 施工歩掛

杭1本当り施工日数 (T<sub>c</sub>)

H形鋼杭の場合・・・T<sub>c</sub>=T<sub>1</sub>+T<sub>2</sub>+T<sub>3</sub> (日/本) (式5.1)

鋼管杭の場合・・・T<sub>c</sub>=T<sub>1</sub>+T<sub>2</sub>+ (T<sub>3</sub>×α) ( " ) (式5.2)

T<sub>1</sub>: 杭1本当りの削孔日数 ( " )

T<sub>2</sub>: 杭1本当りの準備・建込等、充填日数 ( " )

T<sub>3</sub>: 杭1本当りの溶接日数 ( " )

α: 鋼管板厚補正係数

(注) T<sub>3</sub>は立継溶接(※1)により継杭を施工する場合に計上する。

なお、機械式継手(※2)により継杭を施工する場合にも適用できるが、T<sub>3</sub>及び溶接工は計上せずに、費用等を別途計上とする。

※1 立継溶接・・・鋼材を大口径ボーリングマシンのウインチ等で建込みながら溶接する施工方法。

※2 機械式継手・・・あらかじめ杭の上下端部に工場で溶接取付された継手部材を現地で自重等により嵌合させる構造のもの。

①杭2本当りの削孔日数 (T<sub>1</sub>)

表 5. 1 土質毎の削孔日数 (T a) (日/m)

土質・岩質分類 ボーリングマシン	礫質土岩 軟 ( I )	砂及 砂質 粘性 土	び 質 土	岩 塊 石	軟 岩 ( II )	硬 岩
通称 19kW 級	0.15	0.07	0.24	0.34	0.44	
通称 30kW 級						

(注) [略]  
(例) [略]

②～④ [略]

6. [略]

7. やぐらの設置・撤去

やぐらの設置・撤去歩掛は、次表とする。ただし、搬入搬出時及びやぐらを解体しなければ移動できない場合に計上する。

表 7. 1 やぐらの設置・撤去歩掛 (1基1回当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
世 話 役		人	1.0
と び 工		〃	1.0
特 殊 作 業 員		〃	2.0
普 通 作 業 員		〃	2.0
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t 吊	日	1.0

(注) 1.・2. [略]

[削る。]

8. ～13. [略]

14. 単価表

(1) 大口径ボーリングマシンによる場所打杭 1本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	Tc×1	表4. 1
特 殊 作 業 員		〃	Tc×2	〃

表 5. 1 土質毎の削孔日数 (T a) (日/m)

土質・岩質分類 ボーリングマシン	礫質土岩 軟 ( I )	砂及 砂質 粘性 土	び 質 土	岩 塊 石	軟 岩 ( II )	硬 岩
19kW 級	0.15	0.07	0.24	0.34	0.44	
30kW 級						

(注) [略]  
(例) [略]

②～④ [略]

6. [略]

7. やぐらの設置・撤去

やぐらの設置・撤去歩掛は、次表とする。ただし、搬入搬出時及びやぐらを解体しなければ移動できない場合に計上する。

表 7. 1 やぐらの設置・撤去歩掛 (ラフテレーン使用の場合) (1基1回当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
世 話 役		人	1.0
と び 工		〃	1.0
特 殊 作 業 員		〃	2.0
普 通 作 業 員		〃	2.0
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型 (2014年規制) 25t 吊	日	1.0

(注) 1.・2. [略]

表 7. 2 やぐらの設置・撤去歩掛 (索道使用の場合) (1基1回当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
世 話 役		人	1.0
と び 工		〃	3.0
特 殊 作 業 員		〃	2.5
普 通 作 業 員		〃	3.5
ウイッチ運転	開放型 (電動) ・単胴 巻上能力 2.8t×30m/min 巻取容量 φ22×200m	日	1.5
発動発電機運転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 定格容量 75kVA (19kW級用) 定格容量 100kVA (30kW級用)	〃	1.5

(注) 1.～2. [略]

8. ～13. [略]

14. 単価表

(1) 大口径ボーリングマシンによる場所打杭 1本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	Tc×1	表4. 1
特 殊 作 業 員		〃	Tc×2	〃

普通作業員		〃	Tc×2	〃
溶接工		〃	T3×0.75	継杭の場合に計上する鋼管の場合は(注)2による
中詰材料		m <sup>3</sup>		6.杭1本当りモルタル及びコンクリート使用量の算定式により算出し計上する
鋼管・H形鋼等		本	1	
大口径ボーリングマシン運転		日	T1+T2	機械損料
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(2014年規制) <u>最大吊上能力</u> 25t吊	〃	T2+T3	必要に応じて計上する機械賃料
ビット等損耗費		式	1	表8.1
諸雑費		〃	1	表9.1
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(2) やぐらの設置・撤去1基1回当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表7.1
とび工		〃		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(2014年規制) <u>最大吊上能力</u> 25t吊	日		表7.1 機械賃料
計				

[削る。]

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
大口径ボーリングマシン	図3.1	機-25	機械損料数量 →1.34
[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。] [削る。]

普通作業員		〃	Tc×2	〃
溶接工		〃	T3×0.75	継杭の場合に計上する鋼管の場合は(注)2による
中詰材料		m <sup>3</sup>		6.杭1本当りモルタル及びコンクリート使用量の算定式により算出し計上する
鋼管・H形鋼等		本	1	
大口径ボーリングマシン運転		日	T1+T2	機械損料
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(2014年規制) 25t吊	〃	T2+T3	必要に応じて計上する機械賃料
ビット等損耗費		式	1	表8.1
諸雑費		〃	1	表9.1
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(2) やぐらの設置・撤去1基1回当り単価表 (ラフテレーンクレーン使用の場合)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表7.1
とび工		〃		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(2014年規制) 25t吊	日		表7.1 機械賃料
計				

(3) やぐら設置・撤去1基1回当り単価表 (索道使用の場合)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表7.2
とび工		〃		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ウインチ運転	開放型(電動)・単胴 巻上能力2.8t×30m/min 巻取容量Φ22×200m	日		表7.2 機械賃料
発動発電機運転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量75kVA(19kW級用) 定格容量100kVA(30kW級用)	〃		表7.2 機械賃料
計				

(4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
大口径ボーリングマシン	図3.1	機-25	機械損料数量 →1.34
ウインチ	開放型(電動)・単胴 巻上能力2.8t×30m/min 巻取容量Φ22×200m	機-25	機械損料数量 →1.42

[ 削 る 。 ]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]
-----------	-------	-------	-------	-------

## ⑥ 場所打杭工（ダウンザホールハンマ工）

### 1. 適用範囲

本歩掛は、ダウンザホールハンマによる場所打杭工（山留工、地すべり抑止杭、基礎杭（構造物、仮設物）、防護柵）の施工に適用する。なお、比較的安定した地盤で孔壁保護を行わずに施工する場合に適用し、孔壁保護を行う場合には、別途考慮する。

ただし、防護柵については、吸収エネルギーが750～1,000kJ程度の高エネルギー吸収柵の支柱設置のみ適用する。

適用範囲は、設計杭径170mm以上580mm以下、掘削長30m以下とする。

ただし、防護柵については設計杭径270mm超え320mm以下、掘削長8m以下とする。

また、杭の頭出しを行う場合にも適用する。

なお、鋼管・H形鋼の頭出しの長さは6m以下とし、防護柵の頭出しの長さは、4m以下とする。

継杭は地中部のみとし、地上部の継杭は場所打杭工の対象としない。

表 1. 1 設計杭径及び削孔径

項目	設計杭径 (mm)	170 以上 220 以下	220 超え 270 以下	270 超え 320 以下	320 超え 360 以下	360 超え 430 以下	430 超え 510 以下	510 超え 580 以下
		削孔径 (mm)	H形鋼 300	350	400	450	500	600
	鋼管・ 防護柵	300	350	400	450	500	550	600
H 形 鋼		設計杭径は、H形鋼の対角線長とする。						
鋼 管		設計杭径は、鋼管の外径とする。						
防 護 柵		設計杭径は、回転防止筋を含む外径とする。						

図 1. 1 [略]

### 2. 施工概要

本工法は、クレーン又は大口径ボーリングマシンに取り付けたダウンザホールハンマの打撃により地盤を掘削し、鋼管杭、H形鋼杭等を建込み、中詰材・外詰材の注入等の一連作業で杭を形成するものである。

[削る。]

#### 2-1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。

発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量75kVA(19kW級用) 定格容量100kVA(30kW級用)	機-16	燃料消費量 75kVA →37 100kVA →60 機械損料数量 →1.30
-----------	--	------	--

## ⑥ 場所打杭工（ダウンザホールハンマ工）

### 1. 適用範囲

本歩掛は、ダウンザホールハンマによる場所打杭工（山留工、地すべり抑止杭、基礎杭（構造物、仮設物）、防護柵）の施工に適用する。

ただし、防護柵については、吸収エネルギーが750～1,000kJ程度の高エネルギー吸収柵の支柱設置のみ適用する。

適用範囲は、設計杭径170mm以上580mm以下、掘削長30m以下とする。

ただし、防護柵については設計杭径270mm超え320mm以下、掘削長8m以下とする。

また、杭の頭出しを行う場合にも適用する。

なお、鋼管・H形鋼の頭出しの長さは6m以下とし、防護柵の頭出しの長さは、4m以下とする。

継杭は地中部のみとし、地上部の継杭は場所打杭工の対象としない。

表 1. 1 設計杭径及び削孔径

項目	設計杭径 (mm)	170 以上 220 以下	220 超え 270 以下	270 超え 320 以下	320 超え 360 以下	360 超え 430 以下	430 超え 510 以下	510 超え 580 以下
		削 孔 径 (mm)	[新設] 300	350	400	450	500	550
	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	
H 形 鋼		設計杭径は、H形鋼の対角線長とする。						
鋼 管		設計杭径は、鋼管の外径とする。						
防 護 柵		設計杭径は、回転防止筋を含む外径とする。						

図 1. 1 [略]

### 2. 施工概要

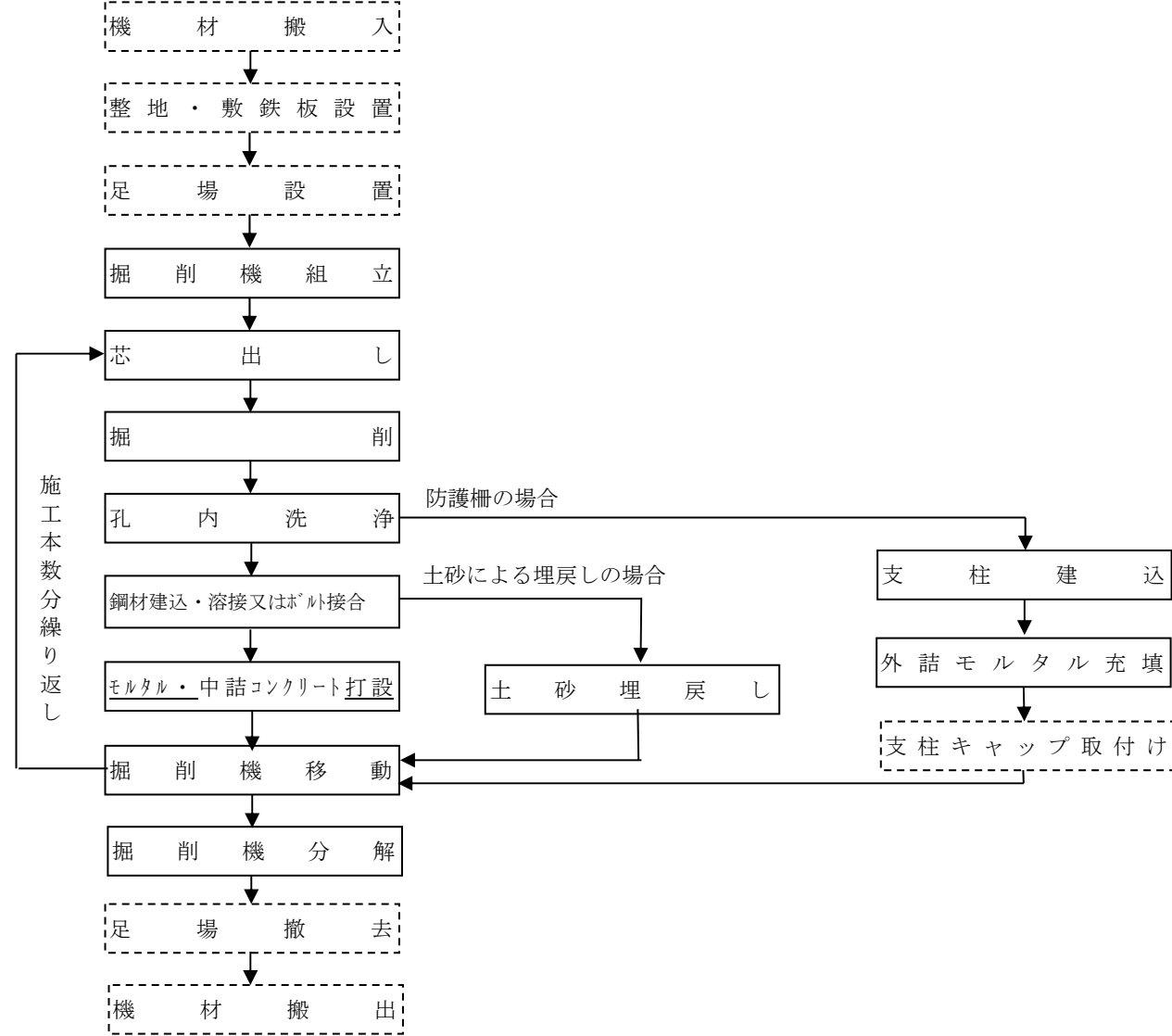
本工法は、クレーン又は大口径ボーリングマシンに取り付けたダウンザホールハンマの打撃により地盤を掘削し、鋼管杭又はH形鋼杭を建込み、中詰材・外詰材の注入等の一連作業で杭を形成するものである。

なお、本工法は比較的安定した地盤で孔壁保護を行わずに施工する場合に適用し、孔壁保護を行う場合には、本工法の適用外とし別途考慮する。

#### 2-1 施工フロー

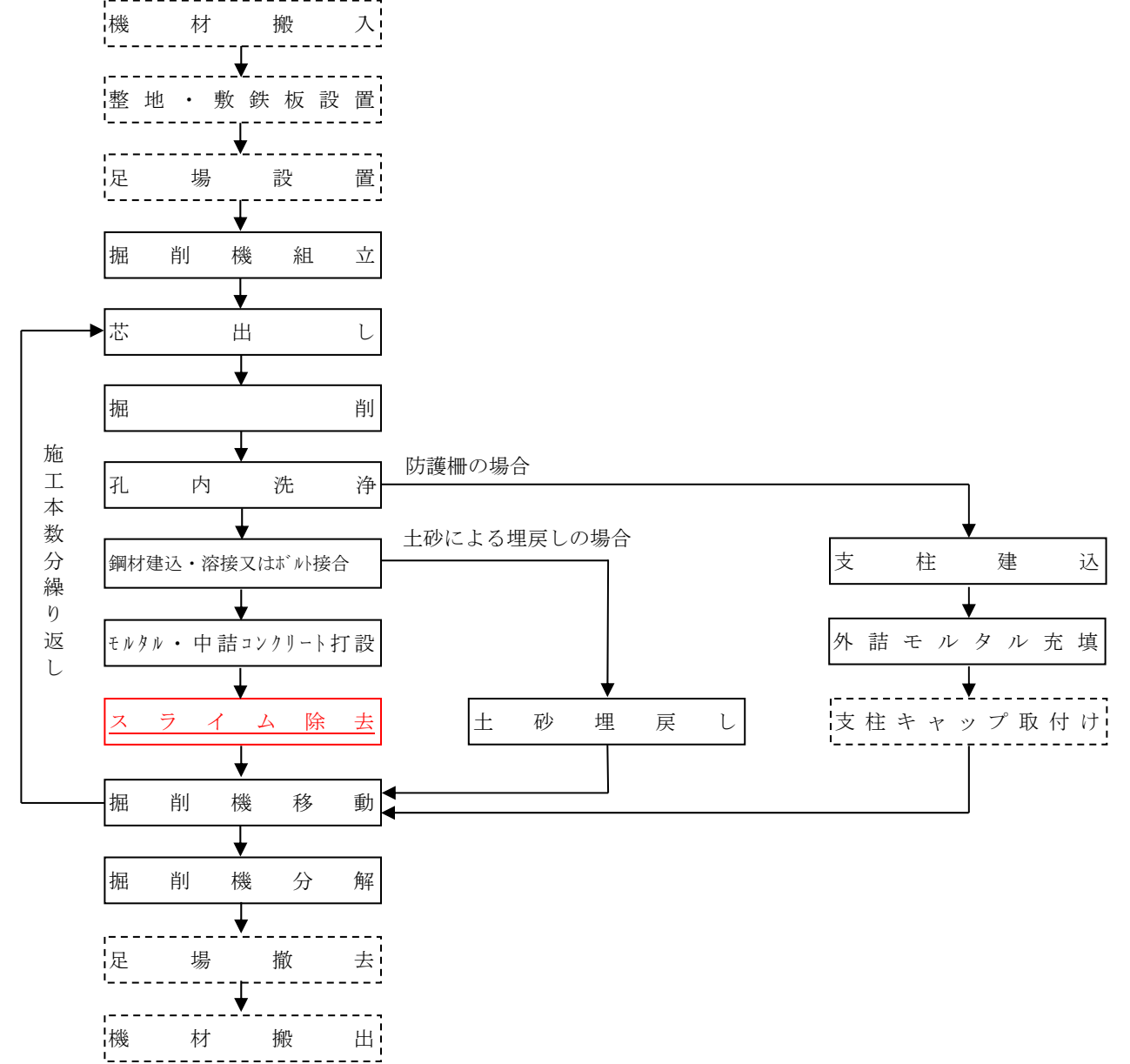
施工フローは、下記を標準とする。

(1) A工法 (クレーン工法)



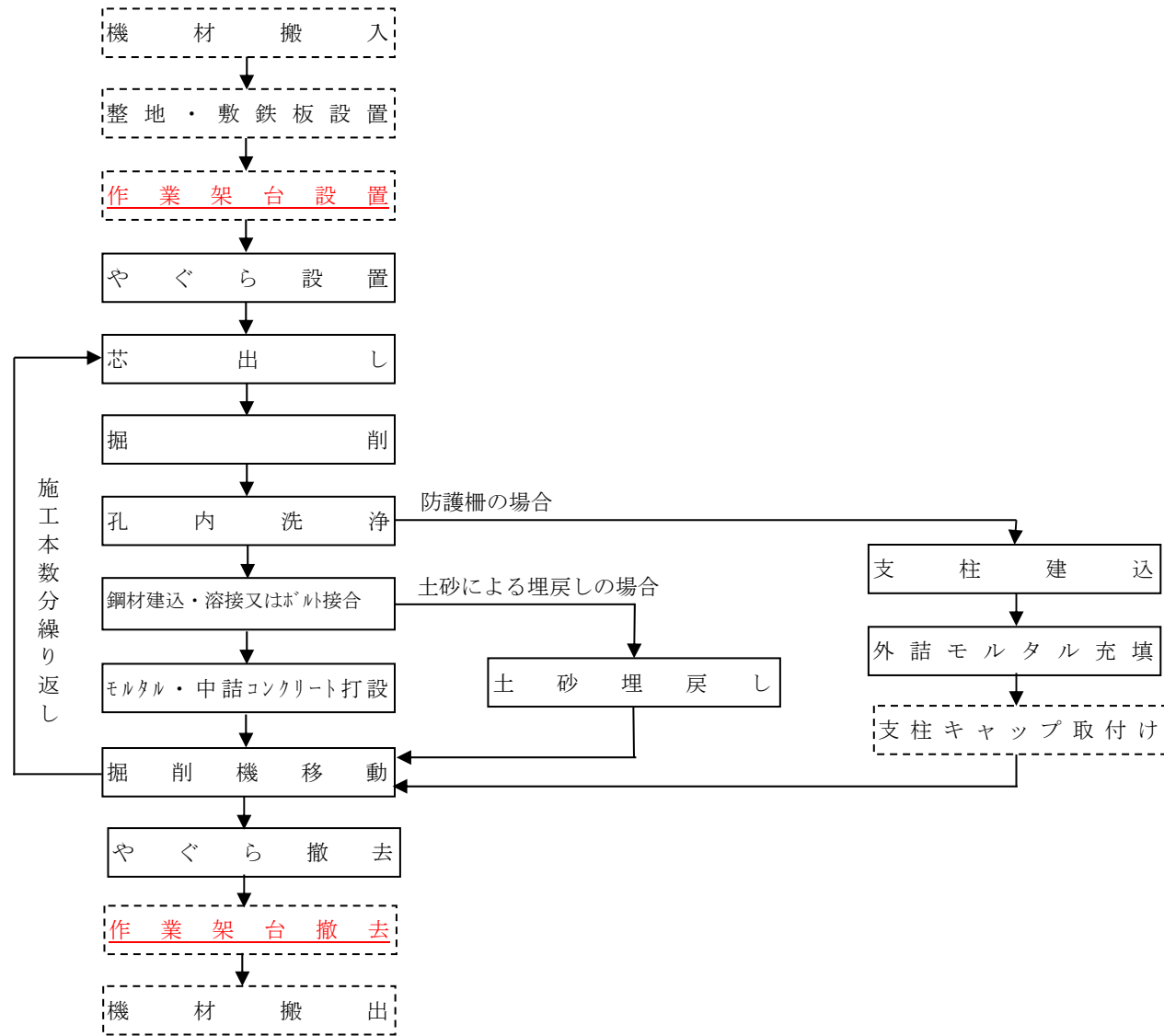
(注) 1. ~ 3. [略]

(1) A工法 (クレーン工法)



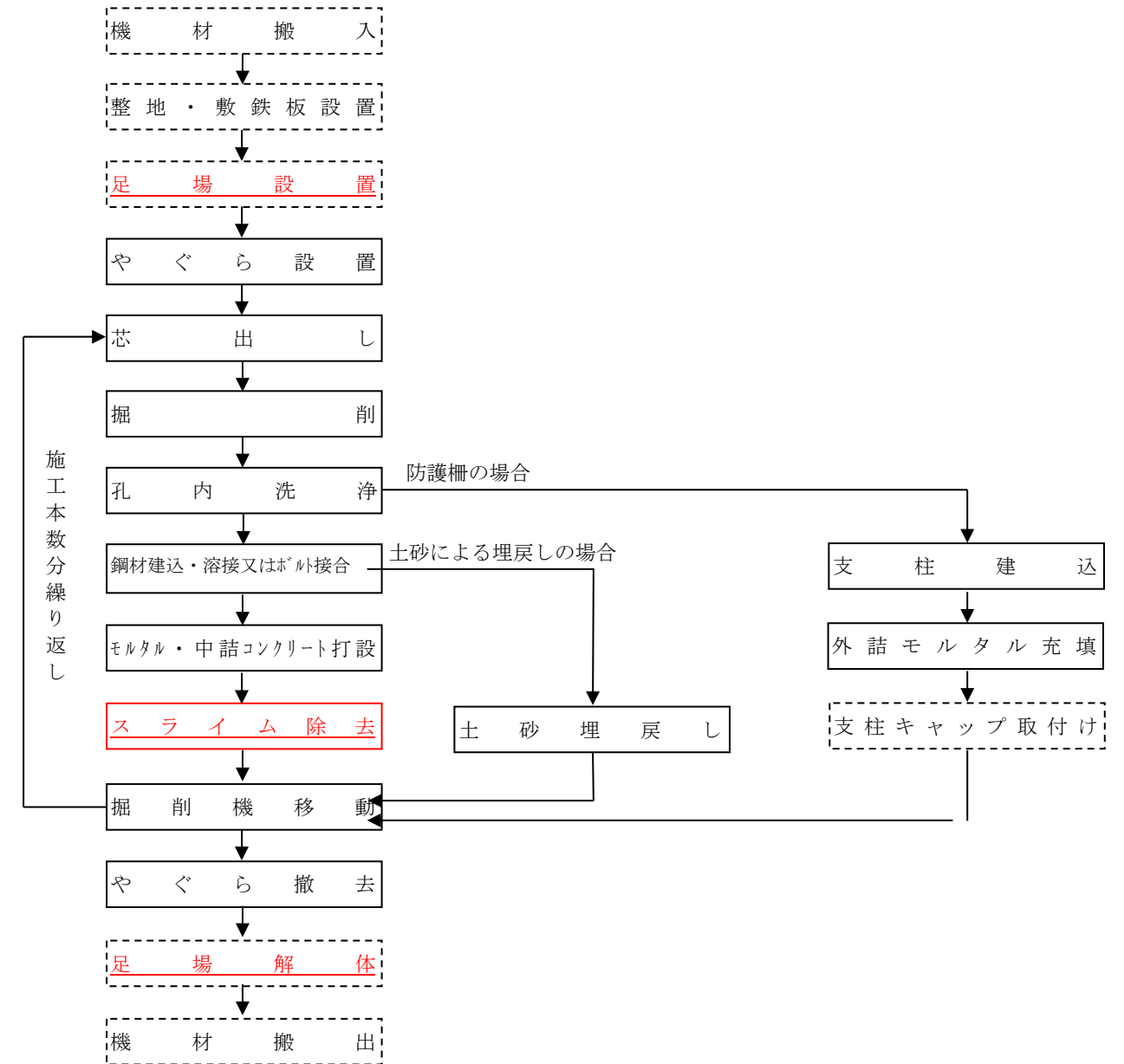
(注) 1. ~ 3. [略]

(2) B工法 (大口径ボーリングマシン工法)



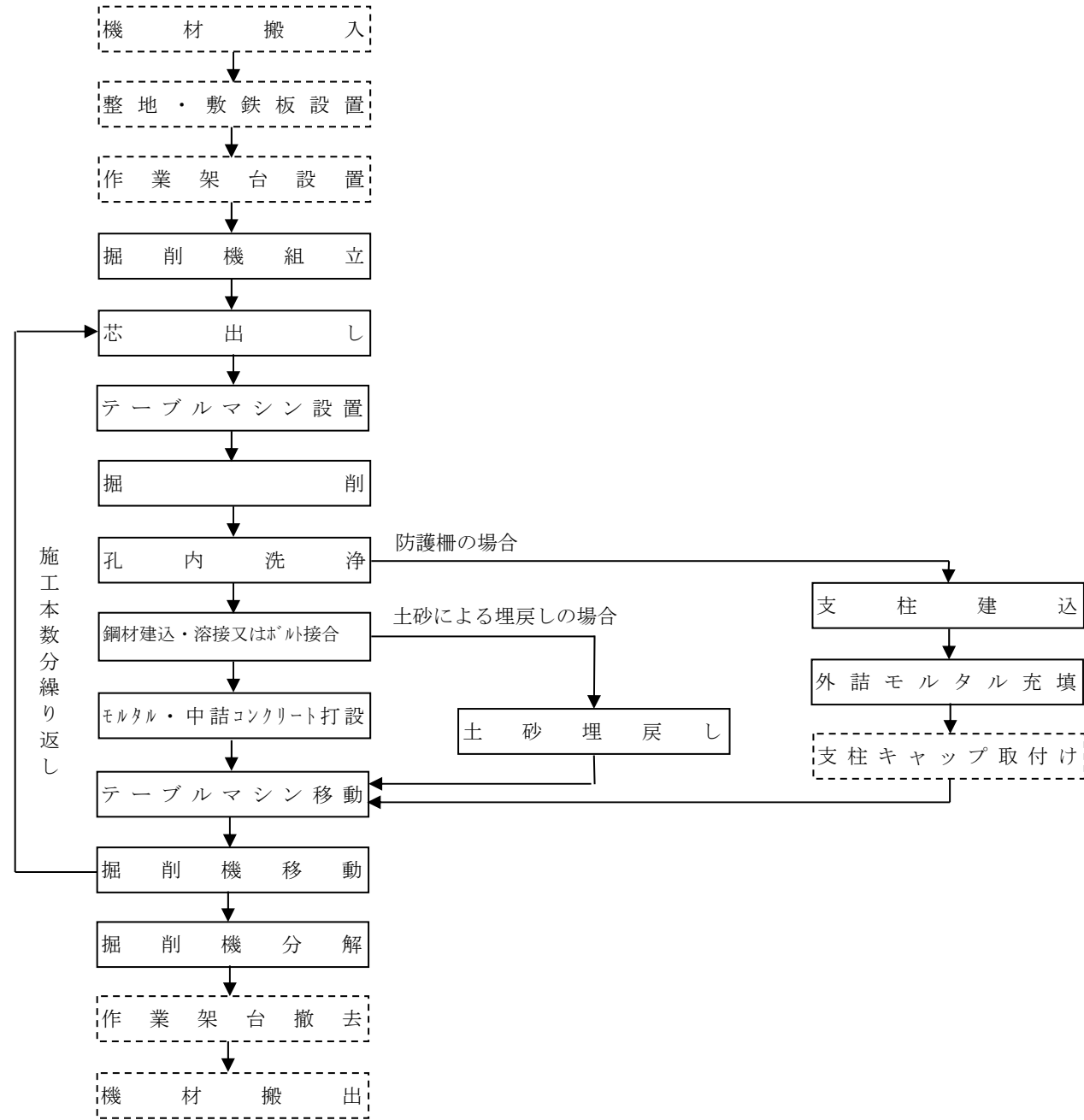
- (注) 1. ~ 3. [略]  
 4. 傾斜地等で作業架台が必要な場合、別途計上する。

(2) B工法 (大口径ボーリングマシン工法)



- (注) 1. ~ 3. [略]  
 4. 傾斜地等で仮設足場が必要な場合、別途計上する。

(3) C工法 (テーブルマシン工法)

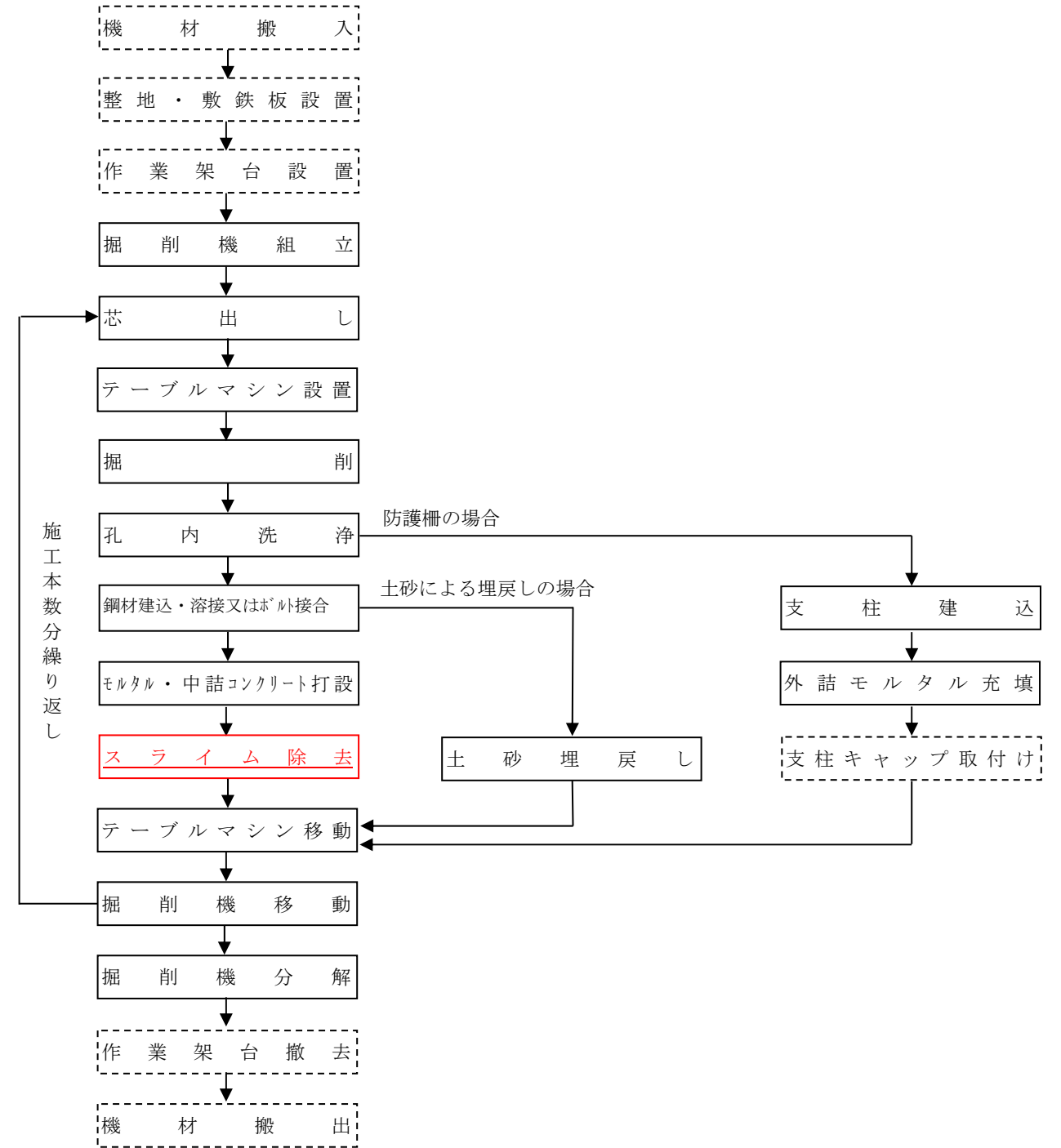


(注) 1. ~ 4. [略]

2-2 工法の選定  
工法の選定は、図2.1による。

図2.1 工法の選定 [略]

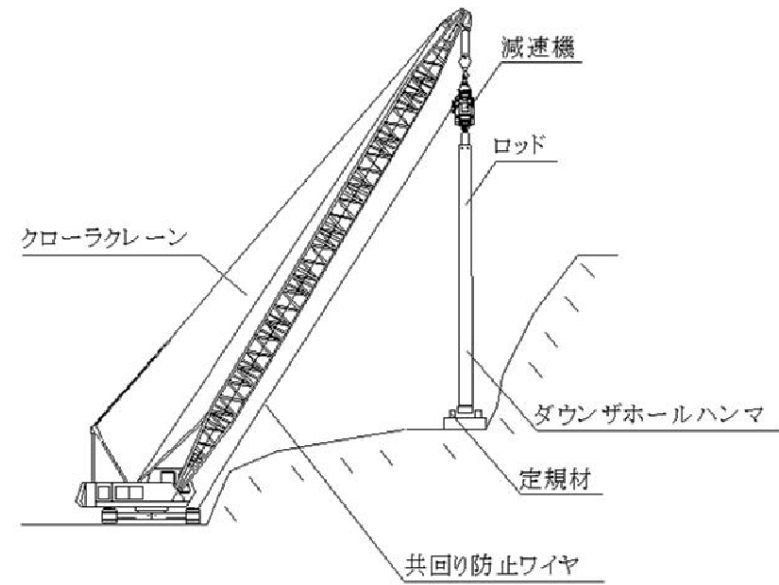
(3) C工法 (テーブルマシン工法)



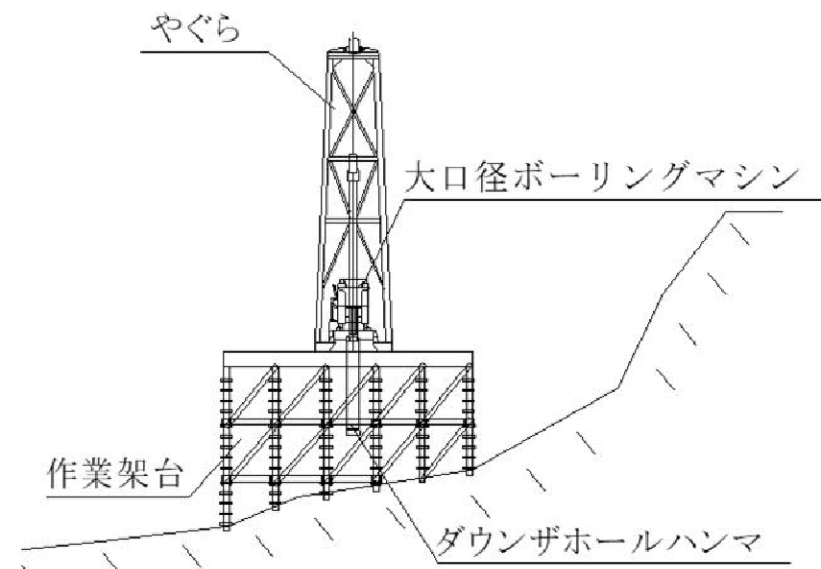
(注) 1. ~ 4. [略]

2-2 工法の選定  
工法の選定は、図2.1による。

図2.1 工法の選定 [略]



参考図 (A工法模式図)



(注) 1. やぐらとは、杭や掘削機の建込及び継ぎを行うために、鋼管やH形鋼等、ダウンザホールハンマ、ロッドを吊上げる装置である。

参考図 (B工法模式図)

参考図 (C工法模式図) [略]

[新設]

[新設]

参考図 (C工法模式図) [略]

### 3. 機種の選定

#### 3-1 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

##### 1) A工法

表 3. 1 機種の選定 (A工法)

作業種別	機 械 名	規 格	単 位	数 量		摘 要
				設計杭径 430mm 以下	設計杭径 430mm 超え	
掘 削 用	ラフテレーン クレーン 装着式 アースオーガ	[アースオーガ (油圧式) 及びモ ンケン架装] ベー スマシン 35t 吊	台	1		[削る。]
掘 削 用	クローラ クレーン	[油圧駆動式ウイ ンチ・ラチスジブ 型・排出ガス対策 型 (2014 年規制) 最大吊上能力] 70t 吊	台		1	
	ダウンザホー ルハンマ	[空圧式]	〃		1	表 3. 4
	空気圧縮機	[削る。]	〃	必要台数		表 3. 5
鋼管杭・H形鋼 杭等建込用掘削 機組立・分解 用	ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型 (2014 年規制) 最 大吊上能力 25t 吊	〃	1		

(注) 1. 鋼管杭、H形鋼杭の建込み、クレーン (掘削用) の組立 (リーダ、減速機の取付け) ・分解時については、ラフテレーンクレーン (油圧伸縮ジブ型最大吊上能力 25t 吊) を標準とするが、現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

[削る。]

2. 粉塵対策が必要な場合には、給水ポンプ、集塵機を共通仮設費の安全管理費に別途計上する。

##### 2) B工法

表 3. 2 機種の選定 (B工法)

作業種別	機 械 名	規 格	単 位	数 量			摘 要
				設計杭径 320mm 以下		設計杭径 320mm 超え	
				掘削長 25m 以下	掘削長 25m 超え	掘削長 30m 以下	
掘 削 用	大 口 径 ボーリング マシ ン	通称 19kW 級	台	1			図 3. 1
		通称 30kW 級	〃		1	1	図 3. 1
	ダウ ン ザ ホ ー ル ハ ン マ	[空圧式]	〃	1			表 3. 4

### 3. 機種の選定

#### 3-1 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種の選定 (A工法)

作業種別	機 械 名	規 格	単 位	数 量		摘 要
				[新設]	[新設]	
[新設]	クレーン (掘削 用)	[新設]	台	1		図 3. 1 表 3. 4
[新設]	[新設]	[新設]	[新設]		[新設]	
	ダウンザホー ルハンマ	空圧式	〃	1		表 3. 5
	空気圧縮機	可搬式・エンジン 駆動スクリュ型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値)	〃	必要台数		表 3. 6
鋼管杭・H形鋼杭 建込用掘削機組立・分 解用	ラフテレーンク レーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 25t 吊	〃	1		

(注) 1. 鋼管杭、H形鋼杭の建込み、クレーン (掘削用) の組立 (リーダ、減速機の取付け) ・分解時については、ラフテレーンクレーン (油圧伸縮ジブ型 25t 吊) を標準とするが、現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

2. 空気圧縮機は、賃料とする。

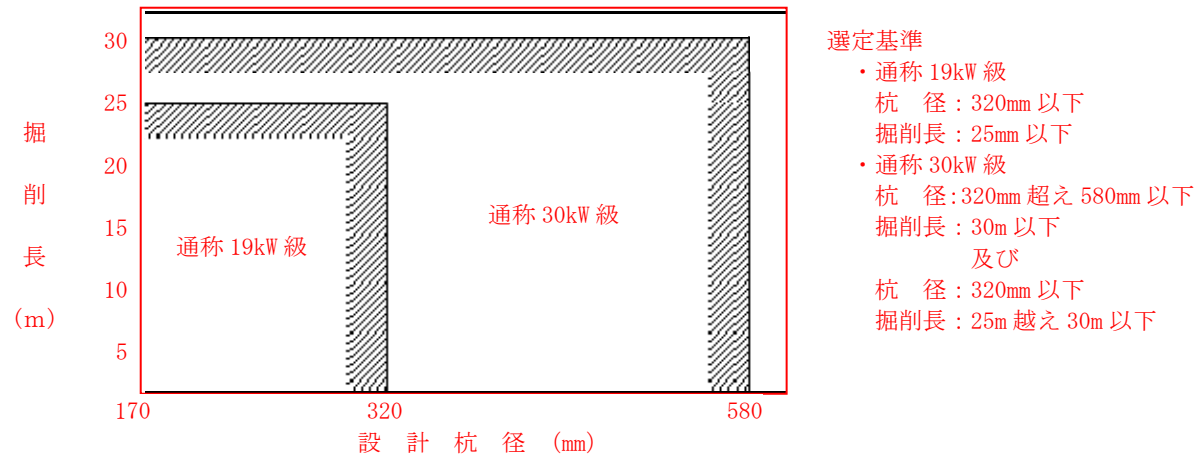
3. 粉塵対策が必要な場合は、給水ポンプ、集塵機を共通仮設費の安全費に計上する。

表 3. 2 機種の選定 (B工法)

作業種別	機 械 名	規 格	単 位	数 量			摘 要
				[新設]		[新設]	
				[新設]	[新設]	[新設]	
[新設]	大口径ボーリン グマシ ン	[新設]	台	1			図 3. 2
		[新設]	[新設]				[新設]
	ダウ ン ザ ホ ー ル ハ ン マ	空圧式	〃	1			表 3. 5

	発動発電機	[削る。]	〃	必要台数	表 3. 5
鋼管杭・H形鋼杭等建込用掘削機組立・分解用	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2014年規制)最大吊上能力25t吊	〃	1	必要に応じてラフテレーンクレーン賃料、(補助クレーン用)を別途計上する。

(注) 1. 鋼管杭、H形鋼杭等の建込み、掘削機の移動については、大口径ボーリングマシン付属のウインチで施工することを標準とする。  
2. ～5. [略]



(注) 現場条件等により、上図により難しい場合は別途考慮する。

図 3. 1 大口径ボーリングマシンの選定

3) C工法

表 3. 3 機種選定の選定 (C工法)

作業種別	機械名	規格	単位	数量		摘要
				設計杭径 360mm 以下	設計杭径 360mm 超え	
掘削用	ラフテレーンクレーン	[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第3次基準値)最大吊上能力] 25t吊	台	1		[削る。]
掘削用	クローラクレーン	[油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型(2014年規制)最大吊上能力] 70t吊	〃		1	
	ダウンザホールハンマ	[空圧式]	〃		1	表 3. 4
	空気圧縮機	[削る。]	〃		必要台数	表 3. 5

(注) 1. 鋼管杭、H形鋼杭等の建込み、クレーン(掘削用)を標準とするが、現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。  
[削る。]

	空気圧縮機	可搬式・エンジン駆動スクリュ型・排出ガス対策型(第2次基準値)	〃	必要台数	表 3. 6
資材等現場内小運搬掘削機の移動鋼管杭、H形鋼杭建込	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)25t吊	〃	1	必要に応じてラフテレーンクレーン(補助クレーン用)を別途計上する。

(注) 1. 鋼管杭、H形鋼杭の建込み、掘削機の移動については、大口径ボーリングマシン付属のウインチで施工することを標準とする。  
2. ～5. [略]

[新設]

表 3. 3 機種選定の選定 (C工法)

作業種別	機械名	規格	単位	数量		摘要
				[新設]	[新設]	
[新設]	クレーン(掘削用)	[新設]	台	1		図 3. 1、表 3. 4
[新設]	[新設]	[新設]	[新設]		[新設]	
	ダウンザホールハンマ	空圧式	〃		1	表 3. 5
	空気圧縮機	可搬式・エンジン駆動スクリュ型・排出ガス対策型(第2次基準値)	〃		必要台数	表 3. 6

(注) 1. 鋼管杭、H形鋼杭の建込みは、クレーン(掘削用)を標準とするが、現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。  
2. 空気圧縮機は、賃料とする。



ダウンサ <sup>®</sup> ホル ハンマ規格	最大掘削径 φ 305mm	最大掘削径 φ 445mm	最大掘削径 φ 508mm	最大掘削径 φ 650mm
-------------------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

3-3 空気圧縮機の選定

空気圧縮機の選定は、次表を標準とする。

表 3. 5 空気圧縮機の選定

機械名	規格	単位	数量					
			設計杭径 170mm 以上 320mm 以下	設計杭径 320mm 超え 360mm 以下	設計杭径 360mm 超え 430mm 以下	設計杭径 430mm 超え 510mm 以下		設計杭径 510mm 超え 580mm 以下
						H形鋼	鋼管	
空気 圧縮機	[可搬式・エンジン駆動・スクリュ型(超低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値)] [高圧・ドライエア仕様] 吐出量 21.0~25.5 m <sup>3</sup> /min 吐出圧力 0.7~1.27MPa	台	二	二	一	三	一	三
	[可搬式・エンジン駆動・スクリュ型(低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値)] [高圧仕様] 吐出量 37.0~41.0 m <sup>3</sup> /min 吐出圧力 0.7~1.27MPa	〃	一	二	一	二	一	二

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1 杭1本当り施工日数(T<sub>c</sub>)

杭1本当り施工日数は、次式による。

鋼管杭の場合 :  $T_c = T_1 + T_2 + T_3 + (T_4 \times \alpha)$  (日/本) (式5. 1)

H形鋼杭の場合 :  $T_c = T_1 + T_2 + T_3 + T_4$  (〃) (式5. 2)

防護柵の場合 :  $T_c = T_1 + T_2 + T_3$  (〃) (式5. 3)

T<sub>1</sub> : 杭1本当りの削孔日数 (〃)

T<sub>2</sub> : 杭1本当りの準備等日数 (〃)

T<sub>3</sub> : 杭1本当りの建込・充填日数 (〃)

T<sub>4</sub> : 杭1本当りの溶接・ボルト接合日数 (〃)

α : 鋼管板厚補正係数

(注) T<sub>4</sub>は立継溶接(※1)、又はボルト接合より継杭を施工する場合に計上する。ただし、ボルト接合は溶接工を計上しない。

なお、機械式継手(※2)より継杭を施工する場合も適用できるが、T<sub>4</sub>及び溶接工は計上せずに、**継施工費及び材料費**等を別途計上する。

※1 立継溶接……鋼材をクレーン等で建込みながら溶接する施工方法。

※2 機械式継手(鋼管杭)……あらかじめ杭の上下端部に工場で溶接取付された継手部材を現地で自重等により嵌合させる構造のもの。

①杭1本当りの削孔日数(T<sub>1</sub>)

表 5. 1 土質毎の削孔日数(T<sub>a</sub>) [略]

(注) 1. 杭1本当りの削孔日数(T<sub>1</sub>)は、掘削する土質毎に次のとおり加算して算出する。

ダウンサ <sup>®</sup> ホルハンマ規格	掘削孔径 φ 250~ 300mm	掘削孔径 φ 302~ 381mm	掘削孔径 φ 382~457mm	掘削孔径 φ 508~762mm
---------------------------	-------------------------	-------------------------	---------------------	---------------------

3-4 空気圧縮機の選定

空気圧縮機の選定は、次表を標準とする。

表 3. 6 空気圧縮機の選定

設計杭径(mm)	170以上 320 以下	320超え 430 以下	430超え 510 以下	510超え 580 以下
空気圧縮機 規格・台数	18~19m <sup>3</sup> /min 2台	18~19m <sup>3</sup> /min 3台	18~19m <sup>3</sup> /min 3台 7.5 ~7.8m <sup>3</sup> /min 1台	18~19m <sup>3</sup> /min 4台

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1 杭1本当り施工日数(T<sub>c</sub>)

杭1本当り施工日数は、次式による。

鋼管杭の場合 :  $T_c = T_1 + T_2 + T_3 + (T_4 \times \alpha)$  (日/本) (式5. 1)

H形鋼杭の場合 :  $T_c = T_1 + T_2 + T_3 + T_4$  (〃) (式5. 2)

防護柵の場合 :  $T_c = T_1 + T_2 + T_3$  (〃) (式5. 3)

T<sub>1</sub> : 杭1本当りの削孔日数 (〃)

T<sub>2</sub> : 杭1本当りの準備・建込み等日数 (〃)

T<sub>3</sub> : 杭1本当りの充填日数 (〃)

T<sub>4</sub> : 杭1本当りの溶接・ボルト接合日数 (〃)

α : 鋼管板厚補正係数

(注) T<sub>4</sub>は立継溶接(※1)、又はボルト接合より継杭を施工する場合に計上する。ただし、ボルト接合は溶接工を計上しない。

なお、機械式継手(※2)より継杭を施工する場合も適用できるが、T<sub>4</sub>及び溶接工は計上せずに、**費用**等を別途計上する。

※1 立継溶接……鋼材をクレーン等で建込みながら溶接する施工方法。

※2 機械式継手(鋼管杭)……あらかじめ杭の上下端部に工場で溶接取付された継手部材を現地で自重等により嵌合させる構造のもの。

①杭1本当りの削孔日数(T<sub>1</sub>)

表 5. 1 土質毎の削孔日数(T<sub>a</sub>) [略]

(注) 1. 杭1本当りの削孔日数(T<sub>1</sub>)は、掘削する土質毎に次のとおり加算して算出する。

$$T_1 = T_{a1} \times L_{a1} + T_{a2} \times L_{a2} + T_{a3} \times L_{a3} + T_{a4} \times L_{a4} + \dots$$

$T_{an}$  : 各土質毎の削孔日数(日/m)

$L_{an}$  : 各土質の削孔長(m)

2.  $T_1$ は小数点第3位を四捨五入し、少数点第2位とする。

②杭1本当りの準備・建込み等日数 ( $T_2$ )

杭1本当りの準備(足場作り、定規材の設置・撤去、テーブルマシン又は大口径ボーリングマシンの移動、芯出し)、孔内洗浄、ロッド継足し・引抜き、注入管の設置・撤去の施工日数は次表とする。

表 5. 2 杭1本当りの準備等日数 ( $T_2$ ) (日/本)

掘削長(m)		杭種	設計杭径(mm)	工法名	掘削長(m)		
杭種					$L_a \leq 6$	$6 < L_a \leq 15$	$15 < L_a \leq 30$
A工法	170mm以上 430mm以下	H形鋼 (モルタル) 又は 鋼管 (モルタル・コンクリート)	H形鋼 (土砂埋戻し) 又は 防護柵 (モルタル)	0.14	0.17	0.20	
				0.10	0.13	0.16	
	430mm以上 580mm以下	H形鋼 (土砂埋戻し) 又は 鋼管 (モルタル・コンクリート)	H形鋼 (土砂埋戻し)	0.18	0.21	0.24	
				0.14	0.17	0.20	
B工法	170mm以上 580mm以下	H形鋼 (モルタル) 又は 鋼管 (モルタル・コンクリート)	H形鋼 (モルタル) 又は 防護柵 (モルタル)	0.28	0.28	0.31	
				0.23	0.23	0.27	
C工法	170mm以上 580mm以下	H形鋼 (モルタル) 又は 鋼管 (モルタル・コンクリート)	H形鋼 (土砂埋戻し) 又は 防護柵 (モルタル)	0.18	0.22	0.25	
				0.14	0.18	0.21	

- (注) 1. 大口径ボーリングマシンの1回の移動距離は3m以内を標準とし、ブロック間の移動は、別途考慮する。  
 2. 足場作りとは、テーブルマシンの下に敷く足場材の敷設とし、全体の作業架台は含まない。  
 3. 削孔途中でのロッド引抜や挿入及びロッドの先端補修を含む。  
 4. 大口径ボーリングマシンは、補助機械の有無にかかわらず適用できる。  
 5. 削孔口周辺が崩壊する場合は、保護対策を別途計上する。  
 6. 防護柵の適用範囲は、設計杭径 270mm 超え 320mm 以下とする。

③杭1本当りの建込・充填日数 ( $T_3$ )

杭1本当りの鋼管・防護柵・H形鋼建込、モルタル及び中詰コンクリート打設又は土砂埋戻しの施工日数は、次表とする。

表 5. 3 掘削長1m当りの建込・充填日数 ( $T_3$ ) (日/m)

設計杭径	杭種	工法	掘削長(m)			
			170mm以上 270mm以下	270mm超え 360mm以下	360mm超え 430mm以下	430mm超え 580mm以下
A・C 工法	H形鋼 (モルタル杭・土砂埋戻し)	H形鋼 (モルタル) 又は 鋼管 (モルタル・コンクリート)	0.012	0.016	0.020	0.028
		鋼管 (モルタル)	0.015	0.019	0.023	0.027
		防護柵 (モルタル)	二	0.014	二	二
B工法	H形鋼 (モルタル杭・土砂埋戻し)	H形鋼 (モルタル) 又は 鋼管 (モルタル・コンクリート)	0.014	0.019	0.023	0.034
		鋼管 (モルタル)	0.019	0.025	0.023	0.036
		防護柵 (モルタル)	二	0.019	二	二

(注) 1. 杭1本当りの建込・充填日数 ( $T_b$ ) は、次のとおり算出する。

$$T_3 = T_b \times L_a$$

$L_a$  : 掘削長 1 m

当の建込・充填日数 (日/m)

$L_a$  : 削孔長(m)

2.  $T_3$ は小数点第3位を四捨五入し、少数点第2位とする。

$$T_1 = T_{a1} \times \ell_1 + T_{a2} \times \ell_2 + T_{a3} \times \ell_3 + T_{a4} \times \ell_4 + \dots$$

$T_{an}$  : 各土質毎の削孔日数(日/m)

$\ell_n$  : 各土質の削孔長(m)

2.  $T_1$ は小数点第2位とし、小数点第3位を四捨五入する。

②杭1本当りの準備・建込み等日数 ( $T_2$ )

杭1本当りの準備(足場作り、テーブルマシン又は大口径ボーリングマシンの移動、芯出し)、鋼管・H形鋼建込、孔内洗浄、ロッド継足し・引抜きの施工日数は次表とする。

表 5. 2 杭1本当りの準備等日数 ( $T_2$ ) (日/本)

掘削長(m)		工法名	杭種	掘削長(m)		
工法名				$\ell \leq 10$	$10 < \ell \leq 20$	$20 < \ell \leq 30$
H形鋼	A工法 (クレーン工法)	B工法 (大口径ボーリングマシン工法)	C工法 (テーブルマシン工法)	0.16	0.21	0.27
				0.26	0.32	0.38
				0.20	0.26	0.32
鋼管 又は 防護柵	A工法 (クレーン工法)	B工法 (大口径ボーリングマシン工法)	C工法 (テーブルマシン工法)	0.17	0.25	0.33
				0.27	0.35	0.44
				0.21	0.30	0.38

- (注) 1. 大口径ボーリングマシンの1回の移動距離は、3m以内を標準とし、ブロック間の移動は、別途考慮する。  
 2. 足場作りとは、テーブルマシン又は大口径ボーリングマシンの下に敷く足場材の敷設とし、全体の仮設足場は含まない。  
 3. 削孔途中でのロッド引抜や挿入及びロッドの先端補修を含む。  
 4. 大口径ボーリングマシンは、補助機械の有無にかかわらず適用出来る。  
 5. 削孔口周辺が崩壊する場合は、保護対策を別途計上する。

新設

③杭1本当りの充填日数 ( $T_3$ )

杭1本当りのモルタル及び中詰コンクリート打設日数、土砂埋戻し日数は、次表とする。

表 5. 3 H形鋼(モルタル杭) ( $T_3$ ) (日/本)

設計杭径	掘削長	掘削長		
		10m以下	$10 < \ell \leq 20$	$20 < \ell \leq 30$
170 mm以上 320 mm以下	0.10	0.17	0.25	
	0.15	0.31	0.48	

表 5. 4 鋼管 (モルタル・コンクリート杭) ( $T_3$ ) (日/本)

設計杭径	掘削長	掘削長		
		10m以下	$10 < \ell \leq 20$	$20 < \ell \leq 30$
170 mm以上 320 mm以下	0.06	0.13	0.20	
	0.11	0.27	0.43	

(注)1. モルタル注入はグラウトポンプにより行い、注入パイプの取付け・取外しを含む日数である。

2. 中詰コンクリートは、トラックミキサ等による打設日数とする。

表 5. 5 土砂埋戻し ( $T_3$ ) (日/本)

3. H形鋼のモルタル注入及び外詰モルタル注入はグラウトポンプにより行い、注入パイプの取付け・取外しは含まない。

4. 土砂埋戻しは人力、土砂ホッパ等による埋戻しを標準とする。

5. 鋼管の中詰コンクリートは、トラックミキサ等による打設を標準とする。

6. 防護柵の適用範囲は、設計杭径270mm超え320mm以下とする。

④杭1本当りの溶接・ボルト接合日数（接合）（T<sub>4</sub>）

a) 杭1本当りの溶接日数

杭1本当りの溶接日数は、次表とする。

表 5.4 H形鋼(溶接)(T<sub>4</sub>) (日/本)

H形鋼規格(mm)	溶接回数(標準)	杭長	150~175	200	250	300	350	400
$L_b \leq 12m$	0回		—	—	—	—	—	—
$12m < L_b \leq 24m$	1回		0.03	0.04	0.06	0.08	0.13	0.19
$24m < L_b \leq 30mm$	2回		0.06	0.08	0.12	0.16	0.26	0.38

表 5.5 鋼管(T<sub>4</sub>) (日/本)

鋼管規格(mm)	溶接回数(標準)	杭長	170以上 300未満	300以上 400未満	400以上 500未満	500以上 580未満
$L_b \leq 12m$	0回		—	—	—	—
$12m < L_b \leq 24m$	1回		0.03	0.04	0.06	0.19
$24m < L_b \leq 30m$	2回		0.06	0.08	0.12	0.38

なお、現場条件により溶接回数（標準）により難しい場合は、表 5.6より1回当りの溶接日数を加減する。

表 5.6 1回当りの溶接日数 [略]

(例1・例2) [略]

b) 杭1本当りのボルト接合日数

杭1本当りのボルト接合日数は、次表とする。

表 5.7 H形鋼(ボルト接合)(T<sub>4</sub>) (日/本)

H形鋼規格(mm)	接合回数(標準)	杭長	300	350	400
$L_b \leq 12m$	0回		—	—	—
$12m < L_b \leq 24m$	1回		0.06	0.08	0.10
$24m < L_b \leq 30m$	2回		0.12	0.16	0.20

なお、現場条件により接合回数（標準）により難しい場合は、表 5.8より1回当りのボルト接合日数を加算する。

表 5.8 1回当りボルト接合日数 [略]

(例1・例2) [略]

⑤鋼管板厚補正係数（α）

設計杭径	掘削長	10m以下	10<ℓ≤20	20<ℓ≤30
170mm以上 320mm以下		0.03	0.09	0.14
320mm超え 580mm以下		0.07	0.20	0.32

(注)土砂埋戻しは人力、土砂ホッパ等により行う日数である。

表 5.6 防護柵(モルタル杭)(T<sub>3</sub>) (日/本)

設計杭径	掘削長	8m以下
270mm超え 320mm以下		0.02

(注)モルタル注入はグラウトポンプにより行い、外詰モルタル打設日数とする。

④杭1本当りの溶接・ボルト接合日数（溶接）（T<sub>4</sub>）

[新設]

表 5.7 H形鋼(溶接)(T<sub>4</sub>)

H形鋼規格(mm)	溶接回数(標準)	杭長	150~175	200	250	300	350	400
$L \leq 12m$	0回		—	—	—	—	—	—
$12m < L \leq 24m$	1回		0.03	0.04	0.06	0.08	0.13	0.19
$24m < L \leq 30m$	2回		0.06	0.08	0.12	0.16	0.26	0.38

表 5.8 鋼管(T<sub>4</sub>) (日/本)

鋼管規格(mm)	溶接回数(標準)	杭長	170以上 300未満	300以上 400未満	400以上 500未満	500以上 580未満
$L \leq 12m$	0回		—	—	—	—
$12m < L \leq 24m$	1回		0.03	0.04	0.06	0.19
$24m < L \leq 30m$	2回		0.06	0.08	0.12	0.38

なお、現場条件により溶接回数（標準）により難しい場合は、表 5.9より1回当りの溶接日数を加減する。

表 5.9 1回当りの溶接日数 [略]

(例1・例2) [略]

[新設]

⑤鋼管板厚補正係数（α）

表 5.9 鋼管板厚補正係数 (α) [略]

[削る。]

6. [略]

7. やぐらの設置・撤去

やぐらの設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。  
ただし、搬入搬出時及びやぐらの解体をしなければ移動できない場合に計上する。

表 7.1 やぐら設置・撤去歩掛 (ラフテレーンクレーン使用の場合) (1基1回当り)

名称	単位	数量	摘要
世話役	人	1.0	
とび工	〃	1.0	
特殊作業員	〃	2.0	
普通作業員	〃	2.0	
ラフテレーンクレーン運転	日	1.0	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t 吊

(注) 1.・2. [略]

[削る。]

8. ビット等損耗費

杭1本当りビット等損耗費は、ダウンザホールハンマに取付けるビット等の費用であり、労務費、運転経費、機械損料及び機械賃料の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する (やぐら設置・撤去の労務費、機械賃料及び運転経費は含まない)。なお、ビット等損耗費については、杭1本当りとする。

表 8.1 ビット等損耗比率 (%)

工法	砂質土 粘性土 レキ質土	軟岩	中硬岩	硬岩	岩塊・玉石
A工法	20	34	43	48	57
B・C工法	27	46	57	64	76

(注) 1. ビット等損耗費率は、掘削する土質毎に損耗費率を加重平均して算出する。

$$\text{損耗費率 } P = \frac{P_1 \times L_{a1} + P_2 \times L_{a2} \dots}{L_{a1} + L_{a2} \dots}$$

ここで、 $P_n$  : 各土質毎のビット等損耗費率  
 $L_{an}$  : 各土質の掘削長 (m)

表 5.10 鋼管板厚補正係数 (α) [略]

⑥杭1本当りの溶接・ボルト接合日数 (ボルト接合) ( $T_4$ ) [略]

6. [略]

7. やぐらの設置・撤去

やぐらの設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。  
ただし、搬入搬出時及びやぐらの解体をしなければ移動できない場合に計上する。

表 7.1 やぐら設置・撤去歩掛 (ラフテレーンクレーン使用の場合) (1基1回当り)

名称	単位	数量	摘要
世話役	人	1.0	
とび工	〃	1.0	
特殊作業員	〃	2.0	
普通作業員	〃	2.0	
ラフテレーンクレーン運転	日	1.0	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 25t 吊

(注) 1.・2. [略]

表 7.2 やぐらの設置・撤去歩掛 (索道使用の場合) (1基1回当り)

名称	規格	単位	数量
世話役		人	1.0
とび工		〃	3.0
特殊作業員		〃	2.5
普通作業員		〃	3.5
ウインチ運転	開放型 (電動)・単胴 巻上能力 2.8t×30m/min 巻取容量 φ22×200m	日	1.5
発動発電機運転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 定格容量 75kVA (19kW級用) 定格容量 100kVA (30kW級用)	〃	1.5

(注) 1. 発動発電機は、賃料とする。  
2. 索道の設置・撤去が必要な場合は、別途計上する。

[新設]

2. Pは少数点第2位を四捨五入し、少数点第1位とする。  
 (例) A工法、砂質土5m、レキ質土13m、軟岩4m、岩塊・玉石3mの場合

$$P = \frac{20\% \times 5m + 20\% \times 13m + 34\% \times 4m + 57\% \times 3m}{5m + 13m + 4m + 3m} = 26.68 \dots \approx 26.7\%$$

3. 補助ラフテレーンクレーン賃料、やぐらの設置・撤去及び作業用架台等の設置・撤去費用は、ビット損耗費対象額としない。

## 9. 諸雑費

### 9-1 A工法

諸雑費は、定規材（設計杭径430mm超えのみ）、吊ワイヤ、溶接材、ボルト・ナット、電気溶接機、インパクトトレンチ、トルクレンチ、注入管、高圧ホース、グラウトポンプ（モルタル圧送用）、コンクリートバケット、土砂ホッパ、レシーパタンク、減速機（設計杭径430mm超えのみ）、共回り防止ワイヤ（設計杭径430mm超えのみ）電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料、機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 9.1 諸雑費率（A工法） (%)

設計杭径	170mm 以上	430mm 以上
	430mm 以下	580mm 以下
諸雑費率	9	15

(注) 1. ビット等損耗費は、諸雑費対象額としない。  
 2. 敷鉄板が必要な場合は、別途計上する。

### 9-2 B工法

諸雑費は、吊ワイヤ、吊金具、溶接材、ボルト・ナット、電気溶接機、インパクトトレンチ、トルクレンチ、注入管、高圧ホース、やぐら装置、グラウトポンプ（モルタル圧送用）、コンクリートバケット、土砂ホッパ、レシーパタンク、電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料、機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 9.2 諸雑費率（B工法） (%)

設計杭径	170mm 以上 580mm 以下
諸雑費率	10

(注) 1. ビット等損耗費は、諸雑費対象額としない。  
 2. 敷鉄板が必要な場合は、別途計上する。  
 3. 補助ラフテレーンクレーン賃料、やぐらの設置・撤去及び作業台等の設置・撤去の費用は、諸雑費の対象としない。

### 9-3 C工法

諸雑費は、テーブルマシンの足場材、吊ワイヤ、吊金具、溶接材、ボルト・ナット、電気溶接機、インパクトトレンチ、トルクレンチ、注入管、高圧ホース、グラウトポンプ（モルタル圧送用）、コンクリートバケット、土砂ホッパ、レシーパタンク、テーブルマシンの損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料、機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 9.3 諸雑費率（C工法） (%)

設計杭径	170mm 以上	360mm 以上
	360mm 以下	580mm 以下
諸雑費率	37	27

(注) 1. ビット等損耗費は、諸雑費対象額としない。  
 2. 敷鉄板が必要な場合は、別途計上する。

## 10. 掘削土の処理費

掘削土等の積込み・運搬及び処分費については、別途計上する。

### 10.1. 参考図

[削る。]

(C工法：作業架台概念図) [略]

## 8. 諸雑費

諸雑費は、大口径ボーリングマシンの足場材（B工法のみ）、テーブルマシンの足場材（C工法のみ）、溶接材、ボルト・ナット、添接板、電気溶接機、インパクトレンチ、トルクレンチ、注入管、高圧ホース、やぐら装置（B工法のみ）、グラウトポンプ（モルタル圧送用）、コンクリートバケット、土砂ホッパ、レシーパタンク、リーダ・減速機（A工法のみ）、テーブルマシン（C工法のみ）の損料、電力に関する経費、ビット等の損耗費用であり、労務費、機械損料、機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 8.1 諸雑費率（A工法、B工法、C工法） (%)

諸雑費率	29
------	----

(注) 1. 敷鉄板仮設が必要な場合は、別途計上する。  
 2. 補助ウインチ損料、補助ラフテレーンクレーン賃料、やぐらの設置・撤去及び仮設足場等の設置・撤去の費用は諸雑費の対象額としない。

[新設]

[新設]

## 9. 掘削土の処理費

掘削土等の処理費用については、別途計上する。

### 10. 参考図

(B工法：足場概念図)

(C工法：作業架台概念図) [略]

1.2. 単価表

(1) 杭1本単価表 (A工法)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	Tc×1	表4.1
とび工		〃	Tc×1	〃
特殊作業員		〃	Tc×1	〃
普通作業員		〃	Tc×1	〃
溶接工		〃	Tc×1	表4.1(継杭の場合に計上)
中詰材料		m <sup>3</sup>		式6.1～式6.4
鋼管・H形鋼等		本	1	
クレーン(A工法掘削用)運転		日	Tc	表3.1 機械損料
ダウンザホールハンマ運転	[空圧式]	〃	Tc	表3.4 機械損料
空気圧縮機運転	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型(第2次基準値)	〃	Tc	表3.6 機械損料
ラフテレーンクレーン運転	[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2014年規制)] 最大吊上能力25t吊	〃	Tc	鋼管杭・H形鋼杭等建込用掘削機組立・分解用機械損料
ビット等損料費		式	1	表8.1
諸雑費		〃	1	表9.1
計				

(注) [略]

(2) 杭1本単価表 (B工法)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	Tc×1	表4.1
とび工		〃	Tc×1	〃
特殊作業員		〃	Tc×1	〃
普通作業員		〃	Tc×2	〃
溶接工		〃	Tc×1	表4.1(継杭の場合に計上)
中詰材料		m <sup>3</sup>		式6.1～式6.4
鋼管・H形鋼等		本	1	
大口径ホーリングマシン運転		日	Tc	図3.2 機械損料
ダウンザホールハンマ運転	[空圧式]	〃	Tc	表3.5 機械損料
空気圧縮機運転	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型(第2次基準値)	〃	Tc	表3.6 機械損料
ラフテレーンクレーン運転	[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2014年規制)] 最大吊上能力25t吊	〃	Tc	必要に応じて計上 機械賃料
ビット等損料費		式	1	表8.1
諸雑費		〃	1	表9.1
計				

(注) [略]

(3) 杭1本単価表 (C工法)

1.1. 単価表

(1) 杭1本単価表 (A工法)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	Tc×1	表4.1
とび工		〃	Tc×1	〃
特殊作業員		〃	Tc×1	〃
普通作業員		〃	Tc×1	〃
溶接工		〃	Tc×1	表4.1(継杭の場合に計上)
中詰材料		m <sup>3</sup>		式6.1～式6.4
鋼管・H形鋼等		本	1	
クレーン(掘削用)運転		日	Tc	図3.1 機械損料
ダウンザホールハンマ運転	空圧式	〃	Tc	表3.5 機械損料
空気圧縮機運転	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型(第2次基準値)	〃	Tc	表3.6 機械賃料
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)25t吊	〃	Tc	鋼管杭・H形鋼杭建込用掘削機組立・分解用機械損料
[新設]		[新設]	[新設]	[新設]
諸雑費		式	1	表8.1
計				

(注) [略]

(2) 杭1本単価表 (B工法)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	Tc×1	表4.1
とび工		〃	Tc×1	〃
特殊作業員		〃	Tc×1	〃
普通作業員		〃	Tc×2	〃
溶接工		〃	Tc×1	表4.1(継杭の場合に計上)
中詰材料		m <sup>3</sup>		式6.1～式6.4
鋼管・H形鋼等		本	1	
大口径ホーリングマシン運転		日	Tc	図3.2 機械損料
ダウンザホールハンマ運転	空圧式	〃	Tc	表3.5 機械損料
空気圧縮機運転	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型(第2次基準値)	〃	Tc	表3.6 機械賃料
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)最大吊上能力25t吊	〃	Tc	必要に応じて計上 機械賃料
[新設]		[新設]	[新設]	[新設]
諸雑費		式	1	表8.1
計				

(注) [略]

(3) 杭1本単価表 (C工法)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	Tc×1	表 4. 1
とび工		〃	Tc×1	〃
特殊作業員		〃	Tc×1	〃
普通作業員		〃	Tc×1	〃
溶接工		〃	Tc×1	表 4. 1 (継杭の場合に計上)
中詰材料		m <sup>3</sup>		式 6. 1～式 6. 4
鋼管・H形鋼等		本		
クレーン(C工法掘削用)運転		日	Tc	図 3. 1 機械損料
ダウンザホールハンマ運転	[空圧式]	〃	Tc	表 3. 5 機械損料
空気圧縮機運転	可搬式・ エンジン駆動・スクリュ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値)	〃	Tc	表 3. 6 機械損料
ビット等損耗費		式	1	表 8. 1
諸雑費		〃	1	表 8. 1
計				

(注) [略]

(4) やぐらの設置・撤去1基1回当り単価表(ラフテレーンクレーン使用の場合)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 7. 1
とび工		〃		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 最大吊上能力 25t 吊	日		表 7. 1 機械賃料
計				

[削る。]

(5) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
大口径ボーリングマシン	図 3. 2	機-25	機械損料数量→1.40

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	Tc×1	表 4. 1
とび工		〃	Tc×1	〃
特殊作業員		〃	Tc×1	〃
普通作業員		〃	Tc×1	〃
溶接工		〃	Tc×1	表 4. 1 (継杭の場合に計上)
中詰材料		m <sup>3</sup>		式 6. 1～式 6. 4
鋼管・H形鋼等		本		
クレーン(掘削用)運転		日	Tc	図 3. 1 機械損料
ダウンザホールハンマ運転	空圧式	〃	Tc	表 3. 5 機械損料
空気圧縮機運転	可搬式・ エンジン駆動・スクリュ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値)	〃	Tc	表 3. 6 機械賃料
[新設]		[新設]	[新設]	[新設]
諸雑費		式	1	表 8. 1
計				

(注) [略]

(4) やぐらの設置・撤去1基1回当り単価表(ラフテレーンクレーン使用の場合)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 7. 1
とび工		〃		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t 吊	日		表 7. 1 機械賃料
計				

(5) やぐらの設置・撤去1基1回当り単価表(索道使用の場合)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 7. 2
とび工		〃		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ウインチ運転	開放型(電動)・単胴 巻上能力2.8t×30m/min 巻取容量φ22×200m	〃		〃
ラフテレーンクレーン運転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量75kVA	日		表 7. 1 機械賃料
計				

(6) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
大口径ボーリングマシン	図 3. 2	機-25	機械損料数量→1.29

空気圧縮機	表 3. 6	機-16	燃料消費量→下記のとおりとする。	
			規格	数量
			21~25.5m <sup>3</sup> /min	186
			37~41m <sup>3</sup> /min	378
		機械損料数量→ 1.44		
ダウンザホールハンマ	[空圧式] 表 3. 5	機-25	機械損料数量→ 1.54	
[削る。]	[削る。]	[削る。]	[削る。]	
ラフテレーンクレーン 装着式アースオーガ (A工法掘削用)	[アースオーガ(油圧式)及び モノケ架装] ベースマシン35t用	機-15	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.65 燃料消費量→ 126	
ラフテレーンクレーン (C工法掘削用)	[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値)] 最大吊上能力25t吊	機-16	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.65 燃料消費量→ 90	
ラフテレーンクレーン (A・C工法掘削用)	[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(2014年規制)] 最大吊上能力70t吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.38 燃料消費量→ 96	
ラフテレーンクレーン (鋼管杭・H形鋼杭等建込用 掘削機組立・分解用)	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 最大吊上能力25t吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.40 燃料消費量→ 90	

⑦ 軟弱地盤処理工(スラリー攪拌工)

1.・2. [略]

3. 機種の設定

機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種の設定

機種	規格	単位	数量					
			単軸施工			二軸施工		
			φ800~ 1,200mm	φ1,000~ 1,600mm	φ1,800mm φ2,000mm	φ1,000mm		
打設長(L)								
			3mを超え 10m以下	10mを超え 30m以下	3mを超え 27m以下	3mを超え 10m以下	10mを超え 20m以下	20mを超え 40m以下
深層混合 処理機 (スラリー式)	単軸施工 27.4kN・m	台	1	—	—	—	—	—
	90kW×1	”	—	1	—	—	—	—
	90kW×2	”	—	—	1	—	—	—
	二軸施工 45kW×2	”	—	—	—	1	—	—
	55~60kW×2	”	—	—	—	—	1	—
	90kW×2	”	—	—	—	—	—	1
スラリー	プラント連続能力 10m <sup>3</sup> /hr	基	1	—	—	—	—	—

空気圧縮機	表 3. 6	機-16	燃料消費量→下記のとおりとする。	
			規格	数量
			7.5~7.8m <sup>3</sup> /min	59
			18~19m <sup>3</sup> /min	114
		機械賃料数量→ 1.33		
ダウンザホールハンマ	空圧式 表 3. 5	機-25	機械損料数量→ 1.38	
ウインチ (やぐら設置・撤去用)	開放型(電動)・単胴 巻上能力2.8t×30m/min 巻取容量φ22×200m	機-25	機械損料数量→ 1.57	
発動発電機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量75kVA	機-16	燃料消費量→ 51 機械賃料数量→ 1.18	
ラフテレーンクレーン (掘削用)	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.65 燃料消費量→ 84	
クローラクレーン (掘削用)	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排 出ガス対策型(第2次基準値) 50~55t吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.09 燃料消費量→ 60	
ラフテレーンクレーン (鋼管杭・H形鋼杭建込用掘 削機組立・分解用)	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.03 燃料消費量→ 84	

⑦ 軟弱地盤処理工(スラリー攪拌工)

1.・2. [略]

3. 機種の設定

機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種の設定

機種	規格	単位	数量					
			単軸施工			二軸施工		
			φ800~ 1,200mm	φ1,000~ 1,600mm	φ1,800mm φ2,000mm	φ1,000mm		
打設長(L)								
			3mを超え 10m以下	10mを超え 30m以下	3mを超え 27m以下	3mを超え 10m以下	10mを超え 20m以下	20mを超え 40m以下
深層混合 処理機 (スラリー式)	単軸施工 27.4kN・m	台	1	—	—	—	—	—
	90kW×1	”	—	1	—	—	—	—
	90kW×2	”	—	—	1	—	—	—
	二軸施工 45kW×2	”	—	—	—	1	—	—
	55~60kW×2	”	—	—	—	—	1	—
	90kW×2	”	—	—	—	—	—	1
スラリー	能力10m <sup>3</sup> /hr	基	1	—	—	—	—	—

プラント (全自動)	プラント稼働能力 20m <sup>3</sup> /hr	〃	-	1	1	1	1	1
---------------	----------------------------------	---	---	---	---	---	---	---

(注) 1.・2. [略]

表 3. 2 機種を選定

機種	規格	単位	二軸施工(変位低減型)			
			φ1,000mm			
			打設長(L) 3mを超え 10m以下	打設長(L) 10mを超え 20m以下	打設長(L) 20 mを超え 30m以下	打設長(L) 30mを超え 40m以下
深層混合 処 理 機 (スラリー式)	二軸式 45kW×2	台	1	-	-	-
	二軸式 55~60kW×2	〃	-	1	-	-
	二軸式 75~90kW×2	〃	-	-	1	-
	二軸式 90kW×2	〃	-	-	-	1
スラリー プラント (全自動)	プラント稼働能力 20m <sup>3</sup> /h	基	1	1	1	1

(注) 1.・2. [略]

表 3. 3 機種を選定

機種	規格	単位	二軸施工(変位低減型)		
			φ1,600mm		
			打設長(L) 3mを超え 20m以下	打設長(L) 20mを超え 26 m以下	打設長(L) 26 mを超え 36m以下
深層混合 処 理 機 (スラリー式)	二軸式 90kW×2 最大施工深度 20m	台	1	-	-
	二軸式 90kW×2 最大施工深度 26m	〃	-	1	-
	二軸式 90kW×2 最大施工深度 36m	〃	-	-	1
スラリー プラント (全自動)	プラント稼働能力 40m <sup>3</sup> / h	基	1	1	1

(注) 1.・2. [略]

図 3. 1 [略]

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1~5-3 [略]

5-4 スラリープラント現場内移設歩掛

スラリープラントを中心に施工位置が半径約100mを超える場合、又は同一現場内に施工箇所が2箇所以上ある等、スラリープラントを移設しなければならない場合は、次によるものとする。

表 5. 10 スラリープラント現場内移設歩掛

(1回当り)

プラント (全自動)	能力20m <sup>3</sup> /hr	〃	-	1	1	1	1	1
---------------	------------------------	---	---	---	---	---	---	---

(注) 1.・2. [略]

表 3. 2 機種を選定

機種	規格	単位	二軸施工(変位低減型)			
			φ1,000mm			
			打設長(L) 3mを超え 10m以下	打設長(L) 10mを超え 20m以下	打設長(L) 20 mを超え 30m以下	打設長(L) 30mを超え 40m以下
深層混合 処 理 機 (スラリー式)	二軸式 45kW×2	台	1	-	-	-
	二軸式 55~60kW×2	〃	-	1	-	-
	二軸式 75~90kW×2	〃	-	-	1	-
	二軸式 90kW×2	〃	-	-	-	1
スラリー プラント (全自動)	能力 20m <sup>3</sup> /h	基	1	1	1	1

(注) 1.・2. [略]

表 3. 3 機種を選定

機種	規格	単位	二軸施工(変位低減型)		
			φ1,600mm		
			打設長(L) 3mを超え 20m以下	打設長(L) 20mを超え 26 m以下	打設長(L) 26 mを超え 36m以下
深層混合 処 理 機 (スラリー式)	二軸式 90kW×2 最大施工深度 20m	台	1	-	-
	二軸式 90kW×2 最大施工深度 26m	〃	-	1	-
	二軸式 90kW×2 最大施工深度 36m	〃	-	-	1
スラリー プラント (全自動)	能力 40m <sup>3</sup> /h	基	1	1	1

(注) 1.・2. [略]

図 3. 1 [略]

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1~5-3 [略]

5-4 スラリープラント現場内移設歩掛

スラリープラントを中心に施工位置が半径約100mを超える場合、又は同一現場内に施工箇所が2箇所以上ある等、スラリープラントを移設しなければならない場合は、次によるものとする。

表 5. 10 スラリープラント現場内移設歩掛

(1回当り)

名称	規格	単位	単軸施工 二軸施工 二軸施工(変位低減型)
世話役		人	1.0
特殊作業員		〃	2.9
普通作業員		〃	1.4
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (2014年規制) 油圧伸縮ジブ型最大吊 上能力 25t	日	1.4

(注) 1.・2. [略]

5-5 [略]

## 6. 単価表

(1) [略]

(2) スラリープラント現場内移設1回当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 5. 10
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2014年規制) 油圧伸縮ジブ型最大吊上 能力 25t 吊	日		〃
計				

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
深層混合処理機 (スラリー式)	表 3. 1	機-18	運転労務数量→1.00 (単軸施工) 燃料消費量→27.4kN・m×1→35 →90kW×1 20m→ <u>83</u> →90kW×1 30m→ <u>83</u> →90kW×2 → <u>115</u> 機械損料数量→1.61 (二軸施工) 燃料消費量→45kW×2→59 →60kW×2→ <u>77</u> →90kW×2→77 機械損料数量→1.61
深層混合処理機 (スラリー式) 変位低減型	表 3. 2、表 3. 3	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→45kW×2 →55 →60kW×2 → <u>72</u> →75kW×2 →55 →90kW×2 →72 →L≤20m機 → <u>99</u> →L≤26m機 → <u>77</u> →L≤36m機 →72 機械損料数量→1.61

名称	規格	単位	単軸施工 二軸施工 二軸施工(変位低減型)
世話役		人	1.0
特殊作業員		〃	2.9
普通作業員		〃	1.4
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (2014年規制) 油圧伸縮ジブ型 25t	日	1.4

(注) 1.・2. [略]

5-5 [略]

## 6. 単価表

(1) [略]

(2) スラリープラント現場内移設1回当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 5. 10
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2014年規制) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		〃
計				

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
深層混合処理機 (スラリー式)	表 3. 1	機-18	運転労務数量→1.00 (単軸施工) 燃料消費量→27.4kN・m×1→35 →90kW×1 20m→ <u>52</u> →90kW×1 30m→ <u>52</u> →90kW×2 → <u>83</u> 機械損料数量→1.61 (二軸施工) 燃料消費量→45kW×2→59 →60kW×2→ <u>48</u> →90kW×2→77 機械損料数量→1.61
深層混合処理機 (スラリー式) 変位低減型	表 3. 2、表 3. 3	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→45kW×2 →55 →60kW×2 → <u>45</u> →75kW×2 →55 →90kW×2 →72 →L≤20m機 → <u>55</u> →L≤26m機 → <u>72</u> →L≤36m機 →72 機械損料数量→1.61

スラリープラント	表 3. 1～3. 3	機-25	機械損料数量→ 1.61
----------	-------------	------	--------------

⑧ 軟弱地盤処理工（高圧噴射攪拌工）

1.・2. [略]

3. 機種の選定

機種・規格は、次表を標準とする。  
次表の各工法の機械セット数と異なる場合は別途考慮する。

表 3. 1 単管工法の機種選定の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	
			杭 径	
			700 mm以上 800 mm以下	800 mmを超え 1,100 mm以下
ボーリングマシン	油圧式通称 5.5kW 級	台	4	2
超高压ポンプ	吐出量 20～1000/min 圧力 19.6MPa	〃	4	—
	吐出量 100～1300/min 圧力 39.2MPa	〃	—	2

(注) [略]

表 3. 2 二重管工法の機種選定の選定

機 械 名	規 格	単 位	杭 径	
			1,000 mm以上 2,000 mm以下	2,000 mmを超え 3,000 mm以下
高圧噴射攪拌式地盤改良機二重管専用型	11kW スピンドル内径φ63～77mm	台	1	1
超 高 圧 ポ ン プ	吐出量 20～1000/min 圧力 19.6MPa	〃	1	—
	吐出量 2000/min 圧力 40.0MPa	〃	—	1
空 気 圧 縮 機	排出ガス対策型(第1次基準値) 可搬式・スクリュ型・エンジン駆動 吐出量 5m <sup>3</sup> /min 圧力 0.7MPa	〃	1	—
	排出ガス対策型(第3次基準値) 可搬式・スクリュ型(低騒音型)・エンジン駆動 吐出量 15m <sup>3</sup> /min 圧力 1.05MPa	〃	—	1
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 4.9t 吊	〃	1	1

(注) 1.・2. [略]

表 3. 3 三重管工法の機種選定の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	
			削孔	注入
高圧噴射攪拌用地盤改良機掘削専用型(油圧式)	11kW スピンドル内径φ148 mm	台	1	—
高圧噴射攪拌用地盤改良機三重管専用型	11kW <u>スピンドル内径φ98 mm</u>	〃	—	1
超 高 圧 ポ ン プ	吐出量 14～700/min 圧力 39.2MPa	〃	—	1
グ ラ ウ ト ポ ン プ	二筒複動ピストン式 吐出量 2000/min	〃	—	1
	二筒複動ピストン式 吐出量 37～1000/min	〃	1	—
空 気 圧 縮 機	排出ガス対策型(第1次基準値) 可搬式・スクリュ型・エンジン掛 吐出量 5m <sup>3</sup> /min 圧力 0.7MPa	〃	—	1
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 20t 吊	〃	—	1

(注) 1.・2. [略]

スラリープラント	表 3. 1～3. 3	機-25	機械損料数量→ 1.61
----------	-------------	------	--------------

⑧ 軟弱地盤処理工（高圧噴射攪拌工）

1.・2. [略]

3. 機種の選定

機種・規格は、次表を標準とする。  
次表の各工法の機械セット数と異なる場合は別途考慮する。

表 3. 1 単管工法の機種選定の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	
			杭 径	
			700 mm以上 800 mm以下	800 mmを超え 1,100 mm以下
ボーリングマシン	油圧式 5.5kW 級	台	4	2
超高压ポンプ	吐出量 20～1000/min 圧力 19.6MPa	〃	4	—
	吐出量 100～1300/min 圧力 39.2MPa	〃	—	2

(注) [略]

表 3. 2 二重管工法の機種選定の選定

機 械 名	規 格	単 位	杭 径	
			1,000 mm以上 2,000 mm以下	2,000 mmを超え 3,000 mm以下
高圧噴射攪拌式地盤改良機二重管専用型	11kW	台	1	1
超 高 圧 ポ ン プ	吐出量 20～1000/min 圧力 19.6MPa	〃	1	—
	吐出量 2000/min 圧力 40.0MPa	〃	—	1
空 気 圧 縮 機	排出ガス対策型(第1次基準値) 可搬式・スクリュ型・エンジン駆動 吐出量 5m <sup>3</sup> /min 圧力 0.7MPa	〃	1	—
	排出ガス対策型(第3次基準値) 可搬式・スクリュ型(低騒音型)・エンジン駆動 吐出量 15m <sup>3</sup> /min 圧力 1.05MPa	〃	—	1
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	〃	1	1

(注) 1.・2. [略]

表 3. 3 三重管工法の機種選定の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	
			削孔	注入
高圧噴射攪拌用地盤改良機掘削専用型(油圧式)	11kW スピンドル内径φ148 mm	台	1	—
高圧噴射攪拌用地盤改良機三重管専用型	11kW	〃	—	1
超 高 圧 ポ ン プ	吐出量 14～700/min 圧力 39.2MPa	〃	—	1
グ ラ ウ ト ポ ン プ	二筒複動ピストン式 吐出量 2000/min	〃	—	1
	二筒複動ピストン式 吐出量 37～1000/min	〃	1	—
空 気 圧 縮 機	排出ガス対策型(第1次基準値) 可搬式・スクリュ型・エンジン掛 吐出量 5m <sup>3</sup> /min 圧力 0.7MPa	〃	—	1
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 20t 吊	〃	—	1

(注) 1.・2. [略]

図 3. 1 [略]

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1~5-3 [略]

5-4 注入設備の据付・解体及び移設

注入設備の据付・解体の歩掛は、次表とする。なお、注入範囲が注入設備を中心に半径50m（単管は100m）を超える場合は、移設費として1回当り次表の労務費、ラフテレーンクレーン賃料の合計額の50%を必要回数計上する。

表 5. 29 据付・解体歩掛 (1現場当り)

名称	単位	規格	数量				三重管工法
			単管工法		二重管工法		
			杭 径		杭 径		
			700mm以上 800mm以下	800mm を超え 1,100mm 以下	1,000mm以上 2,000mm 以下	2,000mm を超え 3,000mm 以下	
世話役	人		3	3	3		6
特殊作業員	〃		24	15	9		15
普通作業員	〃		12	12	9		12
ラフテレーン クレーン運転	日	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型最 大吊上能力25t吊	2	2	2		2

(注) 1.~3. [略]

5-5~5-10 [略]

6. 単価表

(1) 単管工法1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$T_T / (6.7 \times 60) \times a / c$	表 4. 1
特殊作業員		〃	$T_T / (6.7 \times 60) \times a / c$	〃
普通作業員		〃	$T_T / (6.7 \times 60) \times a / c$	〃
注入材料		m <sup>3</sup>	Q <sub>T</sub>	式 5. 1
損耗材料費		式	1	
ボーリングマシン損料	油圧式通称5.5kW級	日	$T_T / (6.7 \times 60) \times b / c$	表 3. 1
超高圧ポンプ損料	吐出量20~1000/min 圧力19.6MPa	〃	$T_T / (6.7 \times 60) \times b / c$	〃
超高圧ポンプ損料	吐出量100~1300/min 圧力39.2MPa	〃	$T_T / (6.7 \times 60) \times b / c$	〃
諸雑費		式	1	表 5. 7
特許料金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

(注) 1.~5. [略]

(2) 二重管工法1本当り単価表

①1,000mm以上2,000mm以下

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$T_N / (6.7 \times 60) \times 1$	表 4. 1

図 3. 1 [略]

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1~5-3 [略]

5-4 注入設備の据付・解体及び移設

注入設備の据付・解体の歩掛は、次表とする。なお、注入範囲が注入設備を中心に半径50m（単管は100m）を超える場合は、移設費として1回当り次表の労務費、ラフテレーンクレーン賃料の合計額の50%を必要回数計上する。

表 5. 29 据付・解体歩掛 (1現場当り)

名称	単位	規格	数量				三重管工法
			単管工法		二重管工法		
			杭 径		杭 径		
			700mm以上 800mm以下	800mm を超え 1,100mm 以下	1,000mm以上 2,000mm 以下	2,000mm を超え 3,000mm 以下	
世話役	人		3	3	3		6
特殊作業員	〃		24	15	9		15
普通作業員	〃		12	12	9		12
ラフテレーン クレーン運転	日	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型25t 吊	2	2	2		2

(注) 1.~3. [略]

5-5~5-10 [略]

6. 単価表

(1) 単管工法1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$T_T / (6.7 \times 60) \times a / c$	表 4. 1
特殊作業員		〃	$T_T / (6.7 \times 60) \times a / c$	〃
普通作業員		〃	$T_T / (6.7 \times 60) \times a / c$	〃
注入材料		m <sup>3</sup>	Q <sub>T</sub>	式 5. 1
損耗材料費		式	1	
ボーリングマシン損料	油圧式5.5kW級	日	$T_T / (6.7 \times 60) \times b / c$	表 3. 1
超高圧ポンプ損料	吐出量20~1000/min 圧力19.6MPa	〃	$T_T / (6.7 \times 60) \times b / c$	〃
超高圧ポンプ損料	吐出量100~1300/min 圧力39.2MPa	〃	$T_T / (6.7 \times 60) \times b / c$	〃
諸雑費		式	1	表 5. 7
特許料金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

(注) 1.~5. [略]

(2) 二重管工法1本当り単価表

①1,000mm以上2,000mm以下

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$T_N / (6.7 \times 60) \times 1$	表 4. 1

特殊作業員		〃	$T_N/(6.7 \times 60) \times 3$	〃
普通作業員		〃	$T_N/(6.7 \times 60) \times 3$	〃
注入材料		m <sup>3</sup>	Q <sub>N</sub>	式5.2
損耗材料費		式	1	
高圧噴射攪拌式地盤改良機二重管専用型損料	油圧式 11kW スピンドル内径φ63~77mm	日	$T_N/(6.7 \times 60)$	表3.2
超高圧ポンプ損料	吐出量 20~100ℓ/min 圧力 19.6MPa	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
空気圧縮機運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) 可搬式・スクリーン型・エンジン駆動吐 出量 5m <sup>3</sup> /min 圧力 0.7MPa	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 4.9t 吊	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
諸雑費		式	1	表5.19
特許料金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

(注) 1.・2. [略]

②2,000mm を超え 3,000mm 以下

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$T_N/(6.7 \times 60) \times 1$	表4.1
特殊作業員		〃	$T_N/(6.7 \times 60) \times 3$	〃
普通作業員		〃	$T_N/(6.7 \times 60) \times 3$	〃
注入材料		m <sup>3</sup>	Q <sub>N</sub>	式5.3
損耗材料費		式	1	
高圧噴射攪拌式地盤改良機二重管専用型損料	油圧式 11kW スピンドル内径φ63~77mm	日	$T_N/(6.7 \times 60)$	表3.2
超高圧ポンプ損料	吐出量 200ℓ/min 圧力 40MPa	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
空気圧縮機運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 可搬式・スクリーン型(低騒音型)・ エンジン駆動 吐出 出量 15m <sup>3</sup> /min 圧力 1.05MPa	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 4.9t 吊	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
諸雑費		式	1	表5.19
特許料金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

(注) 1.・2. [略]

(3) [略]

(4) 三重管工法注入 1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$T_A/(6.7 \times 60) \times 1$	表4.1
特殊作業員		〃	$T_A/(6.7 \times 60) \times 4$	〃
普通作業員		〃	$T_A/(6.7 \times 60) \times 3$	〃

特殊作業員		〃	$T_N/(6.7 \times 60) \times 3$	〃
普通作業員		〃	$T_N/(6.7 \times 60) \times 3$	〃
注入材料		m <sup>3</sup>	Q <sub>N</sub>	式5.2
損耗材料費		式	1	
高圧噴射攪拌式地盤改良機二重管専用型損料	油圧式 11kW	日	$T_N/(6.7 \times 60)$	表3.2
超高圧ポンプ損料	吐出量 20~100ℓ/min 圧力 19.6MPa	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
空気圧縮機運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) 可搬式・スクリーン型・エンジン駆動吐 出量 5m <sup>3</sup> /min 圧力 0.7MPa	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
諸雑費		式	1	表5.19
特許料金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

(注) 1.・2. [略]

②2,000mm を超え 3,000mm 以下

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$T_N/(6.7 \times 60) \times 1$	表4.1
特殊作業員		〃	$T_N/(6.7 \times 60) \times 3$	〃
普通作業員		〃	$T_N/(6.7 \times 60) \times 3$	〃
注入材料		m <sup>3</sup>	Q <sub>N</sub>	式5.3
損耗材料費		式	1	
高圧噴射攪拌式地盤改良機二重管専用型損料	油圧式 11kW	日	$T_N/(6.7 \times 60)$	表3.2
超高圧ポンプ損料	吐出量 200ℓ/min 圧力 40MPa	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
空気圧縮機運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 可搬式・スクリーン型(低騒音型)・ エンジン駆動 吐出 出量 15m <sup>3</sup> /min 圧力 1.05MPa	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
諸雑費		式	1	表5.19
特許料金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

(注) 1.・2. [略]

(3) [略]

(4) 三重管工法注入 1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$T_A/(6.7 \times 60) \times 1$	表4.1
特殊作業員		〃	$T_A/(6.7 \times 60) \times 4$	〃
普通作業員		〃	$T_A/(6.7 \times 60) \times 3$	〃

注 入 材 料		m <sup>3</sup>	Q <sub>A</sub>	式 5. 4
損 耗 材 料 費		式	1	
高圧噴射攪拌式地盤改良機 三重管専用型損料	11kW スピンドル内径φ98mm	日	T <sub>A</sub> /(6.7×60)	表 3. 3
超 高 圧 ポ ン プ 損 料	吐出量 14~70ℓ/min 圧力 39.2MPa	〃	T <sub>A</sub> /(6.7×60)	〃
グ ラ ウ ト ポ ン プ 損 料	二筒複動ピストン式 吐出量 200ℓ/min	〃	T <sub>A</sub> /(6.7×60)	〃
空 気 圧 縮 機 運 転	排出ガス対策型 (第1次基準値) 可搬式・スクリュ型・エンジン駆動吐 出量 5m <sup>3</sup> /min 圧力 0.7MPa	〃	T <sub>A</sub> /(6.7×60)	〃
ラフテレーンクレーン賃 料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型最大吊上能力 20t 吊	〃	T <sub>A</sub> /(6.7×60)	〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 28
特 許 料 金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

(注) 1.・2. [略]

(5) 注入設備据付・解体1現場当り及び移設1回当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 5. 29
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型最大吊 上能力 25t 吊	日		〃
計				

(6) [略]

⑨ 薬液注入工

1.・2. [略]

3. 機械の選定

機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 二重管ストレーナ工法の機種選定の選定

機 種	規 格	単 位	数 量	
			複相方式	
			2セット	4セット
ボーリングマシン	油圧式通称 5.5kW 級	台	2	4
薬液注入ポンプ	吐出量 5~20 ℓ/min×2 (圧力 9.8 Mpa)	〃	2	4
水ガラス積算流量計	最大流量 50 ℓ/min	〃	(1)注 2	(1)注 2

(注) 1.・2. [略]

表 3. 2 二重管ダブルパッカー工法の機種選定の選定

機 種	規 格	単 位	数 量		
			削 孔	一次注入	二次注入

注 入 材 料		m <sup>3</sup>	Q <sub>A</sub>	式 5. 4
損 耗 材 料 費		式	1	
高圧噴射攪拌式地盤改良機 三重管専用型損料	11kW	日	T <sub>A</sub> /(6.7×60)	表 3. 3
超 高 圧 ポ ン プ 損 料	吐出量 14~70ℓ/min 圧力 39.2MPa	〃	T <sub>A</sub> /(6.7×60)	〃
グ ラ ウ ト ポ ン プ 損 料	二筒複動ピストン式 吐出量 200ℓ/min	〃	T <sub>A</sub> /(6.7×60)	〃
空 気 圧 縮 機 運 転	排出ガス対策型 (第1次基準値) 可搬式・スクリュ型・エンジン駆動吐 出量 5m <sup>3</sup> /min 圧力 0.7MPa	〃	T <sub>A</sub> /(6.7×60)	〃
ラフテレーンクレーン賃 料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 20t 吊	〃	T <sub>A</sub> /(6.7×60)	〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 28
特 許 料 金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

(注) 1.・2. [略]

(5) 注入設備据付・解体1現場当り及び移設1回当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 5. 29
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		〃
計				

(6) [略]

⑨ 薬液注入工

1.・2. [略]

3. 機械の選定

機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 二重管ストレーナ工法の機種選定の選定

機 種	規 格	単 位	数 量	
			複相方式	
			2セット	4セット
ボーリングマシン	油圧式 5.5kW 級	台	2	4
薬液注入ポンプ	吐出量 5~20 ℓ/min×2 (圧力 9.8 Mpa)	〃	2	4
水ガラス積算流量計	0~50 ℓ/min	〃	(1)注 2	(1)注 2

(注) 1.・2. [略]

表 3. 2 二重管ダブルパッカー工法の機種選定の選定

機 種	規 格	単 位	数 量		
			削 孔	一次注入	二次注入

					セメント ベントナ イト注入	溶液型 有機系 注入	溶液型 無機系 注入
			1セッ ト	2セッ ト	4セッ ト	4セッ ト	4セッ ト
ボーリングマシン	ローリパーカッション式 クローラ型通称 81kW 級	台	1	2	—	—	—
薬液注入ポンプ	吐出量 0~20 l/min×2 (圧力 9.8 MPa)		—	—	2	2	2
ゲルミキサ	タンク容量 300 l× 1槽	〃	—	—	—	1	—
ミキシングプラント	プラント練能力 3,000 l/h	〃	—	—	—	—	1
水ガラス積算流量計	最大流量 50 l/min	〃	—	—	—	(1)注2	(1)注2

(注) 1.・2. [略]

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1~5-3 [略]

5-4 注入設備の据付・解体及び移設

5-4-1 注入設備据付解体歩掛

注入設備の据付・解体（搬入・排出時）の歩掛は、次表とする。

表 5. 13 注入設備据付・解体歩掛 (1現場当り)

名 称	単 位	規 格	二重管ストレナーナ工法		二重管ダブルパッカー工法		
			2セット	4セット	1セット削孔	2セット削孔	4セット注入
世 話 役	人		2.2	2.7	1.5	1.5	3.1
特 殊 作 業 員			8.2	13.3	4.6	6.2	11.6
普 通 作 業 員	〃		3.4	5.6	1.5	2.3	3.9
ト ラ ッ ク (クレーン装置付)	時間	通称 4~ 4.5t 積級 吊能力 2.9t 吊	13.0	17.0	6.0	6.0	19.0

5-4-2 注入設備移設歩掛

注入設備を中心に半径 50mを超える場合、又は同一現場内に施工ヶ所が2ヶ所以上あり、注入設備を移設しなければならない場合は次によるものとする。

表 5. 14 注入施設移設歩掛 (1回当り)

名 称	単 位	規 格	二重管ストレナーナ工法		二重管ダブルパッカー工法		
			2セット	4セット	1セット削孔	2セット削孔	4セット注入
世 話 役	人		1.3	2.0	1.0	1.0	2.0
特 殊 作 業 員	〃		5.5	8.5	3.0	4.0	7.5
普 通 作 業 員	〃		2.2	3.5	1.0	1.5	2.5
ト ラ ッ ク (クレーン装置 付)	時間	通称 4~ 4.5t 積級 吊能力 2.9t 吊	8.0	11.0	4.0	4.0	12.0

5-5 排水汚泥土処理費

注入排水、排土などのための処理設備が必要な場合は次表とする。

表 5. 15 排水汚泥土処理費 (1日当り)

名 称	単 位	規 格	数 量
普 通 作 業 員	人		0.8

					セメント ベントナ イト注入	溶液型 有機系 注入	溶液型 無機系 注入
			1セッ ト	2セッ ト	4セッ ト	4セッ ト	4セッ ト
ボーリングマシン	ローリパーカッション式 クローラ型 81kW 級	台	1	2	—	—	—
薬液注入ポンプ	吐出量 0~20 l/min×2 (圧力 9.8 MPa)		—	—	2	2	2
ゲルミキサ	300 l×1槽	〃	—	—	—	1	—
ミキシングプラント	3,000 l/h	〃	—	—	—	—	1
水ガラス積算流量計	0~50 l/min	〃	—	—	—	(1)注2	(1)注2

(注) 1.・2. [略]

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1~5-3 [略]

5-4 注入設備の据付・解体及び移設

5-4-1 注入設備据付解体歩掛

注入設備の据付・解体（搬入・排出時）の歩掛は、次表とする。

表 5. 13 注入設備据付・解体歩掛 (1現場当り)

名 称	単 位	規 格	二重管ストレナーナ工法		二重管ダブルパッカー工法		
			2セット	4セット	1セット削孔	2セット削孔	4セット注入
世 話 役	人		2.2	2.7	1.5	1.5	3.1
特 殊 作 業 員			8.2	13.3	4.6	6.2	11.6
普 通 作 業 員	〃		3.4	5.6	1.5	2.3	3.9
ト ラ ッ ク (クレーン装置付)	時間	4~4.5t 積 2.9t 吊	13.0	17.0	6.0	6.0	19.0

5-4-2 注入設備移設歩掛

注入設備を中心に半径 50mを超える場合、又は同一現場内に施工ヶ所が2ヶ所以上あり、注入設備を移設しなければならない場合は次によるものとする。

表 5. 14 注入施設移設歩掛 (1回当り)

名 称	単 位	規 格	二重管ストレナーナ工法		二重管ダブルパッカー工法		
			2セット	4セット	1セット削孔	2セット削孔	4セット注入
世 話 役	人		1.3	2.0	1.0	1.0	2.0
特 殊 作 業 員	〃		5.5	8.5	3.0	4.0	7.5
普 通 作 業 員	〃		2.2	3.5	1.0	1.5	2.5
ト ラ ッ ク (クレーン装置 付)	時間	4~4.5t 積 2.9t 吊	8.0	11.0	4.0	4.0	12.0

5-5 排水汚泥土処理費

注入排水、排土などのための処理設備が必要な場合は次表とする。

表 5. 15 排水汚泥土処理費 (1日当り)

名 称	単 位	規 格	数 量
普 通 作 業 員	人		0.8

工事用水中モータポンプ	日	φ50mm 2.2kW	1.0
アルカリ水中和装置	時間	処理能力 6m <sup>3</sup> /h	6.8
水槽 (一般工用)	供用日	鋼板製簡易水槽 5m <sup>3</sup>	1.5
諸雑費率	%		20

(注) 1. ~ 4. [略]

5-6~5-7 [略]

## 6. 単価表

### (1) 二重管ストレーナ工法 1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1/N×a	表4.1
特殊作業員		〃	1/N×a	〃
普通作業員		〃	1/N×a	〃
注入材料		ℓ	Q <sub>s</sub>	式5.1
ボーリングマシン損料	油圧式通称5.5kW級	日	1/N×b	表3.1
薬液注入ポンプ損料	吐出量5~20ℓ/min×2 (圧力9.8Mpa)	〃	1/N×b	〃
水ガラス積算流量計損料	最大流量50ℓ/min	〃	1/N×b	表3.1(注)5
削孔消耗材料費		式	1	
注入消耗材料費		〃	1	
諸雑費		〃	1	表5.4
特許料金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

(注) 1. ~ 5. [略]

### (2) 二重管ダブルパッカー工法削孔 1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1/N×a	表4.2
特殊作業員		〃	1/N×a	〃
普通作業員		〃	1/N×a	〃
グラウト材		ℓ	Q <sub>G</sub>	式5.2
薬液注入管		m		
ボーリングマシン運転	ロータリーパッカー式 クロー型通称81kW級	日	1/N×b	表3.2
削孔消耗材料費		式	1	
諸雑費		〃	1	表5.12
計				

- (注) 1. N : 1日当り施工本数  
 2. a : 編成人員  
 3. b : 施工台数  
 4. Q<sub>G</sub> : グラウト注入の1本当り注入量 (ℓ)

(3) [略]

### (4) 二重管ダブルパッカー工法二次注入 1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1/N×a	表4.2
特殊作業員		〃	1/N×a	〃
普通作業員		〃	1/N×a	〃
注入材料		ℓ	Q <sub>P2</sub>	式5.4
薬液注入ポンプ損料	吐出量0~20ℓ/min×2 (圧力9.8MPa)	日	1/N×b	表3.2

工事用水中モータポンプ	日	φ50mm 2.2kW	1.0
アルカリ水中和装置	時間	処理能力 6m <sup>3</sup> /h	6.8
水槽	供用日	5m <sup>3</sup>	1.5
諸雑費率	%		20

(注) 1. ~ 4. [略]

5-6~5-7 [略]

## 6. 単価表

### (1) 二重管ストレーナ工法 1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1/N×a	表4.1
特殊作業員		〃	1/N×a	〃
普通作業員		〃	1/N×a	〃
注入材料		ℓ	Q <sub>s</sub>	式5.1
ボーリングマシン損料	油圧式5.5kW級	日	1/N×b	表3.1
薬液注入ポンプ損料	吐出量5~20ℓ/min×2 (圧力9.8Mpa)	〃	1/N×b	〃
水ガラス積算流量計損料	0~50ℓ/min	〃	1/N×b	表3.1(注)5
削孔消耗材料費		式	1	
注入消耗材料費		〃	1	
諸雑費		〃	1	表5.4
特許料金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

(注) 1. ~ 5. [略]

### (2) 二重管ダブルパッカー工法削孔 1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1/N×a	表4.2
特殊作業員		〃	1/N×a	〃
普通作業員		〃	1/N×a	〃
グラウト材		ℓ	Q <sub>G</sub>	式5.2
薬液注入管		m		
ボーリングマシン運転	ロータリーパッカー式 クロー型81kW級	日	1/N×b	表3.2
削孔消耗材料費		式	1	
諸雑費		〃	1	表5.12
計				

- (注) 1. N : 1日当り施工本数  
 2. a : 編成人員  
 3. b : 施工台数  
 4. Q<sub>G</sub> : グラウト注入の1本当り注入量 (ℓ)

(3) [略]

### (4) 二重管ダブルパッカー工法二次注入 1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1/N×a	表4.2
特殊作業員		〃	1/N×a	〃
普通作業員		〃	1/N×a	〃
注入材料		ℓ	Q <sub>P2</sub>	式5.4
薬液注入ポンプ損料	吐出量0~20ℓ/min×2 (圧力9.8MPa)	日	1/N×b	表3.2

ゲルミキサ損料	タンク容量 300 ℓ×1槽	〃	1/N×b	(注) 5
ミキシングプラント損料	プラント練能力 3,000 ℓ/h	〃	1/N×b	(注) 6
水ガラス積算流量計損料	最大流量 50 ℓ/min	〃	1/N×b	(注) 7
注入消耗材料費		式	1	
諸雑費		〃	1	表 5. 12
特許料金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

- (注) 1. N : 1日当り施工本数  
2. a : 編成人員  
3. b : 施工台数  
4. Q<sub>P2</sub> : 二重管ダブルパッカー工法の二次注入の1本当り注入量 (ℓ)  
5. ゲルミキサは、溶液型有機系注入時に計上する。  
6. ミキシングプラントは、溶液型無機系注入時に計上する。  
7. 水ガラス積算流量計損料は、総注入量 500kℓ以上の場合に計上する。

(5) 注入設備据付・解体1現場当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 5. 13
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラック (クレーン装置付)	通称 4~4.5t 積級 吊能力 2.9t 吊	時間		〃
計				

(6) 注入設備移設1回当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 5. 14
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラック (クレーン装置付)	通称 4~4.5t 積級 吊能力 2.9t 吊	時間		〃
計				

(7) 排水汚泥土処理1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 5. 15
工事用水中モータポンプ	φ 50 mm 2.2kW	日		〃
アルカリ水中和装置	処理能力 6 m <sup>3</sup> /h	時間		〃
水槽 (一般工事中)	鋼板製簡易水槽 5 m <sup>3</sup>	供用日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(8) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ボーリングマシン	ローリハ <sup>®</sup> -カッション式 クローラ型 通称 81kW 級	機-1 2	燃料消費量→78
トラック (クレーン装置付)	通称 4~4.5t 積級 吊能力 2.9t 吊	機-1	

## 5. フリューム類据付工

ゲルミキサ損料	300 ℓ×1槽	〃	1/N×b	(注) 5
ミキシングプラント損料	3,000 ℓ/h	〃	1/N×b	(注) 6
水ガラス積算流量計損料	0~50 ℓ/min	〃	1/N×b	(注) 7
注入消耗材料費		式	1	
諸雑費		〃	1	表 5. 12
特許料金		〃	1	必要に応じて計上する
計				

- (注) 1. N : 1日当り施工本数  
2. a : 編成人員  
3. b : 施工台数  
4. Q<sub>P2</sub> : 二重管ダブルパッカー工法の二次注入の1本当り注入量 (ℓ)  
5. ゲルミキサは、溶液型有機系注入時に計上する。  
6. ミキシングプラントは、溶液型無機系注入時に計上する。  
7. 水ガラス積算流量計損料は、総注入量 500kℓ以上の場合に計上する。

(5) 注入設備据付・解体1現場当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 5. 13
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラック (クレーン装置付)	4~4.5t 積 2.9t 吊	時間		〃
計				

(6) 注入設備移設1回当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 5. 14
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラック (クレーン装置付)	4~4.5t 積 2.9t 吊	時間		〃
計				

(7) 排水汚泥土処理1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 5. 15
工事用水中モータポンプ	φ 50 mm 2.2kW	日		〃
アルカリ水中和装置	処理能力 6 m <sup>3</sup> /h	時間		〃
水槽	5 m <sup>3</sup>	供用日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(8) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ボーリングマシン	ローリハ <sup>®</sup> -カッション式 クローラ型 81kW 級	機-1 2	燃料消費量→78
トラック (クレーン装置付)	4~4.5t 積 2.9t 吊	機-1	

## 5. フリューム類据付工

① 鉄筋コンクリートフリーム機械据付

1. [略]

2. 機種を選定

据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種を選定

材料規格(呼称)	機種	規格
200~560	バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付排出ガス対策型 (第2次基準値) バケット容量0.45m <sup>3</sup> 吊能力2.9t
600~920	トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型最大吊上能力4.9t吊
1,000	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型最大吊上能力16t吊

(注) [略]

3.・4. [略]

5. 単価表

(1) 鉄筋コンクリートフリーム機械据付10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	10/D	表3.1
特殊作業員		〃	10/D	〃
普通作業員		〃	労務数×10/D	〃
鉄筋コンクリートフリーム	材料呼称	個	N	(注)2
バックホウ (クローラ型)運転	標準型・クレーン機能付排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量0.45m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	日	10/D	表2.1、表3.1
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力4.9t吊	日	10/D	〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型最大吊上能力16t吊	〃	〃	表3.1
接合材料費		式	1	表3.1
フリームタイト材料費		式	1	〃
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量0.45m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	機-28	運転労務数量 →1.0 燃料消費量 →55 機械賃料数量 →1.43

② [略]

③ 鉄筋コンクリート柵渠機械据付

① 鉄筋コンクリートフリーム機械据付

1. [略]

2. 機種を選定

据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種を選定

材料規格(呼称)	機種	規格
200~560	バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t吊
600~920	トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 [新設] 4.9t吊
1,000	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型16t吊

(注) [略]

3.・4. [略]

5. 単価表

(1) 鉄筋コンクリートフリーム機械据付10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	10/D	表3.1
特殊作業員		〃	10/D	〃
普通作業員		〃	労務数×10/D	〃
鉄筋コンクリートフリーム	材料呼称	個	N	(注)2
バックホウ (クレーン機能付)運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t吊	日	10/D	表2.1、表3.1
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型4.9t吊	日	10/D	〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型16t吊	〃	〃	表3.1
接合材料費		式	1	表3.1
フリームタイト材料費		式	1	〃
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t吊	機-28	運転労務数量 →1.0 燃料消費量 →55 機械賃料数量 →1.43

② [略]

③ 鉄筋コンクリート柵渠機械据付

1. ・ 2. [略]

3. 機種を選定

据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

材料断面積の規格 (m <sup>2</sup> )	機種	規格
0.16 以上 2.50 以下	バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付排出ガス対策型 (第2次基準値) バケット容量 0.45m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t
2.50 を超え 3.60 以下		標準型・クレーン機能付排出ガス対策型 (第2次基準値) バケット容量 0.80m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t

(注) [略]

4. ・ 5. [略]

6. 単価表

(1) 鉄筋コンクリート柵渠機械据付 10m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	10/D	表 4. 1
特殊作業員		〃	10/D	〃
普通作業員		〃	労務数×10/D	〃
鉄筋コンクリート柵渠	材料呼称	組	10/アーム間隔	
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付排出ガス対策型 (第2次基準値) バケット容量〇〇m <sup>3</sup> ・吊能力〇〇t	日	10/D	表 3. 1、表 4. 1
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付排出ガス対策型 (第2次基準値) バケット容量 0.45m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	機-28	運転労務数量 →1.0 燃料消費量 →57 機械賃料数量 →1.60
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付排出ガス対策型 (第2次基準値) バケット容量 0.80m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	機-28	運転労務数量 →1.0 燃料消費量 →99 機械賃料数量 →1.60

④ 鉄筋コンクリート大型水路機械据付

1. ・ 2. [略]

3. 機種を選定

据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

1. ・ 2. [略]

3. 機種を選定

据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

材料断面積の規格 (m <sup>2</sup> )	機種	規格
0.16 以上 2.50 以下	バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊
2.50 を超え 3.60 以下		排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.80m <sup>3</sup> (平積 0.60m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊

(注) [略]

4. ・ 5. [略]

6. 単価表

(1) 鉄筋コンクリート柵渠機械据付 10m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	10/D	表 4. 1
特殊作業員		〃	10/D	〃
普通作業員		〃	労務数×10/D	〃
鉄筋コンクリート柵渠	材料呼称	組	10/アーム間隔	
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積〇〇m <sup>3</sup> (平積〇〇m <sup>3</sup> ) 〇〇t 吊	日	10/D	表 3. 1、表 4. 1
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.0 燃料消費量 →57 機械賃料数量 →1.60
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.80m <sup>3</sup> (平積 0.60m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.0 燃料消費量 →99 機械賃料数量 →1.60

④ 鉄筋コンクリート大型水路機械据付

1. ・ 2. [略]

3. 機種を選定

据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

1個当り質量 (kg/個)	トラッククレーン	ラフテレーンクレーン
1,450 超え 1,500 以下	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 4.9t 吊	—
1,500 超え 7,000 以下	—	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型最大吊上能力 25t 吊

(注) [略]

4.・5. [略]

6. 単価表

(1) 鉄筋コンクリート大型水路据付10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	10/D	表 4. 1
特殊作業員		〃	10/D	〃
普通作業員		〃	労務数×10/D	〃
鉄筋コンクリート大型水路	材料呼称	個	N	(注) 2
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 4.9t 吊	日	10/D	表 3. 1、表 4. 1
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 25t 吊	〃	10/D	〃
接合材料費		式	1	表 4. 1
敷モルタル材料費		式	1	表 5. 1、表 5. 2
計				

(注) [略]

⑤ [略]

⑥ 水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付

1.・2. [略]

3. 機種を選定

据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表3. 1 機種を選定

製品1個当り質量 (kg/個)	バックホウ (クレーン機能付)	ラフテレーンクレーン
80 超え 1,500 以下	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 バケット容量 0.80m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	—
1,500 超え 4,000 以下	—	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型最大吊上能力 25t 吊

(注) [略]

4. ~ 6. [略]

7. 単価表

1個当り質量 (kg/個)	トラッククレーン	ラフテレーンクレーン
1,450 超え 1,500 以下	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	—
1,500 超え 7,000 以下	—	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊

(注) [略]

4.・5. [略]

6. 単価表

(1) 鉄筋コンクリート大型水路据付10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	10/D	表 4. 1
特殊作業員		〃	10/D	〃
普通作業員		〃	労務数×10/D	〃
鉄筋コンクリート大型水路	材料呼称	個	N	(注) 2
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	日	10/D	表 3. 1、表 4. 1
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃	10/D	〃
接合材料費		式	1	表 4. 1
敷モルタル材料費		式	1	表 5. 1、表 5. 2
計				

(注) [略]

⑤ [略]

⑥ 水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付

1.・2. [略]

3. 機種を選定

据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表3. 1 機種を選定

製品1個当り質量 (kg/個)	バックホウ (クレーン機能付)	ラフテレーンクレーン
80 超え 1,500 以下	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.80m <sup>3</sup> (平積 0.60m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	—
1,500 超え 4,000 以下	—	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊

(注) [略]

4. ~ 6. [略]

7. 単価表

(1) 水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付10個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	10/D	表4. 1
特殊作業員		"	10/D	"
普通作業員		"	労務数×10/D	"
L形ブロック	材料呼称	個	10	
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量0.80m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	日	10/D	表3. 1、表4. 1
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型最大 吊上能力25t吊	"	10/D	"
接合材料費		式	1	表4. 1
敷モルタル材料費		"	1	表5. 1
計				

(注) [略]

(2) [略]

(3) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量0.80m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	機-28	運転労務数量→1.0 燃料消費量→101 機械賃料数量→1.35

⑦ [略]

## 6. 河川・水路工

① [略]

② サイド・アンダードレーン工

1. [略]

2. アンダードレーン

2-1・2-2 [略]

2-3 機種を選定

断面掘削、フィルター投入に使用する規格は次表を標準とする。

表 2. 1 施工機械

機械名	規格
小型バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型(第3次基準値) バケット容量0.055m <sup>3</sup>

(注) [略]

(1) 水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付10個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	10/D	表4. 1
特殊作業員		"	10/D	"
普通作業員		"	労務数×10/D	"
L形ブロック	材料呼称	個	10	
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.80m <sup>3</sup> (平積0.60m <sup>3</sup> ) 2.9t吊	日	10/D	表3. 1、表4. 1
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t吊	"	10/D	"
接合材料費		式	1	表4. 1
敷モルタル材料費		"	1	表5. 1
計				

(注) [略]

(2) [略]

(3) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.80m <sup>3</sup> (平積0.60m <sup>3</sup> ) 2.9t吊	機-28	運転労務数量→1.0 燃料消費量→101 機械賃料数量→1.35

⑦ [略]

## 6. 河川・水路工

① [略]

② サイド・アンダードレーン工

1. [略]

2. アンダードレーン

2-1・2-2 [略]

2-3 機種を選定

断面掘削、フィルター投入に使用する規格は次表を標準とする。

表 2. 1 施工機械

機械名	規格
小型バックホウ	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型 山積0.055m <sup>3</sup> (平積0.04m <sup>3</sup> )

(注) [略]

2-4・2-5 [略]

3. 単価表

(1) [略]

(2) アンダードレーン 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
フィルター材		m <sup>3</sup>	1.4×(1+0.22)	表2.3
硬質ポリ塩化ビニル有孔管		本		表2.4
ビニールフィルム		m		〃
世話役		人		表2.2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
バックホウ (クローラ型) 運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) バケツ容量0.055m <sup>3</sup>	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型 (第3次基準値) バケツ容量0.055m <sup>3</sup>	機-31	運転労務数量→1.00 燃料消費量→12 機械賃料数量→1.00

③ [略]

④ ブロックマット設置工

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1・3-2 [略]

3-3 使用機械

ブロックマット布設に使用する機械は、次表を標準とする。

表3.3 使用機械

機械名	規格
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (第2次基準値) 最大吊上能力 25t 吊

(注) [略]

3-4 [略]

4. 単価表

(1) ブロックマット布設 1日当りの単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表3.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ブロックマット		m <sup>2</sup>		表3.2

2-4・2-5 [略]

3. 単価表

(1) [略]

(2) アンダードレーン 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
フィルター材		m <sup>3</sup>	1.4×(1+0.22)	表2.3
硬質ポリ塩化ビニル有孔管		本		表2.4
ビニールフィルム		m		〃
世話役		人		表2.2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.055m <sup>3</sup> (平積0.04m <sup>3</sup> )	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.055m <sup>3</sup> (平積0.04m <sup>3</sup> )	機-31	運転労務数量→1.00 燃料消費量→12 機械賃料数量→1.00

③ [略]

④ ブロックマット設置工

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1・3-2 [略]

3-3 使用機械

ブロックマット布設に使用する機械は、次表を標準とする。

表3.3 使用機械

機械名	規格
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊

(注) [略]

3-4 [略]

4. 単価表

(1) ブロックマット布設 1日当りの単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表3.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ブロックマット		m <sup>2</sup>		表3.2

ラフテレーンクレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型（第2次基準値） 最大吊上能力 25t 吊	日	1.0	表 3. 3
諸 雑 費		式	1.0	表 3. 4
計				

⑤ 消波工

1. ～ 3. [略]

4. ブロック製作・据付工

4-1 [略]

4-2 機種の設定

4-2-1 製作・横取り機械の設定

ブロック製作から横取りまでに使用するクレーンの機械・規格は、次表を標準とする。

表 4. 2 機種の設定

ブロック実質量	機 械 名	規 格	備 考
11.0t を超え 50.0t 以下	ラフテレーンクレーン	低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制) 油圧伸縮ジブ型最大吊上能力 25t 吊	型枠工、コンクリート工 に使用
	クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチ スジブ型・低騒音型・排出 ガス対策型(第3次基準値) 最大吊上能力 100t 吊	横取りに使用

(注) 1. ・ 2. [略]

4-2-2 作業船の設定

ブロック積込、運搬、据付に使用する作業船の機械・規格は、次表を標準とする。

表 4. 3 クレーン付台船・起重機船と引船の設定

機 械 名	規 格		単 位	数 量							
				ブロック実質量							
	4.5t 以下	4.5t を超え 7.5t 以下		7.5t を超え 12.5t 以下	12.5t を超え 22.0t 以下	22.0t を超え 31.0t 以下	31.0t を超え 37.5t 以下	37.5t を超え 50.0t 以下			
クレーン 付 台 船	45～50t 吊	[削る。]	台	1							
	80t 吊	[削る。]	"		1						
	100t 吊	[削る。]	"			1					
起重機船	旋回・テ イセル式 100t 吊 D	[削る。]	"				1	1			
	旋回・テ イセル式 120t 吊 D	[削る。]	"						1		
	旋回・テ イセル式 150t 吊 D	[削る。]	"							1	
引 船	鋼製 D450PS 型 35GT		"	1	1						
	鋼製 D600PS 型 50GT		"			1	1				
	鋼製 D700PS 型 60GT		"			1			1	1	

(注) 現場条件により、上記により難しい場合は、別途考慮する。

ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型（第2次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	1.0	表 3. 3
諸 雑 費		式	1.0	表 3. 4
計				

⑤ 消波工

1. ～ 3. [略]

4. ブロック製作・据付工

4-1 [略]

4-2 機種の設定

4-2-1 製作・横取り機械の設定

ブロック製作から横取りまでに使用するクレーンの機械・規格は、次表を標準とする。

表 4. 2 機種の設定

ブロック実質量	機 械 名	規 格	備 考
11.0t を超え 50.0t 以下	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型低騒音型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	型枠工、コンクリート工 に使用
	クローラクレーン	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧駆動式ウインチ・ラチ スジブ型低騒音型 100t 吊	横取りに使用

(注) 1. ・ 2. [略]

4-2-2 作業船の設定

ブロック積込、運搬、据付に使用する作業船の機械・規格は、次表を標準とする。

表 4. 3 クレーン付台船・起重機船と引船の設定

機 械 名	規 格		単 位	数 量							
				ブロック実質量							
	4.5t 以下	4.5t を超え 7.5t 以下		7.5t を超え 12.5t 以下	12.5t を超え 22.0t 以下	22.0t を超え 31.0t 以下	31.0t を超え 37.5t 以下	37.5t を超え 50.0t 以下			
クレーン 付 台 船	45～50t	500t	台	1							
	80t	700t	"		1						
	100t	1,000t	"			1					
起重機船	100t	1,000t	"				1	1			
	120t	1,000t	"						1		
	150t	1,000t	"							1	
引 船	鋼製 D450PS 型 35GT		"	1	1						
	鋼製 D600PS 型 50GT		"			1	1				
	鋼製 D700PS 型 60GT		"			1			1	1	

(注) 現場条件により、上記により難しい場合は、別途考慮する。

4-3 [略]

4-4 製作

4-4-1 [略]

4-4-2 型枠工

(1) [略]

(2) 型枠の組立・脱型及び型枠清掃、はく離剤塗布歩掛

型枠の組立・脱型及び型枠清掃、はく離剤塗布歩掛及びクレーンの運転時間は、次表を標準とする。

表 4.5 型枠の組立・脱型及び型枠清掃、はく離剤塗布歩掛 (100m<sup>2</sup>当り)

名称	規格	単位	ブロック実質量	
			11tを超え25t以下	25tを超え50t以下
世話役		人	0.3	0.2
特殊作業員		人	0.5	0.5
普通作業員		人	1.5	1.5
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型 低騒音型 排出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t 吊	日	0.4	0.4

(注) [略]

4-4-3 コンクリート工

(1) [略]

(2) コンクリート投入打設歩掛

コンクリート投入打設歩掛及びクレーンの運転時間は、次表を標準とする。

表 4.6 コンクリート投入打設歩掛 (100m<sup>3</sup>当り)

名称	規格	単位	ブロック実質量	
			11tを超え25t以下	25tを超え50t以下
世話役		人	0.9	0.7
特殊作業員		人	1.8	1.5
普通作業員		人	2.5	2.1
ラフテレーンクレーン運	油圧伸縮ジブ型 低騒音型 排出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t 吊	日	1.2	0.8

(注) [略]

(3)・(4) [略]

4-4-4

4-5・4-6 [略]

5. [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) ブロック(実質量〇〇t)製作10個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	(表 4.5) × A / 100 × 10 + (表 4.6) × V / 100 × 10	

4-3 [略]

4-4 製作

4-4-1 [略]

4-4-2 型枠工

(1) [略]

(2) 型枠の組立・脱型及び型枠清掃、はく離剤塗布歩掛

型枠の組立・脱型及び型枠清掃、はく離剤塗布歩掛及びクレーンの運転時間は、次表を標準とする。

表 4.5 型枠の組立・脱型及び型枠清掃、はく離剤塗布歩掛 (100m<sup>2</sup>当り)

名称	規格	単位	ブロック実質量	
			11tを超え25t以下	25tを超え50t以下
世話役		人	0.3	0.2
特殊作業員		人	0.5	0.5
普通作業員		人	1.5	1.5
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 低騒音型 25t 吊	日	0.4	0.4

(注) [略]

4-4-3 コンクリート工

(1) [略]

(2) コンクリート投入打設歩掛

コンクリート投入打設歩掛及びクレーンの運転時間は、次表を標準とする。

表 4.6 コンクリート投入打設歩掛 (100m<sup>3</sup>当り)

名称	規格	単位	ブロック実質量	
			11tを超え25t以下	25tを超え50t以下
世話役		人	0.9	0.7
特殊作業員		人	1.8	1.5
普通作業員		人	2.5	2.1
ラフテレーンクレーン運	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 低騒音型 25t 吊	日	1.2	0.8

(注) [略]

(3)・(4) [略]

4-4-4

4-5・4-6 [略]

5. [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) ブロック(実質量〇〇t)製作10個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	(表 4.5) × A / 100 × 10 + (表 4.6) × V / 100 × 10	

特殊作業員		〃	〃	
普通作業員		〃	(表 4.5) × A / 100 × 10 + (表 4.6) × V / 100 × 10 + (表 4.7) × V / 100 × 10	
生コンクリート		m <sup>3</sup>		表 4. 8
鉄筋		t		必要に応じて計上
ラフテレーンクレーン賃料	油圧伸縮ジブ型・低騒音型 排出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t 吊	日	(表 4.5) × A / 100 × 10 + (表 4.6) × V / 100 × 10	
型枠賃料		m <sup>2</sup>		
諸雑費		式	1	表 4. 9
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(4) ブロック (実質量〇〇t) 横取り 10 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	10 / Q c 1 × 1 × D	表 4. 10、表 4. 11
特殊作業員		〃	10 / Q c 1 × 1 × D	〃
普通作業員		〃	10 / Q c 1 × 1 × D	〃
クローラクレーン賃料	油圧駆動式ウインチ・ラジック ア型・低騒音型 排出ガス対策型 (第 3 次基準値) 最大吊上能力 100t 吊	日	10 / Q c 1 × D	〃
諸雑費		式	1	表 4. 12
計				

(注) 1.・2. [略]

(5) [略]

(6) クレーン付台船運転 1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
高級船員		人		表 4. 14
普通船員		〃		〃
燃料費	軽油	ℓ	45~50t 吊 → 127 80t 吊 → 142 100t 吊 → 157	
[削る。]		[削る。]	[削る。]	
クレーン付台船損料		供用日	1.91	
計				

(7) ~ (12) [略]

(13) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
起重機船	表 4. 3	機-26	労務数量 → 表 4. 14 機械損料数量 → 1.91 燃料消費量

特殊作業員		〃	〃	
普通作業員		〃	(表 4.5) × A / 100 × 10 + (表 4.6) × V / 100 × 10 + (表 4.7) × V / 100 × 10	
生コンクリート		m <sup>3</sup>		表 4. 8
鉄筋		t		必要に応じて計上
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型低騒音型 25t 吊	日	(表 4.5) × A / 100 × 10 + (表 4.6) × V / 100 × 10	
型枠賃料		m <sup>2</sup>		
諸雑費		式	1	表 4. 9
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(4) ブロック (実質量〇〇t) 横取り 10 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	10 / Q c 1 × 1 × D	表 4. 10、表 4. 11
特殊作業員		〃	10 / Q c 1 × 1 × D	〃
普通作業員		〃	10 / Q c 1 × 1 × D	〃
クローラクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧駆動式ウインチ・ラジック ア型低騒音型 100t 吊	日	10 / Q c 1 × D	〃
諸雑費		式	1	表 4. 12
計				

(注) 1.・2. [略]

(5) [略]

(6) クレーン付台船運転 1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
高級船員		人		表 4. 14
普通船員		〃		〃
燃料費	軽油	ℓ	45~50t 吊 → 108 80t 吊 → 172 100t 吊 → 206	
クローラクレーン損料		供用日	1.91	
台船損料		〃	1.91	
計				

(7) ~ (12) [略]

(13) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
起重機船	表 4. 3	機-26	労務数量 → 表 4. 14 機械損料数量 → 1.91 燃料消費量

			100t吊→372 120t吊→417 150t吊→480 主燃料→重油
引船	表4.3	機-11	単価表単位→日 船員→表4.15 船員数量→表4.15 機械損料単位→供用日 機械損料数量→1.91  燃料消費量 鋼製450PS型35GT→374 鋼製600PS型50GT→500 鋼製700PS型60GT→585 主燃料→重油
交通船	鋼製D50PS型4.9t	機-11	単価表単位→日 船員→高級船員 船員数量→1人 機械損料単位→供用日 機械損料数量→1.68 燃料消費量→42 主燃料→重油
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 低騒音型 排出ガス対策型 (第3次基準値) 最大吊上能力100t吊	機-27	燃料消費量→88

			100t吊→372 120t吊→417 150t吊→480 主燃料→重油
引船	表4.3	機-11	単価表単位→日 船員→表4.15 船員数量→表4.15 機械損料単位→供用日 機械損料数量→1.91  燃料消費量 鋼製450PS型35GT→374 鋼製600PS型50GT→500 鋼製700PS型60GT→585 主燃料→重油
交通船	鋼製D50PS型4.9t	機-11	単価表単位→日 船員→高級船員 船員数量→1人 機械損料単位→供用日 機械損料数量→1.68 燃料消費量→42 主燃料→重油
クローラクレーン	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 低騒音型 100t吊	機-27	燃料消費量→69

⑥ かごマット工（多段積型）

1.・2. [略]

3. 機種の設定

機械、規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の設定

機 械 名	規 格	単 位	数 量
バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) バケツ容量0.8m <sup>3</sup>	台	1

(注) [略]

4. 施工歩掛

4-1 編成人員

かごマット工（多段積型）の歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 かごマット工（多段積型）施工歩掛 (100m<sup>2</sup>当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
世話役		人	2.2
特殊作業員		〃	3.2
普通作業員		〃	6.6
バックホウ(クローラ型)運転	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) バケツ容量0.8m <sup>3</sup>	日	7.7

⑥ かごマット工（多段積型）

1.・2. [略]

3. 機種の設定

機械、規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の設定

機 械 名	規 格	単 位	数 量
バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) 山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )	台	1

(注) [略]

4. 施工歩掛

4-1 編成人員

かごマット工（多段積型）の歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 かごマット工（多段積型）施工歩掛 (100m<sup>2</sup>当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
世話役		人	2.2
特殊作業員		〃	3.2
普通作業員		〃	6.6
バックホウ(クローラ型)運転	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) バケツ容量0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )	日	7.7

諸 雑 費 率	%	1
---------	---	---

(注) 1. ～3. [略]

4-2・4-3 [略]

### 5. 単価表

(1) かごマット (多段積型) 100m<sup>2</sup>当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役 員		人		表4. 1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
かごマット (多段積型)	最上部 [A-a、B-a、C-a]	m	200×1/(n+c)	n：積段数 [○-a、○-b]
	一般部 [A-b、B-b、C-a]	〃	200×(n-1)/(n+c)	c：根固め段数 [○-c]
	根固め部 [A-c、B-c、C-c]	〃	200×c/(n+c)	[ ]：かごタイプ
中 詰 用 石 材		m <sup>3</sup>		式4. 1、表4. 2
吸 出 し 防 止 材	t =10mm	m <sup>2</sup>		式4. 2、表4. 2
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運 転	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2014年規制) <u>バケツ容量0.8m<sup>3</sup></u>	日		表4. 1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表4. 1
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2014年規制) <u>バケツ容量0.8m<sup>3</sup></u>	機 - 2 8	運転労務数量→1.00 燃料消費量→63 機械賃料数量→1.24

## 7. 管水路工

### ① 管水路基礎

1. ～3. [略]

#### 4. 基礎材投入歩掛

バックホウ (クローラ型) による基礎材の投入歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 1 投入歩掛 (10m<sup>3</sup>当り)

規格区分	運転時間 (日)
超低騒音型・排出ガス対策型 ( <u>第2次基準値</u> ) <u>バケツ容量0.28m<sup>3</sup></u>	0.19
超低騒音型・排出ガス対策型 ( <u>第3次基準値</u> ) <u>バケツ容量0.45m<sup>3</sup></u>	0.09
超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制) <u>バケツ容量0.80m<sup>3</sup></u>	0.05

(注) 1.・2. [略]

### 5. 機種を選定

管水路基礎の締固め機械は、次表を標準とする。

表 5. 1 締固め機械

機 種	規 格

諸 雑 費 率	%	1
---------	---	---

(注) 1. ～3. [略]

4-2・4-3 [略]

### 5. 単価表

(1) かごマット (多段積型) 100m<sup>2</sup>当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役 員		人		表4. 1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
かごマット (多段積型)	最上部 [A-a、B-a、C-a]	m	200×1/(n+c)	n：積段数 [○-a、○-b]
	一般部 [A-b、B-b、C-a]	〃	200×(n-1)/(n+c)	c：根固め段数 [○-c]
	根固め部 [A-c、B-c、C-c]	〃	200×c/(n+c)	[ ]：かごタイプ
中 詰 用 石 材		m <sup>3</sup>		式4. 1、表4. 2
吸 出 し 防 止 材	t =10mm	m <sup>2</sup>		式4. 2、表4. 2
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運 転	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2014年規制) <u>山積0.8m<sup>3</sup> (平積0.6m<sup>3</sup>)</u>	日		表4. 1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表4. 1
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2014年規制) <u>山積0.8m<sup>3</sup> (平積0.6m<sup>3</sup>)</u>	機 - 2 8	運転労務数量→1.00 燃料消費量→63 機械賃料数量→1.24

## 7. 管水路工

### ① 管水路基礎

1. ～3. [略]

#### 4. 基礎材投入歩掛

バックホウによる基礎材の投入歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 1 投入歩掛 (10m<sup>3</sup>当り)

規格区分	運転時間 (日)
超低騒音型、排出ガス対策型 (2014年規制) <u>クローラ型山積0.28m<sup>3</sup> (平積0.20m<sup>3</sup>)</u>	0.19
超低騒音型、排出ガス対策型 (2014年規制) <u>クローラ型山積0.45m<sup>3</sup> (平積0.35m<sup>3</sup>)</u>	0.09
超低騒音型、排出ガス対策型 (2014年規制) <u>クローラ型山積0.80m<sup>3</sup> (平積0.60m<sup>3</sup>)</u>	0.05

(注) 1.・2. [略]

### 5. 機種を選定

管水路基礎の締固め機械は、次表を標準とする。

表 5. 1 締固め機械

機 種	規 格

タンパ	通称 60～80kg 級
振動コンパクト前進型	通称 40～60kg 級
振動ローラハンドガイド式	運転質量 0.5～0.6t

6. まき出し及び締固め歩掛

表 6. 1 まき出し及び締固め歩掛 (10m³当り)

基礎区分	締固め機械	締固め区分	世話役(人)	特殊作業員(人)	普通作業員(人)	運転時間(日)	諸雑費率
砂 砂質土	タンパ 通称 60～80kg 級	I	0.32	0.34	1.09	—	12%
		II	0.43	0.56	1.35	—	
	振動コンパクト 前進型 通称 40～60kg 級	I	0.25	0.20	0.92	—	
		II	0.32	0.34	1.09	—	
	振動ローラ ハンドガイド式 運転質量 0.5～0.6t	I	0.19	—	0.78	0.08	—
		II	0.22	—	0.84	0.13	
砕石 礫質土 粘性土	タンパ 通称 60～80kg 級	I	0.36	0.34	1.26	—	12%
		II	0.47	0.56	1.52	—	
	振動コンパクト 前進型 通称 40～60kg 級	I	0.29	0.20	1.09	—	
		II	0.36	0.34	1.26	—	
	振動ローラ ハンドガイド式 運転質量 0.5～0.6t	I	0.23	—	0.95	0.08	—
		II	0.26	—	1.01	0.13	

(注) 1. ～ 3. [略]

7. 単価表

(1) 管水路基礎 10m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
基礎材		m³		式 3. 1
世話役		人		表 6. 1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
振動ローラ 運 転	ハンドガイド式 運転質量 0.5～0.6t	日		振動ローラの場合 表 6. 1
バックホウ (クローラ 型) 運 転	超低騒音型・排出ガス対策型 (第2次基準値) バケット容量 0.28m³	日		表 4. 1
バックホウ (クローラ 型) 運 転	超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値) バケット容量 0.45m³	日		〃
バックホウ (クローラ 型) 運 転	超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制) バケット容量 0.80m³	日		〃
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
-----	----	-------	------

タンパ	60～80kg 級
振動コンパクト前進型	40～60kg 級
振動ローラハンドガイド式	0.5～0.6t

6. まき出し及び締固め歩掛

表 6. 1 まき出し及び締固め歩掛 (10m³当り)

基礎区分	締固め機械	締固め区分	世話役(人)	特殊作業員(人)	普通作業員(人)	運転時間(日)	諸雑費率
砂 砂質土	タンパ 60～80kg 級	I	0.32	0.34	1.09	—	12%
		II	0.43	0.56	1.35	—	
	振動コンパクト 前進型 40～60kg 級	I	0.25	0.20	0.92	—	
		II	0.32	0.34	1.09	—	
	振動ローラ ハンドガイド式 0.5～0.6t	I	0.19	—	0.78	0.08	—
		II	0.22	—	0.84	0.13	
砕石 礫質土 粘性土	タンパ 60～80kg 級	I	0.36	0.34	1.26	—	12%
		II	0.47	0.56	1.52	—	
	振動コンパクト 前進型 40～60kg 級	I	0.29	0.20	1.09	—	
		II	0.36	0.34	1.26	—	
	振動ローラ ハンドガイド式 0.5～0.6t	I	0.23	—	0.95	0.08	—
		II	0.26	—	1.01	0.13	

(注) 1. ～ 3. [略]

7. 単価表

(1) 管水路基礎 10m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
基礎材		m³		式 3. 1
世話役		人		表 6. 1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
振動ローラ 運 転	ハンドガイド式 0.5～0.6t	日		振動ローラの場合 表 6. 1
バックホウ 運 転	超低騒音型、排出ガス対策型 (2014年規制) クローラ型山積〇〇m³ (平積〇〇m³)	日		表 4. 1
[新設]	[新設]	[新設]		[新設]
[新設]	[新設]	[新設]		[新設]
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
-----	----	-------	------

振動ローラ	ハンドガイド式 <u>運転質量</u> 0.5～0.6t	機-31	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →4.1 機械賃料数量 →1.50
バックホウ (クローラ型)	超低騒音型・排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>バケット容量</u> 0.28m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →33 機械賃料数量 →1.58
バックホウ (クローラ型)	超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量</u> 0.45m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>52</u> 機械賃料数量 →1.58
バックホウ (クローラ型)	超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制) <u>バケット容量</u> 0.80m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>88</u> 機械賃料数量 →1.58

② [略]

③ 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 布設歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設歩掛 (10m当り)

材 料	労務歩掛 (人)			使 用 機 械 バックホウ (クローラ型)		諸雑費 (%)
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員	運転時間 (日)	規格	
呼び径 (mm)						2
250～300	0.08	0.16	0.23	0.08	標準型・クレーン 機能付き 排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量</u> 0.45m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t	
350～400	0.11	0.21	0.28	0.09		
450	0.13	0.24	0.35	0.10		
500	0.15	0.28	0.39	0.11		
600	0.19	0.36	0.50	0.13		

(注) 1. ～4. [略]

5. バックホウは、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。

6. バックホウは、賃料とする。

3-2 接合歩掛

10m当りの接合箇所が3箇所を超える場合における、その超えた部分の接合に係る接合歩掛は、次式及び次表を標準とする。

接合箇所=接合箇所数×(10m/施工延長) - 3 (箇所) …… (式 3. 1) (小数点以下第1位繰上げ)

接合歩掛=接合箇所×表 3. 2 の各歩掛 …… (式 3. 2)

(注) 1. 接合箇所数及び施工延長は呼び径別に計上する。

2. 異径継手については、受口のうち最も大きい呼び径を適用する。

表 3. 2 硬質ポリ塩化ビニル管機械接合歩掛 (1箇所/10m当り)

呼び径 (mm)	世話役 (人)	特 殊 作業員 (人)	普 通 作業員 (人)	使 用 機 械 バックホウ (クローラ型)		諸雑費 (%)
				運転時間 (日)	規格	
250～300	0.01	0.01	0.02	0.01	標準型・クレーン 機能付き	0.1
350～400	0.01	0.02	0.03	0.01		

振動ローラ	ハンドガイド式 0.5～0.6t	機-31	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →4.1 機械賃料数量 →1.50
バックホウ	超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制) <u>クローラ型山積</u> 0.28m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.20m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →33 機械賃料数量 →1.58
バックホウ	超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制) <u>クローラ型山積</u> 0.45m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.35m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>47</u> 機械賃料数量 →1.58
バックホウ	超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制) <u>クローラ型山積</u> 0.80m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.60m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>83</u> 機械賃料数量 →1.58

② [略]

③ 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 布設歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設歩掛 (10m当り)

材 料	労務歩掛 (人)			使 用 機 械 バックホウ (クレーン機能付)		諸雑費 (%)
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員	運転時間 (日)	規格	
呼び径 (mm)						2
250～300	0.08	0.16	0.23	0.08	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>クローラ型</u> <u>山積</u> 0.45m <sup>3</sup> <u>(平積</u> 0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t <u>吊</u>	
350～400	0.11	0.21	0.28	0.09		
450	0.13	0.24	0.35	0.10		
500	0.15	0.28	0.39	0.11		
600	0.19	0.36	0.50	0.13		

(注) 1. ～4. [略]

5. バックホウ (クレーン機能付) は、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。

6. バックホウ (クレーン機能付) は賃料とする。

3-2 接合歩掛

10m当りの接合箇所が3箇所を超える場合における、その超えた部分の接合に係る接合歩掛は、次式及び次表を標準とする。

接合箇所=接合箇所数×(10m/施工延長) - 3 (箇所) …… (式 3. 1) (小数点以下第1位繰上げ)

接合歩掛=接合箇所×表 3. 2 の各歩掛 …… (式 3. 2)

(注) 1. 接合箇所数及び施工延長は呼び径別に計上する。

2. 異径継手については、受口のうち最も大きい呼び径を適用する。

表 3. 2 硬質ポリ塩化ビニル管機械接合歩掛 (1箇所/10m当り)

呼び径 (mm)	世話役 (人)	特 殊 作業員 (人)	普 通 作業員 (人)	使 用 機 械 バックホウ (クレーン機能付)		諸雑費 (%)
				運転時間 (日)	規格	
250～300	0.01	0.01	0.02	0.01	排出ガス対策型	0.1
350～400	0.01	0.02	0.03	0.01		

450	0.01	0.02	0.03	0.01	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量</u> 0.45m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t
500	0.01	0.03	0.04	0.01	
600	0.02	0.03	0.05	0.01	

(注) 1. [略]

(参考) [略]

3-3 [略]

#### 4. 単価表

##### (1) 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
硬質ポリ塩化ビニル管	〇〇管〇〇mm	本	N	式 3. 3
諸 雑 費		式	1	表 3. 1 (注) 4、 表 3. 2 (注) 1
世 話 役		人		表 3. 1、表 3. 2
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
バックホウ ( <u>クローラ型</u> ) 運転	<u>標準型・クレーン機能付き</u> 排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量</u> 0.45m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t	日		〃
計				

##### (2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ ( <u>クローラ型</u> )	<u>標準型・クレーン機能付き</u> 排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量</u> 0.45m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →44 機械賃料数量 →1.45

#### ④ 強化プラスチック複合管機械布設

1.・2. [略]

#### 3. 施工歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

なお、当該路線内において本管 (直管) と連続的に布設する短管及び異形管は、その管長にかかわらず本管と同じ歩掛を用いるものとする。

表 3. 1 強化プラスチック複合管 (4.0m管) 布設歩掛 (10本当り)

管径 (mm)	労務人数 (人)			機 械 運転時間 (日)	使 用 機 械
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員		
200	—	0.53	0.83	0.76	バックホウ ( <u>クローラ型</u> ) <u>標準型・超低騒音型</u> <u>クレーン機能付き</u> 排出ガス対策型 (2014年規制) <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t
250	—	0.56	0.88	0.80	
300	—	0.67	0.92	0.83	
350	—	0.70	1.04	0.87	
400	—	0.72	1.08	0.90	
450	0.19	0.56	1.11	0.93	
500	0.19	0.57	1.14	0.95	
600	0.20	0.61	1.31	1.01	
700	0.21	0.74	1.47	1.05	
800	0.22	0.77	1.54	1.10	

450	0.01	0.02	0.03	0.01	(第3次基準値) <u>クローラ型</u> <u>山積</u> 0.45m <sup>3</sup> <u>(平積0.35m<sup>3</sup>)</u> 2.9t <u>吊</u>
500	0.01	0.03	0.04	0.01	
600	0.02	0.03	0.05	0.01	

(注) 1. [略]

(参考) [略]

3-3 [略]

#### 4. 単価表

##### (1) 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
硬質ポリ塩化ビニル管	〇〇管〇〇mm	本	N	式 3. 3
諸 雑 費		式	1	表 3. 1 (注) 4、 表 3. 2 (注) 1
世 話 役		人		表 3. 1、表 3. 2
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
バックホウ ( <u>クレーン機能付</u> ) 運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>クローラ型</u> <u>山積</u> 0.45m <sup>3</sup> <u>(平積0.35m<sup>3</sup>)</u> 2.9t <u>吊</u>	日		〃
計				

##### (2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ ( <u>クレーン機能付</u> )	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>クローラ型</u> <u>山積</u> 0.45m <sup>3</sup> <u>(平積0.35m<sup>3</sup>)</u> 2.9t <u>吊</u>	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →44 機械賃料数量 →1.45

#### ④ 強化プラスチック複合管機械布設

1.・2. [略]

#### 3. 施工歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

なお、当該路線内において本管 (直管) と連続的に布設する短管及び異形管は、その管長にかかわらず本管と同じ歩掛を用いるものとする。

表 3. 1 強化プラスチック複合管 (4.0m管) 布設歩掛 (10本当り)

管径 (mm)	労務人数 (人)			機 械 運転時間 (日)	使 用 機 械
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員		
200	—	0.53	0.83	0.76	バックホウ ( <u>クレーン機能付</u> ) 超低騒音型 排出ガス対策型 (2014年規制) <u>クローラ型</u> <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> <u>(平積0.6m<sup>3</sup>)</u> 2.9t <u>吊</u>
250	—	0.56	0.88	0.80	
300	—	0.67	0.92	0.83	
350	—	0.70	1.04	0.87	
400	—	0.72	1.08	0.90	
450	0.19	0.56	1.11	0.93	
500	0.19	0.57	1.14	0.95	
600	0.20	0.61	1.31	1.01	
700	0.21	0.74	1.47	1.05	
800	0.22	0.77	1.54	1.10	

900	0.23	0.80	1.72	1.15
1,000	0.36	0.95	1.90	1.19
1,100	0.37	0.99	1.98	1.23
1,200	0.38	1.15	2.18	1.28
1,350	0.40	1.20	2.40	1.33
1,500	0.42	1.39	2.78	1.39
1,650	0.43	1.45	3.04	1.45
1,800	0.61	1.67	3.33	1.52
2,000	0.63	1.90	3.97	1.59
2,200	0.67	2.17	4.50	1.67
2,400	0.86	2.59	5.17	1.72
2,600	0.91	2.91	5.82	1.82
2,800	1.13	3.40	6.60	1.89
3,000	1.18	3.73	7.65	1.96

ラフテレーンクレーン  
油圧伸縮ジブ型  
 排出ガス対策型(第2次基準値)  
低騒音型・最大吊上能力 25t 吊

- (注) 1. [略]  
 2. バックホウ及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。  
 3. バックホウは、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。  
 4. [略]

表 3. 2 強化プラスチック複合管 (6.0m管) 布設歩掛 (10本当り)

管径 (mm)	労務人数 (人)			機 械 運転時間 (日)	使 用 機 械
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員		
450	0.19	0.58	1.25	0.96	バックホウ ( <u>クローラ型</u> ) <u>標準型・超低騒音型</u> <u>クレーン機能付き</u> 排出ガス対策型 (2014年規制) <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t
500	0.20	0.69	1.39	0.99	
600	0.32	0.84	1.58	1.05	
700	0.33	0.88	1.87	1.10	
800	0.34	1.03	2.18	1.15	
900	0.36	1.20	2.41	1.20	
1,000	0.50	1.38	2.75	1.25	
1,100	0.51	1.54	2.95	1.28	
1,200	0.53	1.73	3.33	1.33	
1,350	0.70	1.97	3.80	1.41	
1,500	0.74	2.21	4.41	1.47	ラフテレーンクレーン <u>油圧伸縮ジブ型</u> 排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>低騒音型・最大吊上能力</u> 25t 吊
1,650	0.76	2.42	4.85	1.52	
1,800	0.95	2.70	5.56	1.59	
2,000	1.00	3.17	6.33	1.67	

- (注) 1. [略]  
 2. バックホウ及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。  
 3. バックホウは、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。  
 4. [略]

4. 単価表

(1) 強化プラスチック複合管 (4.0m管) 布設 10本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
強化プラスチック複合管	○種○mm	本	10	
諸 雑 費		式	1	表 3. 1 (注) 4
世 話 役		人		表 3. 1
特 殊 作 業 員		〃		〃

900	0.23	0.80	1.72	1.15
1,000	0.36	0.95	1.90	1.19
1,100	0.37	0.99	1.98	1.23
1,200	0.38	1.15	2.18	1.28
1,350	0.40	1.20	2.40	1.33
1,500	0.42	1.39	2.78	1.39
1,650	0.43	1.45	3.04	1.45
1,800	0.61	1.67	3.33	1.52
2,000	0.63	1.90	3.97	1.59
2,200	0.67	2.17	4.50	1.67
2,400	0.86	2.59	5.17	1.72
2,600	0.91	2.91	5.82	1.82
2,800	1.13	3.40	6.60	1.89
3,000	1.18	3.73	7.65	1.96

ラフテレーンクレーン  
低騒音型  
 排出ガス対策型(第2次基準値)  
(油圧伸縮ジブ型) 25t 吊

- (注) 1. 布設に伴う材料の移動手間を含む。  
 2. バックホウ (クレーン機能付) 及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。  
 3. バックホウ (クレーン機能付) は、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。  
 4. 諸雑費として、管材料費の0.1%を計上するものとする。  
 なお、諸雑費は接合用滑材の費用及びレバーブロックの損料である。

表 3. 2 強化プラスチック複合管 (6.0m管) 布設歩掛 (10本当り)

管径 (mm)	労務人数 (人)			機 械 運転時間 (日)	使 用 機 械
	世話役	特 殊 作業員	普 通 作業員		
450	0.19	0.58	1.25	0.96	バックホウ ( <u>クレーン機能付</u> ) <u>超低騒音型</u> 排出ガス対策型 (2014年規制) <u>クローラ型</u> <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> ) <u>2.9t 吊</u>
500	0.20	0.69	1.39	0.99	
600	0.32	0.84	1.58	1.05	
700	0.33	0.88	1.87	1.10	
800	0.34	1.03	2.18	1.15	
900	0.36	1.20	2.41	1.20	
1,000	0.50	1.38	2.75	1.25	
1,100	0.51	1.54	2.95	1.28	
1,200	0.53	1.73	3.33	1.33	
1,350	0.70	1.97	3.80	1.41	
1,500	0.74	2.21	4.41	1.47	ラフテレーンクレーン <u>低騒音型</u> 排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>(油圧伸縮ジブ型)</u> 25t 吊
1,650	0.76	2.42	4.85	1.52	
1,800	0.95	2.70	5.56	1.59	
2,000	1.00	3.17	6.33	1.67	

- (注) 1. [略]  
 2. バックホウ (クレーン機能付) 及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。  
 3. バックホウ (クレーン機能付) は、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。  
 4. [略]

4. 単価表

(1) 強化プラスチック複合管 (4.0m管) 布設 10本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
強化プラスチック複合管	○種○mm	本	10	
諸 雑 費		式	1	表 3. 1 (注) 4
世 話 役		人		表 3. 1
特 殊 作 業 員		〃		〃

普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型（第2次基準値） 低騒音型・最大吊上能力 25t 吊	日		〃
バックホウ（クローラ型） 運 転	標準型・超低騒音型 クレーン機能付き 排出ガス対策型（2014年規制） バケット容量 0.8m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	〃		〃
計				

(2) 強化プラスチック複合管（6.0m管）布設 10本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
強化プラスチック複合管	〇種〇〇mm	本	10	
諸 雑 費		式	1	表 3. 2 (注) 4
世 話 役		人		表 3. 2
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型（第2次基準値） 低騒音型・最大吊上能力 25t 吊	日		〃
バックホウ（クローラ型） 運 転	標準型・超低騒音型 クレーン機能付き 排出ガス対策型（2014年規制） バケット容量 0.8m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	〃		〃
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ（クローラ型）	標準型・超低騒音型 クレーン機能付き 排出ガス対策型（2014年規制） バケット容量 0.8m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→54 機械賃料数量→1.12

⑤ ダクティル鑄鉄管機械布設

1.・2. [略]

3. 機種を選定

機種を選定は、次表を標準とする。

表 3. 1 使用機械

管径 (mm)	K・T形			ALW形	
	1・2種	3・4種、DA種	DB～DD種	AL1種	AL2種
300未満	バックホウ（クローラ型） 標準型・超低騒音型 クレーン機能付き 排出ガス対策型（2011年規制） バケット容量 0.8m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t			バックホウ （クローラ型） 標準型・超低騒音型 クレーン機能付き 排出ガス対策型（2011年規制） バケット容量 0.8m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	
300					
350					
400					
450					
500					
600					

普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	低騒音型 排出ガス対策型（第2次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		〃
バックホウ（クレーン機能付） 運 転	超低騒音型 排出ガス対策型（2014年規制） クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> （平積 0.6m <sup>3</sup> ） 2.9t 吊	〃		〃
計				

(2) 強化プラスチック複合管（6.0m管）布設 10本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
強化プラスチック複合管	〇種〇〇mm	本	10	
諸 雑 費		式	1	表 3. 2 (注) 4
世 話 役		人		表 3. 2
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	低騒音型 排出ガス対策型（第2次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		〃
バックホウ（クレーン機能付） 運 転	超低騒音型 排出ガス対策型（2014年規制） クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> （平積 0.6m <sup>3</sup> ） 2.9t 吊	〃		〃
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ（クレーン機能付）	超低騒音型 排出ガス対策型（2014年規制） クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> （平積 0.6m <sup>3</sup> ） 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→56 機械賃料数量→1.12

⑤ ダクティル鑄鉄管機械布設

1.・2. [略]

3. 機種を選定

機種を選定は、次表を標準とする。

表 3. 1 使用機械

管径 (mm)	K・T形			ALW形	
	1・2種	3・4種、DA種	DB～DD種	AL1種	AL2種
300未満	バックホウ（クレーン機能付） 超低騒音型 排出ガス対策型（2011年規制） クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> （平積 0.6m <sup>3</sup> ） 2.9t 吊			バックホウ （クレーン機能付） 超低騒音型 排出ガス対策型 （2011年規制） クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> （平積 0.6m <sup>3</sup> ） 2.9t 吊	
300					
350					
400					
450					
500					
600					

700		
800		
900		
1,000		
1,100		
1,200		
1,350		
1,500		
1,600(4m)		
1,600(5m)		
1,650(4m)		
1,650(5m)		
1,800(4m)		
1,800(5m)		
2,000(4m)		
2,000(5m)		

ラフテレーンクレーン  
油圧伸縮ジブ型  
排出ガス対策型 (2011年規制)  
低騒音型・最大吊上能力 25t 吊

ラフテレーンクレーン  
油圧伸縮ジブ型  
排出ガス対策型 (2011年規制)  
低騒音型・最大吊上能力 25t 吊

ラフテレーンクレーン・油圧伸縮ジブ型  
排出ガス対策型 (2011年規制)  
低騒音型・最大吊上能力 50t 吊

- (注) 1. バックホウ及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。  
2. バックホウは、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。

4. [略]

5. 単価表

(1) ダクタイル鋳鉄管布設 1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダクタイル鋳鉄管	○種○mm	本	1	
鋳鉄管接合部品		組	1	K形の場合
諸雑費		式	1	表 4. 1 (注) 2
世話役		人		表 4. 1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2011年規制) 低騒音型・最大吊上能力 ○○t 吊	日		表 3. 1、表 4. 1
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・超低騒音型 クレーン機能付き 排出ガス対策型 (2011年規制) バケット容量 0.8m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型 クレーン機能付き 排出ガス対策型 (2011年規制)	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→54 機械賃料数量→1.12

700		
800		
900		
1,000		
1,100		
1,200		
1,350		
1,500		
1,600(4m)		
1,600(5m)		
1,650(4m)		
1,650(5m)		
1,800(4m)		
1,800(5m)		
2,000(4m)		
2,000(5m)		

ラフテレーンクレーン  
低騒音型  
排出ガス対策型 (2011年規制)  
(油圧伸縮ジブ型)  
25t 吊

ラフテレーンクレーン  
低騒音型  
排出ガス対策型  
(2011年規制)  
(油圧伸縮ジブ型)  
25t 吊

ラフテレーンクレーン 低騒音型  
排出ガス対策型 (2011年規制)  
(油圧伸縮ジブ型) 50t 吊

- (注) 1. バックホウ (クレーン機能付) 及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。  
2. バックホウ (クレーン機能付) は、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。

4. [略]

5. 単価表

(1) ダクタイル鋳鉄管布設 1本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダクタイル鋳鉄管	○種○mm	本	1	
鋳鉄管接合部品		組	1	K形の場合
諸雑費		式	1	表 4. 1 (注) 2
世話役		人		表 4. 1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	低騒音型、排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 ○○t 吊	日		表 3. 1、表 4. 1
バックホウ (クレーン機能付) 運転	超低騒音型、排出ガス対策型 (2011年規制) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	超低騒音型 排出ガス対策型 (2011年規制) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→48 機械賃料数量→1.12

	バケット容量 0.8m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t		
--	-----------------------------------	--	--

⑥ 鋼管機械布設

1.・2. [略]

3. 機種の選定

鋼管の吊込据付に使用する機種は次表を標準とする。

表 3. 1 4.0m管時の使用機械

板厚 (mm) \ 口径 (mm)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
700																											
800																											
900																											
1,000																											
1,100																											
1,200																											
1,350																											
1,500																											
1,600																											
1,650																											
1,800																											
1,900																											
2,000																											
2,100																											
2,200																											
2,300																											
2,400																											
2,500																											
2,600																											
2,700																											
2,800																											
2,900																											
3,000																											

(注) [略]

表 3. 2 6.0m管時の使用機械

板厚 (mm) \ 口径 (mm)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
600																											
700																											
800																											
900																											
1,000																											
1,100																											
1,200																											

ラフテレーンクレーン  
油圧伸縮ジブ型  
排出ガス対策型 (第2次基準値)  
最大吊上能力 16t 吊

① クローラクレーン  
油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型  
排出ガス対策型 (第1次基準値)  
最大吊上能力 60~65t 吊

(平積 0.6m<sup>3</sup>) 2.9t 吊

⑥ 鋼管機械布設

1.・2. [略]

3. 機種の選定

鋼管の吊込据付に使用する機種は次表を標準とする。

表 3. 1 4.0m管時の使用機械

板厚 (mm) \ 口径 (mm)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
700																											
800																											
900																											
1,000																											
1,100																											
1,200																											
1,350																											
1,500																											
1,600																											
1,650																											
1,800																											
1,900																											
2,000																											
2,100																											
2,200																											
2,300																											
2,400																											
2,500																											
2,600																											
2,700																											
2,800																											
2,900																											
3,000																											

(注) [略]

表 3. 2 6.0m管時の使用機械

板厚 (mm) \ 口径 (mm)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
600																											
700																											
800																											
900																											
1,000																											
1,100																											
1,200																											

② クローラクレーン  
排出ガス対策型 (第1次基準値)  
油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型  
60~65t 吊



鋼管		本	N	表4.1又は表4.2又は表4.3
世話役		人		表4.4
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力4.9t吊	日	1	表3.1又は表3.2又は表3.3
ラフテレーンクレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第2次基準値) 最大吊上能力〇〇t吊	〃	1	表3.1又は表3.2又は表3.3
クローラクレーン運	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型(第1次基準値) 最大吊上能力60~65t吊	〃	1	表3.2又は表3.3
計				

(注) [略]

(2)・(3) [略]

(4) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型(第1次基準値) 最大吊上能力60t~65t吊	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→83 機械損料数量→1.78

⑦ コルゲートパイプ機械布設

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 コルゲートパイプ機械布設歩掛 (10m当り)

材料 呼び径 (mm)	労務歩掛(人)			使用機械 バックホウ(クローラ型)		諸雑費率 (%)
	世話役	特殊 作業員	普通 作業員	運転時間 (日)	規格	
600	0.15	0.07	1.02	0.22	標準型 クレーン機能付き 排出ガス対策型 (第2次基準値) バケット容量0.8m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	0.5
800	0.19	0.09	1.28	0.29		
1,000	0.23	0.11	1.54	0.36		
1,200	0.26	0.13	1.81	0.44		
1,350	0.29	0.15	2.00	0.49		
1,500	0.32	0.16	2.20	0.54		
1,650	0.35	0.18	2.39	0.60		
1,750	0.37	0.18	2.53	0.64		
1,800	0.38	0.19	2.59	0.65		
2,000	0.42	0.21	2.85	0.73		
2,300	0.48	0.24	3.24	0.83		
2,500	0.51	0.26	3.51	0.91		
2,700	0.55	0.28	3.77	0.98		
3,000	0.61	0.30	4.17	1.09		
3,500	0.71	0.35	4.82	1.27		
3,700	0.74	0.37	5.09	1.34		

(注) 1. [略]

2. バックホウは、賃料とする。

3. バックホウは、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。

4. [略]

鋼管		本	N	表4.1又は表4.2又は表4.3
世話役		人		表4.4
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 4.9t吊	日	1	表3.1又は表3.2又は表3.3
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 〇〇t吊	〃	1	表3.1又は表3.2又は表3.3
クローラクレーン運	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 60~65t吊	〃	1	表3.2又は表3.3
計				

(注) [略]

(2)・(3) [略]

(4) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
クローラクレーン	排出ガス対策型(第1次基準値) (油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 60t~65t吊	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→83 機械損料数量→1.78

⑦ コルゲートパイプ機械布設

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 コルゲートパイプ機械布設歩掛 (10m当り)

材料 呼び径 (mm)	労務歩掛(人)			使用機械 バックホウ(クレーン機能付)		諸雑費率 (%)
	世話役	特殊 作業員	普通 作業員	運転時間 (日)	規格	
600	0.15	0.07	1.02	0.22	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t吊	0.5
800	0.19	0.09	1.28	0.29		
1,000	0.23	0.11	1.54	0.36		
1,200	0.26	0.13	1.81	0.44		
1,350	0.29	0.15	2.00	0.49		
1,500	0.32	0.16	2.20	0.54		
1,650	0.35	0.18	2.39	0.60		
1,750	0.37	0.18	2.53	0.64		
1,800	0.38	0.19	2.59	0.65		
2,000	0.42	0.21	2.85	0.73		
2,300	0.48	0.24	3.24	0.83		
2,500	0.51	0.26	3.51	0.91		
2,700	0.55	0.28	3.77	0.98		
3,000	0.61	0.30	4.17	1.09		
3,500	0.71	0.35	4.82	1.27		
3,700	0.74	0.37	5.09	1.34		

(注) 1. [略]

2. バックホウ(クレーン機能付)は、賃料とする。

3. バックホウ(クレーン機能付)は、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。

4. [略]

4. 単価表

(1) コルゲートパイプ機械布設 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
コルゲートパイプ		m	10	
コルゲートパッキング		〃	10	パッキングが必要な場合
世話役		人		表 3. 1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型 (第2次基準値) バケット容量 0.8m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型 (第2次基準値) バケット容量 0.8m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →50 機械賃料数量 →1.74

⑧~⑩ [略]

⑪ 制水弁据付工 (機械)

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

制水弁の据付歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 制水弁機械据付歩掛 (1基当り)

施工区分		据付歩掛				使用機械			
形式	材質	口径	世話役	特殊作業員	普通作業員	フランジ形		フランジレス形	
		(mm)	(人)	(人)	(人)	規格	運転日数 (日)	規格	運転日数 (日)
仕切弁	樹脂製・ 鑄鉄製	250 ※註4	0.08	0.31	0.38	バックホウ (クローラ型) 標準型	0.25	-	-
		300				クレーン機能付き			
		350				排出ガス対策型 (第2次基準値) バケット容量 0.45m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t			
		400	0.10	0.41	0.52	0.28			
		450							
		500	0.14	0.56	0.69	ラフテレンクレーン	0.33		
		600				油圧伸縮ジブ型			
		700				排出ガス対策型 (第2次基準値)			
		800				最大吊上能力			
		900	0.21	0.85	1.06	0.41			
1,000	25t 吊								
バタ	鑄鉄・ 樹脂製	250 ※註4 300	0.08	0.31	0.38	バックホウ (クローラ型)	0.25	バックホウ (クローラ型)	0.25

4. 単価表

(1) コルゲートパイプ機械布設 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
コルゲートパイプ		m	10	
コルゲートパッキング		〃	10	パッキングが必要な場合
世話役		人		表 3. 1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →50 機械賃料数量 →1.74

⑧~⑩ [略]

⑪ 制水弁据付工 (機械)

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

制水弁の据付歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 制水弁機械据付歩掛 (1基当り)

施工区分		据付歩掛				使用機械			
形式	材質	口径	世話役	特殊作業員	普通作業員	フランジ形		フランジレス形	
		(mm)	(人)	(人)	(人)	規格	運転日数 (日)	規格	運転日数 (日)
仕切弁	樹脂製・ 鑄鉄製	250 ※註4	0.08	0.31	0.38	バックホウ (クレーン機能付)	0.25	-	-
		300				排出ガス対策型 (第2次基準値)			
		350				クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊			
		400	0.10	0.41	0.52	0.28			
		450							
		500	0.14	0.56	0.69	ラフテレンクレーン	0.33		
		600				油圧伸縮ジブ型			
		700				排出ガス対策型 (第2次基準値)			
		800				油圧伸縮 ジブ型			
		900	0.21	0.85	1.06	0.41			
1,000	25t 吊								
バタ	鑄鉄・ 樹脂製	250 ※註4 300	0.08	0.31	0.38	バックホウ (クレーン機能付)	0.25	バックホウ (クレーン機能付)	0.25

	350							
	400							
	450	0.11	0.43	0.54				
	500				0.28			0.28
	600	0.15	0.58	0.73				
	700				0.33			0.33
	800	0.18	0.72	0.91				
	900				0.37			0.37
	1,000							
	1,100	0.27	1.08	1.35				0.48
	1,200				0.48			0.48
	1,350	0.27	1.08	1.35				
	1,500	0.35	1.38	1.72				

- (注) 1. [略]  
 2. バックホウ及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。  
 3. バックホウは、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。  
 4. [略]

#### 4. 単価表

(1) 制水弁機械据付工 1 基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
制水弁		基	1	表 3. 1
世話役		人		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量 0.45m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	日		〃
ラフテレーンクレーン 賃料	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第2次基準値) 最大吊上能力 25t 吊	〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量 0.45m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→52 機械賃料数量→1.58

⑫・⑬ [略]

## 8. 道路工

① [略]

② コンクリート舗装工

1. [略]

	350							
	400							
	450	0.11	0.43	0.54				
	500				0.28			0.28
	600	0.15	0.58	0.73				
	700				0.33			0.33
	800	0.18	0.72	0.91				
	900				0.37			0.37
	1,000							
	1,100	0.27	1.08	1.35				0.48
	1,200				0.48			0.48
	1,350	0.27	1.08	1.35				
	1,500	0.35	1.38	1.72				

- (注) 1. [略]  
 2. バックホウ(クレーン機能付)及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。  
 3. バックホウ(クレーン機能付)は、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。  
 4. [略]

#### 4. 単価表

(1) 制水弁機械据付工 1 基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
制水弁		基	1	表 3. 1
世話役		人		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
バックホウ(クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	日		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→52 機械賃料数量→1.58

⑫・⑬ [略]

## 8. 道路工

① [略]

② コンクリート舗装工

1. [略]

2. 2層仕上げの場合

2-1・2-2 [略]

2-3-1 機種を選定

機械舗設での使用機械の機種、規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種、規格の選定

車線数	施工内容	機 械 名	規 格	単 位	数 量
1車線	舗 設	コンクリートスプレッダ	[ブレード式] 3.0~7.5m	台	1
		コンクリートフィニッシャ	[勾配固定式] 3.0~7.5m	〃	1
		コンクリートレベラー	[勾配固定式] 3.0~7.5m	〃	1
	舗設機械移設	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第3次基準値) [油圧伸縮ジブ型] 最大吊上能力25t吊	〃	1
2車線	舗 設	コンクリートスプレッダ	[勾配可変型・ブレード式] 5.0~8.5m	台	1
		コンクリートフィニッシャ	[勾配可変式] 5.0~8.5m	〃	1
		コンクリートレベラー	[勾配可変式] 5.0~8.5m	〃	1

2-3-2 舗設歩掛

舗設歩掛は、次表を標準とする。

表2.2 舗設歩掛 [略]

(注) 1. ~4. [略]

5. 諸雑費は、養生に使用するマット、散水車等の費用及び舗設に使用する軌道・型枠、機械（トラック（[クレーン装置付]通称4t積級、吊能力2.9t吊り）、コンクリートカッタ等）の費用であり、労務費及び機械運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

ただし、人力施工の場合は、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

6. [略]

2-3-3・2-3-4 [略]

2-4 [略]

2-5 単価表

(1) 機械舗設（1車）100m<sup>2</sup>当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表2.2
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
コ ン ク リ ー ト		m <sup>3</sup>		式2.1
石 粉 又 は、瀝 青 材		kg、ℓ		
鉄 網	D6 150×150	m <sup>2</sup>		
補 強 鉄 筋		kg		
縦 目 地	(膨張) (収縮)	m		目地材・目地板・スリップ

2. 2層仕上げの場合

2-1・2-2 [略]

2-3-1 機種を選定

機械舗設での使用機械の機種、規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種、規格の選定

車線数	施工内容	機 械 名	規 格	単 位	数 量
1車線	舗 設	コンクリートスプレッダ	ブレード式3~7.5m	台	1
		コンクリートフィニッシャ	勾配固定式3~7.5m	〃	1
		コンクリートレベラー	勾配固定式3~7.5m	〃	1
	舗設機械移設	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t吊	〃	1
2車線	舗 設	コンクリートスプレッダ	勾配可変型・ブレード式5~8.5m	台	1
		コンクリートフィニッシャ	勾配可変式5~8.5m	〃	1
		コンクリートレベラー	勾配可変式5~8.5m	〃	1

2-3-2 舗設歩掛

舗設歩掛は、次表を標準とする。

表2.2 舗設歩掛 [略]

(注) 1. ~4. [略]

5. 諸雑費は、養生に使用するマット、散水車等の費用及び舗設に使用する軌道・型枠、機械（トラック（クレーン装置付4t級、2.9t吊り）、コンクリートカッタ等）の費用であり、労務費及び機械運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

ただし、人力施工の場合は、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

6. [略]

2-3-3・2-3-4 [略]

2-4 [略]

2-5 単価表

(1) 機械舗設（1車）100m<sup>2</sup>当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表2.2
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
コ ン ク リ ー ト		m <sup>3</sup>		式2.1
石 粉 又 は、瀝 青 材		kg、ℓ		
鉄 網	D6 150×150	m <sup>2</sup>		
補 強 鉄 筋		kg		
縦 目 地	(膨張) (収縮)	m		目地材・目地板・スリップ

横目地	(膨張) (収縮)	〃		バー・チェア等含む
縦自由縁部		〃		目地材・目地板等を含む
コンクリートスプレッドダ運転	[ブレード式] 3.0~7.5m	h		表2. 2
コンクリートフィニッシャ運転	[勾配固定式] 3.0~7.5m	〃		〃
コンクリートレベラー運転	[勾配固定式] 3.0~7.5m	〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第3次基準値) [油圧伸縮ジブ型] 最大吊上能力25t吊	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) 機械舗設 (2車) 100m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表2. 2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
左官		〃		〃
コンクリート		m <sup>3</sup>		式2. 1
石粉又は、瀝青材		kg、ℓ		
鉄網	D 6 150×150	m <sup>2</sup>		

補強鉄筋		kg		
目地	(膨張) (収縮)	m		目地材・目地板・スリッパ バー・チェア等含む
横目地	(膨張) (収縮)	〃		
縦自由縁部		〃		目地材・目地板等を含む
コンクリートスプレッドダ運転	[勾配可変型・ブレード式] 5.0~8.5m	h		表2. 2
コンクリートフィニッシャ運転	[勾配固定式] 5.0~8.5m	〃		〃
コンクリートレベラー運転	[勾配固定式] 5.0~8.5m	〃		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(3) [略]

(4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
-----	----	-------	------

横目地	(膨張) (収縮)	〃		バー・チェア等含む
縦自由縁部		〃		目地材・目地板等を含む
コンクリートスプレッドダ運転	ブレード式 3~7.5m	h		表2. 2
コンクリートフィニッシャ運転	勾配固定式 3~7.5m	〃		〃
コンクリートレベラー運転	勾配固定式 3~7.5m	〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t吊	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) 機械舗設 (2車) 100m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表2. 2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
左官		〃		〃
コンクリート		m <sup>3</sup>		式2. 1
石粉又は、瀝青材		kg、ℓ		
鉄網	D 6 150×150	m <sup>2</sup>		

補強鉄筋		kg		
目地	(膨張) (収縮)	m		目地材・目地板・スリッパ バー・チェア等含む
横目地	(膨張) (収縮)	〃		
縦自由縁部		〃		目地材・目地板等を含む
コンクリートスプレッドダ運転	勾配可変型・ブレード式 5~8.5m	h		表2. 2
コンクリートフィニッシャ運転	勾配可変式 5~8.5m	〃		〃
コンクリートレベラー運転	勾配可変式 5~8.5m	〃		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(3) [略]

(4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
-----	----	-------	------

コンクリートスプレッダ	[ブレード式] 3.0~7.5m	機-1	
コンクリートフィニッシャ	[勾配固定式] 3.0~7.5m	機-1	
コンクリートレベラー	[勾配固定式] 3.0~7.5m	機-1	
コンクリートスプレッダ	[勾配可変型・ブレード式] 5.0~8.5m	機-1	
コンクリートフィニッシャ	[勾配固定式] 5.0~8.5m	機-1	
コンクリートレベラー	[勾配固定式] 5.0~8.5m	機-1	

③ グースアスファルト舗装工

1. ~4. [略]

5. 施工歩掛 (舗設工)

舗設工は、目地材の設置、型枠の設置・撤去、敷均しの作業である。なお、敷均しには、プリスタリング処理及びプレコート砕石散布作業を含むものとするが、これらの作業の有無による編成人員等の補正は行わない。

5-1 使用機械

使用機械は、次表を標準とする。

表5.1 機種を選定

機種	規格	単位	数量
グースアスファルトフィニッシャ	[グースアスファルトフィニッシャ] 排出ガス対策型 (第3次基準値) 2.4~4.5m	台	1

5-2~5-6 [略]

6. 単価表

(1)~(3) [略]

(4) 舗設工100m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D	表5.2、表5.3
特殊作業員		人	5×100/D	〃、〃
普通作業員		人	9×100/D	〃、〃
グースアスファルト混合物		t		式5.1、表5.4
目地材		m		必要量計上
プレコート砕石		kg		必要量計上
グースアスファルトフィニッシャ運転	[グースアスファルトフィニッシャ] 排出ガス対策型 (第3次基準値) 2.4~4.5m	日	1×100/D	表5.1、表5.3
諸雑費		式	1	表5.5
計				

(注) D: 日当り施工量

コンクリートスプレッダ	ブレード式 3~7.5m	機-1	
コンクリートフィニッシャ	勾配固定式 3~7.5m	機-1	
コンクリートレベラー	勾配固定式 3~7.5m	機-1	
コンクリートスプレッダ	勾配可変型・ブレード式 5~8.5m	機-1	
コンクリートフィニッシャ	勾配可変式 5~8.5m	機-1	
コンクリートレベラー	勾配可変式 5~8.5m	機-1	

③ グースアスファルト舗装工

1. ~4. [略]

5. 施工歩掛 (舗設工)

舗設工は、目地材の設置、型枠の設置・撤去、敷均しの作業である。なお、敷均しには、プリスタリング処理及びプレコート砕石散布作業を含むものとするが、これらの作業の有無による編成人員等の補正は行わない。

5-1 使用機械

使用機械は、次表を標準とする。

表5.1 機種を選定

機種	規格	単位	数量
グースアスファルトフィニッシャ	2.5~4.5m	台	1

5-2~5-6 [略]

6. 単価表

(1)~(3) [略]

(4) 舗設工100m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D	表5.2、表5.3
特殊作業員		人	5×100/D	〃、〃
普通作業員		人	9×100/D	〃、〃
グースアスファルト混合物		t		式5.1
目地材		m		必要量計上
プレコート砕石		kg		必要量計上
グースアスファルトフィニッシャ運転	2.5~4.5m	日	1×100/D	表5.1、表5.3
諸雑費		式	1	表5.5
計				

(注) D: 日当り施工量

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
グースアスファルト フィニッシャ	[グースアスファルトフィ ニッシャ]排出ガス対策型 (第3次基準値) 2.4~4.5 m	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→65 機械損料数量→1.58

④ PC橋架設工

1. [略]

2. 施工概要

標準施工フローは、次図を標準とする。

[略]

(注) 1. [略]

2. 桁下足場工について、PC単純床版の場合は側部足場工とする。

3. トラッククレーンによる架設

3-1 [略]

3-2 トラッククレーンによる架設歩掛

表 3. 1 トラッククレーンによる橋梁下からのPC桁架設歩掛

桁形式	規格・桁質量	編成人員(人/日)			トラッククレーン規格	1日当り桁架設 本数(本/日)
		橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員		
〔A活荷重〕 プレテンション PC単純 床版橋	AS-05(2.9t)	1	6	1	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 120t 吊	1.4
	AS-06(3.5t)					1.3
	AS-07(4.6t)					1.1
	AS-08(5.3t)					1.1
	AS-09(6.7t)					1.0
	AS-10(7.5t)					9
	AS-11(8.2t)					
	AS-12(7.4t)					
	AS-13(8.5t)					
	AS-14(9.1t)					
	AS-15(10.4t)					
	AS-16(11.7t)					
	AS-17(13.0t)					8
	AS-18(14.3t)					
AS-19(16.2t)						
AS-20(17.0t)						
AS-21(18.6t)						
AS-22(21.0t)						
AS-23(23.0t)						
AS-24(24.8t)						
〔B活荷重〕 プレテンション PC単純 床版橋	BS-05(2.9t)	1	6	1	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 120t 吊	1.4
	BS-06(3.5t)					1.3
	BS-07(4.6t)					1.1
	BS-08(5.3t)					1.1
	BS-09(6.7t)					1.0
	BS-10(7.5t)					9
	BS-11(9.1t)					
	BS-12(7.9t)					
	BS-13(8.5t)					

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
グースアスファルト フィニッシャ	2.5~4.5m	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→60 機械損料数量→1.58

④ PC橋架設工

1. [略]

2. 施工概要

標準施工フローは、次図を標準とする。

[略]

(注) 1. [略]

2. 桁下足場工について、プレテンションPC単純床版の場合は側部足場工とする。

3. トラッククレーンによる架設

3-1 [略]

3-2 トラッククレーンによる架設歩掛

表 3. 1 トラッククレーンによる橋梁下からのPC桁架設歩掛

桁形式	規格・桁質量	編成人員(人/日)			トラッククレーン規格	1日当り桁架設 本数(本/日)	
		橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員			
〔A活荷重〕 プレテンション PC単純 床版橋	AS-05(2.9t)	1	6	3	油圧伸縮ジブ型 120t 吊	2.1	
	AS-06(3.5t)					1.9	
	AS-07(4.6t)					1.7	
	AS-08(5.3t)					1.7	
	AS-09(6.7t)					1.5	
	AS-10(7.5t)					1.4	
	AS-11(8.2t)					1.3	
	AS-12(7.4t)					1.4	
	AS-13(8.5t)					1.4	
	AS-14(9.1t)					1.3	
	AS-15(10.4t)						
	AS-16(11.7t)						
	AS-17(13.0t)						
	AS-18(14.3t)						
AS-19(16.2t)							
AS-20(17.0t)							
AS-21(18.6t)	1.2						
AS-22(21.0t)							
AS-23(23.0t)							
AS-24(24.8t)							
〔B活荷重〕 プレテンション PC単純 床版橋		BS-05(2.9t)	1	6	3	油圧伸縮ジブ型 120t 吊	2.1
		BS-06(3.5t)					1.9
		BS-07(4.6t)					1.7
	BS-08(5.3t)	1.7					
	BS-09(6.7t)	1.5					
	BS-10(7.5t)	1.4					
	BS-11(9.1t)	1.3					
	BS-12(7.9t)	1.3					
	BS-13(8.5t)	1.4					

	BS-14(9.7t)					
	BS-15(11.0t)					
	BS-16(11.7t)					
	BS-17(13.0t)					
	BS-18(14.3t)					
	BS-19(16.2t)					
	BS-20(17.8t)					
	BS-21(19.4t)					
BS-22(21.9t)	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 160t 吊		<u>8</u>			
BS-23(23.9t)						
BS-24(25.7t)	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 120t 吊	1	6	<u>1</u>		
AG-18(16.5t)						
AG-19(18.9t)						
AG-20(20.0t)						
AG-21(22.5t)						
AG-22(23.6t)	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 160t 吊		<u>6</u>			
AG-23(26.4t)						
AG-24(27.5t)	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 200t 吊		<u>5</u>			
〔B活荷重〕 プレテンション PC単純 T桁橋	BG-18(17.9t)	1	6	<u>1</u>		
	BG-19(18.9t)					
	BG-20(21.5t)					
	BG-21(22.5t)					
	BG-22(25.3t)					
BG-23(26.4t)						
BG-24(29.4t)	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 200t 吊		<u>5</u>			

	BS-14(9.7t)					
	BS-15(11.0t)					
	BS-16(11.7t)					
	BS-17(13.0t)					
	BS-18(14.3t)					
	BS-19(16.2t)					
	BS-20(17.8t)					
	BS-21(19.4t)					
BS-22(21.9t)	油圧伸縮ジブ型 160t 吊		<u>12</u>			
BS-23(23.9t)						
BS-24(25.7t)	油圧伸縮ジブ型 120t 吊	1	6	<u>3</u>		
AG-18(16.5t)						
AG-19(18.9t)						
AG-20(20.0t)						
AG-21(22.5t)						
AG-22(23.6t)	油圧伸縮ジブ型 160t 吊		<u>9</u>			
AG-23(26.4t)						
AG-24(27.5t)	油圧伸縮ジブ型 200t 吊		<u>7</u>			
〔B活荷重〕 プレテンション PC単純 T桁橋	BG-18(17.9t)	1	6	<u>3</u>		
	BG-19(18.9t)					
	BG-20(21.5t)					
	BG-21(22.5t)					
	BG-22(25.3t)					
BG-23(26.4t)						
BG-24(29.4t)	油圧伸縮ジブ型 200t 吊		<u>7</u>			

表 3. 2 トラッククレーンによる橋台背面からのPC桁架設歩掛

桁形式	規格・桁質量	編成人員(人/日)			トラッククレーン規格	1日当り桁架設 本数(本/日)		
		橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員				
〔A活荷重〕 プレテンション PC単純 床版橋	AS-05(2.9t)	1	6	<u>1</u>	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 120t 吊	<u>15</u>		
	AS-06(3.5t)					<u>13</u>		
	AS-07(4.6t)					<u>12</u>		
	AS-08(5.3t)					<u>11</u>		
	AS-09(6.7t)					<u>10</u>		
	AS-10(7.5t)					<u>9</u>		
	AS-11(8.2t)					<u>10</u>		
	AS-12(7.4t)					<u>9</u>		
	AS-13(8.5t)					<u>10</u>		
	AS-14(9.1t)					<u>9</u>		
	AS-15(10.4t)					<u>9</u>		
	AS-16(11.7t)					<u>9</u>		
	AS-17(13.0t)					油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 160t 吊	<u>9</u>	
	AS-18(14.3t)					油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 200t 吊		<u>9</u>
	AS-19(16.2t)							
	AS-20(17.0t)							
	AS-21(18.6t)							
AS-22(21.0t)								
AS-23(23.0t)	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 200t 吊		<u>8</u>					
AS-24(24.8t)								
〔B活荷重〕 プレテンション PC単純 床版橋	BS-05(2.9t)	1	6	<u>1</u>	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 120t 吊	<u>15</u>		
	BS-06(3.5t)					<u>13</u>		
	BS-07(4.6t)					<u>12</u>		
	BS-08(5.3t)					<u>12</u>		

表 3. 2 トラッククレーンによる橋台背面からのPC桁架設歩掛

桁形式	規格・桁質量	編成人員(人/日)			トラッククレーン規格	1日当り桁架設 本数(本/日)		
		橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員				
〔A活荷重〕 プレテンション PC単純 床版橋	AS-05(2.9t)	1	6	<u>3</u>	油圧伸縮ジブ型 120t 吊	<u>23</u>		
	AS-06(3.5t)					<u>20</u>		
	AS-07(4.6t)					<u>18</u>		
	AS-08(5.3t)					<u>17</u>		
	AS-09(6.7t)					<u>15</u>		
	AS-10(7.5t)					<u>14</u>		
	AS-11(8.2t)					<u>15</u>		
	AS-12(7.4t)					<u>14</u>		
	AS-13(8.5t)					<u>14</u>		
	AS-14(9.1t)					<u>14</u>		
	AS-15(10.4t)					<u>14</u>		
	AS-16(11.7t)					<u>13</u>		
	AS-17(13.0t)					油圧伸縮ジブ型 160t 吊	<u>13</u>	
	AS-18(14.3t)					油圧伸縮ジブ型 200t 吊		<u>13</u>
	AS-19(16.2t)							
	AS-20(17.0t)							
	AS-21(18.6t)							
AS-22(21.0t)								
AS-23(23.0t)	油圧伸縮ジブ型 200t 吊		<u>12</u>					
AS-24(24.8t)								
〔B活荷重〕 プレテンション PC単純 床版橋	BS-05(2.9t)	1	6	<u>3</u>	油圧伸縮ジブ型 120t 吊	<u>23</u>		
	BS-06(3.5t)					<u>20</u>		
	BS-07(4.6t)					<u>18</u>		
	BS-08(5.3t)					<u>18</u>		

	BS-09(6.7t)					1.1	
	BS-10(7.5t)					1.0	
	BS-11(9.1t)					0.9	
	BS-12(7.9t)					1.0	
	BS-13(8.5t)						
	BS-14(9.7t)					0.9	
	BS-15(11.0t)						
	BS-16(11.7t)						
	BS-17(13.0t)					油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 160t 吊	0.9
	BS-18(14.3t)					油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 200t 吊	0.9
BS-19(16.2t)							
BS-20(17.8t)							
BS-21(19.4t)							
BS-22(21.9t)							
BS-23(23.9t)	0.8						
BS-24(25.7t)							
〔A活荷重〕 プレテンション PC単純 T桁橋	AG-18(16.5t)	1	6	1	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 200t 吊	0.7	
	AG-19(18.9t)						
	AG-20(20.0t)						
	AG-21(22.5t)						
	AG-22(23.6t)						
AG-23(26.4t)	0.6						
AG-24(27.5t)							
〔B活荷重〕 プレテンション PC単純 T桁橋	BG-18(17.9t)	1	6	1	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 200t 吊	0.7	
	BG-19(18.9t)						
	BG-20(21.5t)						
	BG-21(22.5t)						
	BG-22(25.3t)					0.6	

(注) 1. ~ 2. [略]

3. 本歩掛は、架設高さ10m程度、作業半径は橋梁下からの架設の場合は10m程度、橋台背面からの架設の場合は8~18m程度を標準とし、現場条件により架設用トラッククレーンの規格が上表により難しい場合は、現場条件に適した規格のトラッククレーンを選定する。

4. ~ 7. [略]

### 3-3 単価表

#### (1) トラッククレーンによるPC桁架設10本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋りょう世話役		人		表3.1、表3.2
橋りょう特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 〇〇t 吊	日		〃
計				

### 4. 横組工

#### 4-1 鉄筋工

##### 4-1-1 鉄筋加工・組立

間詰床版及び横桁の鉄筋加工・組立歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 間詰床版及び横桁の鉄筋加工・組立歩掛 (1t当り)

編成人員 (人)			諸雑费率 (%)
世話役	鉄筋工	普通作業員	
0.8	3.8	1.7	3

(注) [略]

	BS-09(6.7t)					1.7	
	BS-10(7.5t)					1.5	
	BS-11(9.1t)					1.4	
	BS-12(7.9t)					1.5	
	BS-13(8.5t)						
	BS-14(9.7t)					1.4	
	BS-15(11.0t)						
	BS-16(11.7t)						
	BS-17(13.0t)					油圧伸縮ジブ型 160t 吊	1.3
	BS-18(14.3t)					油圧伸縮ジブ型 200t 吊	1.3
BS-19(16.2t)							
BS-20(17.8t)							
BS-21(19.4t)							
BS-22(21.9t)							
BS-23(23.9t)	1.2						
BS-24(25.7t)							
〔A活荷重〕 プレテンション PC単純 T桁橋	AG-18(16.5t)	1	6	3	油圧伸縮ジブ型 200t 吊	1.0	
	AG-19(18.9t)						
	AG-20(20.0t)						
	AG-21(22.5t)						
	AG-22(23.6t)						
AG-23(26.4t)	0.9						
AG-24(27.5t)							
〔B活荷重〕 プレテンション PC単純 T桁橋	BG-18(17.9t)	1	6	3	油圧伸縮ジブ型 200t 吊	1.0	
	BG-19(18.9t)						
	BG-20(21.5t)						
	BG-21(22.5t)						
	BG-22(25.3t)					0.9	

(注) 1. ~ 2. [略]

3. 本歩掛は、架設高さ10m程度、作業半径は橋梁下からの架設の場合は10m程度、橋台上背面からの架設の場合は8~18m程度を標準とし、現場条件により架設用トラッククレーンの規格が上表により難しい場合は、現場条件に適した規格のトラッククレーンを選定する。

4. ~ 7. [略]

### 3-3 単価表

#### トラッククレーンによるPC桁架設10本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋りょう世話役		人		表3.1、表3.2
橋りょう特殊工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 〇〇t 吊	日		〃
計				

### 4. 横組工

#### 4-1 鉄筋工

##### 4-1-1 鉄筋加工・組立

間詰床版及び横桁の鉄筋加工・組立歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 間詰床版及び横桁の鉄筋加工・組立歩掛 (1t当り)

編成人員 (人)			諸雑费率 (%)
世話役	鉄筋工	普通作業員	
0.8	3.8	1.7	4

(注) [略]

4-1-2 [略]

4-2 コンクリート工

横組の型枠及びコンクリート作業に適用し、PC合成桁橋の床版は含まない。

4-2-1・4-2-2 [略]

4-2-3 コンクリート工歩掛

型枠の製作、設置・撤去、コンクリートポンプ車による打設及び養生歩掛は、次表を標準とする。

表 4.4 コンクリート工歩掛 (10m<sup>3</sup>当り)

桁形式	編成人員(人)				諸雑費率(%)
	橋りょう世話役	特殊作業員	型わく工	普通作業員	
プレテンションT桁	2.9	4.0	9.3	9.1(7.5)	6(5)
プレテンション床版桁	1.4	3.1	—	1.6(0.6)	8(1)

- (注) 1. プレテンション床版桁の使用材料として、埋設型枠、埋設型枠端部を別途計上する。  
 2. 埋設型枠のロス率は0.05とし、使用数量は次式による。使用数量=設計数量×(1+ロス率)(m)  
 3. コンクリートポンプ車の運転時間はコンクリート10m<sup>3</sup>当り1.5時間とする。  
 4. 本歩掛はブーム打設を標準としているが困難な場合、又は現場条件により配管打設が適する場合は、上記歩掛にて配管打設も適用できる。なお、配管式コンクリートポンプ車の規格は、90~100m<sup>3</sup>/hとする。  
 5. 配管打設の場合の圧送管組立・撤去労務(30m以下)を含むものとし、30mを超える場合は「施工パッケージ積算基準3.コンクリート工 ②コンクリート工5. 施工歩掛5-1 圧送管組立、撤去」による。  
 6. ブーム打設は、打設高さ、15m以下、投入水平距離15m以下の場合に適用する。  
 7. 1日当り打設量は、40m<sup>3</sup>を標準とする。  
 8. プレテンションT桁の諸雑費は、型枠用材料、はく離材、養生マット及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。  
 9. プレテンション床版桁の諸雑費は、養生マット及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。  
 10. 養生については、養生覆材の被覆・水散布養生を標準とする。養生面積は、間詰床版の面積とする。給熱養生等の特別な養生を必要とする場合の普通作業員の歩掛及び諸雑費率は、( )内の数値とし、養生費用は別途計上する。  
 11. 型枠は、プレテンションT桁及びポストテンション桁については一般型枠、プレテンション床版桁については埋設型枠を標準とする。

4-2-4 [略]

4-3 PCI

4-3-1 PCI工歩掛

ケーブルの切断、シースの組立、ケーブルの挿入、整正、グラウト注入歩掛は、次表を標準とする。

表 4.6 PCI工歩掛 (ケーブル100m当り)

桁形式	種類	規格	編成人員(人)			諸雑費率(%)
			橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員	
プレテンション桁	シングルストラットシステム	390kN(40t)型(1S17.8)	0.65	2.0	1.2	33
		450kN(50t)型(1S19.3)				
		570kN(60t)型(1S21.8)				

(注) [略]

4-1-2 [略]

4-2 コンクリート工

横組の型枠及びコンクリート作業に適用し、PC合成桁橋の床版は含まない。

4-2-1・4-2-2 [略]

4-2-3 コンクリート工歩掛

型枠の製作、設置・撤去、コンクリートポンプ車による打設及び養生歩掛は、次表を標準とする。

表 4.4 コンクリート工歩掛 (10m<sup>3</sup>当り)

桁形式	編成人員(人)				諸雑費率(%)
	橋りょう世話役	特殊作業員	型わく工	普通作業員	
プレテンションT桁	2.9	4.0	9.3	9.1(7.5)	8(7)
プレテンション床版桁	1.6	1.7	2.5	3.9(2.4)	10(5)

- (注) [新設]  
 [新設]  
 1. コンクリートポンプ車の運転時間はコンクリート10m<sup>3</sup>当り1.5時間とする。  
 2. 本歩掛はブーム打設を標準としているが困難な場合、又は現場条件により配管打設が適する場合は、上記歩掛にて配管打設も適用できる。なお、配管式コンクリートポンプ車の規格は、90~100m<sup>3</sup>/hとする。  
 3. 配管打設の場合の圧送管組立・撤去労務(30m以下)を含むものとし、30mを超える場合は「施工パッケージ積算基準3.コンクリート工 ②コンクリート工5. 施工歩掛5-1 圧送管組立、撤去」による。  
 4. ブーム打設は、打設高さ、15m以下、投入水平距離15m以下の場合に適用する。  
 5. 1日当り打設量は、40m<sup>3</sup>を標準とする。  
 6. 諸雑費は、型枠用材料、はく離材、養生マット及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。  
 [新設]  
 7. 養生については、養生覆材の被覆・水散布養生を標準とする。養生面積は、間詰床版の面積とする。給熱養生等の特別な養生を必要とする場合の普通作業員の歩掛及び諸雑費率は、( )内の数値とし、養生費用は別途計上する。  
 8. 型枠は、プレテンションT桁及びポストテンション桁については一般型枠、プレテンション床版桁については埋設型枠を標準とする。

4-2-4 [略]

4-3 PCI

4-3-1 PCI工歩掛

ケーブルの切断、シースの組立、ケーブルの挿入、整正、グラウト注入歩掛は、次表を標準とする。

表 4.6 PCI工歩掛 (ケーブル100m当り)

桁形式	種類	規格	編成人員(人)			諸雑費率(%)
			橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員	
プレテンション桁	シングルストラットシステム	390kN(40t)型(1S17.8)	0.65	2.0	1.2	39
		450kN(50t)型(1S19.3)				
		570kN(60t)型(1S21.8)				

(注) [略]

4-3-2 [略]

4-4 緊張工

4-4-1 緊張工歩掛

定着装置の設置、緊張、モルタルあと埋め作業の歩掛は、次表を標準とする。

表 4.8 緊張工歩掛 (10 ケーブル当り)

種類	規格	編成人員 (人)			諸雑費率 (%)
	PCケーブル	橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員	
シングルストラットシステム	390kN(40t)型(1S17.8)	0.4	1.2	0.6	1
	450kN(50t)型(1S19.3)				
	570kN(60t)型(1S21.8)				

(注) [略]

4-4-2 [略]

4-4-3 機械器具損料

機械器具損料は、次表を標準とする。

表 4.9 機械器具損料 [略]

(注)  $H = n / N \times K \times 1.7$  K=1 工事の径間数  
 n=1 径間片締め本数  
 N=1 日当りの片締め本数  
 1日当りの片締め本数は、27 本を標準とする。

4-5 足場工、防護工及び登り架橋工

4-5-1 足場工

(1) 桁下足場

桁下足場工は、パイプ吊足場を標準とし、足場工費は、次式による。  
 なお、工費には側部(朝顔)などの費用も含まれている。

$$\text{足場工費} = \frac{(L_1 \times \alpha) + (L_2 \times \beta) X + N y}{A} \times A \quad (\text{円})$$

$L_1, L_2$ : 賃料係数 (表 4.10)

$\alpha$ : 主要部材の基本料 (合板足場板 0.24m×4m 1枚、足場パイプ φ48.6×1m 1本、足場チェーン φ6×4m 1本)

$\beta$ : 主要部材の月当り賃料 (合板足場板 0.24m×4m 1枚、足場パイプ φ48.6×1m 1本、足場チェーン φ6×4m 1本) X: 足場を設置している月数 (月)

X: 桁下足場の設置月数は、2ヶ月を標準とする。

N: 歩掛係数 (表 4.10)

y: 橋りょう特殊工単価 (円/人)

A: 橋面積 (m<sup>2</sup>)

$$A = W \times L \quad (\text{m}^2)$$

W: 全幅員で地覆外縁間距離、壁高欄の場合は壁高欄外縁間距離 (m)

L: 橋長 (m)

(注) Nは、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

賃料係数( $L_1, L_2$ )、歩掛係数(N)は、次表を標準とする。

表 4.10 プレテンション桁用足場賃料係数 ( $L_1, L_2$ )、歩掛係数 (N)

	賃料係数 ( $L_1$ )	賃料係数 ( $L_2$ )	歩掛係数 (N)
両側朝顔	0.93	0.84	0.11
片側朝顔	0.87	0.80	0.10

(2) 側部足場

4-3-2 [略]

4-4 緊張工

4-4-1 緊張工歩掛

定着装置の設置、緊張、モルタルあと埋め作業の歩掛は、次表を標準とする。

表 4.8 緊張工歩掛 (10 ケーブル当り)

種類	規格	編成人員 (人)			諸雑費率 (%)
	PCケーブル	橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員	
シングルストラットシステム	390kN(40t)型(1S17.8)	0.4	1.2	0.6	3
	450kN(50t)型(1S19.3)				
	570kN(60t)型(1S21.8)				

(注) [略]

4-4-2 [略]

4-4-3 機械器具損料

機械器具損料は、次表を標準とする。

表 4.9 機械器具損料 [略]

(注)  $H = n / N \times K \times 1.7$  K=1 工事の径間数  
 n=1 径間片締め本数  
 N=1 日当りの片締め本数  
 1日当りの片締め本数は、39 本を標準とする。

4-5 足場工、防護工及び登り架橋工

4-5-1 足場工

(1) 桁下足場

桁下足場工は、パイプ吊足場を標準とし、足場工費は、次式による。  
 なお、工費には側部(朝顔)などの費用も含まれている。

$$\text{足場工費} = \frac{(L_1 + L_2 X + N y)}{A} \times A \quad (\text{円})$$

$L_1, L_2$ : 賃料係数 (表 4.10)

X: 足場を設置している月数 (月)

桁下足場の設置月数は、2ヶ月を標準とする。

N: 歩掛係数 (表 4.10)

y: 橋りょう特殊工単価 (円/人)

A: 橋面積 (m<sup>2</sup>)

$$A = W \times L \quad (\text{m}^2)$$

W: 全幅員で地覆外縁間距離、壁高欄の場合は壁高欄外縁間距離 (m)

L: 橋長 (m)

賃料係数( $L_1, L_2$ )、歩掛係数(N)は、次表を標準とする。

表 4.10 プレテンション桁用足場賃料係数 ( $L_1, L_2$ )、歩掛係数 (N)

	賃料係数 ( $L_1$ )	賃料係数 ( $L_2$ )	歩掛係数 (N)
両側朝顔	165	200	0.10
片側朝顔	155	190	0.094

(2) 側部足場

側部足場工の足場工費は、次式による。

$$\text{足場工費} = (140 + 165X + 0.24y) \times L \quad (\text{円})$$

$\alpha$  : 主要部材の基本料 (合板足場板 0.24m×4m 1枚、足場パイプ φ48.6×1m 1本)  
 $\beta$  : 主要部材の月当り賃料 (合板足場板 0.24m×4m 1枚、足場パイプ φ48.6×1m 1本)  
X : 側部足場を供用している月数 (月)  
y : 橋りょう特殊工単価 (円/人)  
L : 足場総延長 (m)

(注) yの前数値は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

### (3) 橋台・橋脚回り足場ブラケット工

橋台・橋脚回り足場ブラケット工の足場工費は、次式による。

$$\text{足場工費} = \frac{(12.68 \times \alpha) + (4.76 \times \beta) X + 0.41y}{L} \times L$$

$\alpha$  : 主要部材の基本料 (合板足場板 0.24m×4m 1枚、足場パイプ φ48.6×1m 1本)  
 $\beta$  : 主要部材の月当り賃料 (合板足場板 0.24m×4m 1枚、足場パイプ φ48.6×1m 1本)  
X : 足場ブラケットを供用している月数 (月)  
y : 橋りょう特殊工単価 (円/人)  
L : 足場総延長 (m)

足場延長は下式による。

$$1 \text{ 橋脚当り足場延長 (m)} = (\text{橋脚幅} + \text{橋脚長}) \times 2$$

$$1 \text{ 橋台当り足場延長 (m)} = \text{橋台幅} + \text{橋台長} \times 2$$

(注) yの前数値は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

## 4-5-2 防護工

### (1) 板張防護工

桁下に鉄道、道路等があり、第三者に危害を及ぼすおそれのある場合に設置し、4-5-1(1)で求めた桁下足場工費に別途計上する。

なお、工費には、側面防護(朝顔)の費用も含む。

$$\text{防護工費 (両側朝顔)} = \frac{(0.36 \times \alpha) + (0.49 \times \beta) X + 0.06y}{A} \times A$$

$$\text{防護工費 (片側朝顔)} = \frac{(0.28 \times \alpha) + (0.37 \times \beta) X + 0.05y}{A} \times A$$

$\alpha$  : 主要部材の基本料 (合板足場板 0.24m×4m 1枚、足場パイプ φ48.6×1m 1本、足場チェーン φ6×4m 1本)

$\beta$  : 主要部材の月当り賃料 (合板足場板 0.24m×4m 1枚、足場パイプ φ48.6×1m 1本、足場チェーン φ6×4m 1本)

X : 防護部を供用している月数 (月)

y : 橋りょう特殊工単価 (円/人)

A : 防護工必要橋面積 (m<sup>2</sup>)

$$A = W \times L \quad (\text{m}^2)$$

W : 全幅員で地覆外縁間距離、壁高欄の場合は壁高欄外縁間距離 (m)

L : 防護工必要長 (m)

(注) yの前数値は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

### (2) [略]

### (3) ネット防護工

主桁をトラッククレーンを用いて架設する場合に転落防止及び落下物防止の目的で設置する。

ネット防護工費は次式による。

$$\text{ネット防護工費} = \frac{(1.19 \times \alpha) + (1.19 \times \beta) X + 0.02y}{A} \times A$$

$\alpha$  : 主要部材の基本料 (安全ネット 網目 15mm 1枚)

$\beta$  : 主要部材の月当り賃料 (安全ネット 網目 15mm 1枚)

X : 防護部を供用している月数 (月)

y : 橋りょう特殊工単価 (円/人)

A : 橋面積 (m<sup>2</sup>)

$$A = \text{全幅員} \times \text{橋長}$$

(注) yの前数値は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

側部足場(スラブ桁橋)の足場工費は、次式による。

$$\text{足場工費} = (140 + 165X + 0.24y) \times L \quad (\text{円})$$

X : 足場を設置している月数 (月)

側部足場(スラブ橋桁)の設置月数は1ヶ月を標準とする。

y : 橋りょう特殊工単価 (円/人)

L : 足場総延長 (m)

### (3) 橋台・橋脚回り足場ブラケット工

橋台・橋脚回り足場ブラケット工の足場工費は、次式による。

$$\text{足場工費} = \frac{(1,600 + 900X + 0.38y) \times L}{L} \quad (\text{円})$$

X : 足場を設置している月数 (月)

足場ブラケットの設置月数は2ヶ月を標準とする。

y : 橋りょう特殊工単価 (円/人)

L : 足場総延長 (m)

足場延長は下式による。

$$1 \text{ 橋脚当り足場延長 (m)} = (\text{橋脚幅} + \text{橋脚長}) \times 2$$

$$1 \text{ 橋台当り足場延長 (m)} = \text{橋台幅} + \text{橋台長} \times 2$$

## 4-5-2 防護工

### (1) 板張防護工

桁下に鉄道、道路等があり、第三者に危害を及ぼすおそれのある場合に設置し、4-5-1(1)で求めた桁下足場工費に別途計上する。

なお、工費には、側面防護(朝顔)の費用も含む。

$$\text{防護工費 (両側朝顔)} = \frac{(70 + 110X + 0.05y) \times A}{A}$$

$$\text{防護工費 (片側朝顔)} = \frac{(65 + 100X + 0.04y) \times A}{A}$$

X : 防護工設置月数であり、足場設置月数と同じとする。 (月)

y : 橋りょう特殊工単価 (円/人)

A : 防護工必要橋面積 (m<sup>2</sup>)

$$A = W \times L \quad (\text{m}^2)$$

W : 全幅員で地覆外縁間距離、壁高欄の場合は壁高欄外縁間距離 (m)

L : 防護工必要長 (m)

### (2) [略]

### (3) ネット防護工

主桁をトラッククレーンを用いて架設する場合に転落防止及び落下物防止の目的で設置する。

ネット防護工費は次式による。

$$\text{ネット防護工費} = \frac{(20 + 25X + 0.02y) \times A}{A} \quad (\text{円})$$

X : 防護設置月数 (月)

ネット防護工の設置月数は1ヶ月を標準とする。

y : 橋りょう特殊工単価 (円/人)

A : 橋面積 (m<sup>2</sup>)

$$A = \text{全幅員} \times \text{橋長}$$

5. 支承工

5-1 機種の選定

ゴム支承据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表 5. 1 機種の選定

機 械 名	規 格
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 25t 吊

- (注) 1. [略]  
2. ゴム支承Bタイプのみ上記機械を計上する。また、現場条件により、これにより難しい場合は別途考慮する。

5-2 施工歩掛

ゴム支承据付歩掛は、次表を標準とする。

表 5. 2 ゴム支承据付歩掛

支承種類	規格	1日当り施工量	編成人員(人/日)		
			橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員
ゴム支承 Aタイプ (簡易タイプ)		10m	1	2	2
ゴム支承 Aタイプ	60kg/個以下	9個			
ゴム支承 Bタイプ		3個			

- (注) 1. ゴム支承Aタイプには、アンカーバー、アンカーキャップ、スパイラル筋等の据付、はつり工、無収縮モルタル充填を含む。  
2. ゴム支承Bタイプには、はつり工、無収縮モルタル充填を含む。  
3. 無収縮モルタル材料は、別途計上する。

5-3 諸雑費

諸雑費は、支承の据付に使用する工具等損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表5. 3 諸雑费率 (%)

諸雑费率	<u>1</u>
------	----------

5-4 [略]

(1)・(2) [略]

(3) ゴム支承Bタイプ据付 10個当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
橋りょう世話役		人	10/N×1	表 5. 2
橋りょう特殊工		〃	10/N×2	〃
普通作業員		〃	10/N×2	〃
ゴ ム 支 承		個	10	
無 収 縮 モ ル タ ル		m <sup>3</sup>		必要数量計上
ラフテレーンクレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (第3次基準値)	日	10/N	表 5. 1

5. 支承工

5-1 機種の選定

ゴム支承据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表 5. 1 機種の選定

機 械 名	規 格
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊

- (注) 1. [略]  
2. ゴム支承(Bタイプ)のみ上記機械を計上する。また、現場条件により、これにより難しい場合は別途考慮する。

5-2 施工歩掛

ゴム支承据付歩掛は、次表を標準とする。

表 5. 2 ゴム支承据付歩掛

支承種類	規格	1日当り施工量	編成人員(人/日)		
			橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員
ゴム支承 Aタイプ (簡易タイプ)		10m	1	2	2
ゴム支承 Aタイプ	60kg/個以下	9個			
ゴム支承 Bタイプ		3個			

- (注) 1. 上記歩掛には、アンカーバー、アンカーキャップ、スパイラル筋等の据付、はつり工、無収縮モルタル充填を含む。

[新設]

2. 無収縮モルタル材料は、別途計上する。

5-3 諸雑費

諸雑費は、支承の据付に使用する工具等損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表5. 3 諸雑费率 (%)

諸雑费率	<u>4</u>
------	----------

5-4 [略]

(1)・(2) [略]

(3) ゴム支承Bタイプ据付 10個当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
橋りょう世話役		人	10/N×1	表 5. 2
橋りょう特殊工		〃	10/N×2	〃
普通作業員		〃	10/N×2	〃
ゴ ム 支 承		個	10	
無 収 縮 モ ル タ ル		m <sup>3</sup>		必要数量計上
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	10/N	表 5. 1

	最大吊上能力 25t 吊			
諸 雑 費		式	1	表 5. 3
計				

(注) [略]

## 6. 落橋防止工

### 6-1 機種を選定

落橋防止装置据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表 6. 1 機種を選定

機 械 名	規 格
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第3次基準値) 最大吊上能力 25t 吊

(注) [略]

### 6-2 [略]

### 6-3 諸雑費

諸雑費は、落橋防止装置据付に使用する工具等損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 6. 3 諸雑費率 (%)

諸雑費率	1
------	---

### 6-4 単価表

#### (1) 落橋防止装置据付 10 組当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
橋りょう世話役		人	10/N×1	表 6. 2
橋りょう特殊工		〃	10/N×3	〃
普通作業員		〃	10/N×1	〃
ラフテレーンクレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第3次基準値) 最大吊上能力 25t 吊	日	10/N	表 6. 1
落 橋 防 止 装 置		組	10	
諸 雑 費		式	1	表 6. 3
計				

## ⑤ 防護柵設置工

### 1. ガードケーブル設置工

1-1~1-3 [略]

### 1-4 使用機械

中間支柱の打込に使用する機械の機種・規格は次表を標準とする。

表 1. 2 機械の選定 (1日当り)

作業種別	機 械 名	規 格	単 位	台 数
端末支柱	トラック (クレーン装置付)	[クレーン装置付] 通称 4~	台	1

諸 雑 費		式	1	表 5. 3
計				

(注) [略]

## 6. 落橋防止工

### 6-1 機種を選定

落橋防止装置据付に使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表 6. 1 機種を選定

機 械 名	規 格
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊

(注) [略]

### 6-2 [略]

### 6-3 諸雑費

諸雑費は、落橋防止装置据付に使用する工具等損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 6. 3 諸雑費率 (%)

諸雑費率	4
------	---

### 6-4 単価

#### (1) 落橋防止装置据付 10 組当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
橋りょう世話役		人	10/N×1	表 6. 2
橋りょう特殊工		〃	10/N×3	〃
普通作業員		〃	10/N×1	〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	10/N	表 6. 1
落 橋 防 止 装 置		組	10	
諸 雑 費		式	1	表 6. 3
計				

## ⑤ 防護柵設置工

### 1. ガードケーブル設置工

1-1~1-3 [略]

### 1-4 使用機械

中間支柱の打込に使用する機械の機種・規格は次表を標準とする。

表 1. 2 機械の選定 (1日当り)

作業種別	機 械 名	規 格	単 位	台 数
端末支柱	トラック (クレーン装置付)	ベーストラック 4~4.5t 積・	台	1

中間支柱（コンクリート建込） ケーブル張		4.5t積級 吊能力2.9t		
中間支柱（機械打込）	ガードレール支柱打込機	[モンケン式]、モンケ質量 400～600kg	台	1

1-5 施工歩掛

1-5-1 端末支柱

端末支柱施工歩掛は、次表を標準とする。

表1.3 端末支柱施工歩掛 (100本当り)

名称	規格	単位	標準型	耐雪型
世話役		人	4.1	4.7
特殊作業員		〃	1.9	2.2
普通作業員		〃	11.0	12.4
トラック（クレーン装置付）運転	[クレーン装置付]通称4～ 4.5t積級 吊能力2.9t	h	106	117

(注) [略]

1-5-2 中間支柱

中間支柱施工歩掛は、次表を標準とする。

表1.4 中間支柱施工歩掛 (100本当り)

名称	規格	単位	土中・機械打込		コンクリート 建込
			標準型	耐雪型	
世話役		人	2.5	2.8	2.9
特殊作業員		〃	—	—	1.0
普通作業員		〃	5.9	7.1	8.7
ガードレール支柱打込機運転	[モンケン式]、モンケ質 量400～600kg	h	26.8	25.3	—
トラック（クレーン装置付）運転	[クレーン装置付]通称4～ 4.5t積級 吊能力2.9t	h	—	—	16.2
諸雑費		%	—	12	3

(注) [略]

1-5-3 ケーブル張

ケーブル張施工歩掛は、次表を標準とする。

表1.5 ケーブル張施工歩掛 (100m当り)

名称	規格	単位	A種	B種	C種	S種	Am種	Bm種
世話役		人	0.7	0.6	0.4	0.8	1.1	0.8
普通作業員		〃	3.0	2.4	1.8	3.5	4.7	3.5
トラック（クレーン装置付）運転	[クレーン装置付]通 称4～4.5t積級 吊能力2.9t	h	1.1	0.9	0.7	1.4	1.8	1.4

(注) [略]

1-6 [略]

1-7 単価表

(1) 端末支柱100本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表1.3
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
端末支柱		本	100	

中間支柱（コンクリート建込） ケーブル張		吊り能力2.9t		
中間支柱（機械打込）	ガードレール支柱打込機	モンケン式、400～600kg	台	1

1-5 施工歩掛

1-5-1 端末支柱

端末支柱施工歩掛は、次表を標準とする。

表1.3 端末支柱施工歩掛 (100本当り)

名称	規格	単位	標準型	耐雪型
世話役		人	4.1	4.7
特殊作業員		〃	1.9	2.2
普通作業員		〃	11.0	12.4
トラック（クレーン装置付）運転	ベーストラック4～4.5t積 吊り能力2.9t	h	106	117

(注) [略]

1-5-2 中間支柱

中間支柱施工歩掛は、次表を標準とする。

表1.4 中間支柱施工歩掛 (100本当り)

名称	規格	単位	土中・機械打込		コンクリート 建込
			標準型	耐雪型	
世話役		人	2.5	2.8	2.9
特殊作業員		〃	—	—	1.0
普通作業員		〃	5.9	7.1	8.7
ガードレール支柱打込機運転	モンケン式 400～600kg	h	26.8	25.3	—
トラック（クレーン装置付）運転	ベーストラック4～4.5t積 吊り能力2.9t	h	—	—	16.2
諸雑費		%	—	12	3

(注) [略]

1-5-3 ケーブル張

ケーブル張施工歩掛は、次表を標準とする。

表1.5 ケーブル張施工歩掛 (100m当り)

名称	規格	単位	A種	B種	C種	S種	Am種	Bm種
世話役		人	0.7	0.6	0.4	0.8	1.1	0.8
普通作業員		〃	3.0	2.4	1.8	3.5	4.7	3.5
トラック（クレーン装置付）運転	ベーストラック 4～4.5t積 吊り能力2.9t	h	1.1	0.9	0.7	1.4	1.8	1.4

(注) [略]

1-6 [略]

1-7 単価表

(1) 端末支柱100本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表1.3
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
端末支柱		本	100	

端 末 補 助 支 柱		〃	100	耐雪型のみ
基 礎 砕 石		m <sup>3</sup>		必要量を計上
トラック（クレーン装置付）運転	<u>〔クレーン装置付〕通称</u> 4～4.5t積級・ 吊能力2.9t	h		表1. 3
計				

(2) 中間支柱建込（機械打込）100本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表1. 4
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
中 間 支 柱		本	100	
根巻きコンクリートブロック		個	100	機械打込（耐雪型）のみ
ガードレール支柱打込機運転	<u>〔モンケン式〕、モンケ質</u> 量400～600kg	h		表1. 4 機械打込のみ
トラック（クレーン装置付）運転	<u>〔クレーン装置付〕通称</u> 4 ～4.5t積級 吊能力2.9t	h		表1. 4 コンクリート建込のみ
諸 雑 費		%	12	機械打込（耐雪型）のみ
			3	コンクリート建込のみ
計				

(3) ケーブル張100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表1. 5
普 通 作 業 員		〃		〃
ガ ー ド ケ ー ブ ル		m	100	
トラック（クレーン装置付）運転	<u>〔クレーン装置付〕通称</u> 4～4.5t積級 吊能力2.9t	h		表1. 5
計				

(4) 機械運転単価表

作業種別	機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
端末支柱 中間支柱・コンクリート建込 ケーブル張	トラック (クレーン装置付)	<u>〔クレーン装置付〕通称</u> 4～4.5t積級 吊能力2.9t	機-1	
中間支柱（機械打込）	ガードレール 支柱打込機	モンケン式 400～600kg	機-6	

⑥ 舗装版削孔工（アスファルト舗装版）

1. ・ 2. [略]

3. 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3. 1 機種を選定

名 称	規 格	単 位	数 量
コンクリート穿孔機	電動式コアボーリングマシン・最 大穿孔径φ250mm	台	1

4. 施工歩掛

(1) 施工歩掛は次表を標準とする。

表4. 1 削孔歩掛

(100孔当り)

端 末 補 助 支 柱		〃	100	耐雪型のみ
基 礎 砕 石		m <sup>3</sup>		必要量を計上
トラック（クレーン装置付）運転	<u>ベーストラック</u> 4～4.5t積・吊り能力2.9t	h		表1. 3
計				

(2) 中間支柱建込（機械打込）100本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表1. 4
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
中 間 支 柱		本	100	
根巻きコンクリートブロック		個	100	機械打込（耐雪型）のみ
ガードレール支柱打込機運転	モンケン式400～600kg	h		表1. 4 機械打込のみ
トラック（クレーン装置付）運転	<u>ベーストラック</u> 4～4.5t積 ・吊り能力2.9t	h		表1. 4 コンクリート建込のみ
諸 雑 費		%	12	機械打込（耐雪型）のみ
			3	コンクリート建込のみ
計				

(3) ケーブル張100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表1. 5
普 通 作 業 員		〃		〃
ガ ー ド ケ ー ブ ル		m	100	
トラック（クレーン装置付）運転	<u>ベーストラック</u> 4～4.5t積 ・吊り能力2.9t	h		表1. 5
計				

(4) 機械運転単価表

作業種別	機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
端末支柱 中間支柱・コンクリート建込 ケーブル張	トラック (クレーン装置付)	<u>ベーストラック</u> 4～4.5t積・吊り能力2.9t	機-1	
中間支柱（機械打込）	ガードレール 支柱打込機	<u>〔モンケン式〕、モンケ質量</u> モンケン式400～600kg	機-6	

⑥ 舗装版削孔工（アスファルト舗装版）

1. ・ 2. [略]

3. 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3. 1 機種を選定

名 称	規 格	単 位	数 量
コンクリート穿孔機	電動式コアボーリングマシン・最 大穿孔径φ25cm	台	1

4. 施工歩掛

(1) 施工歩掛は次表を標準とする。

表4. 1 削孔歩掛

(100孔当り)

名称	規格	単位	数量
世話役		人	1.0
特殊作業員		〃	2.0
普通作業員		〃	2.0
ダイヤモンドビット	各種	個	2.0
コンクリート穿孔機	電動式コアボーリングマシン・ 最大穿孔径φ250mm	日	2.6
諸雑費		%	12

(注) [略]

(2) [略]

### 5. 単価表

(1) アスファルト削孔（コンクリート穿孔機）100孔当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表4. 1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
コンクリート穿孔機用ビット	ダイヤモンドビット	個		〃
コンクリート穿孔機運転	電動式コアボーリングマシン・ 最大穿孔径φ250mm	日		〃 機械損料
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
コンクリート穿孔機	電動式コアボーリングマシン・ 最大穿孔径φ250mm	機-14	

### ⑦ 排水材設置工（水平排水層）

1.・2. [略]

#### 3. 施工歩掛

##### 3-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3. 1 機種を選定

名称	機械名	規格	単位	数量	摘要
水平排水材	人力	二	二	二	
フィルター層	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・超低騒音型・ クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(2014年規制) バケット容量0.5~0.6m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	台	1	

名称	規格	単位	数量
世話役		人	1.0
特殊作業員		〃	2.0
普通作業員		〃	2.0
ダイヤモンドビット	各種	個	2.0
コンクリート穿孔機	電動式コアボーリングマシン・ 最大穿孔径φ25cm	日	2.6
諸雑費		%	12

(注) [略]

(2) [略]

### 5. 単価表

(1) アスファルト削孔（コンクリート穿孔機）100孔当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表4. 1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
コンクリート穿孔機用ビット	ダイヤモンドビット	個		〃
コンクリート穿孔機運転	電動式コアボーリングマシン・ 最大穿孔径φ25cm	日		〃 機械損料
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
コンクリート穿孔機	電動式コアボーリングマシン・ 最大穿孔径φ25cm	機-14	

### ⑦ 排水材設置工（水平排水層）

1.・2. [略]

#### 3. 施工歩掛

[新設]

(注) 1. 現場条件により上表により難しい場合は、別途選定する。

3-2 水平排水材設置歩掛

水平排水材設置歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 2 水平排水材設置歩掛 [略]

(注) [略]

3-3 フィルター層敷設歩掛

フィルター層敷設歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 3 フィルター層敷設歩掛 [略]

(注) [略]

4. 単価表

(1) 水平排水材 10m当り設置単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3. 2
普通作業員		人		〃
水平排水材	製品幅(mm)・製品厚(mm)	m		〃 10×(1+ロス率)
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) フィルター層 10m<sup>3</sup>当り敷設単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3. 3
特殊作業員		人		〃
普通作業員		人		〃
バックホウ (クローラ型)運転	後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)・ <u>バケット容量</u> 0.5m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	h		〃 機械損料
フィルター材		m <sup>3</sup>		〃 10×(1+ロス率)
諸雑費		式	1	〃
計				

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型) [フィルター層]	後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)・ <u>バケット容量</u> 0.5m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	機-1	

5. [略]

## 9. ほ場整備工

① ほ場整備整地工 (標準区画 0.3ha 以上)

1. ・ 2. [略]

3-1 水平排水材設置歩掛

水平排水材設置歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 水平排水材設置歩掛 [略]

(注) [略]

3-2 フィルター層敷設歩掛

フィルター層敷設歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 2 フィルター層敷設歩掛 [略]

(注) [略]

4. 単価表

(1) 水平排水材 10m当り設置単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3. 1
普通作業員		人		〃
水平排水材	製品幅(mm)・製品厚(mm)	m		〃 10×(1+ロス率)
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) フィルター層 10m<sup>3</sup>当り敷設単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3. 2
特殊作業員		人		〃
普通作業員		人		〃
バックホウ (クローラ型)運転	後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)・ <u>山積</u> 0.5m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.4m <sup>3</sup> ) 吊能力 2.9t	h		〃 機械損料
フィルター材		m <sup>3</sup>		〃 10×(1+ロス率)
諸雑費		式	1	〃
計				

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型) [フィルター層]	後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)・ <u>山積</u> 0.5m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.4m <sup>3</sup> ) 吊り能力 2.9t	機-1	

5. [略]

## 9. ほ場整備工

① ほ場整備整地工 (標準区画 0.3ha 以上)

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定

施工機械は湿地ブルドーザ排出ガス対策型(第2次基準値) 通称 20t 級及びバックホウ(クローラ型)排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量 0.45m<sup>3</sup>を標準とする。

4. [略]

5. 単価表

(1) ほ場整備整地工 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ブルドーザ運 転	排出ガス対策型 (第2次基準値) 湿地 <u>通称</u> 20t 級	日	TD/T DD	
バックホウ ( <u>クローラ型</u> ) 運 転	排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>バケット容量</u> 0.45m <sup>3</sup>	日	TB/T BD	
世 話 役		人	TR <sub>1</sub>	表 4. 6
普通作業員		〃	TR <sub>2</sub>	〃
諸 雑 費		式	1	表 4. 7
計				

(注) [略]

表 [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ブルドーザ	排出ガス対策型(第 2次基準値) 湿地 <u>通称</u> 20t 級	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →130 機械賃料数量 →2.18
バックホウ ( <u>クローラ型</u> )	排出ガス対策型(第 2次基準値) <u>バケット容量</u> 0.45m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →59 機械賃料数量 →2.46

② ほ場整備整地工 (標準区画 0.3ha 未満)

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定

施工機械は湿地ブルドーザ排出ガス対策型(第3次基準値) 通称 7t 級及びバックホウ(クローラ型)排出ガス対策型(第3次基準値) バケット容量 0.45m<sup>3</sup>を標準とする。

4. [略]

5. 単価表

(1) ほ場整備整地工 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ブルドーザ運 転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 湿地 <u>通称</u> 7t 級	日	TD/TDD	

3. 機種の選定

施工機械は湿地ブルドーザ排出ガス対策型(第2次基準値)20t 級及びバックホウ排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積 0.45m<sup>3</sup> (平積0.35m<sup>3</sup>)を標準とする。

4. [略]

5. 単価表

(1) ほ場整備整地工 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ブルドーザ運 転	排出ガス対策型 (第2次基準値) 湿地 20t 級	日	TD/T DD	
バックホウ運 転	排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>クローラ型</u> <u>山積</u> 0.45m <sup>3</sup> ( <u>平積0.35m<sup>3</sup></u> )	日	TB/T BD	
世 話 役		人	TR <sub>1</sub>	表 4. 6
普通作業員		〃	TR <sub>2</sub>	〃
諸 雑 費		式	1	表 4. 7
計				

(注) [略]

表 [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ブルドーザ	排出ガス対策型 (第2次基準値) 湿地 20t 級	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →130 機械賃料数量 →2.18
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>クローラ型</u> <u>山積</u> 0.45m <sup>3</sup> ( <u>平積0.35m<sup>3</sup></u> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →59 機械賃料数量 →2.46

② ほ場整備整地工 (標準区画 0.3ha 未満)

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定

施工機械は湿地ブルドーザ排出ガス対策型(第3次基準値) 7t 級及びバックホウ排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型山積 0.45m<sup>3</sup> (平積0.35m<sup>3</sup>)を標準とする。

4. [略]

5. 単価表

(1) ほ場整備整地工 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ブルドーザ運 転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 湿地 7t 級	日	TD/TDD	

バックホウ (クローラ型) 運 転	排出ガス対策型 (第3次基準値) バケット容量0.45m <sup>3</sup>	日	TB/TBD	
世話役		人	TR <sub>1</sub>	表4.4
普通作業員		〃	TR <sub>2</sub>	〃
諸雑費		式	1	表4.5
計				

(注) [略]

表 [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ブルドーザ	排出ガス対策型(第3次基準値) 湿地 通称7t級	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →54 機械賃料数量 →2.38
バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型(第3次基準値) バケット容量0.45m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →58 機械賃料数量 →2.20

③ ほ場整備整地工 (標準区画 0.3ha 未満バックホウによる施工)

1. ・ 2. [略]

3. 機種の設定

施工機械は作業内容ごとに以下の表に示す機械を標準とする。

表 3.1 標準機種

作業内容	名称	規格
表土はぎ	バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型(第3次基準値) バケット容量0.80m <sup>3</sup>
基盤切盛	バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型(第3次基準値) バケット容量0.80m <sup>3</sup>
畦畔築立	バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型(第3次基準値) バケット容量0.45m <sup>3</sup>
基盤整地	バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型(第3次基準値) 型 バケット容量0.45m <sup>3</sup>
表土戻し	バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量0.45m <sup>3</sup>
表土整地	バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型(第3次基準値) バケット容量0.45m <sup>3</sup>

4. [略]

バックホウ運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	日	TB/TBD	
世話役		人	TR <sub>1</sub>	表4.4
普通作業員		〃	TR <sub>2</sub>	〃
諸雑費		式	1	表4.5
計				

(注) [略]

表 [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ブルドーザ	排出ガス対策型(第3次基準値) 湿地 7t級	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →54 機械賃料数量 →2.38
バックホウ	排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →58 機械賃料数量 →2.20

③ ほ場整備整地工 (標準区画 0.3ha 未満バックホウによる施工)

1. ・ 2. [略]

3. 機種の設定

施工機械は作業内容ごとに以下の表に示す機械を標準とする。

表 3.1 標準機種

作業内容	名称	規格
表土はぎ	バックホウ	排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 山積0.80m <sup>3</sup> (平積0.60m <sup>3</sup> )
基盤切盛	バックホウ	排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 山積0.80m <sup>3</sup> (平積0.60m <sup>3</sup> )
畦畔築立	バックホウ	排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )
基盤整地	バックホウ	排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )
表土戻し	バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )
表土整地	バックホウ	排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )

4. [略]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

作業内容	名称	規格	適用単価表	指定事項
表土はぎ	バックホウ <u>(クローラ型)</u>	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量0.80m<sup>3</sup></u>	機-28	機械運転労務数量→1.00 燃料消費量→90 機械賃料数量→1.91
基盤切盛	バックホウ <u>(クローラ型)</u>	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量0.80m<sup>3</sup></u>	機-28	機械運転労務数量→1.00 燃料消費量→99 機械賃料数量→1.89
畦畔築立	バックホウ <u>(クローラ型)</u>	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量0.45m<sup>3</sup></u>	機-28	機械運転労務数量→1.00 燃料消費量→59 機械賃料数量→2.04
基盤整地	バックホウ <u>(クローラ型)</u>	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量0.45m<sup>3</sup></u>	機-28	機械運転労務数量→1.00 燃料消費量→63 機械賃料数量→1.82
表土戻し	バックホウ <u>(クローラ型)</u>	排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>バケット容量0.45m<sup>3</sup></u>	機-28	機械運転労務数量→1.00 燃料消費量→59 機械賃料数量→2.14
表土整地	バックホウ <u>(クローラ型)</u>	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量0.45m<sup>3</sup></u>	機-28	機械運転労務数量→1.00 燃料消費量→60 機械賃料数量→1.77

④ 基盤整地及び簡易整備

1.・2. [略]

3. 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機械名	規格
ブルドーザ	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>通称</u> 11t級
	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>通称</u> 15t級
湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>通称</u> 13t級
	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>通称</u> 16t級
超湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第3次基準値) <u>通称</u> 18t級

3-1 機種を選定は、次表を標準とする。

3-1-1 地耐力による適用機種標準

表 3. 2 地耐力による適用機種標準

機種	コーン支持力値	載荷時接地圧
超湿地ブルドーザ 排出ガス対策型(第3次基準値)	200 kN/m <sup>2</sup> 以上	15~23 kPa

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

作業内容	名称	規格	適用単価表	指定事項
表土はぎ	バックホウ	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>クローラ型</u> <u>山積0.80m<sup>3</sup></u> <u>(平積0.60m<sup>3</sup>)</u>	機-28	機械運転労務数量→1.00 燃料消費量→90 機械賃料数量→1.91
基盤切盛	バックホウ	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>クローラ型</u> <u>山積0.80m<sup>3</sup></u> <u>(平積0.60m<sup>3</sup>)</u>	機-28	機械運転労務数量→1.00 燃料消費量→99 機械賃料数量→1.89
畦畔築立	バックホウ	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>クローラ型</u> <u>山積0.45m<sup>3</sup></u> <u>(平積0.35m<sup>3</sup>)</u>	機-28	機械運転労務数量→1.00 燃料消費量→59 機械賃料数量→2.04
基盤整地	バックホウ	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>クローラ型</u> <u>山積0.45m<sup>3</sup></u> <u>(平積0.35m<sup>3</sup>)</u>	機-28	機械運転労務数量→1.00 燃料消費量→63 機械賃料数量→1.82
表土戻し	バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>クローラ型</u> <u>山積0.45m<sup>3</sup></u> <u>(平積0.35m<sup>3</sup>)</u>	機-28	機械運転労務数量→1.00 燃料消費量→59 機械賃料数量→2.14
表土整地	バックホウ	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>クローラ型</u> <u>山積0.45m<sup>3</sup></u> <u>(平積0.35m<sup>3</sup>)</u>	機-28	機械運転労務数量→1.00 燃料消費量→60 機械賃料数量→1.77

④ 基盤整地及び簡易整備

1.・2. [略]

3. 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機械名	規格
ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 11t級
	排出ガス対策型(第1次基準値) 15t級
湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 13t級
	排出ガス対策型(第1次基準値) 16t級
超湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第3次基準値) 18t級

3-1 機種を選定は、次表を標準とする。

3-1-1 地耐力による適用機種標準

表 3. 2 地耐力による適用機種標準

機種	コーン支持力値	載荷時接地圧
超湿地ブルドーザ 排出ガス対策型(第3次基準値)	200 kN/m <sup>2</sup> 以上	15~23 kPa

湿地ブルドーザ 排出ガス対策型(第2次基準値)	300 "	22~43 "
ブルドーザ 通称 11t 級 排出ガス対策型(第2次基準値)	500 "	58~61 "
" 通称 15t 級 排出ガス対策型(第2次基準値)	500 "	50~60 "

(注) 1.・2. [略]

3-1-2 機種選定表

表 3.3 機種選定表

ブルドーザ		湿地ブルドーザ		超湿地ブルドーザ
排出ガス対策型 (第2次基準値) 通称 11t 級	排出ガス対策型 (第2次基準値) 通称 15t 級	排出ガス対策型 (第2次基準値) 通称 13t 級	排出ガス対策型 (第2次基準値) 通称 16t 級	排出ガス対策型 (第3次基準値) 通称 18t 級
1,000m <sup>3</sup> 未満	1,000~ 15,000m <sup>3</sup> 未満	1,000m <sup>3</sup> 未満	1,000~ 30,000m <sup>3</sup> 未満	1,000~30,000m <sup>3</sup> 未満

4. 施工歩掛

[略]

4-1 運転1時間当り標準作業量 (S。)

表 4.1 運転1時間当り標準作業量

(ha/hr)

機種	規格	運転1時間当り標準作業量 (S。)
ブルドーザ	排出ガス対策型(第2次基準値) 通称 11t 級	0.155
	排出ガス対策型(第2次基準値) 通称 15t 級	0.169
湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第2次基準値) 通称 13t 級	0.175
	排出ガス対策型(第2次基準値) 通称 16t 級	0.177
超湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第3次基準値) 通称 18t 級	0.214

4-2~4-4 [略]

5. 単価表

(1) 基盤整地及び簡易整備 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ブルドーザ運 転 (普通又は湿地 又は超湿地)	排出ガス対策型 (第〇次基準値) 通称〇〇t 級	h	1/ S	表 4.1、表 4.2
世話役		人		表 4.4
普通作業員		"		"
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ブルドーザ	排出ガス対策型(第2次基準値) 通称 11t 級	機-1	
	排出ガス対策型(第2次基準値) 通称 15t 級	"	

湿地ブルドーザ 排出ガス対策型(第1次基準値)	300 "	22~43 "
ブルドーザ 11t 級 排出ガス対策型(第1次基準値)	500 "	58~61 "
" 15t 級 排出ガス対策型(第1次基準値)	500 "	50~60 "

(注) 1.・2. [略]

3-1-2 機種選定表

表 3.3 機種選定表

ブルドーザ		湿地ブルドーザ		超湿地ブルドーザ
排出ガス対策型 (第1次基準値) 11t 級	排出ガス対策型 (第1次基準値) 15t 級	排出ガス対策型 (第1次基準値) 13t 級	排出ガス対策型 (第1次基準値) 16t 級	排出ガス対策型 (第3次基準値) 18t 級
1,000m <sup>3</sup> 未満	1,000~ 15,000m <sup>3</sup> 未満	1,000m <sup>3</sup> 未満	1,000~ 30,000m <sup>3</sup> 未満	1,000~30,000m <sup>3</sup> 未満

4. 施工歩掛

[略]

4-1 運転1時間当り標準作業量 (S。)

表 4.1 運転1時間当り標準作業量

(ha/hr)

機種	規格	運転1時間当り標準作業量 (S。)
ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 11t 級	0.155
	排出ガス対策型(第1次基準値) 15t 級	0.169
湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 13t 級	0.175
	排出ガス対策型(第1次基準値) 16t 級	0.177
超湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第3次基準値) 18t 級	0.214

4-2~4-4 [略]

5. 単価表

(1) 基盤整地及び簡易整備 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ブルドーザ運 転 (普通又は湿地 又は超湿地)	排出ガス対策型 (第〇次基準値) 〇〇t 級	h	1/ S	表 4.1、表 4.2
世話役		人		表 4.4
普通作業員		"		"
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 11t 級	機-1	
	排出ガス対策型(第1次基準値) 15t 級	"	

湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>通称</u> 13t 級	〃	
	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>通称</u> 16t 級	〃	
超湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第3次基準値) <u>通称</u> 18t 級	〃	

## ⑤ 暗渠排水工

### 1.・2. [略]

### 3. 機種を選定

#### 3-1 掘削機械

掘削(床掘)に使用する機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機 械 名	規 格
トレンチャ ( <u>クローラ型</u> )	排出ガス対策型(第1次基準値) 自走式・普通型 35kW、最大掘削深 1.3m 級
バックホウ ( <u>クローラ型</u> )	排出ガス対策型(第3次基準値) <u>バケット容量</u> 0.28m <sup>3</sup> [狭幅バケット装備]

(注) [略]

#### 3-2 被覆材投入機械

被覆材投入に使用する機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 2 機種を選定

機 械 名	規 格
バックホウ ( <u>クローラ型</u> )	排出ガス対策型(第3次基準値) <u>バケット容量</u> 0.28m <sup>3</sup>

#### 3-3 埋戻し機械

埋戻しに使用する機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 3 機種を選定

機 械 名	規 格
バックホウ ( <u>クローラ型</u> )	排出ガス対策型(第3次基準値) <u>バケット容量</u> 0.28m <sup>3</sup>

#### 3-4 小運搬機械

小運搬に使用する機種・規格は次表を標準とする。

表 3. 4 機種を選定

資 材 名	機 械 名	規 格
暗渠排水管(定尺管) 土管・陶管 もみ殻、粗朶類	不整地運搬車 ( <u>クローラ型</u> )	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧ダンプ式積載質量 <u>通称</u> 2.0t <u>積級</u>
暗渠排水管(ロール管) 碎石	不整地運搬車 ( <u>クローラ型</u> )	排出ガス対策型(2014年規制) 油圧ダンプ式積載質量 <u>通称</u> 2.0~3.0t <u>積級</u>

(注) [略]

## 4. 施工歩掛

### 4-1 暗渠排水工

#### 4-1-1 日当り施工量

暗渠排水工の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 4. 1 日当り施工量

(1日当り)

湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 13t 級	〃	
	排出ガス対策型(第1次基準値) 16t 級	〃	
超湿地ブルドーザ	排出ガス対策型(第3次基準値) 18t 級	〃	

## ⑤ 暗渠排水工

### 1.・2. [略]

### 3. 機種を選定

#### 3-1 掘削機械

掘削(床掘)に使用する機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機 械 名	規 格
トレンチャ	自走式・普通型 <u>クローラ</u> 35kW、最大掘削深 1.3m 級
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>クローラ型山積</u> 0.28m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.20m <sup>3</sup> ) [狭幅バケット装備]

(注) [略]

#### 3-2 被覆材投入機械

被覆材投入に使用する機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 2 機種を選定

機 械 名	規 格
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>クローラ型山積</u> 0.28m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.20m <sup>3</sup> )

#### 3-3 埋戻し機械

埋戻しに使用する機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 3 機種を選定

機 械 名	規 格
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>クローラ型山積</u> 0.28m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.20m <sup>3</sup> )

#### 3-4 小運搬機械

小運搬に使用する機種・規格は次表を標準とする。

表 3. 4 機種を選定

資 材 名	機 械 名	規 格
暗渠排水管(定尺管) 土管・陶管 もみ殻、粗朶類	不整地運搬車	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>クローラ型</u> 油圧ダンプ式積載質量 2.0t
暗渠排水管(ロール管) 碎石	不整地運搬車	排出ガス対策型(2014年規制) <u>クローラ型</u> 油圧ダンプ式積載質量 2.0~3.0t

(注) [略]

## 4. 施工歩掛

### 4-1 暗渠排水工

#### 4-1-1 日当り施工量

暗渠排水工の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 4. 1 日当り施工量

(1日当り)

機 械 名	規 格	資材名	呼び径 (mm)	数量 (m)		
				掘削深		
				0.5 ≤ h ≤ 0.7m	0.7 < h ≤ 1.0m	
トレンチャ <u>(クローラ型)</u>	<u>排出ガス対策型(第1次基準値)</u> 自走式・普通型 35kW 最大掘削深 1.3m級	暗渠排水管 (定尺管)	φ 50~75	206		
			φ 100	146		
		暗渠排水管 (ロール管)	φ 50~75	278	241	
			土管・陶管	φ 60	149	
				φ 75	111	
φ 90	92					
バックホウ <u>(クローラ型)</u>	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量 0.28m³</u>	暗渠排水管 (定尺管)	φ 50~75	159	119	
			φ 100	146	118	
		暗渠排水管 (ロール管)	φ 50~75	160	118	
			土管・陶管	φ 60	149	120
		φ 75		111		
		φ 90		92		

(注) [略]

4-1-2 [略]

4-1-3 施工機械 (トレンチャ掘削)

トレンチャ掘削による暗渠排水工の機械運転数量は、次表を標準とする。

表 4.3 施工機械 (トレンチャ掘削時) (1日当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
トレンチャ運転 <u>(クローラ型)</u>	<u>排出ガス対策型(第1次基準値)</u> 自走式・普通型 35kW 最大掘削深 1.3m級	日	0.4
バックホウ <u>(クローラ型)</u> 運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量 0.28m³</u>	〃	0.6

4-1-4 [略]

4-2 小運搬

4-2-1 [略]

4-2-2 機械小運搬 (不整地運搬車)

(1) 日当り施工量

機械小運搬 (不整地運搬車) の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 4.6 日当り施工量 (1日当り)

資材名	規 格	単位	運搬距離		
			50m 以下	50m を超え 100m 以下	100m を超え 150m 以下
暗渠排水管 (定尺管)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量 <u>通称 2.0t 積積</u>	m	—	3,310	3,160

機 械 名	規 格	資材名	呼び径 (mm)	数量 (m)		
				掘削深		
				0.5 ≤ h ≤ 0.7m	0.7 < h ≤ 1.0m	
トレンチャ	自走式・普通型 <u>クローラ</u> 35kW 最大掘削深 1.3m級	暗渠排水管 (定尺管)	φ 50~75	206		
			φ 100	146		
		暗渠排水管 (ロール管)	φ 50~75	278	241	
			土管・陶管	φ 60	149	
				φ 75	111	
φ 90	92					
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>クローラ型 山積 0.28m³ (平積 0.2m³)</u>	暗渠排水管 (定尺管)	φ 50~75	159	119	
			φ 100	146	118	
		暗渠排水管 (ロール管)	φ 50~75	160	118	
			土管・陶管	φ 60	149	120
		φ 75		111		
		φ 90		92		

(注) [略]

4-1-2 [略]

4-1-3 施工機械 (トレンチャ掘削)

トレンチャ掘削による暗渠排水工の機械運転数量は、次表を標準とする。

表 4.3 施工機械 (トレンチャ掘削時) (1日当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
トレンチャ運転	自走式・普通型 <u>クローラ</u> 35kW 最大掘削深 1.3m級	日	0.4
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>クローラ型 山積 0.28m³ (平積 0.20m³)</u>	〃	0.6

4-1-4 [略]

4-2 小運搬

4-2-1 [略]

4-2-2 機械小運搬 (不整地運搬車)

(1) 日当り施工量

機械小運搬 (不整地運搬車) の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 4.6 日当り施工量 (1日当り)

資材名	規 格	単位	運搬距離		
			50m 以下	50m を超え 100m 以下	100m を超え 150m 以下
暗渠排水管 (定尺管)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量 2.0 t	m	—	3,310	3,160

暗渠排水管 (ロール管)	排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量通称2.0~3.0t 積級	〃	2,580	2,240	1,890
土管・陶管	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量通称2.0t 積級	ton	7.2	6.6	6.0
もみ殻	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量通称2.0t 積級	m <sup>3</sup>	110	94.4	78.8
砕石	排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量通称2.0~3.0t 積級	〃	38.5	32.9	27.2
粗朶類	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量通称2.0t 積級	〃	155	137	120

(注) [略]

(2) [略]

### 5. 単価表

(1) トレンチャ掘削による暗渠排水工1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表4.2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トレンチャ運転 (クローラ型)	排出ガス対策型 (第1次基準値) 自走式・普通型 35kW 最大掘削深1.3m級	日		表4.3
バックホウ運転 (クローラ型)	排出ガス対策型 (第3次基準値) バケット容量0.28m <sup>3</sup>	日		表4.3
普通作業員		人		表4.4
計				

(2) バックホウ掘削による暗渠排水工1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表4.2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
バックホウ運転 (クローラ型)	排出ガス対策型 (第3次基準値) バケット容量0.28m <sup>3</sup> [狭幅バケット装備]	日	1	
普通作業員		人		表4.4
計				

(3) [略]

暗渠排水管 (ロール管)	排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量2.0~3.0t	〃	2,580	2,240	1,890
土管・陶管	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量2.0t	ton	7.2	6.6	6.0
もみ殻	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量2.0t	m <sup>3</sup>	110	94.4	78.8
砕石	排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量2.0~3.0t	〃	38.5	32.9	27.2
粗朶類	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型油圧ダンプ式 積載質量2.0t	〃	155	137	120

(注) [略]

(2) [略]

### 5. 単価表

(1) トレンチャ掘削による暗渠排水工1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表4.2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トレンチャ運転	自走式・普通型 クローラ 35kW 最大掘削深1.3m級	日		表4.3
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.20m <sup>3</sup> )	日		表4.3
普通作業員		人		表4.4
計				

(2) バックホウ掘削による暗渠排水工1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表4.2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.20m <sup>3</sup> ) [狭幅バケット装備]	日	1	
普通作業員		人		表4.4
計				

(3) [略]

(4) 機械小運搬（不整地運搬車）1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
不整地運搬車 <u>(クローラ型)</u> 運	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧ダンプ式積載質量通称2.0t 積級 又は排出ガス対策型(2014年規制) 油圧ダンプ式積載質量通称2.0~3.0t 積級	日	1.0	表4.6
普通作業員		人	労務数×D/10 又は100	表4.7
計				

(注) [略]

(5) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
トレンチャ <u>(クローラ型)</u>	<u>排出ガス対策型</u> <u>(第1次基準値)</u> 自走式・普通型 35kW	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→33 機械損料数量→1.52
バックホウ <u>(クローラ型)</u>	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>バケット容量0.28m³</u>	〃	運転労務数量→1.00 燃料消費量→34 機械損料数量→1.66
不整地運搬車 <u>(クローラ型)</u>	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧ダンプ式 積載質量通称2.0t 積級	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→14 機械賃料数量→1.55
不整地運搬車 <u>(クローラ型)</u>	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧ダンプ式 積載質量通称2.0~3.0t 積級	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→16 機械損料数量→1.57

⑥ 畦畔整形工

1.・2. [略]

3. 機種の設定

畦畔整形工に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表3.1 機種の設定

機械名	規格
バックホウ <u>(クローラ型)</u>	排出ガス対策型(第3次基準値) (法面バケット付) <u>バケット容量0.45m³</u>

(注) [略]

4. [略]

5. 単価表

(1) 畦畔整形工 100m²当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ <u>(クローラ型)</u> 運	排出ガス対策型 (第3次基準値)	日	4.7/TB D	表4.1

(4) 機械小運搬（不整地運搬車）1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
不整地運搬車運	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>クローラ型</u> 油圧ダンプ式積載質量2.0t 又は排出ガス対策型(2014年規制) <u>クローラ型</u> 油圧ダンプ式積載質量2.0~3.0t	日	1.0	表4.6
普通作業員		人	労務数×D/10 又は100	表4.7
計				

(注) [略]

(5) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
トレンチャ	自走式・普通型 <u>クローラ</u> 35kW	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→33 機械損料数量→1.52
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>クローラ型</u> <u>山積0.28m³</u> <u>(平積0.20m³)</u>	〃	運転労務数量→1.00 燃料消費量→34 機械損料数量→1.66
不整地運搬車	排出ガス対策型 (第2次基準値) <u>クローラ型</u> 油圧ダンプ式 積載質量2.0t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→14 機械賃料数量→1.55
不整地運搬車	排出ガス対策型 (2014年規制) <u>クローラ型</u> 油圧ダンプ式 積載質量2.0~3.0t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→16 機械損料数量→1.57

⑥ 畦畔整形工

1.・2. [略]

3. 機種の設定

畦畔整形工に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表3.1 機種の設定

機械名	規格
バックホウ	排出ガス対策型(第3次基準値) <u>クローラ型</u> (法面バケット付) <u>山積0.45m³</u> <u>(平積0.35m³)</u>

(注) [略]

4. [略]

5. 単価表

(1) 畦畔整形工 100m²当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>クローラ型</u>	日	4.7/TB D	表4.1

	(法面バケット付) バケット容量0.45m <sup>3</sup>			
世話役		人		表4.2
普通作業員		〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型 (第3次基準値) (法面バケット付) バケット容量0.45m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →58 機械賃料数量 →2.32

## 10. 農地造成工

① [略]

② レーキドーザ抜根

1. [略]

2. 機種の設定

施工機械は、次表を標準とする。

表2.1 機種の設定

機械名	規格
レーキドーザ	湿地・ <u>排対2次</u> 13t 湿地・ <u>排対2次</u> 16t

(注) [略]

3. 施工歩掛

[略]

3-1 [略]

3-2 作業効率 (E)

作業効率は、「表3.3現場条件判定基準」及び「表3.4現場条件判定表」により、「表3.2の作業効率」を決定する。

表3.2 作業効率

機種	現場条件		
	良好	普通	不良
16t 湿地・ <u>排対2次</u> レーキドーザ	0.80	1.00	1.20
13t 湿地・ <u>排対2次</u> レーキドーザ	1.15	1.35	1.55

表3.3 抜根作業の現場条件判定基準 [略]

表3.4 現場条件判定表 [略]

	(法面バケット付) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )			
世話役		人		表4.2
普通作業員		〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型 (第3次基準値) <u>クローラ型</u> (法面バケット付) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →58 機械賃料数量 →2.32

## 10. 農地造成工

① [略]

② レーキドーザ抜根

1. [略]

2. 機種の設定

施工機械は、次表を標準とする。

表2.1 機種の設定

機械名	規格
レーキドーザ	湿地13t 湿地16t

(注) [略]

3. 施工歩掛

[略]

3-1 [略]

3-2 作業効率 (E)

作業効率は、「表3.3現場条件判定基準」及び「表3.4現場条件判定表」により、「表3.2の作業効率」を決定する。

表3.2 作業効率

機種	現場条件		
	良好	普通	不良
16t 湿地レーキドーザ	0.80	1.00	1.20
13t 湿地レーキドーザ	1.15	1.35	1.55

表3.3 抜根作業の現場条件判定基準 [略]

表3.4 現場条件判定表 [略]

3-3 [略]

4. 単価表

(1) レーキドーザ抜根 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
レーキドーザ運転	湿地・ <u>排対2次</u> 〇〇t	h	Th	表3. 1、表3. 2
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
レーキドーザ	湿地・ <u>排対2次</u> 13t 湿地・ <u>排対2次</u> 16t	機-1	

③ レーキドーザ排根

1. [略]

2. 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表 2. 1 機種を選定

機械名	規格
レーキドーザ	湿地・ <u>排対2次</u> 13t 湿地・ <u>排対2次</u> 16t

(注) [略]

3. 施工歩掛

[略]

3-1 [略]

3-2 作業効率 (E)

作業効率は、「表 3. 3 現場条件判定基準」及び「表 3. 4 現場条件判定表」により、「表 3. 2 の作業効率」を決定する。

表 3. 2 作業効率

機種	現場条件		
	良好	普通	不良
16t 湿地・ <u>排対2次</u> レーキドーザ	0.70	1.00	1.30
13t 湿地・ <u>排対2次</u> レーキドーザ	1.05	1.35	1.65

表 3. 3 排根作業の現場条件判定基準 [略]

表 3. 4 現場条件判定表 [略]

3-3 [略]

4. 単価表

(1) レーキドーザ排根 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要

3-3 [略]

4. 単価表

(1) レーキドーザ抜根 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
レーキドーザ運転	湿地〇〇t	h	Th	表3. 1、表3. 2
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
レーキドーザ	湿地 13t 湿地 16t	機-1	

③ レーキドーザ排根

1. [略]

2. 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表 2. 1 機種を選定

機械名	規格
レーキドーザ	湿地 13t 湿地 16t

(注) [略]

3. 施工歩掛

[略]

3-1 [略]

3-2 作業効率 (E)

作業効率は、「表 3. 3 現場条件判定基準」及び「表 3. 4 現場条件判定表」により、「表 3. 2 の作業効率」を決定する。

表 3. 2 作業効率

機種	現場条件		
	良好	普通	不良
16t 湿地レーキドーザ	0.70	1.00	1.30
13t 湿地レーキドーザ	1.05	1.35	1.65

表 3. 3 排根作業の現場条件判定基準 [略]

表 3. 4 現場条件判定表 [略]

3-3 [略]

4. 単価表

(1) レーキドーザ排根 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要

レーキドーザ運転	湿地・ <u>排対2次</u> 〇〇t	h	Th	表3. 1、表3. 2
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
レーキドーザ	湿地・ <u>排対2次</u> 13t 湿地・ <u>排対2次</u> 16t	機-1	

④ リップドーザ岩掘削

1. [略]

2. 機種及び爪数の選定

2-1 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表2. 1 機種を選定

機 種	規 格	適用区分
リップ装置付 ブルドーザ	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>通称</u> 18t級	掘削量が5,000m <sup>3</sup> 未満の場合
	排出ガス対策型(第2次基準値) <u>通称</u> 32t級	掘削量が5,000m <sup>3</sup> 以上の場合

(注) [略]

2-2 爪数の選定

岩種、岩質に適合する爪数は、施工実態により決定する。

なお、施工実態の無い場合は、(表2. 2)及び(表2. 3)を参考に岩の硬軟の程度、き裂の状態等から総合的に判断し、決定する。

表2. 2 地山の弾性波速度と爪数

地山弾性波速度(km/sec)		爪 数(本)	
A群の岩	B群の岩	<u>通称</u> 18t級	<u>通称</u> 32t級
~0.6未満	~0.9未満	3	3
0.6~1.0"	0.9~1.4"	2	3
1.0~1.4"	1.4~1.8"	1	2
1.4~1.9以下	1.8~2.8以下	—	1

表2. 3 岩種、岩質と地山の弾性波速度、一軸圧縮強度 [略]

3. 施工歩掛

[略]

3-1 リッピング断面積(q)

表3. 1 リッピング断面積 (m<sup>2</sup>)

規格	爪数	断面積 (m <sup>2</sup> )		
		1本	2本	3本
排出ガス対策型(第2次基準値) <u>通称</u> 18t級		0.23	0.28	0.40
排出ガス対策型(第2次基準値) <u>通称</u> 32t級		0.27	0.35	0.50

3-2 作業効率(E)

表3. 2 作業効率

レーキドーザ運転	湿地〇〇t	h	Th	表3. 1、表3. 2
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
レーキドーザ	湿地 13t 湿地 16t	機-1	

④ リップドーザ岩掘削

1. [略]

2. 機種及び爪数の選定

2-1 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表2. 1 機種を選定

機 種	規 格	適用区分
リップ装置付 ブルドーザ	排出ガス対策型(第2次基準値) 18t級	掘削量が5,000m <sup>3</sup> 未満の場合
	排出ガス対策型(第2次基準値) 32t級	掘削量が5,000m <sup>3</sup> 以上の場合

(注) [略]

2-2 爪数の選定

岩種、岩質に適合する爪数は、施工実態により決定する。

なお、施工実態の無い場合は、(表2. 2)及び(表2. 3)を参考に岩の硬軟の程度、き裂の状態等から総合的に判断し、決定する。

表2. 2 地山の弾性波速度と爪数

地山弾性波速度(km/sec)		爪 数(本)	
A群の岩	B群の岩	18t級	32t級
~0.6未満	~0.9未満	3	3
0.6~1.0"	0.9~1.4"	2	3
1.0~1.4"	1.4~1.8"	1	2
1.4~1.9以下	1.8~2.8以下	—	1

表2. 3 岩種、岩質と地山の弾性波速度、一軸圧縮強度 [略]

3. 施工歩掛

[略]

3-1 リッピング断面積(q)

表3. 1 リッピング断面積 (m<sup>2</sup>)

規格	爪数	断面積 (m <sup>2</sup> )		
		1本	2本	3本
排出ガス対策型(第2次基準値) 18t級		0.23	0.28	0.40
排出ガス対策型(第2次基準値) 32t級		0.27	0.35	0.50

3-2 作業効率(E)

表3. 2 作業効率

規 格		地山の弾性波速度 (km/sec)		標準値	範 囲
		A群の岩	B群の岩		
排出ガス対策型 (第2次基準値) <b>通称</b> 18t 級	3～1本爪	—	—	0.45	0.55～0.35
排出ガス対策型 (第2次基準値) <b>通称</b> 32t 級	3本爪	0.6未満	0.9未満	0.60	0.70～0.50
	3～1本爪	0.6以上	0.9以上	0.50	0.60～0.40

(注) [略]

表 3. 3 現場条件に係わる補正 [略]

3-3 [略]

4. [略]

5. 単価表

(1) リップドーザ岩掘削 (農用地造成工用) 1m<sup>3</sup> 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
リップドーザ 運 転	排出ガス対策型(第2次基準値) <b>通称</b> ○○t 級、爪数○本	h	1/Q	表 3. 1～表 3. 3
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
リップドーザ (リップ装置付ブルドーザ)	排出ガス対策型(第2次基準値) <b>通称</b> 18t 級、爪数 3	機-1	
	排出ガス対策型(第2次基準値) <b>通称</b> 18t 級、爪数 2		
	排出ガス対策型(第2次基準値) <b>通称</b> 18t 級、爪数 1		
	排出ガス対策型(第2次基準値) <b>通称</b> 32t 級、爪数 3		
	排出ガス対策型(第2次基準値) <b>通称</b> 32t 級、爪数 2		
	排出ガス対策型(第2次基準値) <b>通称</b> 32t 級、爪数 1		

⑤ リップドーザ (耕起・深耕)

1.・2. [略]

3. 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機 種	規 格
リップ装置付 ブルドーザ	排出ガス対策型(第2次基準値) <b>通称</b> 18t 級、爪数 3

4. [略]

5. 単価表

(1) リップドーザ (耕起・深耕) 1ha 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要

規 格		地山の弾性波速度 (km/sec)		標準値	範 囲
		A群の岩	B群の岩		
排出ガス対策型 (第2次基準値) 18t 級	3～1本爪	—	—	0.45	0.55～0.35
排出ガス対策型 (第2次基準値) 32t 級	3本爪	0.6未満	0.9未満	0.60	0.70～0.50
	3～1本爪	0.6以上	0.9以上	0.50	0.60～0.40

(注) [略]

表 3. 3 現場条件に係わる補正 [略]

3-3 [略]

4. [略]

5. 単価表

(1) リップドーザ岩掘削 (農用地造成工用) 1m<sup>3</sup> 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
リップドーザ 運 転	排出ガス対策型(第2次基準値) ○○t 級、爪数○本	h	1/Q	表 3. 1～表 3. 3
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
リップドーザ (リップ装置付ブルドーザ)	排出ガス対策型(第2次基準値) 18t 級、爪数 3	機-1	
	排出ガス対策型(第2次基準値) 18t 級、爪数 2		
	排出ガス対策型(第2次基準値) 18t 級、爪数 1		
	排出ガス対策型(第2次基準値) 32t 級、爪数 3		
	排出ガス対策型(第2次基準値) 32t 級、爪数 2		
	排出ガス対策型(第2次基準値) 32t 級、爪数 1		

⑤ リップドーザ (耕起・深耕)

1.・2. [略]

3. 機種を選定

施工機械は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機 種	規 格
リップ装置付 ブルドーザ	排出ガス対策型(第2次基準値) 18t 級、爪数 3

4. [略]

5. 単価表

(1) リップドーザ (耕起・深耕) 1ha 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要

リッパドーザ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) 通称18t級、爪数3	日	1/QD	表4.1~表4.3
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
リッパドーザ	排出ガス対策型(第2次基準値) 通称18t級、爪数3	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→127 機械損料数量→1.69

⑥ 有機質資材散布(マニアスプレッダ)

1.・2. [略]

3. 機種の設定

施工機械は、次表を標準とする。

表3.1 機種の設定

作業	機械名	規格
散布	トラクタ(乗用・ホイール型・ 排対2次)	52~59kW級
	マニアスプレッダ (けん引式)	積載量2,000kg
積込	バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型(第2次基準値) バケツ容量0.45m <sup>3</sup>

4. [略]

5. 単価表

(1) 有機質資材散布(マニアスプレッダ) 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
有機質資材		t	G×(1+0.02)	表4.1
マニアスプレッダ運転	けん引式 積載量2,000kg	h	Th	
バックホウ (クローラ型) 運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) バケツ容量0.45m <sup>3</sup>	〃	TB	
世話役		人		表4.2
普通作業員		〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
マニアスプレッダ	けん引式 積載量2,000kg	機-3	機械損料1→トラクタ(乗用・ホイール型・排対 2次)52~59kW級 機械損料2→マニアスプレッダ けん引式積載量2,000kg
バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型 (第2次基準値)	機-1	

リッパドーザ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) 18t級、爪数3	日	1/QD	表4.1~表4.3
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
リッパドーザ	排出ガス対策型(第2次基準値) 18t級、爪数3	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→127 機械損料数量→1.69

⑥ 有機質資材散布(マニアスプレッダ)

1.・2. [略]

3. 機種の設定

施工機械は、次表を標準とする。

表3.1 機種の設定

作業	機械名	規格
散布	トラクタ(乗用・ホイール型)	52~59kW級
	マニアスプレッダ (けん引式)	積載量2,000kg
積込	バックホウ	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )

4. [略]

5. 単価表

(1) 有機質資材散布(マニアスプレッダ) 1ha 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
有機質資材		t	G×(1+0.02)	表4.1
マニアスプレッダ運転	けん引式 積載量2,000kg	h	Th	
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	〃	TB	
世話役		人		表4.2
普通作業員		〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
マニアスプレッダ	けん引式 積載量2,000kg	機-3	機械損料1→トラクタ(乗用・ホイール型) 52~59kW級 機械損料2→マニアスプレッダ けん引式積載量2,000kg
バックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型	機-1	

	バケット容量 0.45m <sup>3</sup>		
--	---------------------------	--	--

⑦ ロータリ（直装式）耕起碎土

1. [略]

2. 機種の選定

施工機械は、次表を標準とする。

表 2. 1 機種の選定

機 械 名	規 格
トラクタ(乗用・ホイール型・ <u>排対2次</u> )	30～44kW 級
ロータリティラー（直装式）	作業幅 1.6～1.8m 級

3. [略]

4. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
ロータリティラー	直装式 作業幅 1.6～1.8m 級	機一 35	機械損料1→トラクタ(乗用・ホイール型・ <u>排対2次</u> )30～44kW 機械損料2→ロータリティラー 直装式作業幅 1.6～1.8m 級

⑧ 石礫除去工（人力）

1.・2. [略]

3. 機種の選定

施工機械は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種の選定

機 械 名	規 格
不 整 地 運 搬 車 ( <u>クローラ型</u> )	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧ダンプ式積載質量通称 2.0t <u>積級</u>

4. [略]

5. 単価表

(1) 石礫除去工 10a 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
不 整 地 運 搬 車 ( <u>クローラ型</u> ) 運 転	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧ダンプ式積載質量通称 2.0t <u>積級</u>	日		表 4. 1
普 通 作 業 員		人		〃
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項

	山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )		
--	---	--	--

⑦ ロータリ（直装式）耕起碎土

1. [略]

2. 機種の選定

施工機械は、次表を標準とする。

表 2. 1 機種の選定

機 械 名	規 格
トラクタ(乗用・ホイール型)	30～44kW 級
ロータリティラー（直装式）	作業幅 1.6～1.8m 級

3. [略]

4. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
ロータリティラー	直装式 作業幅 1.6～1.8m 級	機一 35	機械損料1→トラクタ(乗用・ホイール型) 30～44kW 機械損料2→ロータリティラー 直装式作業幅 1.6～1.8m 級

⑧ 石礫除去工（人力）

1.・2. [略]

3. 機種の選定

施工機械は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種の選定

機 械 名	規 格
不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型(第1次基準値) <u>クローラ型</u> 油圧ダンプ式積載質量 2.0t

4. [略]

5. 単価表

(1) 石礫除去工 10a 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
不 整 地 運 搬 車 運 転	排出ガス対策型(第1次基準値) <u>クローラ型</u> 油圧ダンプ式積載質量 2.0t	日		表 4. 1
普 通 作 業 員		人		〃
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項

不整地運搬車 <u>(クローラ型)</u>	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧ダンプ式積載質量 <u>通称 2.0t 積級</u>	機-2 8	運転労務数量→1.00 燃料消費量→18 機械賃料数量→1.75
--------------------------	--	----------	--

⑨～⑪ [略]

## 1 1. トンネル工

### ① 岩トンネル (レッグ工法)

1. ～4. [略]

#### 5. 掘削及び支保工

5-1 [略]

##### 5-2 掘削等機械歩掛

掘削等機械の機種及び歩掛は、次表を標準とする。  
実情に合わない場合は現場条件等に即して別途積算すること。

表 5. 3 機種の選定 (台)

施工区分	機種	規格	トンネルタイプ		摘要
			A・B・C	D・E	
穿孔	レッグドリル	40kg 級	2 3	1 2	設計掘削断面積 5.5m <sup>2</sup> 未満 設計掘削断面積 5.5m <sup>2</sup> 以上
	空気圧縮機	定置式 スクリュー型 吐出量 8.1～9.1m <sup>3</sup> /min	1	1	
ズリ出し	ズリ積機	クローラ式バックハウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	1	1	
	ズリ鋼車	側開転倒式 積載容量 2 m <sup>3</sup>	1	1	
	バッテリー 機関車	<u>通称 4.0t 級</u>	1	1	

表 5. 4 [略]

表 5. 5 [略]

5-3～5-5 [略]

### 6. 覆工型枠

6-1・6-2 [略]

#### 6-3 鋼製スライディングフォーム組立解体

鋼製スライディングフォーム組立解体歩掛は、次表を標準とする。

表 6. 3 鋼製スライディングフォーム組立解体歩掛  
(1基(12m) 当り)

職種	単位	組立	解体
世話役	人	3.3	1.8
特殊作業員	〃	10.6	11.2
普通作業員	〃	5.7	2.2
とび工	〃	1.1	0.5

不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値) <u>クローラ型</u> 油圧ダンプ式積載質量 2.0t	機-2 8	運転労務数量→1.00 燃料消費量→18 機械賃料数量→1.75
--------	---	----------	--

⑨～⑪ [略]

## 1 1. トンネル工

### ① 岩トンネル (レッグ工法)

1. ～4. [略]

#### 5. 掘削及び支保工

5-1 [略]

##### 5-2 掘削等機械歩掛

掘削等機械の機種及び歩掛は、次表を標準とする。  
実情に合わない場合は現場条件等に即して別途積算すること。

表 5. 3 機種の選定 (台)

施工区分	機種	規格	トンネルタイプ		摘要
			A・B・C	D・E	
穿孔	レッグドリル	40kg 級	2 3	1 2	設計掘削断面積 5.5m <sup>2</sup> 未満 設計掘削断面積 5.5m <sup>2</sup> 以上
	空気圧縮機	定置式 スクリュー型 吐出量 8.1～9.1m <sup>3</sup> /min	1	1	
ズリ出し	ズリ積機	クローラ式バックハウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	1	1	
	ズリ鋼車	側開転倒式 積載容量 2 m <sup>3</sup>	1	1	
	バッテリー 機関車	<u>機械質量 4.0t</u>	1	1	

表 5. 4 [略]

表 5. 5 [略]

5-3～5-5 [略]

### 6. 覆工型枠

6-1・6-2 [略]

#### 6-3 鋼製スライディングフォーム組立解体

鋼製スライディングフォーム組立解体歩掛は、次表を標準とする。

表 6. 3 鋼製スライディングフォーム組立解体歩掛  
(1基(12m) 当り)

職種	単位	組立	解体
世話役	人	3.3	1.8
特殊作業員	〃	10.6	11.2
普通作業員	〃	5.7	2.2
とび工	〃	1.1	0.5

溶接工	〃	0.7	0.5
ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型最大吊上能力25t吊	日	1.7	1.1

(注) [略]

## 7. 覆エコンクリート

7-1・7-2 [略]

### 7-3 覆工機械歩掛

覆工機械の機種及び規格は、次表を標準とする。

表 7. 3 機種の選定

機種	規格	台数	摘要
コンクリートポンプ	油圧・定置式 圧送能力 30~35m <sup>3</sup> /hr	1	
アジテータカー	被けん引式 運搬容量 3m <sup>3</sup>	1	坑口距離 400m超
バッテリー機関車	通称 6.0t 級	1	坑口距離 400m超

(注) [略]

表 7. 4 [略]

7-4・7-5 [略]

## 8. 単価表

### 8-1 岩トンネル(レッグ工法)

#### (1) 掘削工及び支保工1m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
トンネル世話役	坑内	人		表 5. 2
トンネル特殊工	〃	〃		〃
トンネル作業員	〃	〃		〃
特殊作業員	坑外	〃		〃
普通作業員	〃	〃		〃
電工	〃	〃		〃
レッグドリル運転	40kg級	週		表 5. 4 機械運転単価表×5
ズリ積機運転	クローラ式 バックハウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	〃		表 5. 5 機械運転単価表×5
バッテリー機関車運転	通称 4.0t 級	〃		〃 〃
ズリ鋼車運転	側開転倒式 2.0m <sup>3</sup>	〃		〃 〃
空気圧縮機運転	定置式 スクリュー型 吐出量 8.1~9.1m <sup>3</sup> /min	〃		〃 〃
鋼製支保工		基		表 5. 6
諸雑費		式	1	表 5. 7
計				

(2) [略]

#### (3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項

溶接工	〃	0.7	0.5
ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型25t吊	日	1.7	1.1

(注) [略]

## 7. 覆エコンクリート

7-1・7-2 [略]

### 7-3 覆工機械歩掛

覆工機械の機種及び規格は、次表を標準とする。

表 7. 3 機種の選定

機種	規格	台数	摘要
コンクリートポンプ	油圧・定置式 圧送能力 30~35m <sup>3</sup> /hr	1	
アジテータカー	被けん引式 運搬容量 3m <sup>3</sup>	1	坑口距離 400m超
バッテリー機関車	機械質量 6.0t	1	坑口距離 400m超

(注) [略]

表 7. 4 [略]

7-4・7-5 [略]

## 8. 単価表

### 8-1 岩トンネル(レッグ工法)

#### (1) 掘削工及び支保工1m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
トンネル世話役	坑内	人		表 5. 2
トンネル特殊工	〃	〃		〃
トンネル作業員	〃	〃		〃
特殊作業員	坑外	〃		〃
普通作業員	〃	〃		〃
電工	〃	〃		〃
レッグドリル運転	40kg級	週		表 5. 4 機械運転単価表×5
ズリ積機運転	クローラ式 バックハウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	〃		表 5. 5 機械運転単価表×5
バッテリー機関車運転	機械質量 4.0t	〃		〃 〃
ズリ鋼車運転	側開転倒式 2.0m <sup>3</sup>	〃		〃 〃
空気圧縮機運転	定置式 スクリュー型 吐出量 8.1~9.1m <sup>3</sup> /min	〃		〃 〃
鋼製支保工		基		表 5. 6
諸雑費		式	1	表 5. 7
計				

(2) [略]

#### (3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項

ズリ積機	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	機-25	使用電力量 →60 機械損料数量 →1.06
バッテリー機関車	通称 4.0t 級	〃	使用電力量 →112 機械損料数量 →1.26
空気圧縮機	定置式スクリュウ型 吐出量 8.1~9.1m <sup>3</sup> /min	〃	使用電力量 →103 機械損料数量 →1.10
ズリ鋼車	2.0m <sup>3</sup>	〃	機械損料数量 →1.46
レグドリル	40kg級	〃	機械損料数量 →1.66

8-2 コンクリート単価表

(1) コンクリート覆工1m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
トンネル世話役	坑内	人		表7.2
トンネル特殊工	〃	〃		〃
トンネル作業員	〃	〃		〃
特殊作業員	坑外	〃		〃
生コンクリート		m <sup>3</sup>		表7.5
コンクリートポンプ運転	油圧・定置式 圧送能力 30~35m <sup>3</sup> /hr	週		表7.4 機械運転単価表×5
アジテータカー運転	被けん引式 運搬容量 3m <sup>3</sup>	〃		表7.4 機械運転単価表×5
バッテリー機関車運転	通称 6.0t 級	〃		表7.4 機械運転単価表×5
諸雑費		式	1	表7.6

(2) 機械運転単価表

① [略]

②坑口距離 400m超 2,000m以下

機械名	規格	適用単価表	指定事項
コンクリートポンプ	油圧・定置式 圧送能力 30~35m <sup>3</sup> /hr	機-25	使用電力量 →105 機械損料数量 →1.59
アジテータカー	被けん引式 運搬容量 3m <sup>3</sup>	〃	使用電力量 →44 機械損料数量 →1.77
バッテリー機関車	通称 6.0t 級	〃	使用電力量 →489 機械損料数量 →1.71

(3) 型枠工

① [略]

②鋼製スライディングフォーム組立・解体1基(12m)当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	5.1	表6.3
特殊作業員		〃	21.8	〃
普通作業員		〃	7.9	〃
とび工		〃	1.6	〃
溶接工		〃	1.2	〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型最大吊上能力 25t 吊	日	2.8	〃
計				

ズリ積機	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	機-25	使用電力量 →60 機械損料数量 →1.06
バッテリー機関車	機械質量 4.0t	〃	使用電力量 →112 機械損料数量 →1.26
空気圧縮機	定置式スクリュウ型 吐出量 8.1~9.1m <sup>3</sup> /min	〃	使用電力量 →103 機械損料数量 →1.10
ズリ鋼車	2.0m <sup>3</sup>	〃	機械損料数量 →1.46
レグドリル	40kg級	〃	機械損料数量 →1.66

8-2 コンクリート単価表

(1) コンクリート覆工1m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
トンネル世話役	坑内	人		表7.2
トンネル特殊工	〃	〃		〃
トンネル作業員	〃	〃		〃
特殊作業員	坑外	〃		〃
生コンクリート		m <sup>3</sup>		表7.5
コンクリートポンプ運転	油圧・定置式 圧送能力 30~35m <sup>3</sup> /hr	週		表7.4 機械運転単価表×5
アジテータカー運転	被けん引式 運搬容量 3m <sup>3</sup>	〃		表7.4 機械運転単価表×5
バッテリー機関車運転	機械質量 6.0t	〃		表7.4 機械運転単価表×5
諸雑費		式	1	表7.6

(2) 機械運転単価表

① [略]

②坑口距離 400m超 2,000m以下

機械名	規格	適用単価表	指定事項
コンクリートポンプ	油圧・定置式 圧送能力 30~35m <sup>3</sup> /hr	機-25	使用電力量 →105 機械損料数量 →1.59
アジテータカー	被けん引式 運搬容量 3m <sup>3</sup>	〃	使用電力量 →44 機械損料数量 →1.77
バッテリー機関車	機械質量 6.0t	〃	使用電力量 →489 機械損料数量 →1.71

(3) 型枠工

① [略]

②鋼製スライディングフォーム組立・解体1基(12m)当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	5.1	表6.3
特殊作業員		〃	21.8	〃
普通作業員		〃	7.9	〃
とび工		〃	1.6	〃
溶接工		〃	1.2	〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	2.8	〃
計				

② 岩トンネル（ドリルジャンボ工法）

1. ～ 4. [略]

5. 掘削及び支保工

5-1 [略]

5-2 掘削等機械歩掛

掘削等機械の機種、規格は、次表を標準とする。  
実情に合わない場合は現場条件等に即して別途積算すること。

表 5. 3 機種の選定 (台)

施工区分	機種	規格	台数	摘要
穿孔	ドリルジャンボ	レール式 油圧式2ブーム 通称(ドリフタ質量)100kg級	1	
ズリ出し	ズリ積機	クローラ式 バックハウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	1	設計掘削断面積 8.0m <sup>2</sup> 未満
		クローラ式 バックハウ型 コンベア能力 150m <sup>3</sup> /hr	1	設計掘削断面積 8.0m <sup>2</sup> 以上
	ズリ鋼車	エアバッグ式 積載容量 3.0m <sup>3</sup>	1	設計掘削断面積 8.0m <sup>2</sup> 未満 かつ片押延長 800m以下
		エアバッグ式 積載容量 4.5m <sup>3</sup>	1	設計掘削断面積 8.0m <sup>2</sup> 以上 かつ片押延長 800m以下
	シャトルカー	通称(積載容量)15m <sup>3</sup> 級	1	片押延長 800m超
	バッテリー機関車	通称 6.0t 級	2	片押延長 800m以下
		1	片押延長 800m超	
通称 8.0t 級		1	片押延長 800m超	

(注) [略]

表 5. 4 [略]

5-3～5-5 [略]

6.・7. [略]

8. 単価表

岩トンネル（ドリルジャンボ工法）

(1) 掘削工及び支保工 1m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
トンネル世話役	坑内	人		表 5. 2
トンネル特殊工	〃	〃		〃
トンネル作業員	〃	〃		〃
特殊作業員	坑外	〃		〃
普通作業員	〃	〃		〃
電工	〃	〃		〃
ドリルジャンボ運転	レール式 油圧式2ブーム、 通称(ドリフタ質量)100kg級	週		表 5. 3×表 5. 4 機械運転単価×5
ズリ積機運転	クローラ式 バックハウ型	〃		〃
バッテリー機関車運転	通称 6.0t 級	〃		〃
〃	通称 8.0t 級	〃		〃

② 岩トンネル（ドリルジャンボ工法）

1. ～ 4. [略]

5. 掘削及び支保工

5-1 [略]

5-2 掘削等機械歩掛

掘削等機械の機種、規格は、次表を標準とする。  
実情に合わない場合は現場条件等に即して別途積算すること。

表 5. 3 機種の選定 (台)

施工区分	機種	規格	台数	摘要
穿孔	ドリルジャンボ	レール式 油圧式2ブーム ドリフタ質量100kg級	1	
ズリ出し	ズリ積機	クローラ式 バックハウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	1	設計掘削断面積 8.0m <sup>2</sup> 未満
		クローラ式 バックハウ型 コンベア能力 150m <sup>3</sup> /hr	1	設計掘削断面積 8.0m <sup>2</sup> 以上
	ズリ鋼車	エアバッグ式 積載容量 3.0m <sup>3</sup>	1	設計掘削断面積 8.0m <sup>2</sup> 未満 かつ片押延長 800m以下
		エアバッグ式 積載容量 4.5m <sup>3</sup>	1	設計掘削断面積 8.0m <sup>2</sup> 以上 かつ片押延長 800m以下
	シャトルカー	15m <sup>3</sup> 級	1	片押延長 800m超
	バッテリー機関車	機械質量 6.0t	2	片押延長 800m以下
機械質量 8.0t		1	片押延長 800m超	

(注) [略]

表 5. 4 [略]

5-3～5-5 [略]

6.・7. [略]

8. 単価表

岩トンネル（ドリルジャンボ工法）

(1) 掘削工及び支保工 1m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
トンネル世話役	坑内	人		表 5. 2
トンネル特殊工	〃	〃		〃
トンネル作業員	〃	〃		〃
特殊作業員	坑外	〃		〃
普通作業員	〃	〃		〃
電工	〃	〃		〃
ドリルジャンボ運転	レール式 油圧式2ブーム、 ドリフタ質量100kg級	週		表 5. 3×表 5. 4 機械運転単価×5
ズリ積機運転	クローラ式 バックハウ型	〃		〃
バッテリー機関車運転	機械質量 6.0t	〃		〃
〃	機械質量 8.0t	〃		〃

ズリ鋼車運転	エアバッグ式	〃		〃
シャトルカー運転	通称(積載容量) 15m <sup>3</sup> 級	〃		〃
鋼製支保工		基		表5.5
諸雑費		式	1	表5.6
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

①片押延長 500m以下

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ドリルジャンボ	レール式 油圧式2ブーム 通称(ドリフト質量) 100kg級	機-25	使用電力量 →172 機械損料数量 →1.90
ズリ積機	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	〃	使用電力量 →66 機械損料数量 →1.10
〃	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 150m <sup>3</sup> /hr	〃	使用電力量 →77 機械損料数量 →1.02
バッテリー機関車	通称 6.0t級	〃	使用電力量 →208 機械損料数量 →1.17
ズリ鋼車	エアバッグ式 積載容量 3.0m <sup>3</sup>	〃	機械損料数量 →1.46
〃	エアバッグ式 積載容量 4.5m <sup>3</sup>	〃	機械損料数量 →1.46

②片押延長 500m超 800m以下

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ドリルジャンボ	レール式 油圧式2ブーム 通称(ドリフト質量) 100kg級	機-25	使用電力量 →159 機械損料数量 →1.83
ズリ積機	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	〃	使用電力量 →62 機械損料数量 →1.07
〃	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 150m <sup>3</sup> /hr	〃	使用電力量 →71 機械損料数量 →0.99
バッテリー機関車	通称 6.0t級	〃	使用電力量 →214 機械損料数量 →1.19
ズリ鋼車	エアバッグ式 積載容量 3.0m <sup>3</sup>	〃	機械損料数量 →1.46
〃	エアバッグ式 積載容量 4.5m <sup>3</sup>	〃	機械損料数量 →1.46

③片押延長 800m超 2,000m以下

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ドリルジャンボ	レール式 油圧式2ブーム 通称(ドリフト質量) 100kg級	機-25	使用電力量 →168 機械損料数量 →1.88
ズリ積機	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	〃	使用電力量 →66 機械損料数量 →1.10
〃	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 150m <sup>3</sup> /hr	〃	使用電力量 →73 機械損料数量 →1.00
バッテリー機関車	通称 6.0t級	〃	使用電力量 →231 機械損料数量 →1.21
〃	通称 8.0t級	〃	使用電力量 →235 機械損料数量 →1.12
シャトルカー	通称(積載容量) 15.0m <sup>3</sup> 級	〃	使用電力量 →62 機械損料数量 →1.41

ズリ鋼車運転	エアバッグ式	〃		〃
シャトルカー運転	15m <sup>3</sup> 級	〃		〃
鋼製支保工		基		表5.5
諸雑費		式	1	表5.6
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

①片押延長 500m以下

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ドリルジャンボ	レール式 油圧式2ブーム ドリフト質量 100kg級	機-25	使用電力量 →172 機械損料数量 →1.90
ズリ積機	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	〃	使用電力量 →66 機械損料数量 →1.10
〃	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 150m <sup>3</sup> /hr	〃	使用電力量 →77 機械損料数量 →1.02
バッテリー機関車	機械質量 6.0t	〃	使用電力量 →208 機械損料数量 →1.17
ズリ鋼車	エアバッグ式 積載容量 3.0m <sup>3</sup>	〃	機械損料数量 →1.46
〃	エアバッグ式 積載容量 4.5m <sup>3</sup>	〃	機械損料数量 →1.46

②片押延長 500m超 800m以下

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ドリルジャンボ	レール式 油圧式2ブーム ドリフト質量 100kg級	機-25	使用電力量 →159 機械損料数量 →1.83
ズリ積機	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	〃	使用電力量 →62 機械損料数量 →1.07
〃	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 150m <sup>3</sup> /hr	〃	使用電力量 →71 機械損料数量 →0.99
バッテリー機関車	機械質量 6.0t	〃	使用電力量 →214 機械損料数量 →1.19
ズリ鋼車	エアバッグ式 積載容量 3.0m <sup>3</sup>	〃	機械損料数量 →1.46
〃	エアバッグ式 積載容量 4.5m <sup>3</sup>	〃	機械損料数量 →1.46

③片押延長 800m超 2,000m以下

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ドリルジャンボ	レール式 油圧式2ブーム ドリフト質量 100kg級	機-25	使用電力量 →168 機械損料数量 →1.88
ズリ積機	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 70m <sup>3</sup> /hr	〃	使用電力量 →66 機械損料数量 →1.10
〃	クローラ式 バックホウ型 コンベア能力 150m <sup>3</sup> /hr	〃	使用電力量 →73 機械損料数量 →1.00
バッテリー機関車	機械質量 6.0t	〃	使用電力量 →231 機械損料数量 →1.21
〃	機械質量 8.0t	〃	使用電力量 →235 機械損料数量 →1.12
シャトルカー	15.0m <sup>3</sup> 級	〃	使用電力量 →62 機械損料数量 →1.41

③ トンネル仮設備

1. ～3. [略]

4. 掘削及び支保工

4-1 設置基準

工事用軌道の設置基準は、次表を標準とする。

表 4. 1 設置基準

機関関係	ズリ 鋼車 (m <sup>3</sup> )	軌 間 (mm)	軌 条 (kg)	枕 木 寸 法	枕木本数 (本/10m)	摘要
バッテリー機関車 <u>通称</u> 8.0t <u>級</u>	4.5	762	30	17cm×14cm×1.5m	12	
" <u>通称</u> 6.0t <u>級</u>	3.0	762	22	15 ×10 ×1.3	12	
" <u>通称</u> 4.0t <u>級</u>	2.0	610	15	"	12	
鋼製スライディングフォーム	—	—	22	"	12	

4-2～4-5 [略]

5. ～8. [略]

## 12. 地すべり防止工

① 集水井工（ライナープレート土留工法）

1. ～3. [略]

4. 機種の選定

4-1 掘削土留作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 4. 1 機種の選定

用途	機械名	規格	単位	数量	工 法		
					A	B	C
掘削及び排土	クラムシェル	油圧クラムシェルテレスコピック式 バケット容量(平積) 0.4m <sup>3</sup>	台	1	○		
排土及び 土留材・機材の 吊込み	クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) <u>最大吊上能力 4.9t 吊</u>	"	1	○	○	
	やぐら装置	簡易やぐら(モータウインチ付) <u>吊能力 2.0t</u> 鋼製φ60.5mm×4.0m	"	1			○
掘 削	小型バックホウ (クローラ型)	電動式 <u>(有線)・標準型</u> <u>バケット容量 0.022m<sup>3</sup></u>	"	1		○	○

(注) 1. ～3. [略]

4-2 [略]

③ トンネル仮設備

1. ～3. [略]

4. 掘削及び支保工

4-1 設置基準

工事用軌道の設置基準は、次表を標準とする。

表 4. 1 設置基準

機関関係	ズリ 鋼車 (m <sup>3</sup> )	軌 間 (mm)	軌 条 (kg)	枕 木 寸 法	枕木本数 (本/10m)	摘要
バッテリー機関車 8.0t	4.5	762	30	17cm×14cm×1.5m	12	
" 6.0t	3.0	762	22	15 ×10 ×1.3	12	
" 4.0t	2.0	610	15	"	12	
鋼製スライディングフォーム	—	—	22	"	12	

4-2～4-5 [略]

5. ～8. [略]

## 12. 地すべり防止工

① 集水井工（ライナープレート土留工法）

1. ～3. [略]

4. 機種の選定

4-1 掘削土留作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 4. 1 機種の選定

用途	機械名	規格	単位	数量	工 法		
					A	B	C
掘削及び排土	クラムシェル	油圧クラムシェルテレスコピック式 バケット容量(平積) 0.4m <sup>3</sup>	台	1	○		
排土及び 土留材・機材の 吊込み	クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 4.9t 吊	"	1	○	○	
	やぐら装置	簡易やぐら(モータウインチ付) 能力 2.0t 鋼製φ60.5mm×4.0m	"	1			○
掘 削	小型バックホウ (クローラ型)	電動式 <u>山積 0.022m<sup>3</sup> (平積 0.015m<sup>3</sup>)</u>	"	1		○	○

(注) 1. ～3. [略]

4-2 [略]

5. [略]

6. 施工歩掛

6-1・6-2 [略]

6-3 井戸蓋工

6-3-1 使用機械

井戸蓋工に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 6. 3 機種を選定 (1日当り)

機 械 名	規 格	単 位	数 量
クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 最大吊上能力 4.9t 吊	台	1

(注) [略]

6-3-2・6-3-3 [略]

6-4 昇降用設備設置工

6-4-1 使用機械

昇降用設備設置工に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 6. 6 機種を選定 (1日当り)

機 械 名	規 格	単 位	数 量
クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 最大吊上能力 4.9t 吊	台	1

(注) [略]

6-4-2～6-4-4 [略]

6-5 掘削作業設備の組立・解体

6-5-1 使用機械

やぐら装置の据付け・解体に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 6. 10 機種を選定 (1日当り)

機 械 名	規 格	単 位	数 量
ト ラ ッ ク	[クレーン装置付] ベーストラック 通称 2t 積級 吊能力 2.9t	台	1

6-5-2・6-5-3 [略]

7. 単価表

(1) [略]

(2) 掘削土留1基当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×D	表 5. 1、式 6. 1、 表 6. 1
ト ン ネ ル 特 殊 工		〃	3×D	
特 殊 作 業 員		〃	1×D	
普 通 作 業 員		〃	1×D	
ク ラ ム シ ェ ル 運	油圧クラムシェル・テレスコピック式 バケット容量(平積) 0.4m <sup>3</sup>	日	D	式 6. 1 ※A工法のみ計上 機械賃料

5. [略]

6. 施工歩掛

6-1・6-2 [略]

6-3 井戸蓋工

6-3-1 使用機械

井戸蓋工に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 6. 3 機種を選定 (1日当り)

機 械 名	規 格	単 位	数 量
クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 4.9t 吊	台	1

(注) [略]

6-3-2・6-3-3 [略]

6-4 昇降用設備設置工

6-4-1 使用機械

昇降用設備設置工に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 6. 6 機種を選定 (1日当り)

機 械 名	規 格	単 位	数 量
クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 4.9t 吊	台	1

(注) [略]

6-4-2～6-4-4 [略]

6-5 掘削作業設備の組立・解体

6-5-1 使用機械

やぐら装置の据付け・解体に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 6. 10 機種を選定 (1日当り)

機 械 名	規 格	単 位	数 量
ト ラ ッ ク	[クレーン装置付] ベーストラック 2t 級 吊能力 2.9t	台	1

6-5-2・6-5-3 [略]

7. 単価表

(1) [略]

(2) 掘削土留1基当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×D	表 5. 1、式 6. 1、 表 6. 1
ト ン ネ ル 特 殊 工		〃	3×D	
特 殊 作 業 員		〃	1×D	
普 通 作 業 員		〃	1×D	
ク ラ ム シ ェ ル 運	油圧クラムシェル・テレスコピック式 バケット容量(平積) 0.4m <sup>3</sup>	日	D	式 6. 1 ※A工法のみ計上 機械賃料

クローラクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) <u>最大吊上能力</u> 4.9t 吊	〃	D	式6.1 ※A・B工法のみ計上 機械賃料
小型バックホウ (クローラ型)運転	電動式(有線)・標準型 <u>バケット容量</u> 0.022m <sup>3</sup>	〃	D	式6.1 ※B・C工法のみ計上 機械損料
やぐら装置運転	簡易やぐら(モータウインチ付) <u>吊能力</u> 2.0t 鋼製φ60.5mm×4.0m	〃	D	式6.1 ※C工法のみ計上 機械損料
諸 雑 費		式	1	表6.2
計				

(注) [略]

(3) [略]

(4) 井戸蓋工1基当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×1/D	表6.4、表6.5
特 殊 作 業 員		〃	2×1/D	
普 通 作 業 員		〃	1×1/D	
クローラクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) <u>最大吊上能力</u> 4.9t 吊	日	1×1/D	表6.3、表6.5 機械賃料
井 戸 蓋 材		基	1	
計				

(注) [略]

(5) 昇降用設備設置工10m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10/D	表6.7、表6.8
特 殊 作 業 員		〃	2×10/D	
普 通 作 業 員		〃	1×10/D	
クローラクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) <u>最大吊上能力</u> 4.9t 吊	日	1×10/D	表6.6 機械賃料
諸 雑 費				表6.9
計				

(注) 1.・2. [略]

(6) 掘削作業設備据付け・解体1基1回当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×1/D	表6.11、表6.12
特 殊 作 業 員		〃	2×1/D	
普 通 作 業 員		〃	1×1/D	
ト ラ ッ ク 運 転	[クレーン装置付] ベストラック <u>通称</u> 2t <u>積級</u> 吊能力2.9t	日	1×1/D	表6.10 機械損料
計				

(注) [略]

(7) 機械運転単価表

クローラクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 4.9t 吊	〃	D	式6.1 ※A・B工法のみ計上 機械賃料
小型バックホウ (クローラ型)運転	電動式 <u>山積</u> 0.022m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.015m <sup>3</sup> )	〃	D	式6.1 ※B・C工法のみ計上 機械損料
やぐら装置運転	簡易やぐら(モータウインチ付) 能力2.0t 鋼製φ60.5mm×4.0m	〃	D	式6.1 ※C工法のみ計上 機械損料
諸 雑 費		式	1	表6.2
計				

(注) [略]

(3) [略]

(4) 井戸蓋工1基当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×1/D	表6.4、表6.5
特 殊 作 業 員		〃	2×1/D	
普 通 作 業 員		〃	1×1/D	
クローラクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 4.9t 吊	日	1×1/D	表6.3、表6.5 機械賃料
井 戸 蓋 材		基	1	
計				

(注) [略]

(5) 昇降用設備設置工10m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10/D	表6.7、表6.8
特 殊 作 業 員		〃	2×10/D	
普 通 作 業 員		〃	1×10/D	
クローラクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 4.9t 吊	日	1×10/D	表6.6 機械賃料
諸 雑 費				表6.9
計				

(注) 1.・2. [略]

(6) 掘削作業設備据付け・解体1基1回当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×1/D	表6.11、表6.12
特 殊 作 業 員		〃	2×1/D	
普 通 作 業 員		〃	1×1/D	
ト ラ ッ ク 運 転	[クレーン装置付] ベストラック 2t 級 吊能力 2.9t	日	1×1/D	表6.10 機械損料
計				

(注) [略]

(7) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ク ラ ム シ ェ ル	油圧クラムシェル・テレスコピック式 バケット容量 (平積) 0.4m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→45 機械賃料数量→1.41
ク ロー ラ ク レ ーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) <u>最大吊上能力</u> 4.9t 吊	機-28	(A工法) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→12 機械賃料数量→1.47 (B工法) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→16 機械賃料数量→1.47 [井戸蓋、昇降用設備設置] 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→14 機械賃料数量→1.47
小 型 バ ッ ク ホ ウ (ク ロー ラ 型)	電動式 (有線) ・標準型 <u>バケット容量</u> 0.022m <sup>3</sup>	機-25	(B工法) 機械損料数量→1.48 (C工法) 機械損料数量→1.41
や ぐ ら 装 置	簡易やぐら (モータウインチ付) <u>吊能力</u> 2.0t 鋼製 φ60.5mm×4.0m	機-25	機械損料数量→1.44
ト ラ ッ ク	[クレーン装置付] ベストラック <u>通称</u> 2t <u>積級</u> 吊能力 2.9t	機-18	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→21 機械損料数量→1.21

② 集排水ボーリング工 (ロータリー式)

1.・2. [略]

3. 地表ボーリング

3-1 使用機種

水抜ボーリング運転に使用する施工機械は、次表を標準とする。

表 3. 1 水抜ボーリング運転使用機械 (1日当り)

機 械 名	規 格	台数
ボーリングマシン	油圧 <u>通称</u> 5.5kW 級	1
グラウトポンプ	横型単筒 30~70ℓ/分、4.0kW	1
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第 <u>3</u> 次基準値) ディーゼルエンジン駆動 45kVA	1

(注) 1.・2. [略]

3-2 ~ 3-4 [略]

4. 集水井内ボーリング

4-1 使用機種

水抜ボーリング運転に使用する施工機械は、次表を標準とする。

表 4. 1 水抜ボーリング運転使用機械 (1日当り)

機 械 名	規 格	台数
ボーリングマシン	油圧 <u>通称</u> 5.5kW 級	1
グラウトポンプ	横型単筒 30~70ℓ/分、4.0kW	1
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第 <u>3</u> 次基準値)	1

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ク ラ ム シ ェ ル	油圧クラムシェル・テレスコピック式 バケット容量 (平積) 0.4m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→45 機械賃料数量→1.41
ク ロー ラ ク レ ーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 4.9t 吊	機-28	(A工法) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→12 機械賃料数量→1.47 (B工法) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→16 機械賃料数量→1.47 [井戸蓋、昇降用設備設置] 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→14 機械賃料数量→1.47
小 型 バ ッ ク ホ ウ (ク ロー ラ 型)	電動式 <u>山積</u> 0.022m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.015m <sup>3</sup> )	機-25	(B工法) 機械損料数量→1.48 (C工法) 機械損料数量→1.41
や ぐ ら 装 置	簡易やぐら (モータウインチ付) 能力 2.0t 鋼製 φ60.5mm×4.0m	機-25	機械損料数量→1.44
ト ラ ッ ク	[クレーン装置付] ベストラック 2t 級 吊能力 2.9t	機-18	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→21 機械損料数量→1.21

② 集排水ボーリング工 (ロータリー式)

1.・2. [略]

3. 地表ボーリング

3-1 使用機種

水抜ボーリング運転に使用する施工機械は、次表を標準とする。

表 3. 1 水抜ボーリング運転使用機械 (1日当り)

機 械 名	規 格	台数
ボーリングマシン	油圧 5.5kW 級	1
グラウトポンプ	横型単筒 30~70ℓ/分、4.0kW	1
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第 <u>1</u> 次基準値) ディーゼルエンジン駆動 45kVA	1

(注) 1.・2. [略]

3-2 ~ 3-4 [略]

4. 集水井内ボーリング

4-1 使用機種

水抜ボーリング運転に使用する施工機械は、次表を標準とする。

表 4. 1 水抜ボーリング運転使用機械 (1日当り)

機 械 名	規 格	台数
ボーリングマシン	油圧 5.5kW 級	1
グラウトポンプ	横型単筒 30~70ℓ/分、4.0kW	1
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第 <u>1</u> 次基準値)	1

	ディーゼルエンジン駆動 45kVA	
--	-------------------	--

(注) 1.・2. [略]

4-2 ~ 4-4 [略]

5. [略]

6. ボーリングマシンの設置・撤去工

6-1 使用機械

ボーリングマシンの設置・撤去に使用する施工機械は、次表を標準とする。

表 6. 1 機種の選定

施工区分	名称	規格
地表及び集水井内	トラッククレーン(油圧伸縮ジブ型)	最大吊上能力 4.9t 吊

(注) 1.・2. [略]

6-2 施工歩掛 [略]

7. 単価表

(1) ~ (3) [略]

(4) ボーリングマシン設備運転 1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ボーリングマシン損料		日	1.0	
グラウトポンプ損料		〃	1.0	
電力料		kWh		商用電源使用の場合
発動発電機運転	排出ガス対策型(第3次基準値) ディーゼルエンジン駆動 45kVA	日	1.0	商用電源を使用する場合は計上しない
計				

(5) [略]

(6) ボーリングマシンの設置・撤去 1 日 (回) 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 6. 2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 4.9t 吊	日		〃
計				

(7) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ボーリングマシン	油圧 5.5kW 級	機-14	
グラウトポンプ	30~700/分、4.0kW	機-14	
発動発電機	排出ガス対策型(第3次基準値) ディーゼルエンジン駆動 45kVA	機-16	燃料消費量→36 機械賃料数量→1.18

③ [略]

④ 地すべり防止工 (ふとんかご)

1. 適用範囲

本歩掛は、地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設の施工における、ふとんかごの設置に適用する。

	ディーゼルエンジン駆動 45kVA	
--	-------------------	--

(注) 1.・2. [略]

4-2 ~ 4-4 [略]

5. [略]

6. ボーリングマシンの設置・撤去工

6-1 使用機械

ボーリングマシンの設置・撤去に使用する施工機械は、次表を標準とする。

表 6. 1 機種の選定

施工区分	名称	規格
地表及び集水井内	トラッククレーン(油圧伸縮ジブ型)	4.9t 吊

(注) 1.・2. [略]

6-2 施工歩掛 [略]

7. 単価表

(1) ~ (3) [略]

(4) ボーリングマシン設備運転 1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ボーリングマシン損料		日	1.0	
グラウトポンプ損料		〃	1.0	
電力料		kWh		商用電源使用の場合
発動発電機運転	排出ガス対策型(第1次基準値) ディーゼルエンジン駆動 45kVA	日	1.0	商用電源を使用する場合は計上しない
計				

(5) [略]

(6) ボーリングマシンの設置・撤去 1 日 (回) 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 6. 2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	日		〃
計				

(7) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ボーリングマシン	油圧 5.5kW 級	機-14	
グラウトポンプ	30~700/分、4.0kW	機-14	
発動発電機	排出ガス対策型(第1次基準値) ディーゼルエンジン駆動 45kVA	機-16	燃料消費量→36 機械賃料数量→1.18

③ [略]

④ 地すべり防止工 (ふとんかご)

1. 適用範囲

本歩掛は、地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設における、ふとんかご (階段式、パネル式、高さ 40~100 cm、幅 120cm、

1-1 適用できる範囲 (以下の全ての条件に該当する場合)

- (1) 設置高さ: 2m以下
- (2) 設置型式: 階段式
- (3) 構造: パネル式
- (4) 寸法: 高さ40cm×幅120cm、高さ50cm×幅120cm、高さ50cm×幅200cm、高さ60cm×幅120cm、高さ100cm×幅120cm、高さ100cm×幅200cm

2. [略]

3. 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.1 機種を選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・超低騒音型・ 排出ガス対策型(2014年規制) バケット容量0.5m <sup>3</sup>	台	1	
不整地運搬車	クローラ型・ダンプ式 排出ガス対策(第3次基準値) 通称2t積級	"	1	必要に応じて計上

4. 施工歩掛

ふとんかご施工歩掛は、次表を標準とする。

表 4.1 ふとんかご施工歩掛 (10m当り)

名 称	規 格	単 位	ふとんかご規格 (cm)						摘 要
			高さ40 幅120	高さ50幅 120	高さ50幅 200	高さ60 幅120	高さ100 幅120	高さ100 幅200	
世 話 役		人	0.7	0.8	1.2	0.9	1.4	2.6	
特 殊 作 業 員		"	0.7	0.9	1.4	1.0	1.7	2.9	
普 通 作 業 員		"	1.9	2.3	3.9	2.8	4.6	7.8	
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回・超低騒音型・排出 ガス対策型(2014年規 制) バケット容 量0.5m <sup>3</sup>	日	0.4	0.6	0.9	0.7	1.1	1.8	
不整地運搬車 運転	クローラ型・ダ ンプ式 排出ガス対策 (第3次基準 値) 通称2t積級	日	0.3	0.4	0.7	0.6	0.8	1.4	必要に 応じて計上 (注)1

(注) 1. [略]

[削る。]  
[削る。]

2. 運搬機械が上表により難しい場合は、別途考慮する。

3. 吸出し防止材の設置の有無にかかわらず上表を適用することができる。ただし、設置する場合は、材料を別途計上する。なお、吸出し防止材は底面及び背面への設置のみとし、厚さ10mmを標準とする。また、底面及び背面以外への吸出し防止材の設置は、別途考慮すること。

4. バックホウ(クローラ型)、不整地運搬車は、賃料とする。

200cm)の施工に適用する。

[新設]

2. [略]

3. 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.1 機種を選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 山積0.5m <sup>3</sup> (平積0.4m <sup>3</sup> )	台	1	
不整地運搬車	クローラ型・ダンプ式2t積	"	1	必要に応じて計上

4. 施工歩掛

ふとんかご施工歩掛は、次表を標準とする。

表 4.1 ふとんかご施工歩掛 (10m当り)

ふとんかご規格		高さ(cm)						摘 要	
		40	50	60	100				
名 称	規 格	幅(cm)		120		200		摘 要	
		単位	120	200	120	200			
詰 石		m <sup>3</sup>	4.6	5.7	9.5	6.8	11	19	
世 話 役		人	0.6	0.7	1.1	0.8	1.3	2.3	
特 殊 作 業 員		"	0.6	0.8	1.3	0.9	1.5	2.6	
普 通 作 業 員		"	1.7	2.1	3.5	2.5	4.1	7.0	
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 山積0.5m <sup>3</sup> (平積0.4m <sup>3</sup> )	h	2.3	2.9	4.8	3.4	5.5	9.6	
不整地運搬車 運転	クローラ型・ダンプ式2t積	日	0.3	0.4	0.6	0.5	0.7	1.3	必要に 応じて計上(注)1

(注) 1. 本歩掛は、床拵え、吸出し防止材設置、かご組立・据付け、詰石、蓋設置、埋戻し及び平均運搬距離30mまでの現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が30mを超え200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。

2. 本歩掛は、階段式にのみ適用し、スロープ式には適用しない。

3. 詰石量は、材料ロスを含む。(表5.1)

4. 運搬機械が上表により難しい場合は、別途考慮する。

5. 吸出し防止材の設置の有無にかかわらず上表を適用することができる。ただし、設置する場合は、材料を別途計上する。なお、吸出し防止材は厚さ10mmを標準とする。

6. 不整地運搬車は、賃料とする。

5. ふとんかごの撤去が必要な場合は、別途考慮すること。

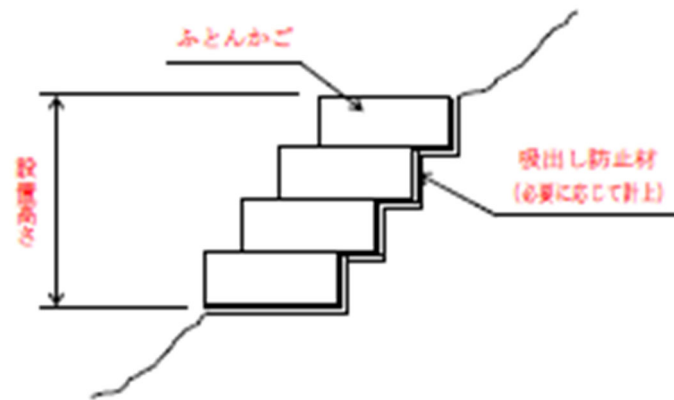


図 4. 1 地すべり防止工 (ふとんかご) 概念図

5. 材料使用数量

(1) 積石材の使用数量

積石材の使用数量は、次式による。

積石材の使用数量 (m³) = かご容積 (m³) × (1 + K) …式 5. 1

かご容積 (m³) = 高さ (m) × 幅 (m) × 延長 (m)

K : ロス率

表 5. 1 ロス率 (K)

名称	積石材
ロス率	-0.05

積石材の使用数量は次表を標準とする。なお、表 5. 1 に示すロス率を含む数量である。

表 5. 2 積石材標準使用数量 (10m 当り)

ふとんかご規格		積石材
高さ (cm)	幅 (cm)	標準使用数量 (m³)
40	120	4.6
50	120	5.7
50	200	9.5
60	120	6.8
100	120	11
100	200	19

(2) 吸出し防止材の使用数量

吸出し防止材の使用数量は、次表による。

吸出し防止材の使用数量 (m²) = 設計数量 (m²) × (1 + K) …式 5. 2

K : ロス率

表 5. 3 ロス率 (K)

名称	吸出し防止材
ロス率	+0.07

6. 単価表

(1) ふとんかご 10m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 1
特殊作業員		〃		〃

7. ふとんかごの撤去歩掛は、上表の 50%とする。

[新設]

5. 材料使用数量

積石材、吸出し防止材の使用数量は、次式による。

積石材の使用数量 (m³) = かご容積 (m³) × (1 + K) …式 5. 1

吸出し防止材の使用数量 (m²) = 設計数量 (m²) × (1 + K) …式 5. 2

K : ロス率

表 5. 1 ロス率 (K)

名称	積石材	吸出し防止材
ロス率	-0.05	+0.07

[新設]

[新設]

[新設]

6. 単価表

(1) ふとんかご 10m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 1
特殊作業員		〃		〃

普通作業員		〃		〃
ふとんかご		m	10	パネル式とする
詰石		m <sup>3</sup>		表5.1、表5.2、式5.1
吸出し防止材	t=10mm	m <sup>2</sup>		表4.1、表5.3、式5.2 必要に応じて計上
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型・ 排出ガス対策型(2014年規制) バケット容量0.5m <sup>3</sup>	日		表4.1 機械賃料
不整地運搬車運転	クローラ型・ダンプ式 排出ガス対策(第3次基準値) 通称2t積級	日		表4.1 必要に応じて計上 機械賃料
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制) バケット容量0.5m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→64 機械賃料数量→1.50
不整地運搬車	クローラ型・ダンプ式 排出ガス対策(第3次基準値) 通称2t積級	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→5.4 機械賃料数量→1.71

⑤ 山腹水路工

1.・2. [略]

3. 使用機械

機種・規格は次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

用途	機械名	規格	単位	数量	摘要
掘削及び据付	バックホウ (クレーン機能付き)	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 バケット容量0.28m <sup>3</sup> 吊能力1.7t	台	1	
資材運搬	不整地運搬車	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型・ダンプ式 通称2.5t積級	〃	1	必要に応じて計上する

(注) 1.～3. [略]

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1～5-3 [略]

5-4 集水樹工

5-4-1 集水樹設置歩掛

集水樹設置の歩掛は、次表を標準とする。

表5.15 集水樹設置歩掛 (1基当り)

内空体積			0.4m <sup>3</sup> 以下	0.4を超え 0.8m <sup>3</sup> 以下	0.8を超え 1.0m <sup>3</sup> 以下	摘要
名称	規格	単位				
世話役		人	0.7	0.8	1.0	
特殊作業員		〃	0.5	0.6	0.7	

普通作業員		〃		〃
ふとんかご		m	10	パネル式とする
詰石		m <sup>3</sup>		表4.1、表5.1、式5.1
吸出し防止材	t=10mm	m <sup>2</sup>		表4.1、表5.1、式5.2 必要に応じて計上
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.5m <sup>3</sup> (平積0.4m <sup>3</sup> )	日		表4.1 機械賃料
不整地運搬車運転	クローラ型・ダンプ式2t積	日		表4.1 必要に応じて計上 機械賃料
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.5m <sup>3</sup> (平積0.4m <sup>3</sup> )	機-1	
不整地運搬車	クローラ型・ダンプ式2t積	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→5.9 機械賃料数量→1.71

⑤ 山腹水路工

1.・2. [略]

3. 使用機械

機種・規格は次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

用途	機械名	規格	単位	数量	摘要
掘削及び据付	バックホウ (クレーン機能付き)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力1.7t	台	1	
資材運搬	不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式2.5t積	〃	1	必要に応じて計上する

(注) 1.～3. [略]

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1～5-3 [略]

5-4 集水樹工

5-4-1 集水樹設置歩掛

集水樹設置の歩掛は、次表を標準とする。

表5.15 集水樹設置歩掛 (1基当り)

内空体積			0.4m <sup>3</sup> 以下	0.4を超え 0.8m <sup>3</sup> 以下	0.8を超え 1.0m <sup>3</sup> 以下	摘要
名称	規格	単位				
世話役		人	0.7	0.8	1.0	
特殊作業員		〃	0.5	0.6	0.7	

普通作業員		〃	1.0	1.2	1.4	
型わく工		〃	0.2	0.3	0.4	
バックホウ (クレーン機能付) 運 転	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)クローラ型 <u>バケット容量</u> 0.28m <sup>3</sup> 吊能力 1.7t	h	3.4	4.2	4.8	
不整地運搬車	排出ガス対策型(第2次基準値)クローラ型・ダンプ式 <u>通称</u> 2.5t積級	日	0.1			必要に応じて計上する(注)1
諸雑费率		%	7			

(注) 1. ～ 6. [略]

5-4-2 プレキャスト集水樹据付歩掛  
プレキャスト集水樹据付の歩掛は、次表を標準とする。

表 5. 16 プレキャスト集水樹据付歩掛 (1基当り)

集水樹製品質量			150を超え 500kg以下	500を超え 1,000kg以下	1,000を超え 1,500kg以下	1,500を超え 1,700kg以下	摘 要
名 称	規 格	単 位					
世 話 役		人	0.2	0.3	0.3	0.3	
特殊作業員		〃	0.3	0.3	0.3	0.4	
普通作業員		〃	0.5	0.5	0.6	0.6	
バックホウ (クレーン機能付) 運 転	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)クローラ型 <u>バケット容量</u> 0.28m <sup>3</sup> 吊能力 1.7t	h	2.2	2.7	3.2	3.5	
不整地運搬車	排出ガス対策型(第2次基準値)クローラ型・ダンプ式 <u>通称</u> 2.5t積級	日	0.1				必要に応じて計上する(注)1
諸雑费率		%	0.6				

(注) 1. ～ 5. [略]

## 6. 材料使用数量

6-1・6-2 [略]

### 6-3 コンクリート使用数量

集水樹等に使用するコンクリート使用数量は、次式による。  
使用数量 (m<sup>3</sup>) = 設計数量 (m<sup>3</sup>) × (1 + K) …… 式 6. 3  
K: ロス率

集水樹等に使用するコンクリート使用量のロス率は、「第II編4章コンクリート工①コンクリート工」による。なお、構造物の種類別は無筋構造物とする。

### 6-4 暗渠管使用数量

暗渠管(塩化ビニル製又はポリエチレン製)の使用数量は、次式による。  
使用数量 (m) = 設計数量 (m) × (1 + K) …… 式 6. 4  
K: ロス率

暗渠管(塩化ビニル製又はポリエチレン製)使用量のロス率は、「第II編4章第2章共通工⑩排水構造物工」暗渠排水管による。

7. [略]

普通作業員		〃	1.0	1.2	1.4	
型わく工		〃	0.2	0.3	0.4	
バックホウ (クレーン機能付) 運 転	排出ガス対策型(第2次基準値)クローラ型 <u>山積</u> 0.28m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力 1.7t	h	3.4	4.2	4.8	
不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値)クローラ型・ダンプ式2.5t積	日	0.1			必要に応じて計上する(注)1
諸雑费率		%	7			

(注) 1. ～ 6. [略]

5-4-2 プレキャスト集水樹据付歩掛  
プレキャスト集水樹据付の歩掛は、次表を標準とする。

表 5. 16 プレキャスト集水樹据付歩掛 (1基当り)

集水樹製品質量			150を超え 500kg以下	500を超え 1,000kg以下	1,000を超え 1,500kg以下	1,500を超え 1,700kg以下	摘 要
名 称	規 格	単 位					
世 話 役		人	0.2	0.3	0.3	0.3	
特殊作業員		〃	0.3	0.3	0.3	0.4	
普通作業員		〃	0.5	0.5	0.6	0.6	
バックホウ (クレーン機能付) 運 転	排出ガス対策型(第2次基準値)クローラ型 <u>山積</u> 0.28m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力 1.7t	h	2.2	2.7	3.2	3.5	
不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値)クローラ型・ダンプ式2.5t積	日	0.1				必要に応じて計上する(注)1
諸雑费率		%	0.6				

(注) 1. ～ 5. [略]

## 6. 材料使用数量

6-1・6-2 [略]

### 6-3 コンクリート使用数量

[新設]

集水樹等に使用するコンクリート使用量のロス率は、「施工パッケージ型積算基準3.コンクリート工②コンクリート工」による。なお、構造物の種類別は無筋構造物とする。

### 6-4 暗渠管使用数量

[新設]

暗渠管(塩化ビニル製又はポリエチレン製)使用量のロス率は、「施工パッケージ型積算基準7.道路工⑥暗渠排水管布設」による。

7. [略]

8. 単価表

(1) 山腹U型側溝（機械据付・人力据付）10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、表5.1 又は表5.3
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	2×10/D	〃
U型側溝		個		
表面コンクリート		m <sup>3</sup>		必要に応じて別途計上
砕石		〃		式6.2、表6.2
バックホウ（クレーン機能付） 運転	標準型・クレーン機能付・排出 ガス対策型（第2次基準値） バケット容量 0.28m <sup>3</sup> 吊能力 1.7t	日	1×10/D	機械損料
不整地運搬車運転	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型・ダンプ式 通称2.5t 積級	〃	1×10/D	必要に応じて計上 機械賃料
諸雑費			1	表5.2、表5.4
計				

(注) [略]

(2) 山腹コルゲートフリューム据付 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、表5.5
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	2×10/D	〃
コルゲートフリューム （ポリエチレン製角型U字溝）		m	10	
表面コンクリート		m <sup>3</sup>		必要に応じて別途計上
砕石		〃		式6.2、表6.2
バックホウ （クレーン機能付）運転	標準型・クレーン機能付・排出 ガス対策型（第2次基準値） バケット容量 0.28m <sup>3</sup> 吊能力 1.7t	日	1×10/D	機械損料
不整地運搬車運転	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型・ダンプ式 通称2.5t 積級	〃	1×10/D	必要に応じて計上 機械賃料
諸雑費		式	1	表5.6
計				

(注) [略]

(3) 山腹U型側溝明暗渠（機械据付・人力据付）10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、表5.7 又は表5.9
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	2×10/D	〃
U型側溝		個		
暗渠管	塩化ビニル製又はポリエチレン製	m		

8. 単価表

(1) 山腹U型側溝（機械据付・人力据付）10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、表5.1 又は表5.3
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	2×10/D	〃
U型側溝		個		
表面コンクリート		m <sup>3</sup>		必要に応じて別途計上
砕石		〃		式6.2、表6.2
バックホウ（クレーン機能付） 運転	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> （平積0.2m <sup>3</sup> ） 吊能力 1.7t	日	1×10/D	[新設]
不整地運搬車運転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・ダンプ式2.5t積	〃	1×10/D	必要に応じて計上 [新設]
諸雑費			1	表5.2、表5.4
計				

(注) [略]

(2) 山腹コルゲートフリューム据付 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、表5.5
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	2×10/D	〃
コルゲートフリューム （ポリエチレン製角型U字溝）		m	10	
表面コンクリート		m <sup>3</sup>		必要に応じて別途計上
砕石		〃		式6.2、表6.2
バックホウ （クレーン機能付）運転	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> （平積0.2m <sup>3</sup> ） 吊能力 1.7t	日	1×10/D	[新設]
不整地運搬車運転	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・ダンプ式2.5t積	〃	1×10/D	必要に応じて計上 [新設]
諸雑費		式	1	表5.6
計				

(注) [略]

(3) 山腹U型側溝明暗渠（機械据付・人力据付）10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、表5.7 又は表5.9
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	2×10/D	〃
U型側溝		個		
暗渠管	塩化ビニル製又はポリエチレン製	m		

表面コンクリート		m <sup>3</sup>		必要に応じて別途計上
砕石		〃		式6.2、表6.2
遮水シート		m <sup>2</sup>		式6.1、表6.1
吸出防止材		〃		〃 必要に応じて計上
バックホウ(クレーン機能付)運	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量 0.28m <sup>3</sup> 吊能力 1.7t	日	1×10/D	機械損料
不整地運搬車運	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型・ダンプ式 通称2.5t 積級	〃	1×10/D	必要に応じて計上 機械賃料
諸雑費		式	1	表5.8、表5.10
計				

(注) [略]

(4) 山腹コルゲートフリューム明暗渠据付 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、表5.11
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	2×10/D	〃
コルゲートフリューム(ポリエチレン製角型U字溝)		m	10	
暗渠管	塩化ビニル製又はポリエチレン製	〃		
表面コンクリート		m <sup>3</sup>		必要に応じて別途計上
砕石		〃		式6.2、表6.2
遮水シート		m <sup>2</sup>		式6.1、表6.1
吸出防止材		〃		〃 必要に応じて計上
バックホウ(クレーン機能付)運	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量 0.28m <sup>3</sup> 吊能力 1.7t	日	1×10/D	機械損料
不整地運搬車運	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型・ダンプ式 通称2.5t 積級	〃	1×10/D	必要に応じて計上 機械賃料
諸雑費		式	1	表5.12
計				

(注) [略]

(5) 山腹暗渠管据付 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、表5.13
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	2×10/D	〃
暗渠管	塩化ビニル製又はポリエチレン製	m		
砕石		m <sup>3</sup>		式6.2、表6.2
遮水シート		m <sup>2</sup>		式6.1、表6.1
吸出防止材		〃		〃 必要に応じて計上
バックホウ(クレーン機能付)運	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量 0.28m <sup>3</sup> 吊能力 1.7t	日	1×10/D	機械損料

表面コンクリート		m <sup>3</sup>		必要に応じて別途計上
砕石		〃		式6.2、表6.2
遮水シート		m <sup>2</sup>		式6.1、表6.1
吸出防止材		〃		〃 必要に応じて計上
バックホウ(クレーン機能付)運	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力 1.7t	日	1×10/D	[新設]
不整地運搬車運	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式 2.5t積	〃	1×10/D	必要に応じて計上 [新設]
諸雑費		式	1	表5.8、表5.10
計				

(注) [略]

(4) 山腹コルゲートフリューム明暗渠据付 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、表5.11
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	2×10/D	〃
コルゲートフリューム(ポリエチレン製角型U字溝)		m	10	
暗渠管	塩化ビニル製又はポリエチレン製	〃		
表面コンクリート		m <sup>3</sup>		必要に応じて別途計上
砕石		〃		式6.2、表6.2
遮水シート		m <sup>2</sup>		式6.1、表6.1
吸出防止材		〃		〃 必要に応じて計上
バックホウ(クレーン機能付)運	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力 1.7t	日	1×10/D	[新設]
不整地運搬車運	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式 2.5t積	〃	1×10/D	必要に応じて計上 [新設]
諸雑費		式	1	表5.12
計				

(注) [略]

(5) 山腹暗渠管据付 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、表5.13
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	2×10/D	〃
暗渠管	塩化ビニル製又はポリエチレン製	m		
砕石		m <sup>3</sup>		式6.2、表6.2
遮水シート		m <sup>2</sup>		式6.1、表6.1
吸出防止材		〃		〃 必要に応じて計上
バックホウ(クレーン機能付)運	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力 1.7t	日	1×10/D	[新設]

不整地運搬車運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型・ダンプ式 <u>通称2.5t積級</u>	〃	1×10/D	必要に応じて計上 <u>機械賃料</u>
諸雑費		式	1	表5.14
計				

(注) [略]

(6) 集水樹設置1基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表5.15
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
型わく工		〃		〃
コンクリート		m <sup>3</sup>		
砕石		〃		式6.2、表6.2
バックホウ (クレーン機能付) 運転	<u>標準型・クレーン機能付</u> ・排出ガス対策型(第2次基準値) <u>バケット容量</u> 0.28m <sup>3</sup> 吊能力1.7t	h		表5.15 <u>機械損料</u>
不整地運搬車運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型・ダンプ式 <u>通称2.5t積級</u>	日		〃 必要に応じて計上 <u>機械賃料</u>
諸雑費		式		表5.15
計				

(7) プレキャスト集水樹据付1基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表5.16
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
集水樹		基	1	
砕石		m <sup>3</sup>		式6.2、表6.2
バックホウ (クレーン機能付) 運転	<u>標準型・クレーン機能付</u> ・排出ガス対策型(第2次基準値) <u>バケット容量</u> 0.28m <sup>3</sup> 吊能力1.7t	h		表5.16 <u>機械損料</u>
不整地運搬車運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型・ダンプ式 <u>通称2.5t積級</u>	日		〃 必要に応じて計上 <u>機械賃料</u>
諸雑費		式	1	表5.16
計				

(8) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ(クレーン機能付) (集水樹工)	<u>標準型・クレーン機能付</u> ・排出ガス対策型(第2次基準値) <u>バケット容量</u> 0.28m <sup>3</sup> 吊能力1.7t	機-1	
バックホウ(クレーン機能付) (山腹集水路・排水路工) (山腹明暗渠工) (山腹暗渠工)	<u>標準型・クレーン機能付</u> ・排出ガス対策型(第2次基準値) <u>バケット容量</u> 0.28m <sup>3</sup> 吊能力1.7t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→37 機械損料数量→1.58

不整地運搬車運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式2.5t積	〃	1×10/D	必要に応じて計上 <u>[新設]</u>
諸雑費		式	1	表5.14
計				

(注) [略]

(6) 集水樹設置1基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表5.15
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
型わく工		〃		〃
コンクリート		m <sup>3</sup>		
砕石		〃		式6.2、表6.2
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 <u>山積</u> 0.28m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力1.7t	h		表5.15 <u>[新設]</u>
不整地運搬車運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式2.5t積	日		〃 必要に応じて計上 <u>[新設]</u>
諸雑費		式		表5.15
計				

(7) プレキャスト集水樹据付1基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表5.16
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
集水樹		基	1	
砕石		m <sup>3</sup>		式6.2、表6.2
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 <u>山積</u> 0.28m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力1.7t	h		表5.16 <u>[新設]</u>
不整地運搬車運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式2.5t積	日		〃 必要に応じて計上 <u>[新設]</u>
諸雑費		式	1	表5.16
計				

(8) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ(クレーン機能付) (集水樹工)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 <u>山積</u> 0.28m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力1.7t	機-1	
バックホウ(クレーン機能付) (山腹集水路・排水路工) (山腹明暗渠工) (山腹暗渠工)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 <u>山積</u> 0.28m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力1.7t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→37 機械損料数量→1.58

不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型・ダンプ式通称2.5t 積級	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→8 機械賃料数量→1.66
-------------	---	------	---------------------------------------

不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式2.5t積	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→8 機械賃料数量→1.66
-------------	------------------------------------	------	---------------------------------------

## 14. た め 池 工

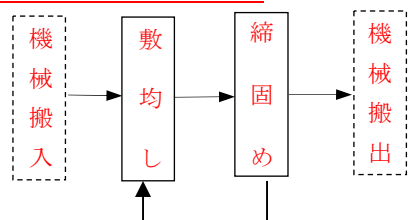
### ① た め 池 堤 体 盛 立 工

#### 1. 適 用 範 囲

本歩掛は、ため池堤体盛立工における敷均し・締固め作業に適用する。  
敷均し厚さは10cm以上30cm以下、施工幅員は1.0m以上とする。

#### 2. 施 工 概 要

施工フローは、次図を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているものは、実線部分のみである。  
2. 敷均しには、かき起こし作業を含むものとする。

#### 3. 歩 掛 の 適 用 区 分

歩掛の適用区分は、次表を標準とする。

表3.1 適用歩掛区分

適用範囲	敷均し区分	締固め区分
敷均し幅 1.0m 以上	バックホウ敷均し	振動ローラ コンバインド型

盛立材料区分は以下のとおりとする。

- ・「刃金土」とは、堤体盛土のうち遮水を目的とした部分をいう。
- ・「抱土」とは、堤体盛土の遮水性部分より上流側に位置し、遮水性部分のトランジション的機能を目的としたものをいう。
- ・「さや土」とは、堤体盛土の下流側に位置し堤体の安定性を保つ機能を有するものをいう。

#### 4. 施 工 歩 掛

##### 4-1 機械敷均し・締固め

##### 4-1-1 機種を選定

機種は、次表を標準とする。

表4.1 適用機種

機種	規格
バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(～3次) バケット容量0.45 m3
振動ローラ	搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型(第3次基準値)・ 超低騒音型・運転質量3～4t

- (注) 1. バックホウ バケット容量0.45m3、振動ローラ コンバインド型 3～4tは賃料とする。  
2. 盛立材料、現場状況等によりこの機械組合せによりがたい場合は別途考慮する。

##### 4-1-2 作業歩掛

## [新設]

敷均し・締固めにおける作業歩掛は、次表を標準とする。

表4.2 敷均し・締固め作業歩掛 (100m<sup>2</sup>当り)

盛立材料区分	施工幅員	機種	作業内容	世話役(人)	特殊作業員(人)	普通作業員(人)	敷均し機械 運転時間(日)	締固め機械 運転時間(日)
刃金土 抱土 さや土	1.0~2.5m	バックホウ バケット容量0.45 m <sup>3</sup>	敷均し 締固め	1.0	二	4.8	1.0	0.3
	2.5~4.0m	振動ローラコンバインド式 運転質量3~4t		1.0	二	4.2	1.0	0.3
	4.0m以上			0.6	二	2.3	1.0	0.3

(注) 1. 施工幅員は盛立材料ごとの施工幅員とする。

## 5. 単価表

(1) ため池堤体盛立工(刃金土・抱土・さや土) 100m<sup>3</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	適用
世話役		人		表4.2
普通作業員		〃		表4.2
バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (~3次)バケット容量0.45 m <sup>3</sup>	日		表4.2
振動ローラ	搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型(第3次基準値)・超低騒音型・ 運転質量3~4t	〃		表4.2

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (~3次)バケット容量0.45 m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→59 機械賃料数量→1.64
振動ローラ	搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型(第3次基準値)・超低騒音型・ 運転質量3~4t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→12 機械賃料数量→1.80

## 15. 復旧工

### ① 畦畔復旧工

1. ・ 2. [略]

### 3. 機種の選定

畦畔復旧工に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機械名	規格
バックホウ(クローラ型)	排出ガス対策型(第2次基準値) (法面バケット付) バケット容量 0.45m <sup>3</sup>

(注) [略]

## 14. 復旧工

### ① 畦畔復旧工

1. ・ 2. [略]

### 3. 機種の選定

畦畔復旧工に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機械名	規格
バックホウ	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型(法面バケット付) 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )

(注) [略]

4. 施工歩掛

[略]

4-1 日施工量

バックホウによる畦畔復旧作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 4. 1 日当り施工量 (1日当り)

名称	規格	単位	数量
バックホウ(クローラ型)運転	排出ガス対策型(第2次基準値) (法面バケツ付) バケツ容量 0.45m <sup>3</sup>	m	80

4-2 [略]

5. 単価表

(1) 畦畔復旧 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ(クローラ型)運転	排出ガス対策型(第2次基準値) (法面バケツ付) バケツ容量 0.45m <sup>3</sup>	日	10/D	表 4. 1
普通作業員		人		表 4. 2
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ(クローラ型)	排出ガス対策型(第2次基準値) (法面バケツ付) バケツ容量 0.45m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→49 機械賃料数量→1.54

② 耕地表土掘削・埋戻(機械)

1.・2. [略]

3. 機種の設定

表土掘削・埋戻作業に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表 3. 1 機種の設定

機械名	規格
バックホウ(クローラ型)	排出ガス対策型(第2次基準値) バケツ容量 0.80m <sup>3</sup>

4. [略]

5. 単価表

(1) 表土掘削、表土埋戻 100m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ(クローラ型)運転	排出ガス対策型(第2次基準値) バケツ容量 0.80m <sup>3</sup>	日	100/D	表 4. 1
計				

(注) D:日当り施工量(m<sup>2</sup>/日)

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
表土掘削 バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) バケツ容量 0.80m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→88

4. 施工歩掛

[略]

4-1 日施工量

バックホウによる畦畔復旧作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 4. 1 日当り施工量 (1日当り)

名称	規格	単位	数量
バックホウ運転	排出ガス対策型(第1次基準値) (法面バケツ付) 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	m	80

4-2 [略]

5. 単価表

(1) 畦畔復旧 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型(法面バケツ付) 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	m	10/D	表 4. 1
普通作業員		人		表 4. 2
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型(法面バケツ付) 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	m	運転労務数量→1.00 燃料消費量→49 機械賃料数量→1.54

② 耕地表土掘削・埋戻(機械)

1.・2. [略]

3. 機種の設定

表土掘削・埋戻作業に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表 3. 1 機種の設定

機械名	規格
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.80m <sup>3</sup> (平積 0.60m <sup>3</sup> )

4. [略]

5. 単価表

(1) 表土掘削、表土埋戻 100m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.80m <sup>3</sup> (平積 0.60m <sup>3</sup> )	日	100/D	表 4. 1
計				

(注) D:日当り施工量(m<sup>2</sup>/日)

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
表土掘削 バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.80m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→88

(クローラ型)			機械賃料数量→1.39
表土埋戻バックハウ (クローラ型)	排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量 0.80m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→78 機械賃料数量→1.37

③ 耕地復旧(耕起)

1. ~2. [略]

3. 機種を選定

耕起作業に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機 械 名	規 格
農用トラクタ	乗用・ホイール型 四輪駆動 22kW 級(30ps) 排出ガス対策型(第2次基準値)

4. [略]

5. 単価表

(1) 耕地復旧(耕起) 100m<sup>2</sup> 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
農用トラクタ運転	乗用・ホイール型 四輪駆動 22kW 級(30ps) 排出ガス対策型(第2次基準値)	時間	0.29	
普通作業員		人		表 4. 1
諸 雑 費		%	14	
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
農用トラクタ	乗用・ホイール型 四輪駆動 22kW 級(30ps) 排出ガス対策型(第2次基準値)	機-6	

## 16. 仮設工

① [略]

②大型土のう工

1.・2. [略]

3. 機種を選定

使用機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

作業種別	機械名	規格
製作・設置	バックハウ	後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付

	(平積 0.60m <sup>3</sup> )		機械賃料数量→1.39
表土埋戻バックハウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.80m <sup>3</sup> (平積 0.60m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→78 機械賃料数量→1.37

③ 耕地復旧(耕起)

1. ~2. [略]

3. 機種を選定

耕起作業に使用する機種、規格は次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機 械 名	規 格
農用トラクタ	乗用・ホイール型 四輪駆動 22kW 級(30ps)

4. [略]

5. 単価表

(1) 耕地復旧(耕起) 100m<sup>2</sup> 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
農用トラクタ運転	乗用・ホイール型 四輪駆動 22kW 級(30ps)	時間	0.29	
普通作業員		人		表 4. 1
諸 雑 費		%	14	
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
農用トラクタ	乗用・ホイール型 四輪駆動 22kW 級(30ps)	機-6	

## 15. 仮設工

① [略]

②大型土のう工

1.・2. [略]

3. 機種を選定

使用機械の機種・規格は、次表を標準とする。

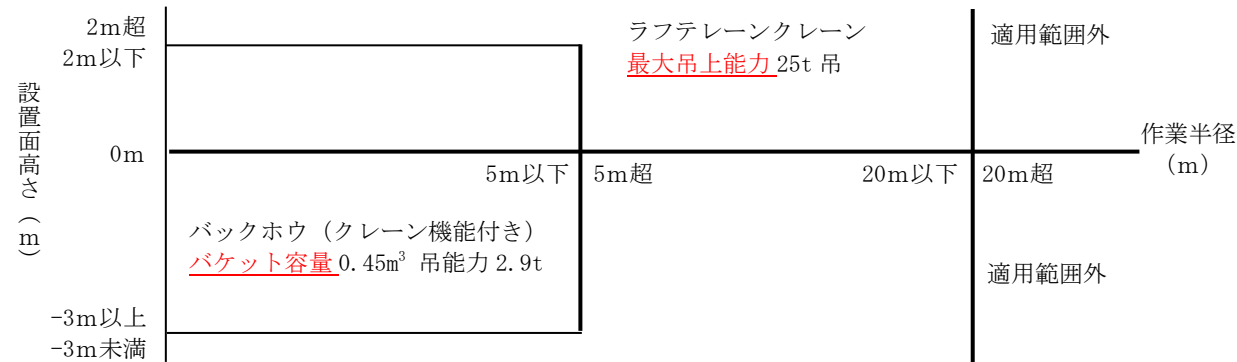
表 3. 1 機種を選定

作業種別	機械名	規格
製作・設置	バックハウ	後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付

	(クローラ型)	き・排出ガス対策型(2014年規制) <u>バケット容量</u> 0.45m <sup>3</sup> 吊能力2.9t
	ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第3次基準値) <u>最大吊上能力</u> 25t 吊
製作	バックホウ ( <u>クローラ型</u> )	後方超小旋回型・超低騒音型・ <u>クレーン機能付き</u> ・排出ガス対策型(2014年規制) <u>バケット容量</u> 0.45m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t
設置(再設置含む) 撤去 撤去(再利用) 移設(撤去・再設置)	バックホウ ( <u>クローラ型</u> )	<u>標準型</u> ・超低騒音型・ 排出ガス対策型(2014年規制)・ <u>クレーン機能付き</u> <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t
	ラフテレーンクレーン	<u>油圧伸縮ジブ型</u> 排出ガス対策型(第3次基準値) <u>最大吊上能力</u> 25t 吊

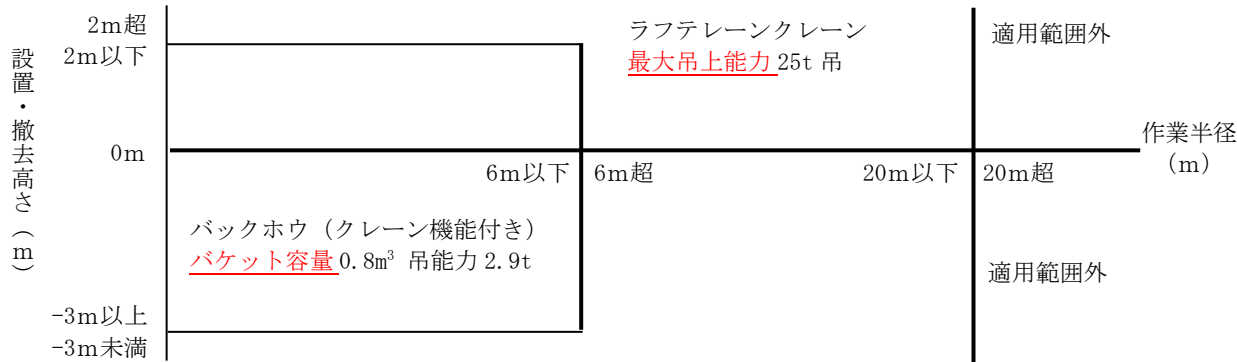
(注) 1. ~ 3. [略]

図3-1 機種を選定 製作・設置



(注) 1. ~ 4. [略]

図3-2 機種を選定 設置(再設置含む)、撤去、撤去(再利用)、移設(撤去・再設置)



(注) 1. ~ 4. [略]

4. [略]

5. 単価表

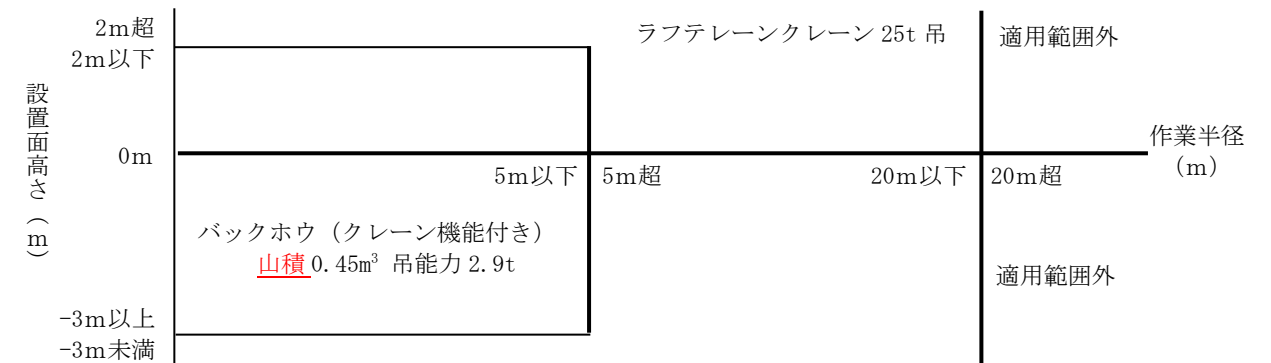
(1) 大型土のう製作・設置 10袋当り単価表(バックホウ設置)

名称	規格	単位	数量	摘要
----	----	----	----	----

	(クローラ型)	き・排出ガス対策型(2014年規制) <u>山積</u> 0.45m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.35m <sup>3</sup> ) 吊能力2.9t
	ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第3次基準値)25t 吊
製作	バックホウ ( <u>クレーン機能付</u> )	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) <u>クローラ型</u> 2.9t <u>吊</u> <u>山積</u> 0.45m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.35m <sup>3</sup> )
設置(再設置含む) 撤去 撤去(再利用) 移設(撤去・再設置)	バックホウ ( <u>クレーン機能付</u> )	超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) <u>クローラ型</u> 2.9t <u>吊</u> <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )
	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第3次基準値) <u>油圧伸縮ジブ型</u> 25t 吊

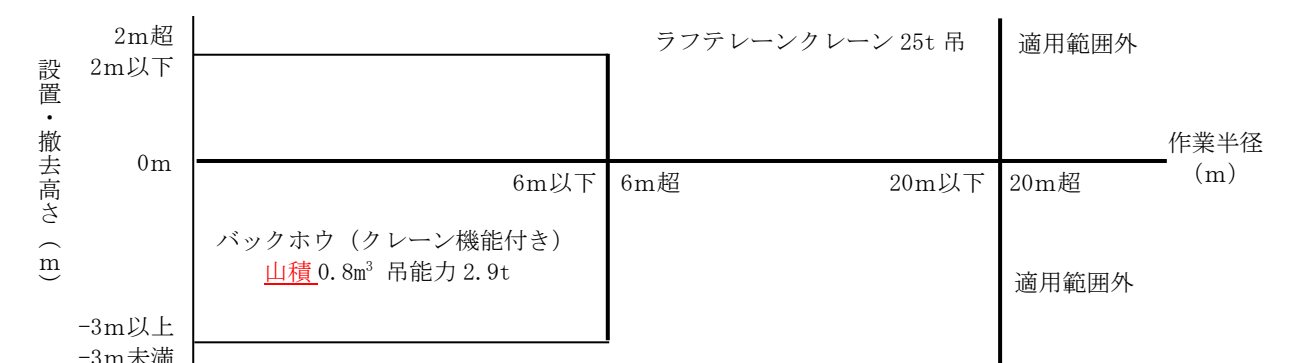
(注) 1. ~ 3. [略]

図3-1 機種を選定 製作・設置



(注) 1. ~ 4. [略]

図3-2 機種を選定 設置(再設置含む)、撤去、撤去(再利用)、移設(撤去・再設置)



(注) 1. ~ 4. [略]

4. [略]

5. 単価表

(1) 大型土のう製作・設置 10袋当り単価表(バックホウ設置)

名称	規格	単位	数量	摘要
----	----	----	----	----

世話役		人	1×10/D	表4.1、4.2
特殊作業員		人	1×10/D	〃
普通作業員		人	1×10/D	〃
大型土のう	容量1m <sup>3</sup>	袋	10	
土砂		m <sup>3</sup>	10	ほぐした土量
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型・ クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(2014年規制) バケット容量0.45m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	日	10/D	表4.2
諸雑費		式	1	表4.3
計				

(注) [略]

(2) 大型土のう製作・設置10袋当り単価表(ラフテレーンクレーン設置)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、4.2
特殊作業員		人	1×10/D	〃
普通作業員		人	1×10/D	〃
大型土のう	容量1m <sup>3</sup>	袋	10	
土砂		m <sup>3</sup>	10	ほぐした土量
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型・ クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(2014年規制) バケット容量0.45m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	日	10/D	表4.2
ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第3次基準値) 最大吊上能力25t吊	〃	10/D	〃
諸雑費		式	1	表4.3
計				

(注) [略]

(3) 大型土のう製作10袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、4.2
特殊作業員		人	1×10/D	〃
普通作業員		人	1×10/D	〃
大型土のう	容量1m <sup>3</sup>	袋	10	
土砂		m <sup>3</sup>	10	ほぐした土量
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型・ クレーン機能付き ・排出ガス対策型(2014年規制) バケット容量0.45m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	日	10/D	表4.2
諸雑費		式	1	表4.3
計				

(注) [略]

(4) 大型土のう設置(再設置含む)10袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、4.2
特殊作業員		人	1×10/D	〃
普通作業員		人	1×10/D	〃
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・超低騒音型・ クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(2014年規制)	日	10/D	表4.2 (注)2

世話役		人	1×10/D	表4.1、4.2
特殊作業員		人	1×10/D	〃
普通作業員		人	1×10/D	〃
大型土のう	容量1m <sup>3</sup>	袋	10	
土砂		m <sup>3</sup>	10	ほぐした土量
バックホウ (クレーン機能付) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型 2.9t 吊 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	日	10/D	表4.2
諸雑費		式	1	表4.3
計				

(注) [略]

(2) 大型土のう製作・設置10袋当り単価表(ラフテレーンクレーン設置)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、4.2
特殊作業員		人	1×10/D	〃
普通作業員		人	1×10/D	〃
大型土のう	容量1m <sup>3</sup>	袋	10	
土砂		m <sup>3</sup>	10	ほぐした土量
バックホウ (クレーン機能付) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型 2.9t 吊 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	日	10/D	表4.2
ラフテレーンクレーン 賃料	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t吊	〃	10/D	〃
諸雑費		式	1	表4.3
計				

(注) [略]

(3) 大型土のう製作10袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、4.2
特殊作業員		人	1×10/D	〃
普通作業員		人	1×10/D	〃
大型土のう	容量1m <sup>3</sup>	袋	10	
土砂		m <sup>3</sup>	10	ほぐした土量
バックホウ (クレーン機能付) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型 2.9t 吊 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	日	10/D	表4.2
諸雑費		式	1	表4.3
計				

(注) [略]

(4) 大型土のう設置(再設置含む)10袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	表4.1、4.2
特殊作業員		人	1×10/D	〃
普通作業員		人	1×10/D	〃
バックホウ (クレーン機能付) 運転	超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型 2.9t 吊	日	10/D	表4.2 (注)2

	<u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t			
ラフテレーン クレーン	排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧伸縮ジブ型 <u>最大吊上能力</u> 25t 吊	〃	10/D	〃
諸 雑 費 計		式	1	表 4. 3

(注) 1.・2. [略]

(5) 大型土のう撤去 10袋当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役 特 殊 作 業 員		人	1×10/D	表 4. 1、4. 2
バ ッ ク ホ ウ ( <u>クローラ型</u> ) 運 転	超低騒音型 排出ガス対策型（2014年規制） <u>クレーン機能付き</u> <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t	日	10/D	表 4. 2 (注) 2
ラフテレーン クレーン	<u>油圧伸縮ジブ型</u> 排出ガス対策型（第3次基準値） <u>最大吊上能力</u> 25t 吊	〃	10/D	〃
諸 雑 費 計		式	1	表 4. 3

(注) 1.・2. [略]

(6) 大型土のう撤去（再利用）10袋当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役 特 殊 作 業 員		人	1×10/D	表 4. 1、4. 2
バ ッ ク ホ ウ ( <u>クローラ型</u> ) 運 転	<u>標準型・超低騒音型</u> 排出ガス対策型（2014年規制） <u>クレーン機能付き</u> <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t	日	10/D	表 4. 2 (注) 2
ラフテレーン クレーン	<u>油圧伸縮ジブ型</u> 排出ガス対策型（第3次基準値） <u>最大吊上能力</u> 25t 吊	〃	10/D	〃
諸 雑 費 計		式	1	表 4. 3

(注) 1.・2. [略]

(7) 大型土のう移設（撤去・再設置）10袋当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役 特 殊 作 業 員		人	1×10/D	表 4. 1、4. 2
普 通 作 業 員		〃	1×10/D	〃
バ ッ ク ホ ウ ( <u>クローラ型</u> ) 運 転	<u>標準型・超低騒音型</u> 排出ガス対策型（2014年規制） <u>クレーン機能付き</u> <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t	日	10/D	表 4. 2 (注) 2
ラフテレーン クレーン	<u>油圧伸縮ジブ型</u> 排出ガス対策型（第3次基準値） <u>最大吊上能力</u> 25t 吊	〃	10/D	〃
諸 雑 費 計		式	1	表 4. 3

(注) 1.・2. [略]

(8) 機械運転単価表

	<u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )			
ラフテレーンクレーン <u>賃料</u>	排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃	10/D	〃
諸 雑 費 計		式	1	表 4. 3

(注) 1.・2. [略]

(5) 大型土のう撤去 10袋当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役 特 殊 作 業 員		人	1×10/D	表 4. 1、4. 2
バ ッ ク ホ ウ ( <u>クレーン機能付</u> ) 運 転	超低騒音型 排出ガス対策型（2014年規制） <u>クローラ型</u> 2.9t 吊 <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )	日	10/D	表 4. 2 (注) 2
ラフテレーンクレーン <u>賃料</u>	排出ガス対策型（第3次基準値） <u>油圧伸縮ジブ型</u> 25t 吊	〃	10/D	〃
諸 雑 費 計		式	1	表 4. 3

(注) 1.・2. [略]

(6) 大型土のう撤去（再利用）10袋当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役 特 殊 作 業 員		人	1×10/D	表 4. 1、4. 2
バ ッ ク ホ ウ ( <u>クレーン機能付</u> ) 運 転	超低騒音型 排出ガス対策型（2014年規制） <u>クローラ型</u> 2.9t 吊 <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )	日	10/D	表 4. 2 (注) 2
ラフテレーンクレーン <u>賃料</u>	排出ガス対策型（第3次基準値） <u>油圧伸縮ジブ型</u> 25t 吊	〃	10/D	〃
諸 雑 費 計		式	1	表 4. 3

(注) 1.・2. [略]

(7) 大型土のう移設（撤去・再設置）10袋当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役 特 殊 作 業 員		人	1×10/D	表 4. 1、4. 2
普 通 作 業 員		〃	1×10/D	〃
バ ッ ク ホ ウ ( <u>クレーン機能付</u> ) 運 転	超低騒音型 排出ガス対策型（2014年規制） <u>クローラ型</u> 2.9t 吊 <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )	日	10/D	表 4. 2 (注) 2
ラフテレーンクレーン <u>賃料</u>	排出ガス対策型（第3次基準値） <u>油圧伸縮ジブ型</u> 25t 吊	〃	10/D	〃
諸 雑 費 計		式	1	表 4. 3

(注) 1.・2. [略]

(8) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ ( <u>クローラ型</u> )	後方超小旋回型・超低騒音型・ <u>クレーン機能付き</u> ・ 排出ガス対策型 (2014年規制) <u>バケット容量</u> 0.45m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t	機-28	<p>【製作・設置】 (バックホウによる設置) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→63 機械賃料数量→1.28</p> <p>【製作・設置】 (ラフテレーンクレーンによる設置) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→65 機械賃料数量→1.36</p> <p>【製作】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→65 機械賃料数量→1.36</p>
	<u>標準型</u> ・超低騒音型・ <u>クレーン機能付き</u> ・ 排出ガス対策型 (2014年規制) <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup> <u>吊能力</u> 2.9t	機-28	<p>【設置 (再設置含む)】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→99 機械賃料数量→1.23</p> <p>【撤去】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→101 機械賃料数量→1.21</p> <p>【撤去(再利用)】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→110 機械賃料数量→1.38</p> <p>【移設(撤去・再設置)】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→110 機械賃料数量→1.52</p>

③水替工 (小口径)

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 [略]

3-2 [略]

3-2-1~3-2-3 [略]

3-3 設置・撤去歩掛

ポンプの設置・撤去に要する1箇所当りの歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 4 設置・撤去歩掛 (口径 50mm) [略]

表 3. 5 設置・撤去歩掛 (口径 100mm) (1箇所当り)

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ ( <u>クレーン機能付</u> )	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 (2014年規制) <u>クローラ型</u> 2.9t <u>吊</u> <u>山積</u> 0.45m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.35m <sup>3</sup> )	機-28	<p>【製作・設置】 (バックホウによる設置) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→63 機械賃料数量→1.28</p> <p>【製作・設置】 (ラフテレーンクレーンによる設置) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→65 機械賃料数量→1.36</p> <p>【製作】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→65 機械賃料数量→1.36</p>
	超低騒音型 排出ガス対策型 (2014年規制) <u>クローラ型</u> 2.9t <u>吊</u> <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )	機-28	<p>【設置 (再設置含む)】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→99 機械賃料数量→1.23</p> <p>【撤去】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→101 機械賃料数量→1.21</p> <p>【撤去(再利用)】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→110 機械賃料数量→1.38</p> <p>【移設(撤去・再設置)】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→110 機械賃料数量→1.52</p>

③水替工 (小口径)

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 [略]

3-2 [略]

3-2-1~3-2-3 [略]

3-3 設置・撤去歩掛

ポンプの設置・撤去に要する1箇所当りの歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 4 設置・撤去歩掛 (口径 50mm) [略]

表 3. 5 設置・撤去歩掛 (口径 100mm) (1箇所当り)

名称	規格	単位	数量
世話役	—	人	0.32
普通作業員	—	人	1.04
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第2次基準値) <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup> 吊能力 2.9 t	日	0.24

(注) 1. ~ 5. [略]

#### 4. 単価表

(1)・(2) [略]

##### (3) ポンプ設置・撤去 1箇所当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3. 4 又は表 3. 5
普通作業員		人		〃
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第2次基準値) <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup> 吊能力 2.9 t	日		表 3. 5
計				

##### (4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
発動発電機	ガソリンエンジン駆動 定格容量 2kVA  ディーゼルエンジン駆動 定格容量 15kVA 排出ガス対策型(第3次基準値)	機-16	(常時排水) 燃料消費量→2kVA 27.9 15kVA 41.3  機械賃料数量→1.08  (作業時排水) 燃料消費量→2kVA→ 9.3 15kVA→ 13.8  機械賃料数量→1.55
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値) <u>バケット容量</u> 0.8m <sup>3</sup> 吊能力 2.9 t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→121 機械賃料数量→1.09

#### ④ 締切排水工

1.・2. [略]

#### 3. 施工歩掛

3-1・3-2 [略]

3-3 設置・撤去歩掛

ポンプの設置・撤去に要する1箇所当りの歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 4 設置・撤去歩掛 (1箇所)

名称	規格	単位	数量
世話役		人	0.5
特殊作業員		人	0.1
普通作業員		人	2.0

名称	規格	単位	数量
世話役	—	人	0.32
普通作業員	—	人	1.04
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値) <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積 0.6m<sup>3</sup></u> ) 吊能力 2.9 t	日	0.24

(注) 1. ~ 5. [略]

#### 4. 単価表

(1)・(2) [略]

##### (3) ポンプ設置・撤去 1箇所当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3. 4 又は表 3. 5
普通作業員		人		〃
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値) <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積 0.6m<sup>3</sup></u> ) 吊能力 2.9 t	日		表 3. 5
計				

##### (4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
発動発電機	ガソリンエンジン駆動 定格容量 2kVA  ディーゼルエンジン駆動 定格容量 15kVA 排出ガス対策型(第3次基準値)	機-16	(常時排水) 燃料消費量→2kVA→ 27.9 15kVA→ 41.3  機械賃料数量→1.08  (作業時排水) 燃料消費量→2kVA→ 9.3 15kVA→ 13.8  機械賃料数量→1.55
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値) <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積 0.6m<sup>3</sup></u> ) 吊能力 2.9 t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→121 機械賃料数量→1.09

#### ④ 締切排水工

1.・2. [略]

#### 3. 施工歩掛

3-1・3-2 [略]

3-3 設置・撤去歩掛

ポンプの設置・撤去に要する1箇所当りの歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 4 設置・撤去歩掛 (1箇所)

名称	規格	単位	数量
世話役		人	0.5
特殊作業員		人	0.1
普通作業員		人	2.0

バックホウ（クローラ型）運転	標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型（2014年規制） バケット容量0.8m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	日	0.5
----------------	--	---	-----

(注) 1.～6. [略]

#### 4. 単価表

(1)・(2) [略]

##### (3) ポンプ設置・撤去 1箇所当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表3.4
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
バックホウ （クローラ型）運転	標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制） バケット容量0.8m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	日		表3.4 機械賃料
計				

##### (4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
工事中水中モータポンプ	普通型（潜水ポンプ） 口径150mm、全揚程10m及び 口径200mm、全揚程10m 又は 口径150mm、全揚程15m及び 口径200mm、全揚程15m	機-32	機械賃料数量→（常時排水） 1.1 （作業時排水） 1.2
	普通型（潜水ポンプ） 口径250mm、全揚程10m	機-25	機械損料数量→（常時排水） 1.1 （作業時排水） 1.2
発動発電機	ディーゼルエンジン駆動 （超低騒音型）・排出ガス 対策型（第3次基準値） 定格容量45kVA 定格容量60kVA 定格容量75kVA 定格容量125kVA 定格容量200kVA 定格容量250kVA	機-16	（常時排水） 燃料消費量 →45kVA→137 60kVA→168 75kVA→204 125kVA→336 200kVA→600 250kVA→744  機械賃料数量 →1.1  （作業時排水） 燃料消費量 →45kVA→46 60kVA→56 75kVA→68 125kVA→112 200kVA→200 250kVA→248  機械賃料数量 →1.2

バックホウ（クローラ型）運転	標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排 出ガス対策型（2014年規制） 山積0.8m <sup>3</sup> （平積0.6m <sup>3</sup> ）吊能力2.9t	日	0.5
----------------	---	---	-----

(注) 1.～6. [略]

#### 4. 単価表

(1)・(2) [略]

##### (3) ポンプ設置・撤去 1箇所当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表3.4
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
バックホウ （クローラ型）運転	標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制） 山積0.8m <sup>3</sup> （平積0.6m <sup>3</sup> ） 吊能力2.9t	日		表3.4 機械賃料
計				

##### (4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
工事中水中モータポンプ	普通型（潜水ポンプ） 口径150mm、全揚程10m及び 口径200mm、全揚程10m 又は 口径150mm、全揚程15m及び 口径200mm、全揚程15m	機-32	機械賃料数量→（常時排水） 1.1 （作業時排水） 1.2
	普通型（潜水ポンプ） 口径250mm、全揚程10m	機-25	機械損料数量→（常時排水） 1.1 （作業時排水） 1.2
発動発電機	ディーゼルエンジン駆動 （超低騒音型）・排出ガス 対策型（第3次基準値） 定格容量45kVA 定格容量60kVA 定格容量75kVA 定格容量125kVA 定格容量200kVA 定格容量250kVA	機-16	（常時排水） 燃料消費量 →45kVA→137 60kVA→168 75kVA→204 125kVA→336 200kVA→600 250kVA→744  機械賃料数量 →1.1  （作業時排水） 燃料消費量 →45kVA→46 60kVA→56 75kVA→68 125kVA→112 200kVA→200 250kVA→248  機械賃料数量 →1.2

バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型 (2014年規制) バケット容量0.8m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →45 機械賃料数量 →1.47
------------------	---	------	---

⑤釜場設置撤去工

1. ~ 3. [略]

4. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	排出ガス対策型 (第2次基準値) バケット容量0.28m <sup>3</sup>	機-1	

⑥ [略]

⑦ 仮設材設置撤去工

1. ・ 2. [略]

3. 機種の設定

機種、規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 標準機種及び使用区分

機械名	規格	切梁・腹起し		タイロッド・腹起し		覆工板		覆工板受桁		横矢板	
		設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去
ラフテレーン クレーン	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮 ジブ型最大吊 上能力25t吊	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—

(注) 1. ・ 2. [略]

4. 施工歩掛

4-1 施工歩掛

各工種の施工歩掛は、次表とする。

表 4. 1 施工歩掛

名称	規格	単 位	工 種 区 分							
			1		2		3			
			切梁・腹起し (10t当り)		タイロッド・腹起し (10t当り)		横矢板 (10m <sup>2</sup> 当り)			
			設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去		
世話役		人	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	0.4	0.2		
とび工		〃	3.2 (1.9)	1.9 (1.2)	9.9	4.4	—	—		

バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (2014年規制) 山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> ) 吊能力2.9t	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →45 機械賃料数量 →1.47
------------------	---	------	---

⑤ 釜場設置撤去工

1. ~ 3. [略]

4. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.20m <sup>3</sup> )	機-1	

⑥ [略]

⑦ 仮設材設置撤去工

1. ・ 2. [略]

3. 機種の設定

機種、規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 標準機種及び使用区分

機械名	規格	切梁・腹起し		タイロッド・腹起し		覆工板		覆工板受桁		横矢板	
		設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去
ラフテレーン クレーン	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮 ジブ型25t	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—

(注) 1. ・ 2. [略]

4. 施工歩掛

4-1 施工歩掛

各工種の施工歩掛は、次表とする。

表 4. 1 施工歩掛

名称	規格	単 位	工 種 区 分							
			1		2		3			
			切梁・腹起し (10t当り)		タイロッド・腹起し (10t当り)		横矢板 (10m <sup>2</sup> 当り)			
			設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去		
世話役		人	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	0.4	0.2		
とび工		〃	3.2 (1.9)	1.9 (1.2)	9.9	4.4	—	—		

溶接工		人	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	—	—
普通作業員		人	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	1.2	0.6
ラフテレーン クレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮 ジブ型最大吊上 能力25t吊	日	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	—	—
諸雑费率		%	5	7	10	12	—	—
歩掛算出の施工 質量又は施工面積			主部材及び 副部材の全質量		タイロッド及び 腹起し材の質量		壁面積	

(注) 1. ~ 4. [略]

表 4. 2 覆工板・覆工板受桁設置・撤去歩掛

名 称	規 格	単 位	工 種 区 分					
			4		5		6	
			設置面積 700m <sup>2</sup> 以下		設置面積 700m <sup>2</sup> を超える			
			覆工板・受桁 (100m <sup>2</sup> 当り)		覆工板 (100m <sup>2</sup> 当り)		覆工板受桁 (10t当り)	
			設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去
世話役		人	2.9	1.8	0.8	0.5	1.6	1.0
とび工		人	4.6	2.7	2.5	1.4	1.6	1.0
溶接工		人	2.1	1.3	—	—	1.6	1.0
普通作業員		人	5.1	3.2	0.8	0.5	3.2	2.0
ラフテレーン クレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 25t吊	日	2.9	1.8	0.8	0.5	1.6	1.0
諸雑费率		%	4	6	—	—	6	8
歩掛算出の施工 質量又は施工面積			覆工板の面積		覆工板の面積		覆工板受桁の質量	

(注) 1. ~ 5. [略]

5. 単価表

(1) 切梁・腹起し設置・撤去 10 t 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表 4. 1
とび工		人		〃
溶接工		人		〃
普通作業員		人		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力 25t吊	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

溶接工		人	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	—	—
普通作業員		人	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	1.2	0.6
ラフテレーン クレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮 ジブ型25t吊	日	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	—	—
諸雑费率		%	5	7	10	12	—	—
歩掛算出の施工 質量又は施工面積			主部材及び 副部材の全質量		タイロッド及び 腹起し材の質量		壁面積	

(注) 1. ~ 4. [略]

表 4. 2 覆工板・覆工板受桁設置・撤去歩掛

名 称	規 格	単 位	工 種 区 分					
			4		5		6	
			設置面積 700m <sup>2</sup> 以下		設置面積 700m <sup>2</sup> を超える			
			覆工板・受桁 (100m <sup>2</sup> 当り)		覆工板 (100m <sup>2</sup> 当り)		覆工板受桁 (10t当り)	
			設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去
世話役		人	2.9	1.8	0.8	0.5	1.6	1.0
とび工		人	4.6	2.7	2.5	1.4	1.6	1.0
溶接工		人	2.1	1.3	—	—	1.6	1.0
普通作業員		人	5.1	3.2	0.8	0.5	3.2	2.0
ラフテレーン クレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮 ジブ型25t吊	日	2.9	1.8	0.8	0.5	1.6	1.0
諸雑费率		%	4	6	—	—	6	8
歩掛算出の施工 質量又は施工面積			覆工板の面積		覆工板の面積		覆工板受桁の質量	

(注) 1. ~ 5. [略]

5. 単価表

(1) 切梁・腹起し設置・撤去 10 t 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表 4. 1
とび工		人		〃
溶接工		人		〃
普通作業員		人		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型25t吊	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) タイロッド・腹起し設置 10 t 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 1
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮シブ型 最大吊上能力 25 t吊	日		〃
タ イ ロ ッ ド	φ 32~42 mm	t		必要量計上
諸 雑 費		式	1	表 4. 1
計				

(3) タイロッド・腹起し撤去 10 t 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 1
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮シブ型 最大吊上能力 25 t吊	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(4)・(5) [略]

(6) 覆工板・受桁設置・撤去 100m<sup>2</sup>当り単価表 (覆工板設置面積 700m<sup>2</sup>以下)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 2
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮シブ型 最大吊上能力 25 t吊	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(7) 覆工板設置・撤去 100m<sup>2</sup>当り単価表 (覆工板設置面積 700m<sup>2</sup>を超える)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 2
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮シブ型 最大吊上能力 25 t吊	日		〃
計				

(2) タイロッド・腹起し設置 10 t 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 1
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮シブ型 25 t吊	日		〃
タ イ ロ ッ ド	φ 32~42 mm	t		必要量計上
諸 雑 費		式	1	表 4. 1
計				

(3) タイロッド・腹起し撤去 10 t 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 1
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮シブ型 25 t吊	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(4)・(5) [略]

(6) 覆工板・受桁設置・撤去 100m<sup>2</sup>当り単価表 (覆工板設置面積 700m<sup>2</sup>以下)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 2
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮シブ型 25 t吊	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(7) 覆工板設置・撤去 100m<sup>2</sup>当り単価表 (覆工板設置面積 700m<sup>2</sup>を超える)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 2
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮シブ型 25 t吊	日		〃
計				

(8) 覆工板受桁設置・撤去 10 t 当り単価表 (覆工板設置面積 700m<sup>2</sup>を超える)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 2
とび工		〃		〃
溶接工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮シブ型 最大吊上能力 25 t吊	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

⑧ たて込み簡易土留

1.・2. [略]

3. 機種の選定

施工機械は次表を標準とする。

表 3. 1 掘削・たて込み作業、引抜作業

掘削幅	最大掘削深	バックホウ (クローラ型) 規格
0.90m以上～1.10m未満	3 mまで	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型 (第3次基準値) バケット容量 0.28m <sup>3</sup> 吊能力 1.7t
1.10m以上～1.35m未満	4 mまで	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型 (第3次基準値) バケット容量 0.45m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t
1.35m以上～4.70m以下	6 mまで	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型 (第3次基準値) バケット容量 0.80m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t

(注) 1.・2. [略]

4. 施工歩掛

4-1 掘削・たて込み作業

掘削・たて込み作業歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 1 たて込み簡易土留掘削・たて込み歩掛

[略]

(注) 1.～3. [略]

4. バックホウ (クローラ型) クレーン機能付き バケット容量 0.28m<sup>3</sup> 吊能力 1.7t の作業能力  
=0.18 時間/m<sup>3</sup>
5. バックホウ (クローラ型) クレーン機能付き バケット容量 0.45m<sup>3</sup> 吊能力 2.9t の作業能力  
=0.09 時間/m<sup>3</sup>
6. バックホウ (クローラ型) クレーン機能付き バケット容量 0.80m<sup>3</sup> 吊能力 2.9t の作業能力  
=0.06 時間/m<sup>3</sup>
7. [略]

4-2～4-4 [略]

5. [略]

6. 単価表

(1) たて込み簡易土留掘削・たて込み作業 10m当り単価表

(8) 覆工板受桁設置・撤去 10 t 当り単価表 (覆工板設置面積 700m<sup>2</sup>を超える)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 2
とび工		〃		〃
溶接工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮シブ型 25 t吊	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

⑧ たて込み簡易土留

1.・2. [略]

3. 機種の選定

施工機械は次表を標準とする。

表 3. 1 掘削・たて込み作業、引抜作業

掘削幅	最大掘削深	バックホウ (クレーン機能付) 規格
0.90m以上～1.10m未満	3 mまで	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.20m <sup>3</sup> ) 1.7t 吊
1.10m以上～1.35m未満	4 mまで	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊
1.35m以上～4.70m以下	6 mまで	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 山積 0.80m <sup>3</sup> (平積 0.60m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊

(注) 1.・2. [略]

4. 施工歩掛

4-1 掘削・たて込み作業

掘削・たて込み作業歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 1 たて込み簡易土留掘削・たて込み歩掛

[略]

(注) 1.～3. [略]

4. バックホウ (クレーン機能付) クローラ型山積 0.28m<sup>3</sup> (平積 0.20m<sup>3</sup>) 1.7t 吊の作業能力  
=0.18 時間/m<sup>3</sup>
5. バックホウ (クレーン機能付) クローラ型山積 0.45m<sup>3</sup> (平積 0.35m<sup>3</sup>) 2.9t 吊の作業能力  
=0.09 時間/m<sup>3</sup>
6. バックホウ (クレーン機能付) クローラ型山積 0.80m<sup>3</sup> (平積 0.60m<sup>3</sup>) 2.9t 吊の作業能力  
=0.06 時間/m<sup>3</sup>
7. [略]

4-2～4-4 [略]

5. [略]

6. 単価表

(1) たて込み簡易土留掘削・たて込み作業 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型 (第3次基準値) バケット容量〇〇m <sup>3</sup> 吊能力〇〇t	日	表 4.1×10	表 4. 1
世話役		人	表 4.1×10	〃、表 4. 3
特殊作業員		〃	表 4.1×10	〃、〃
普通作業員		〃	表 4.1×10	〃、〃
計				

(2) たて込み簡易土留引抜作業 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型 (第3次基準値) バケット容量〇〇m <sup>3</sup> 吊能力〇〇t	日	表 4.2×10	表 4. 2
世話役		人	表 4.2×10	〃、表 4. 3
特殊作業員		〃	表 4.2×10	〃、〃
普通作業員		〃	表 4.2×10	〃、〃
計				

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型 (第3次基準値) バケット容量 0.28m <sup>3</sup> 吊能力 1.7t	機-28	
	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型 (第3次基準値) バケット容量 0.45m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	〃	
	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型 (第3次基準値) バケット容量 0.80m <sup>3</sup> 吊能力 2.9t	〃	

⑨ 鋼製足場

1. ・2. [略]

3. 施工歩掛

足場材の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 足場材設置・撤去歩掛 (100掛m<sup>2</sup>当り)

名称	規格	単位	手摺先行型 枠組足場	単管足場	単管傾斜 足場
世話役		人	1.6	1.9	1.5
とび工		〃	7.0(8.5)	6.9(8.4)	4.5(6.1)
普通作業員		〃	1.3	1.8	2.7
ラフテレーンクレーン運転	[油圧伸縮ジブ型] 低騒音型・ 排出ガス対策型 (第3次基準値) 最大吊上能力 25t 吊	日	1.4	0.8	0.8
諸雑費率		%	34(31)	29(27)	33(28)

(注) 1. ～ 4. [略]

4. 単価表

(1) 手摺先行型枠組・単管・単管傾斜足場 100掛m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3. 1

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 山積〇〇m <sup>3</sup> (平積〇〇m <sup>3</sup> ) 〇〇t 吊	日	表 4.1×10	表 4. 1
世話役		人	表 4.1×10	〃、表 4. 3
特殊作業員		〃	表 4.1×10	〃、〃
普通作業員		〃	表 4.1×10	〃、〃
計				

(2) たて込み簡易土留引抜作業 10m当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 山積〇〇m <sup>3</sup> (平積〇〇m <sup>3</sup> ) 〇〇t 吊	日	表 4.2×10	表 4. 2
世話役		人	表 4.2×10	〃、表 4. 3
特殊作業員		〃	表 4.2×10	〃、〃
普通作業員		〃	表 4.2×10	〃、〃
計				

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.2m <sup>3</sup> ) 1.7t 吊	機-28	
	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	〃	
	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 山積 0.80m <sup>3</sup> (平積 0.60m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	〃	

⑨ 鋼製足場

1. ・2. [略]

3. 施工歩掛

足場材の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 足場材設置・撤去歩掛 (100掛m<sup>2</sup>当り)

名称	規格	単位	手摺先行型 枠組足場	単管足場	単管傾斜 足場
世話役		人	1.6	1.9	1.5
とび工		〃	7.0(8.5)	6.9(8.4)	4.5(6.1)
普通作業員		〃	1.3	1.8	2.7
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊 低騒音型	日	1.4	0.8	0.8
諸雑費率		%	34(31)	29(27)	33(28)

(注) 1. ～ 4. [略]

4. 単価表

(1) 手摺先行型枠組・単管・単管傾斜足場 100掛m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3. 1

とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン運転	[油圧伸縮ジブ型] 低騒音型・ 排出ガス対策型 (第3次基準値) 最大吊上能力 25 t 吊	日		表 3. 1 機械賃料
諸雑費		式	1	表 3. 1
計				

5. 参考図 [略]

⑩ 支保工

1. ・ 2. [略]

3. 施工歩掛

支保材の設置・撤去歩掛は、表 3. 1 を標準とする。ただし、パイプサポート支保の総設置数量 40 空m<sup>3</sup>以下の小規模工事では、表 3. 2 を標準とする。

表 3. 1 支保材設置・撤去歩掛 (100 空m<sup>3</sup>当り)

名称	規格	単位	支保耐力 f (kN / m <sup>2</sup> )			
			パイプサポート支保		くさび結合支保	
			f ≤ 40	40 < f ≤ 60	f ≤ 40	40 < f ≤ 80
コンクリート厚 (t) (参考)		cm	t ≤ 120	120 < t ≤ 190	t ≤ 120	120 < t ≤ 250
世話役		人	2.6	4.2	1.4	2.1
型わく工		〃	4.7	8.7	1.3	2.7
とび工		〃	2.2	2.4	3.3	4.2
普通作業員		〃	5.1	11.1	3.3	6.0
ラフテレーンクレーン運転	[油圧伸縮ジブ型] 低騒音 型・排出ガス対策型(2014年規制) 最大吊上能力 25t 吊	日	—		0.5	1.2
諸雑費		%	15		33	

(注) 1. ～ 3. [略]

表 3. 2 支保材設置・撤去歩掛 (小規模) (10 空m<sup>3</sup>当り) [略]

4. 単価表

(1) パイプサポート支保・くさび結合支保 100 空m<sup>3</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3. 1
型わく工		〃		〃
とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン運転	[油圧伸縮ジブ型] 低騒音型・ 排出ガス対策型 (2014 年規制) 最大吊上能力 25 t 吊	日		表 3. 1 機械賃料
諸雑費		式	1	表 3. 1
計				

(2) [略]

⑪ [略]

⑫ 敷鉄板設置撤去

とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊 低騒音型	日		表 3. 1 機械賃料
諸雑費		式	1	表 3. 1
計				

5. 参考図 [略]

⑩ 支保工

1. ・ 2. [略]

3. 施工歩掛

支保材の設置・撤去歩掛は、表 3. 1 を標準とする。ただし、パイプサポート支保の総設置数量 40 空m<sup>3</sup>以下の小規模工事では、表 3. 2 を標準とする。

表 3. 1 支保材設置・撤去歩掛 (100 空m<sup>3</sup>当り)

名称	規格	単位	支保耐力 f (kN / m <sup>2</sup> )			
			パイプサポート支保		くさび結合支保	
			f ≤ 40	40 < f ≤ 60	f ≤ 40	40 < f ≤ 80
コンクリート厚 (t) (参考)		cm	t ≤ 120	120 < t ≤ 190	t ≤ 120	120 < t ≤ 250
世話役		人	2.6	4.2	1.4	2.1
型わく工		〃	4.7	8.7	1.3	2.7
とび工		〃	2.2	2.4	3.3	4.2
普通作業員		〃	5.1	11.1	3.3	6.0
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(2014年規制) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	—		0.5	1.2
諸雑費		%	15		33	

(注) 1. ～ 3. [略]

表 3. 2 支保材設置・撤去歩掛 (小規模) (10 空m<sup>3</sup>当り) [略]

4. 単価表

(1) パイプサポート支保・くさび結合支保 100 空m<sup>3</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3. 1
型わく工		〃		〃
とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (2014 年規制) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日		表 3. 1 機械賃料
諸雑費		式	1	表 3. 1
計				

(2) [略]

⑪ [略]

⑫ 敷鉄板設置撤去

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

敷鉄板の1,000m<sup>2</sup>当りの設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 設置・撤去歩掛 (1,000m<sup>2</sup>当り)

名称	規格	単位	設置	撤去
特殊作業員		人	1.5	1.4
普通作業員		〃	1.5	1.4
バックホウ (クローラ型) 運転	超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第3次基準値) <u>バケツ容量</u> 0.8m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	日	1.5	1.4

(注) 1.・2. [略]

4. 単価表

(1) 敷鉄板設置1,000m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表3.1
普通作業員		〃		〃
バックホウ (クローラ型) 運転	超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第3次基準値) <u>バケツ容量</u> 0.8m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	日		表3.1 機械賃料
計				

(2) 敷鉄板撤去1,000m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表3.1
普通作業員		〃		〃
バックホウ (クローラ型) 運転	超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第3次基準値) <u>バケツ容量</u> 0.8m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	日		表3.1 機械賃料
計				

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第3次基準値) <u>バケツ容量</u> 0.8m <sup>3</sup> 吊能力2.9t	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →119 機械賃料数量 →1.14

⑬ 仮橋・仮棧橋工

1. 適用範囲

本歩掛は、鋼製による仮橋及び仮棧橋の上部工(桁の架設・撤去、覆工板設置・撤去、高欄設置・撤去)と下部工(橋脚設置・撤去、杭橋脚打込み・引抜き及び設置・撤去)で、支間長30m以下に適用する。

ただし、下部工は、橋脚高24m以下とし、橋脚と杭橋脚の区分については(参考)図-1の概念図による。

なお、主桁構造はH形鋼主桁及び仮設鋼桁を対象とし、仮設トラス桁は対象外とする。

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

敷鉄板の1,000m<sup>2</sup>当りの設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 設置・撤去歩掛 (1,000m<sup>2</sup>当り)

名称	規格	単位	設置	撤去
特殊作業員		人	1.5	1.4
普通作業員		〃	1.5	1.4
バックホウ (クローラ型) 運転	超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値) <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )吊能力2.9t	日	1.5	1.4

(注) 1.・2. [略]

4. 単価表

(1) 敷鉄板設置1,000m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表3.1
普通作業員		〃		〃
バックホウ (クローラ型) 運転	超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値) <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )吊能力2.9t	日		表3.1 機械賃料
計				

(2) 敷鉄板撤去1,000m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表3.1
普通作業員		〃		〃
バックホウ (クローラ型) 運転	超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値) <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> )吊能力2.9t	日		表3.1 機械賃料
計				

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値) <u>山積</u> 0.8m <sup>3</sup> ( <u>平積</u> 0.6m <sup>3</sup> ) 吊能力2.9t	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →119 機械賃料数量 →1.14

⑬ 仮橋・仮棧橋工

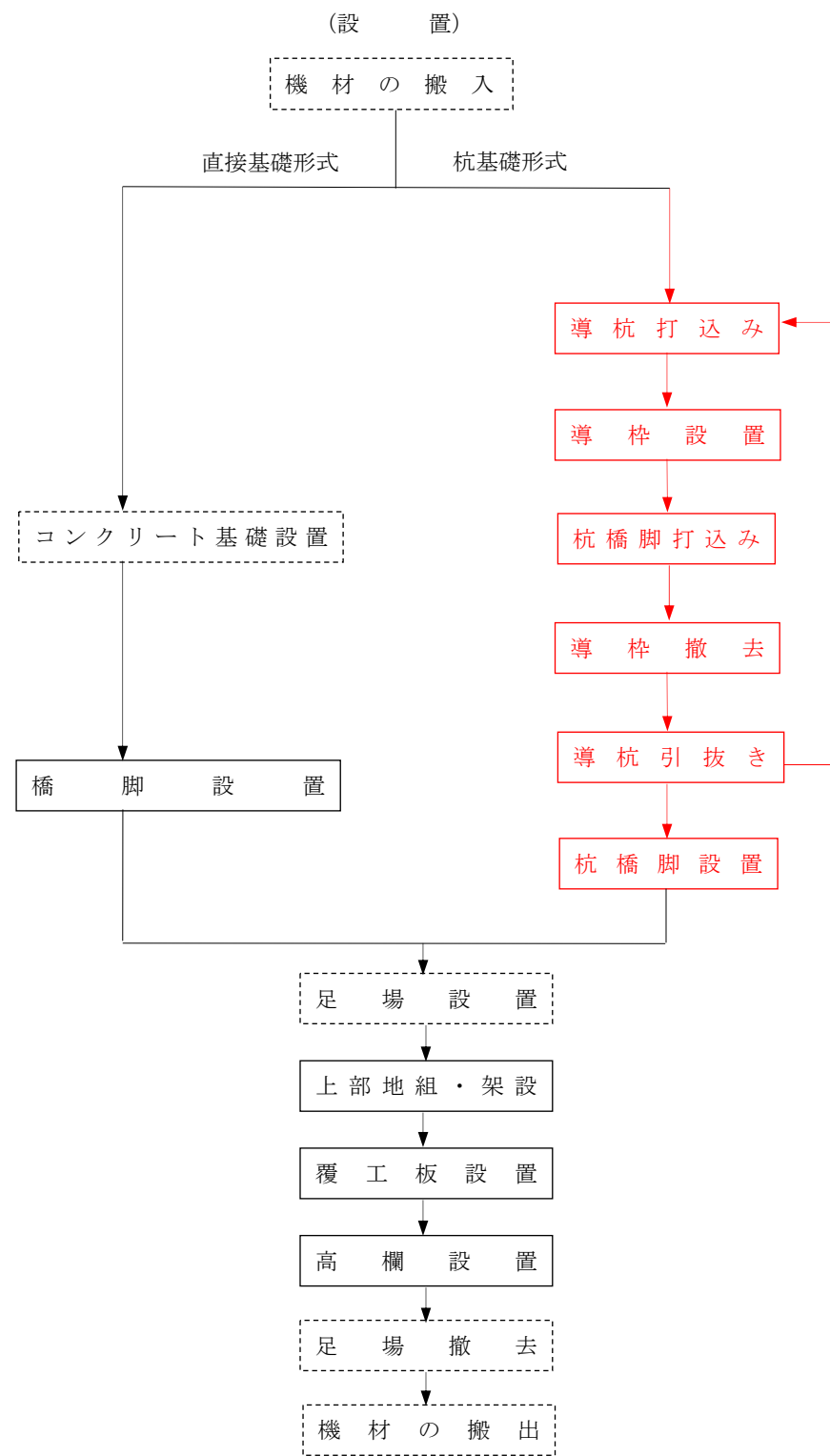
1. 適用範囲

本歩掛は、鋼製による仮橋及び仮棧橋の上部工(桁の架設・撤去、覆工板設置・撤去、高欄設置・撤去)と下部工(橋脚設置・撤去、杭橋脚打込み・引抜き及び設置・撤去)で、支間長39m以下に適用する。

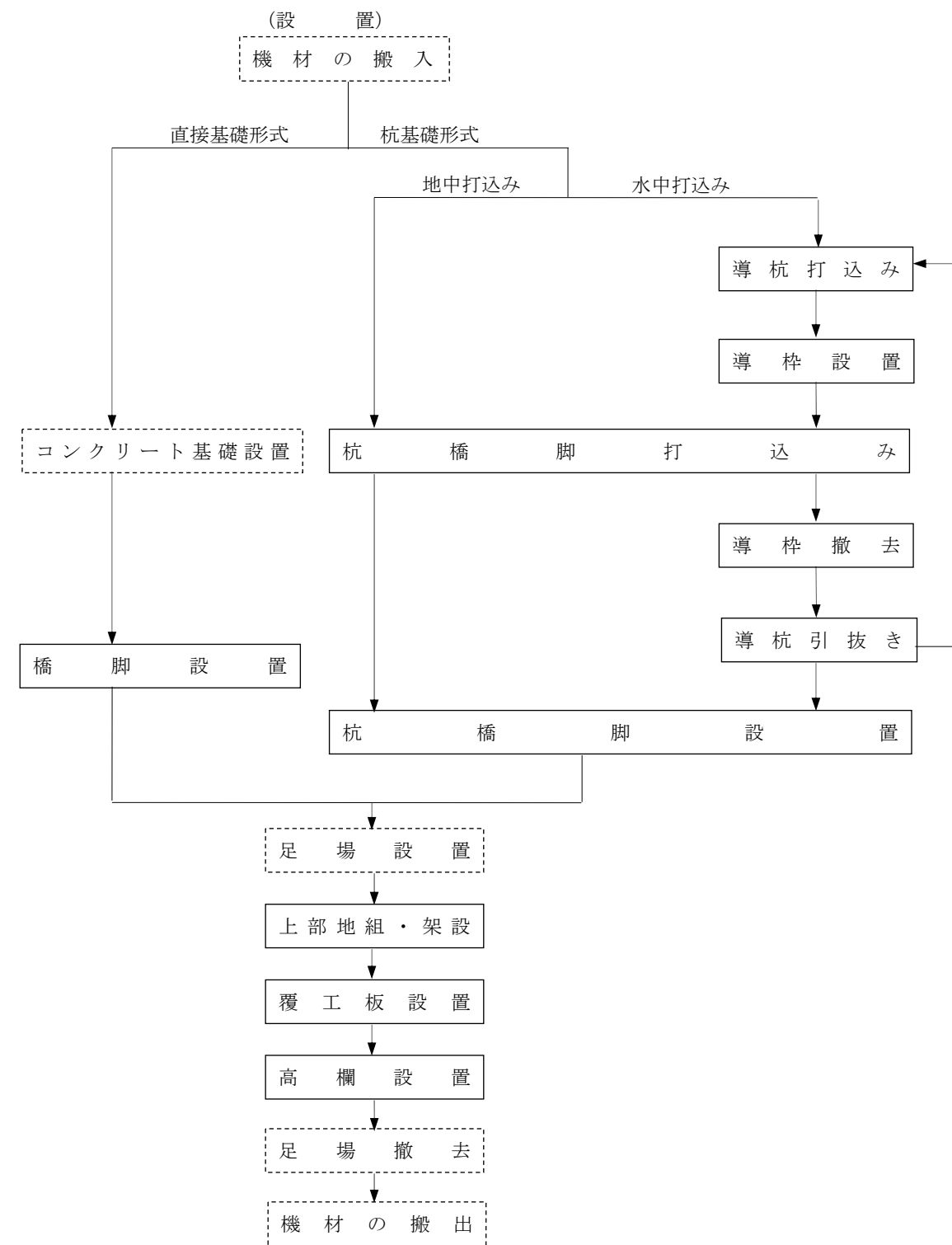
ただし、下部工は、橋脚高24m以下とし、橋脚と杭橋脚の区分については(参考)図-1の概念図による。

2. 施工概要

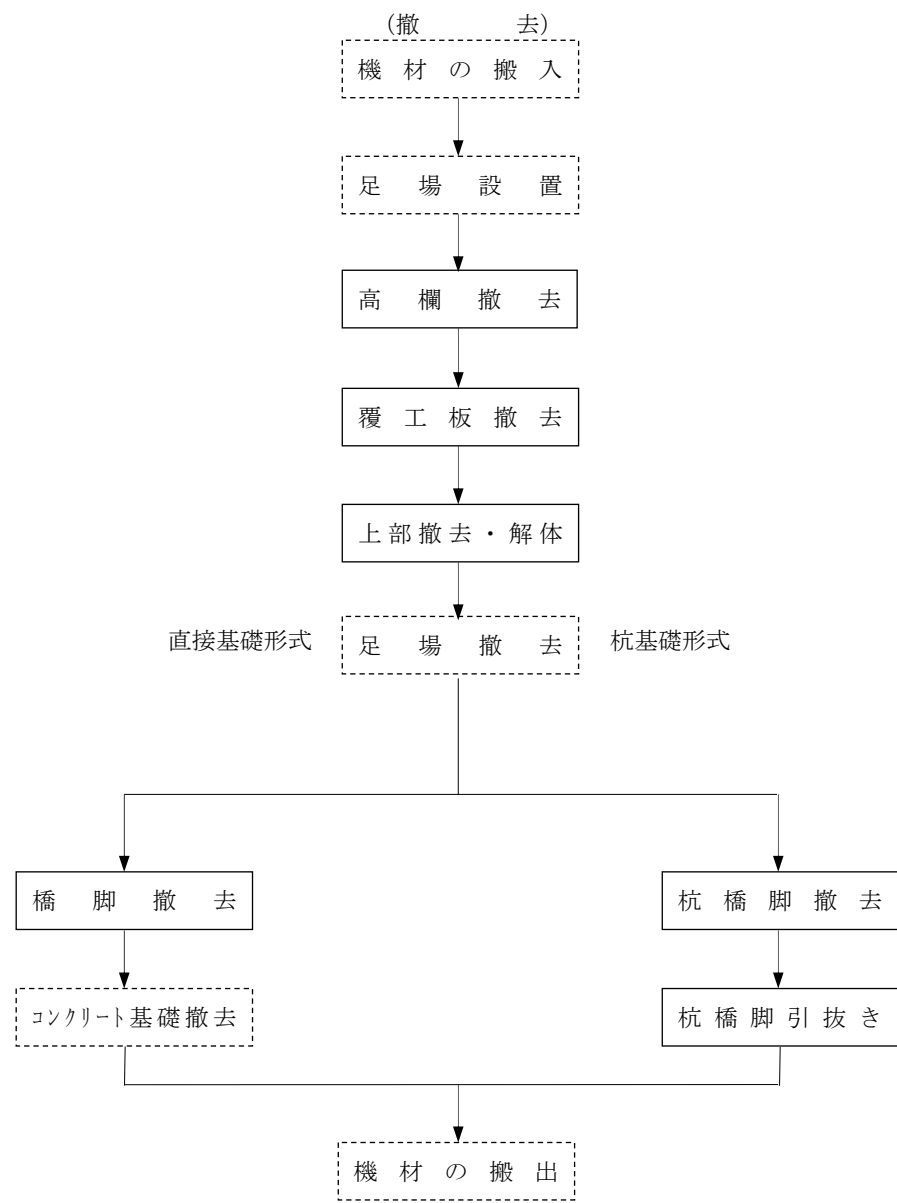
施工フローは、次図を標準とする。



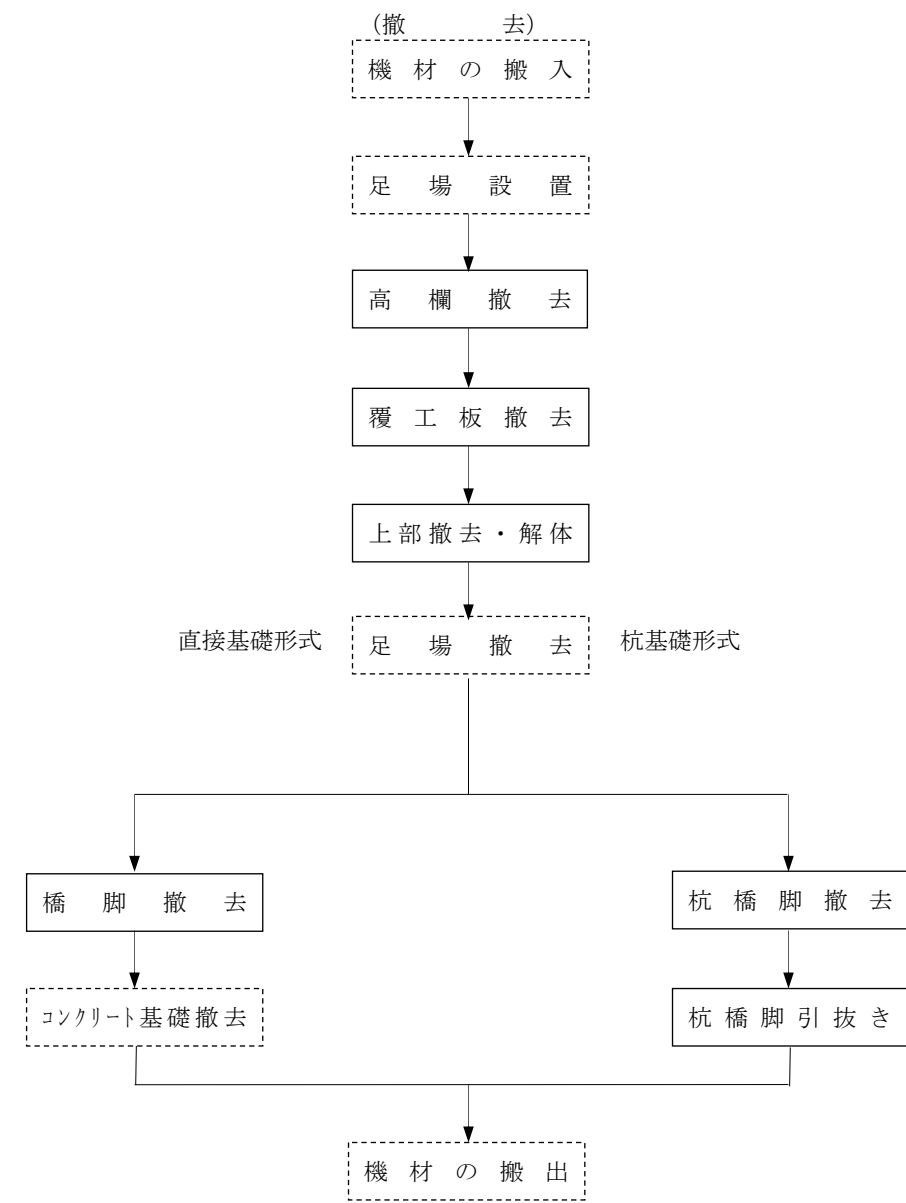
(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

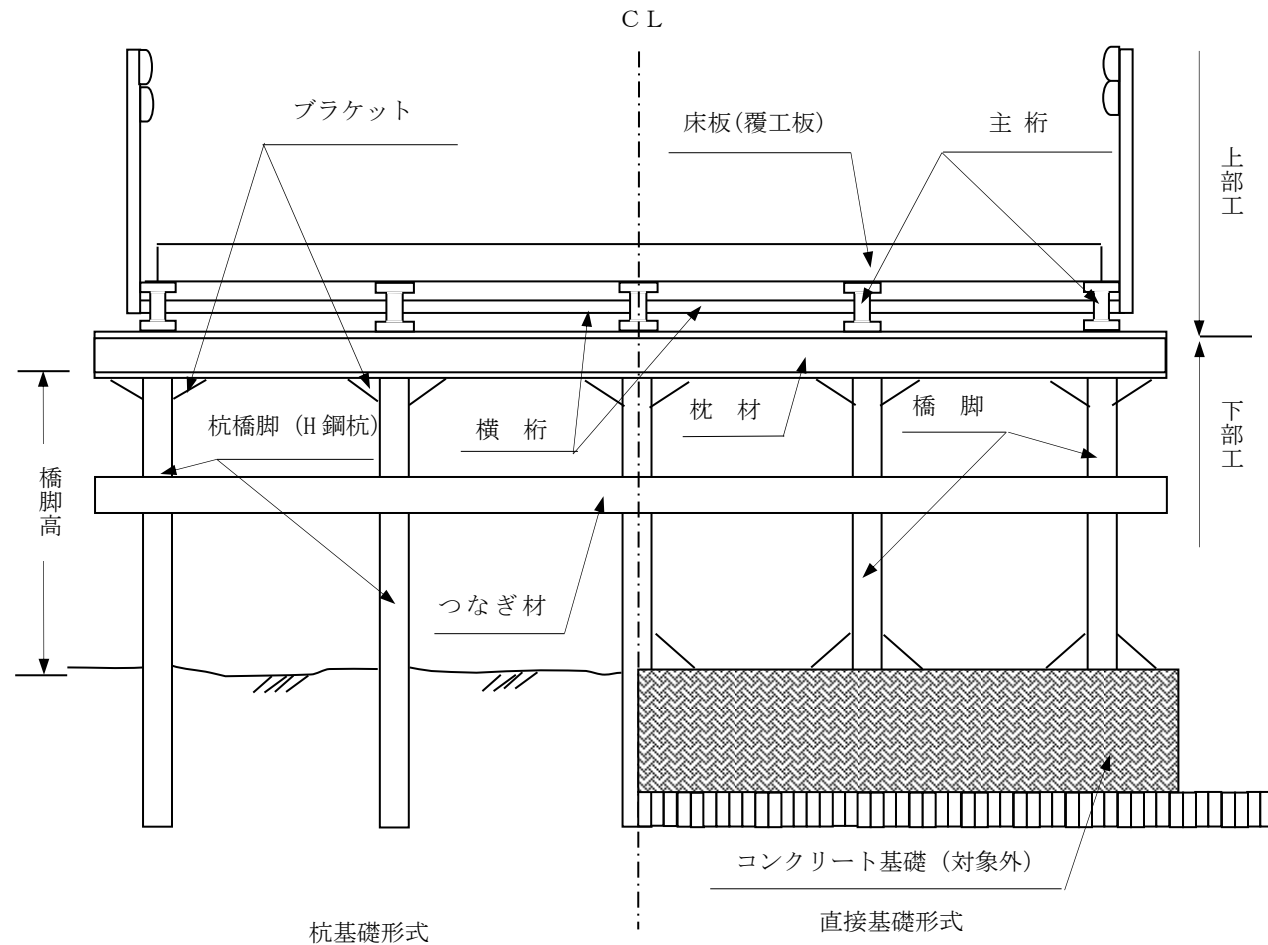


(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

(参考) 概念図

橋脚、杭橋脚等の区分は、次図を標準とする。

図-1 仮橋・仮栈橋工概念図



「仮橋」：仮橋とは、橋の架替時に代替として架ける橋あるいは工事用車両などを通行させるために架ける橋など、一時的に使用することを目的として架ける橋をいう。

「仮栈橋」：仮栈橋とは、水上あるいは水中等での工事のために陸からアプローチとして作業員や工事用機械・材料等の運搬及び船舶の接岸や係留などのために設けられ、工事用作業足場として利用されるものをいう。

3. 機種の選定

機種・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

区分	機械名	規格
直接基礎形式	排出ガス対策型(2014年規制) ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型	最大吊上能力○○t
杭基礎形式	排出ガス対策型(2014年規制) クローラークレーン 油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型	

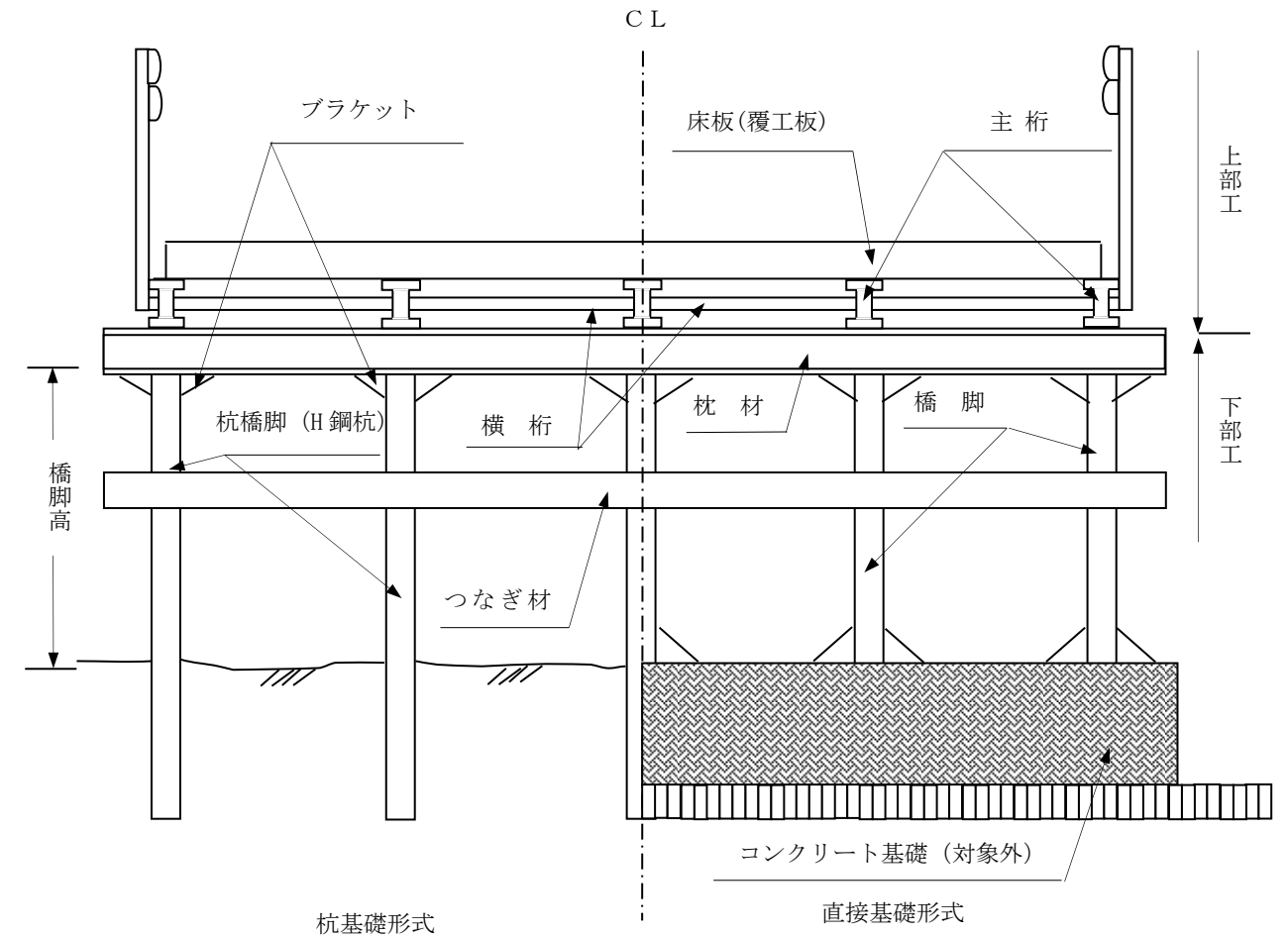
(注) 1. ~3. [略]

4. ラフテレーンクレーンで最大吊上能力 35t 吊りを選定した場合は、排出ガス対策型(2011年規制)とする。

(参考) 概念図

橋脚、杭橋脚等の区分は、次図を標準とする。

図-1 仮橋・仮栈橋工概念図



「仮橋」：仮橋とは、橋の架替時に代替として架ける橋あるいは工事用車両などを通行させるために架ける橋など、一時的に使用することを目的として架ける橋をいう。

「仮栈橋」：仮栈橋とは、水上あるいは水中等での工事のために陸からアプローチとして作業員や工事用機械・材料等の運搬及び船舶の接岸や係留などのために設けられ、工事用作業足場として利用されるものをいう。

3. 機種の選定

機種・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

区分	機械名	規格
直接基礎形式	排出ガス対策型(2014年規制) ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型	○○t
杭基礎形式	排出ガス対策型(2014年規制) クローラークレーン 油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型	

(注) 1. ~3. [略]

4. ラフテレーンクレーンで35t吊りを選定した場合は、排出ガス対策型(2011年規制)とする。



世話役		人	1.4	<u>0.75</u>	1.0	0.6	
とび工		〃	<u>4.3</u>	<u>2.3</u>	—	—	
普通作業員		〃	<u>1.2</u>	<u>0.65</u>	3.8	2.1	
ラフテレーンクレーン又は、クローラクレーン運転	最大吊上能力〇〇t吊	日	<u>1.8</u>	<u>0.97</u>	—	—	
諸雑费率		%	<u>2</u>	<u>2</u>	—	—	

(注) [略]

4-2 下部工

4-2-1 橋脚設置・撤去工(直接基礎形式)

橋脚設置・撤去工歩掛は、次表を標準とする。

表4.4 橋脚設置・撤去工歩掛 (10t当り)

名称	規格	単位	数量		摘要
			設置	撤去	
橋りょう世話役		人	<u>2.1</u>	<u>1.2</u>	
橋りょう特殊工		〃	<u>5.1</u>	<u>2.9</u>	
溶接工		〃	<u>1.3</u>	<u>0.74</u>	
普通作業員		〃	<u>3.2</u>	<u>1.8</u>	
ラフテレーンクレーン運転	最大吊上能力〇〇t吊	日	1.5	<u>0.86</u>	
諸雑费率		%	<u>4</u>	1	

(注) [略]

4-2-1 [略]

4-2-2 杭橋脚設置・撤去工(杭基礎形式)

4-2-2-1 杭橋脚打込・引抜工

(1) 機種を選定

(1)-1 [略]

(1)-2 付属機械

パイプロハンマの付属機器の機械は、表4.8を標準とし、吊上げ能力については現場条件に適合した規格とすることができる。現場条件によりこれにより難しい場合は、別途考慮する。

表4.8 付属機械の機種・規格

規格 機種	パイプロハンマ	
	電動式パイプロハンマ 60kW	90kW
クローラクレーン (油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・ 排出ガス対策型(2014年規制))	最大吊上能力〇〇t吊	

(2) 編成人員

H形鋼の打込み、引抜き作業の編成人員は、次表を標準とする。

世話役		人	1.4	<u>0.87</u>	1.0	0.6	
とび工		〃	<u>4.0</u>	<u>2.8</u>	—	—	
普通作業員		〃	<u>1.0</u>	<u>1.2</u>	3.8	2.1	
ラフテレーンクレーン又は、クローラクレーン運転	〇〇t吊	日	<u>1.4</u>	<u>0.40</u>	—	—	
諸雑费率		%	<u>1</u>	<u>1</u>	—	—	

(注) [略]

4-2 下部工

4-2-1 橋脚設置・撤去工(直接基礎形式)

橋脚設置・撤去工歩掛は、次表を標準とする。

表4.4 橋脚設置・撤去工歩掛 (10t当り)

名称	規格	単位	数量		摘要
			設置	撤去	
橋りょう世話役		人	<u>1.7</u>	<u>1.1</u>	
橋りょう特殊工		〃	<u>4.2</u>	<u>3.0</u>	
溶接工		〃	<u>1.1</u>	<u>1.0</u>	
普通作業員		〃	<u>2.6</u>	<u>1.4</u>	
ラフテレーンクレーン運転	〇〇t吊	日	1.5	<u>0.7</u>	
諸雑费率		%	<u>6</u>	1	

(注) [略]

4-2-1 [略]

4-2-2 杭橋脚設置・撤去工(杭基礎形式)

4-2-2-1 杭橋脚打込・引抜工

(1) 機種を選定

(1)-1 [略]

(1)-2 付属機械

パイプロハンマの付属機器の機械は、表4.8を標準とし、吊上げ能力については現場条件に適合した規格とすることができる。現場条件によりこれにより難しい場合は、別途考慮する。

表4.8 付属機械の機種・規格

規格 機種	パイプロハンマ	
	電動式パイプロハンマ 60kW	90kW
クローラクレーン (油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・ 排出ガス対策型(2014年規制))	〇〇t吊	

(2) 編成人員

H形鋼の打込み、引抜き作業の編成人員は、次表を標準とする。

表 4. 9 打込み、引抜き編成人員 (人)

項目	継施工の有無	世話役	とび工	普通作業員	特殊作業員
パイプロハンマ施工	無し	1	2	1	—
	有り	<u>1</u>	<u>3</u>	<u>1</u>	<u>2</u>
ウォータージェット併用施工	無し	1	2	1	1
	有り	<u>1</u>	<u>3</u>	<u>1</u>	<u>1</u>

(3) 日当り施工本数

1) 打込み(継施工無し)

H形鋼の1日当り打込み(N)は、次表を標準とする。

表 4. 10 電動式パイプロハンマ単独による日当り施工本数(Nmax<50)(N) (本/日)

形式 打込み長(m)	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	63	59	55	49	45
4以下	47	40	35	28	24
6以下	38	31	26	20	17
8以下	32	25	21	16	13
10以下	27	21	17	13	10
13以下	23	17	14	10	8
16以下	—	—	12	8	7
20以下	—	—	10	7	6
22以下	—	—	—	6	5
25以下	—	—	—	5	4

(注) [略]

表 4. 11 電動式パイプロハンマとウォータージェット併用による日当り施工本数(N) (本/日)

形式 打込み長(m)	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	60 (65)	55 (60)	50 (56)	43 (49)	38 (45)
4以下	35 (40)	30 (35)	26 (31)	20 (25)	18 (22)
6以下	25 (29)	21 (25)	17 (21)	13 (17)	11 (15)
8以下	19 (23)	16 (19)	13 (16)	10 (13)	8 (11)
10以下	16 (19)	13 (16)	11 (13)	8 (10)	7 (9)
13以下	13 (15)	10 (13)	8 (11)	6 (8)	5 (7)
16以下	10 (13)	8 (10)	7 (9)	5 (7)	4 (6)
20以下	—	—	6 (7)	4 (5)	3 (5)
22以下	—	—	5 (6)	4 (5)	3 (4)
25以下	—	—	4 (6)	3 (4)	3 (4)

(注) 1. [略]  
[削る。]

2) 打込み(継施工有り)

表 4. 9 打込み、引抜き編成人員 (人)

項目	世話役	とび工	普通作業員	特殊作業員
パイプロハンマ施工	1	2	1	—
	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]
ウォータージェット併用施工	1	2	1	1
	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]

(3) 日当り施工本数

H形鋼の1日当り打込み、引抜き本数(N)は、次表を標準とする。

表 4. 10 電動式パイプロハンマ単独による日当り施工本数(Nmax<50)(N) (本/日)

形式 打込み長(m)	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	63	59	55	49	45
4以下	47	40	35	28	24
6以下	38	31	26	20	17
8以下	32	25	21	16	13
10以下	27	21	17	13	10
13以下	23	17	14	10	8
16以下	—	—	12	8	7
20以下	—	—	10	7	6
22以下	—	—	—	6	5
25以下	—	—	—	5	4

(注) [略]

表 4. 11 電動式パイプロハンマとウォータージェット併用による日当り施工本数(N) (本/日)

形式 打込み長(m)	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	60 (65)	55 (60)	50 (56)	43 (49)	38 (45)
4以下	35 (40)	30 (35)	26 (31)	20 (25)	18 (22)
6以下	25 (29)	21 (25)	17 (21)	13 (17)	11 (15)
8以下	19 (23)	16 (19)	13 (16)	10 (13)	8 (11)
10以下	16 (19)	13 (16)	11 (13)	8 (10)	7 (9)
13以下	13 (15)	10 (13)	8 (11)	6 (8)	5 (7)
16以下	10 (13)	8 (10)	7 (9)	5 (7)	4 (6)
20以下	—	—	6 (7)	4 (5)	3 (5)
22以下	—	—	5 (6)	4 (5)	3 (4)
25以下	—	—	4 (6)	3 (4)	3 (4)

(注) 1. [略]

2. 継ぎ施工が必要な場合、施工本数(N)は別途考慮する。

[新設]

H形鋼1本につき1箇所継施工（打込み）する場合の日当り打込本数（N）は、次表を標準とする。

表4. 12 電動式パイプロハンマ単独による日当り施工本数(Nmax<50) (N) (本/日)

形式 打込み長(m)	H250	H300	H350	H400
2以下	19	14	13	10
4以下	16	11	10	7
6以下	13	9	8	6
8以下	12	8	7	5
10以下	10	7	6	4
13以下	9	6	5	4
16以下	—	6	4	4
20以下	—	5	4	3
22以下	—	—	4	3
25以下	—	—	3	2

(注) 継ぎ施工が必要な場合、施工本数(N)は別途考慮する。

表4. 13 電動式パイプロハンマとウォータージェット併用による日当り施工本数(N) (本/日)

形式 打込み長(m)	H250	H300	H350	H400
2以下	18 (18)	13 (13)	12 (12)	8 (9)
4以下	13 (14)	9 (11)	8 (8)	6 (6)
6以下	11 (12)	7 (9)	6 (7)	5 (5)
8以下	9 (10)	7 (8)	5 (6)	4 (5)
10以下	8 (9)	6 (7)	5 (5)	4 (4)
13以下	7 (8)	5 (6)	4 (5)	3 (4)
16以下	6 (7)	5 (6)	4 (5)	3 (4)
20以下	—	5 (5)	3 (4)	3 (4)
22以下	—	4 (5)	3 (4)	3 (3)
25以下	—	4 (5)	3 (3)	3 (3)

(注) 1. 2箇所以上の継施工が必要な場合、施工本数(N)は別途考慮する。

2. 上段:  $50 \leq N_{max} \leq 80$

下段()書き:  $N_{max} < 50$  で、転石等により、やむを得ずウォータージェットを使用する必要性が生じた場合

3) 継施工費

継施工が必要な場合の費用は、別途計上する。

4) 引抜き

H形鋼の日当り打込引抜き本数(N)は、次表を標準とする。

表4. 14 日当り引抜き施工本数(N) (本/日)

引抜き長(m)	2以下	4以下	6以下	8以下	10以下
引抜き数量(本/日)	56	46	39	34	30

[新設]

[新設]

表4. 12 日当り引抜き施工本数(N)

(本/日)

引抜き長(m)	2以下	4以下	6以下	8以下	10以下
引抜き数量(本/日)	56	46	39	34	30

引抜き長(m)	13以下	16以下	20以下	22以下	25以下
引抜き数量(本/日)	26	22	19	17	16

(4) 諸雑費

諸雑費は、電力に関する経費、現場内小運搬費用、電気溶接機運転経費（単独施工時）、ウォータージェット併用施工用付属機器運転経費及び材料費（電力に関する経費、工事用水中モータポンプ及び電気溶接機運転経費、水槽及び配管損料、配管バンド及び溶接棒）等の費用であり、打込み労務費、杭打機及びウォータージェットの機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表4. 15 諸雑费率

施工区分	パイプロハンマ 機種・規格		諸雑费率(%)
	電動式	60kW	
パイプロハンマ単独打込み	電動式	60kW	20
		90kW	27
ウォータージェット併用打込み	電動式	60kW	23 (25)
		90kW	27 (30)
引抜き	電動式	60kW	20

(注) [略]

(5) その他

ウォータージェット併用施工時に用いる上水道等が必要な場合は、別途計上する。

4-2-2-2 杭橋脚設置・撤去工

杭橋脚設置・撤去工歩掛は、次表を標準とする。

表4. 16 杭橋脚設置・撤去工歩掛 (10t当り)

名称	規格	単位	数量		摘要
			設置	撤去	
橋りょう世話役		人	2.1	0.74	
橋りょう特殊工		〃	4.9	1.9	
溶接工		〃	1.8	0.52	
普通作業員		〃	1.3	0.27	
クローラクレーン 運 転	最大吊上能力 〇〇t吊	日	1.7	0.85	
諸雑费率		%	13	8	

(注) [略]

4-2-3 定規工(導杭・導枠)

本歩掛は、陸上・水上施工を問わず、杭橋脚(H鋼杭)を水中に打込む場合に計上することを標準とする。

(1) [略]

(2) 導枠設置・撤去工

導枠設置・撤去工は、次表を標準とする。

表4. 17 導枠設置・撤去工歩掛 (杭橋脚打込み10本当り)

名称	規格	単位	数量	摘要

引抜き長(m)	13以下	16以下	20以下	22以下	25以下
引抜き数量(本/日)	26	22	19	17	16

(4) 諸雑費

諸雑費は、電力に関する経費、現場内小運搬費用、電気溶接機運転経費（単独施工時）、ウォータージェット併用施工用付属機器運転経費及び材料費（電力に関する経費、工事用水中モータポンプ及び電気溶接機運転経費、水槽及び配管損料、配管バンド及び溶接棒）等の費用であり、打込み労務費、杭打機及びウォータージェットの機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表4. 13 諸雑费率

施工区分	パイプロハンマ 機種・規格		諸雑费率(%)
	電動式	60kW	
パイプロハンマ単独打込み	電動式	60kW	20
		90kW	27
ウォータージェット併用打込み	電動式	60kW	23 (25)
		90kW	27 (30)
引抜き	電動式	60kW	20

(注) [略]

[新設]

4-2-2-2 杭橋脚設置・撤去工

杭橋脚設置・撤去工歩掛は、次表を標準とする。

表4. 14 杭橋脚設置・撤去工歩掛 (10t当り)

名称	規格	単位	数量		摘要
			設置	撤去	
橋りょう世話役		人	2.1	0.74	
橋りょう特殊工		〃	4.9	1.9	
溶接工		〃	1.8	0.52	
普通作業員		〃	1.3	0.27	
クローラクレーン 運 転	〇〇t吊	日	1.7	0.85	
諸雑费率		%	13	8	

(注) [略]

4-2-3 定規工(導杭・導枠)

本歩掛は、杭橋脚(H鋼杭)を水中に打込む場合に計上することを標準とする。

(1) [略]

(2) 導枠設置・撤去工

導枠設置・撤去工は、次表を標準とする。

表4. 15 導枠設置・撤去工歩掛 (杭橋脚打込み10本当り)

名称	規格	単位	数量	摘要

世話役		人	<u>0.25</u>	
とび工		〃	<u>11.1</u>	
普通作業員		〃	<u>0.22</u>	
クローラクレーン 運 転	最大吊上能力〇〇t吊	日	<u>0.42</u>	
諸 雑 費 率		%	<u>20</u>	

(注) [略]

4-3 [略]

### 5. 単価表

(1) 上部工架設・撤去工10t当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
橋りょう世話役		人		表4.1
橋りょう特殊工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 又は、 クローラクレーン運 転	最大吊上能力〇〇t吊	日		表3.1、表4.1 ラフテレーンクレーンは機械賃料 クローラクレーンは機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.1
計				

(2) 覆工板設置・撤去工100m<sup>2</sup>当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表4.2
とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 又は、 クローラクレーン運 転	最大吊上能力〇〇t吊	日		表3.1、表4.2 ラフテレーンクレーンは機械賃料 クローラクレーンは機械損料
諸 雑 費		式		表4.2
計				

(3) 高欄設置・撤去工100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表4.3
とび工		〃		〃

世話役		人	<u>0.36</u>	
とび工		〃	<u>0.87</u>	
普通作業員		〃	<u>0.17</u>	
クローラクレーン 運 転	〇〇t吊	日	<u>0.32</u>	
諸 雑 費 率		%	<u>23</u>	

(注) [略]

4-3 [略]

### 5. 単価表

(1) 上部工架設・撤去工10t当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
橋りょう世話役		人		表4.1
橋りょう特殊工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 又は、 クローラクレーン運 転	〇〇t吊	日		表3.1、表4.1 ラフテレーンクレーンは機械賃料 クローラクレーンは機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.1
計				

(2) 覆工板設置・撤去工100m<sup>2</sup>当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表4.2
とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 又は、 クローラクレーン運 転	〇〇t吊	日		表3.1、表4.2 ラフテレーンクレーンは機械賃料 クローラクレーンは機械損料
諸 雑 費		式		表4.2
計				

(3) 高欄設置・撤去工100m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表4.3
とび工		〃		〃

普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 又は、 クローラクレーン運転	最大吊上能力〇〇t吊	日		表3. 1、表4. 3 ラフテレーンクレーンは機械賃料 クローラクレーンは機械損料
諸雑費		式	1	表4. 3
計				

(4) 橋脚設置・撤去工（直接基礎形式）10 t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋りょう世話役		人		表4. 4
橋りょう特殊工		〃		〃
溶接工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 運 転	最大吊上能力〇〇t吊	日		表3. 1、表4. 4 機械賃料
諸雑費		式	1	表4. 4
計				

(5) 杭橋脚設置・撤去工（杭基礎形式）10 t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋りょう世話役		人		表4. <u>16</u>
橋りょう特殊工		〃		〃
溶接工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
クローラクレーン 運 転	最大吊上能力〇〇t吊	日		表3. 1、表4. <u>16</u> 機械損料
諸雑費		式	1	表4. <u>16</u>
計				

(6) 導柵設置・撤去工 杭橋脚打込み10本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表4. <u>17</u>
とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
クローラクレーン 運 転	最大吊上能力〇〇t吊	日		表3. 1、表4. <u>17</u> 機械損料
諸雑費		式	1	表4. <u>17</u>

普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 又は、 クローラクレーン運転	〇〇t吊	日		表3. 1、表4. 3 ラフテレーンクレーンは機械賃料 クローラクレーンは機械損料
諸雑費		式	1	表4. 3
計				

(4) 橋脚設置・撤去工（直接基礎形式）10 t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋りょう世話役		人		表4. 4
橋りょう特殊工		〃		〃
溶接工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 運 転	〇〇t吊	日		表3. 1、表4. 4 機械賃料
諸雑費		式	1	表4. 4
計				

(5) 杭橋脚設置・撤去工（杭基礎形式）10 t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋りょう世話役		人		表4. <u>14</u>
橋りょう特殊工		〃		〃
溶接工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
クローラクレーン 運 転	〇〇t吊	日		表3. 1、表4. <u>14</u> 機械損料
諸雑費		式	1	表4. <u>14</u>
計				

(6) 導柵設置・撤去工 杭橋脚打込み10本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表4. <u>15</u>
とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
クローラクレーン 運 転	〇〇t吊	日		表3. 1、表4. <u>15</u> 機械損料
諸雑費		式	1	表4. <u>15</u>

計				
---	--	--	--	--

(7) パイプロハンマ杭打機によるH形鋼の打込み又は、引抜き 10 本当り単価表  
(H形鋼打込み又は、引抜き長〇〇m)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 9 表 4. <u>12</u> 、表 4. <u>14</u>
とび工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
普通作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
パイプロハンマ杭打機運転		日	$\frac{10}{N}$	表 4. 5、表 4. 8 〃 機械損料
<u>継施工費</u>		<u>箇所</u>	<u>10</u>	<u>(必要に応じて計上)</u>
諸雑費		式	1	表 4. <u>15</u>
計				

(注) N：日当り施工本数 [本/日]  
( ) 書き：継施工有りの場合に適用する。

(8) パイプロハンマ杭打機とウォータージェット併用によるH形鋼の打込み 10 本当り単価表  
(H形鋼打込み長〇〇m)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 9 表 4. <u>13</u>
とび工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
特殊作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
普通作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
パイプロハンマ杭打機運転		日	$\frac{10}{N}$	表 4. 5、表 4. 8 〃 機械損料
ウォータージェット運転	エンジン式 排出ガス対策型 (第3次基準値) 14.7Mpa 325ℓ/min	〃	$\frac{10}{N} \times$ 台数	〃 〃 機械損料
<u>継施工費</u>		<u>箇所</u>	<u>10</u>	<u>(必要に応じて計上)</u>
諸雑費		式	1	表 4. <u>15</u>
計				

(注) N：日当り施工本数 [本/日]  
( ) 書き：継施工有りの場合に適用する。

(9) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
クローラクレーン	油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型	機-18	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量

計				
---	--	--	--	--

(7) パイプロハンマ杭打機によるH形鋼の打込み又は、引抜き 10 本当り単価表  
(H形鋼打込み又は、引抜き長〇〇m)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 9 表 4. <u>10</u> 、表 4. <u>12</u>
とび工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
普通作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
パイプロハンマ杭打機運転		日	$\frac{10}{N}$	表 4. 5、表 4. 8 〃 機械損料
[新設]		[新設]	[新設]	[新設]
諸雑費		式	1	表 4. <u>13</u>
計				

(注) N：日当り施工本数 [本/日]  
[新設]

(8) パイプロハンマ杭打機とウォータージェット併用によるH形鋼の打込み 10 本当り単価表  
(H形鋼打込み長〇〇m)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 9 表 4. <u>11</u>
とび工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
特殊作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
普通作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
パイプロハンマ杭打機運転		日	$\frac{10}{N}$	表 4. 5、表 4. 8 〃 機械損料
ウォータージェット運転	エンジン式 排出ガス対策型 (第3次基準値) 14.7Mpa 325ℓ/min	〃	$\frac{10}{N} \times$ 台数	〃 〃 機械損料
[新設]		[新設]	[新設]	[新設]
諸雑費		式	1	表 4. <u>13</u>
計				

(注) N：日当り施工本数 [本/日]  
[新設]

(9) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
クローラクレーン	油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型	機-18	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量

	排出ガス対策型 (2014年規制) <u>最大吊上能力</u> 50-55t吊 70t吊 80t吊 90t吊 100t吊 120t吊 200t吊		50-55t → 72 70t → 105 80t → 118 90t → 105 100t → 118 120t → 118 200t → 138 機械損料数量 → 1.32
電動式 パイプロンマ杭打機	60kW 90kW	機-20	運転労務数量 → 1.00 機械損料1 → パイプロンマ(単体) 電動式・普通型60kW・90kW 機械損料数量 → 1.32 機械損料2 → クローラクレーン (油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・ 排出ガス対策型(2014年規制)) ○○t 燃料消費量 50-55t → 72 70t → 105 80t → 118 90t → 105 100t → 118 120t → 118 200t → 138 機械損料数量 → 1.32
ウォータージェット	排出ガス対策型 (第3次基準値) 14.7MPa 325ℓ/min	機-24	燃料消費量 → 136 機械損料数量 → 1.32

⑭ 道路補修

1. ~ 3. [略]

4. 施工歩掛

道路補修歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 1 道路補修歩掛 (100m<sup>2</sup>当り)

機種・規格	稼働時間(日)	世話役(人)	普通作業員(人)
バックホウ(クローラ型) <u>標準・クレーン機能付き</u> 排出ガス対策型(第2次基準値) <u>バケット容量0.28m<sup>3</sup></u>	0.08	0.04	0.10

(注) [略]

5. 単価表

(1) 道路補修一路線当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 1
普通作業員		人		表 4. 1

	排出ガス対策型 (2014年規制) 50-55t吊 70t吊 80t吊 90t吊 100t吊 120t吊 200t吊		50-55t → 72 70t → 105 80t → 118 90t → 105 100t → 118 120t → 118 200t → 138 機械損料数量 → 1.32
電動式 パイプロンマ杭打機	60kW 90kW	機-20	運転労務数量 → 1.00 機械損料1 → パイプロンマ(単体) 電動式・普通型60kW・90kW 機械損料数量 → 1.32 機械損料2 → クローラクレーン (油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・ 排出ガス対策型(2014年規制)) ○○t 燃料消費量 50-55t → 72 70t → 105 80t → 118 90t → 105 100t → 118 120t → 118 200t → 138 機械損料数量 → 1.32
ウォータージェット	排出ガス対策型 (第3次基準値) 14.7MPa 325ℓ/min	機-24	燃料消費量 → 136 機械損料数量 → 1.32

⑭ 道路補修

1. ~ 3. [略]

4. 施工歩掛

道路補修歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 1 道路補修歩掛 (100m<sup>2</sup>当り)

機種・規格	稼働時間(日)	世話役(人)	普通作業員(人)
バックホウ 排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 <u>山積0.28m<sup>3</sup>(平積0.2m<sup>3</sup>)</u>	0.08	0.04	0.10

(注) [略]

5. 単価表

(1) 道路補修一路線当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 1
普通作業員		人		表 4. 1

補 足 材		m <sup>3</sup>		式 3. 1
バックホウ(クローラ型) 運 転	標準・クレーン機能付き 排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量0.28m <sup>3</sup>	日		表 4. 1
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クローラ型)	標準・クレーン機能付き 排出ガス対策型(第2次基準値) バケット容量0.28m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 35 機械賃料数量 → 1.11

⑮ バイプロハンマエ(鋼矢板・H形鋼)

1.・2. [略]

3. 機種を選定

3-1 [略]

3-2 付属機械

3-2-1 バイプロハンマの付属機械の機種・規格は、次表を標準とするが、現場条件によりこれにより難しい場合は、施工上必要な吊上げ機械・規格に入れ替えて計上する。

表 3. 6 付属機械の機種・規格

バイプロハンマ種別	施工内容	機種	規格
電動式バイプロハンマ	打込み(WJ併用施工を含む)・引抜き	クローラクレーン	排出ガス対策型 (2014年規制) 油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 最大吊上能力 50~55t 吊
油圧式バイプロハンマ	打込み(WJ併用施工を含む)		
		引抜き	ラフテレーンクレーン

(注) [略]

4.・5. [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	摘要

補 足 材		m <sup>3</sup>		式 3. 1
バックホウ 運 転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.2m <sup>3</sup> )	日		表 4. 1
計				

(2) 機械運転単価表

機械名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.2m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 35 機械賃料数量 → 1.11

⑮ バイプロハンマエ(鋼矢板・H形鋼)

1.・2. [略]

3. 機種を選定

3-1 [略]

3-2 付属機械

3-2-1 バイプロハンマの付属機械の機種・規格は、次表を標準とするが、現場条件によりこれにより難しい場合は、施工上必要な吊上げ機械・規格に入れ替えて計上する。

表 3. 6 付属機械の機種・規格

バイプロハンマ種別	施工内容	機種	規格
電動式バイプロハンマ	打込み(WJ併用施工を含む)・引抜き	クローラクレーン	排出ガス対策型 (2014年規制) 油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 50~55t 吊
油圧式バイプロハンマ	打込み(WJ併用施工を含む)		
		引抜き	ラフテレーンクレーン

(注) [略]

4.・5. [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	摘要

ハーフ・ロハンマ杭打機	電動式・普通型 60kW、90kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→76 機械損料 1→ハーフ・ロハンマ (単体) 電動式・普通型 60kW、90kW 機械損料数量→1.31 機械損料 2→クローラクレーン 排出ガス対策型(2014年規制) (油圧駆動式ウインチ・リフティング型) 最大吊上能力 50~55 t 吊 機械損料数量→1.31	打込み 引抜き
ハーフ・ロハンマ杭打機 (ハット形鋼矢板用)	電動式・ 可変モーメント型 60kW、90kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→76 機械損料 1→ハーフ・ロハンマ (単体) 電動式・可変モーメント型 60kW、90kW 機械損料数量→1.31 機械損料 2→クローラクレーン 排出ガス対策型(2014年規制) (油圧駆動式ウインチ・リフティング型) 最大吊上能力 50~55 t 吊 機械損料数量→1.31	打込み
ハーフ・ロハンマ杭打機	油圧式・ 可変超高周波型 排出ガス対策型 (第3次基準値)・ 最大起振力 473kN・ 242kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→473 機械損料 1→ハーフ・ロハンマ 油圧式・可変超高周波型 242kW 機械損料数量→1.31 機械損料 2→クローラクレーン 排出ガス対策型(2014年規制) (油圧駆動式ウインチ・リフティング型) 最大吊上能力 50~55 t 吊 機械損料数量→1.31	打込み
			運転労務数量→1.00 燃料消費量→484 機械損料 1→ハーフ・ロハンマ 油圧式・可変超高周波型 242kW 機械損料数量→1.21 機械損料 2→ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型(第3次基準値) (油圧伸縮ジブ型) 最大吊上能力 25 t 吊 機械損料数量→1.21	引抜き
ハーフ・ロハンマ杭打機 (ハット形鋼矢板用)	油圧式・ 可変超高周波型 排出ガス対策型 (第3次基準値)・最 大起振力 473kN・ 242kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→473 機械損料 1→ハーフ・ロハンマ 油圧式・可変超高周波型 242kW 機械損料数量→1.31 機械損料 2→クローラクレーン 排出ガス対策型(2014年規制) (油圧駆動式ウインチ・リフティング型) 最大吊上能力 50~55 t 吊 機械損料数量→1.31	打込み
杭打ち用ウォータージェット	エンジン式 排出ガス対策型 (第3次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325ℓ/min	機-24	燃料消費量→139 機械損料数量→1.31	打込み

⑯ [略]

⑰ 油圧圧入引抜き

ハーフ・ロハンマ杭打機	電動式・普通型 60kW、90kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→76 機械損料 1→ハーフ・ロハンマ (単体) 電動式・普通型 60kW、90kW 機械損料数量→1.31 機械損料 2→クローラクレーン 排出ガス対策型(2014年規制) (油圧駆動式ウインチ・リフティング型) 50~55 t 吊 機械損料数量→1.31	打込み 引抜き
ハーフ・ロハンマ杭打機 (ハット形鋼矢板用)	電動式・ 可変モーメント型 60kW、90kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→76 機械損料 1→ハーフ・ロハンマ (単体) 電動式・可変モーメント型 60kW、90kW 機械損料数量→1.31 機械損料 2→クローラクレーン 排出ガス対策型(2014年規制) (油圧駆動式ウインチ・リフティング型) 50~55 t 吊 機械損料数量→1.31	打込み
ハーフ・ロハンマ杭打機	油圧式・ 可変超高周波型 排出ガス対策型 (第3次基準値)・ 最大起振力 473kN・ 242kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→473 機械損料 1→ハーフ・ロハンマ 油圧式・可変超高周波型 242kW 機械損料数量→1.31 機械損料 2→クローラクレーン 排出ガス対策型(2014年規制) (油圧駆動式ウインチ・リフティング型) 50~55 t 吊 機械損料数量→1.31	打込み
			運転労務数量→1.00 燃料消費量→484 機械損料 1→ハーフ・ロハンマ 油圧式・可変超高周波型 242kW 機械損料数量→1.21 機械損料 2→ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型(第3次基準値) (油圧伸縮ジブ型) 25 t 吊 機械損料数量→1.21	引抜き
ハーフ・ロハンマ杭打機 (ハット形鋼矢板用)	油圧式・ 可変超高周波型 排出ガス対策型 (第3次基準値)・最 大起振力 473kN・ 242kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→473 機械損料 1→ハーフ・ロハンマ 油圧式・可変超高周波型 242kW 機械損料数量→1.31 機械損料 2→クローラクレーン 排出ガス対策型(2014年規制) (油圧駆動式ウインチ・リフティング型) 50~55 t 吊 機械損料数量→1.31	打込み
杭打ち用ウォータージェット	エンジン式 排出ガス対策型 (第3次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325ℓ/min	機-24	燃料消費量→139 機械損料数量→1.31	打込み

⑯ [略]

⑰ 油圧圧入引抜き

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定

3-1 [略]

3-2 付属機械

油圧式杭圧入引抜機に付属する機械の機種、規格は、次表を標準とする。

表 3. 2 付属機械の機種選定

機 種	作業の種類	圧入 (Nmax ≤ 25) 引 抜 き	圧入 (Nmax ≤ 50)	備 考
ラフテレーンクレーン		排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 <b>最大吊上能力</b> 25 t 吊 (注) 2		陸上からの施工時のみ
杭打ち用ウォータージェット		—	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第3次基準値) 圧力14.7MPa 吐出量325ℓ/min	
クレーン付台船		35~40t吊 (注) 3		水上からの施工時のみ
引 船		鋼製 D 100PS型 4.9GT (注) 3		

(注) 1. ~ 5. [略]

4. [略]

5. 日当たり施工枚数

5-1 ~ 5-5 [略]

5-6 その他

(1) ウォータージェット併用施工時に用いる上水道等が必要な場合は、別途計上する。

(2) ウォータージェット併用施工時に発生する濁水の運搬・処理が必要な場合は、別途計上する。

6. 単価表

(1) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 25)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 1
特 殊 作 業 員		”	$\frac{10}{N} \times 1$	” ”
と び 工		”	$\frac{10}{N} \times 2$	” ”
油圧式杭圧入引抜機 運 転		日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 ”
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準 値) 油圧伸縮ジブ型 <b>最大吊上能 力</b> 25 t 吊	”	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 2 ”
クレーン付台船運転	35~40t吊	”	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 3 ”
引 船 運 転	鋼製 D 100PS型 4.9GT	”	$\frac{10}{N}$	” (注) 3 ”

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定

3-1 [略]

3-2 付属機械

油圧式杭圧入引抜機に付属する機械の機種、規格は、次表を標準とする。

表 3. 2 付属機械の機種選定

機 種	作業の種類	圧入 (Nmax ≤ 25) 引 抜 き	圧入 (Nmax ≤ 50)	備 考
ラフテレーンクレーン		排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊 (注) 2		陸上からの施工時のみ
杭打ち用ウォータージェット		—	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第3次基準値) 圧力14.7MPa 吐出量325ℓ/min	
クレーン付台船		<u>クローラクレーン</u> 35~40t吊 <u>台船300t積</u> (注) 3		水上からの施工時のみ
引 船		鋼製 D 100PS型 4.9GT (注) 3		

(注) 1. ~ 5. [略]

4. [略]

5. 日当たり施工枚数

5-1 ~ 5-5 [略]

[新設]

6. 単価表

(1) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 25)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 1
特 殊 作 業 員		”	$\frac{10}{N} \times 1$	” ”
と び 工		”	$\frac{10}{N} \times 2$	” ”
油圧式杭圧入引抜機 運 転		日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 ”
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準 値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	”	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 2 ”
クレーン付台船運転	<u>クローラクレーン</u> 35~40t吊 <u>台船 300 t 積</u>	”	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 3 ”
引 船 運 転	鋼製 D 100PS型 4.9GT	”	$\frac{10}{N}$	” (注) 3 ”

諸 雑 費		式	1	表 5. 8
計				

(注) 1. ～ 3. [略]

(2) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 50)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 2
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 運 転		日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 〃
杭 打 ち 用 ウ ォ ー タ ー ジ ェ ッ ト 運 転	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第 3 次基準 値) 圧力 14. 7MPa 吐出量 325 ℓ/min	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 〃
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 運 転	排出ガス対策型 (第 3 次基準 値) 油圧伸縮ジブ型 <b>最大吊上能力</b> 25 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 3 〃
ク レ ー ン 付 台 船 運 転	35～40t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 4 〃
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4. 9GT	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 4 〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 8
計				

(注) 1. ～ 4. [略]

(3) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 25)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 4、表 5. 6
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
溶 接 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
継 施 工 費		箇所	10 × X	
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 運 転		日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 表 5. 4、表 5. 6
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 運 転	排出ガス対策型 (第 3 次基準 値) 油圧伸縮ジブ型 <b>最大吊上能 力</b> 25 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 2 〃

諸 雑 費		式	1	表 5. 8
計				

(注) 1. ～ 3. [略]

(2) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 50)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 2
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 運 転		日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 〃
杭 打 ち 用 ウ ォ ー タ ー ジ ェ ッ ト 運 転	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第 3 次基準 値) 圧力 14. 7MPa 吐出量 325 ℓ/min	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 〃
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 運 転	排出ガス対策型 (第 3 次基準 値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 3 〃
ク レ ー ン 付 台 船 運 転	<b>クローラークレーン</b> 35～40t 吊 <b>台船 300 t 積</b>	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 4 〃
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4. 9GT	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 4 〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 8
計				

(注) 1. ～ 4. [略]

(3) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 25)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 4、表 5. 6
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
溶 接 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
継 施 工 費		箇所	10 × X	
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 運 転		日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 表 5. 4、表 5. 6
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 運 転	排出ガス対策型 (第 3 次基準 値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 2 〃

クレーン付台船運転	35~40t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 3 〃
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 3 〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 8
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(4) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax≤50)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 5、表 5. 6
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
溶 接 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
継 施 工 費		箇所	10×X	
油圧式杭圧入引抜機 運		日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 表 5. 5、表 5. 6
杭打ち用ウォーター ジェット運転	エンジン式・ 排出ガス対策型(第3次基準 値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第3次基準 値) 油圧伸縮ジブ型 <b>最大吊上能力</b> 25 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 3 〃
クレーン付台船運転	35~40t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 4 〃
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 4 〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 8
計				

(注) 1. ~ 4. [略]

(5) 鋼矢板引抜き 10 枚当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 3
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
油圧式杭圧入引抜機		日	10	表 3. 1

クレーン付台船運転	<u>クローラークレーン</u> 35~40t 吊 <u>台船 300 t 積</u>	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 3 〃
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 3 〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 8
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(4) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax≤50)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 5、表 5. 6
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
溶 接 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
継 施 工 費		箇所	10×X	
油圧式杭圧入引抜機 運		日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 表 5. 5、表 5. 6
杭打ち用ウォーター ジェット運転	エンジン式・ 排出ガス対策型(第3次基準 値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第3次基準 値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 3 〃
クレーン付台船運転	<u>クローラークレーン</u> 35~40t 吊 <u>台船 300 t 積</u>	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 4 〃
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 4 〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 8
計				

(注) 1. ~ 4. [略]

(5) 鋼矢板引抜き 10 枚当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 3
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
油圧式杭圧入引抜機		日	10	表 3. 1

運 転			N	"
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 <b>最大吊上能力 25 t 吊</b>	"	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 2 "
クレーン付台船運転	35~40t 吊	"	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 3 "
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	"	$\frac{10}{N}$	" (注) 3 "
諸 雑 費		式	1	表 5. 8
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(6) 油圧式杭圧入引抜機据付・解体 1 回当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 5. 7
特 殊 作 業 員		"		"
と び 工		"		"
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 運 転		日		表 3. 1 表 5. 7
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 <b>最大吊上能力 25 t 吊</b>	"		表 3. 2 (注) 2 "
クレーン付台船運転	35~40t 吊	"	d a	表 3. 2 (注) 3 "
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	"	d a	" (注) 3 "
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(7) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型(2014年規制) 普通鋼矢板用 圧入力 800kN 引抜力 900kN	機-24	燃 料 消 費 量 →128 機 械 損 料 数 量 →1.49
"	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 広幅鋼矢板用 圧入力 1,000kN 引抜力 1,100kN	機-24	燃 料 消 費 量 →146 機 械 損 料 数 量 →1.49

運 転			N	"
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	"	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 2 "
クレーン付台船運転	<b>クローラークレーン</b> 35~40t 吊 <b>台船 300 t 積</b>	"	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 3 "
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	"	$\frac{10}{N}$	" (注) 3 "
諸 雑 費		式	1	表 5. 8
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(6) 油圧式杭圧入引抜機据付・解体 1 回当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 5. 7
特 殊 作 業 員		"		"
と び 工		"		"
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 運 転		日		表 3. 1 表 5. 7
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	"		表 3. 2 (注) 2 "
クレーン付台船運転	<b>クローラークレーン</b> 35~40t 吊 <b>台船 300 t 積</b>	"	d a	表 3. 2 (注) 3 "
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	"	d a	" (注) 3 "
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(7) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型(2014年規制) 普通鋼矢板用 圧入力 800kN 引抜力 900kN	機-24	燃 料 消 費 量 →128 機 械 損 料 数 量 →1.49
"	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 広幅鋼矢板用 圧入力 1,000kN 引抜力 1,100kN	機-24	燃 料 消 費 量 →146 機 械 損 料 数 量 →1.49

杭打ち用ウォータージェット	エンジン式・ 排出ガス対策型（第3次基準値） 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	機-24	燃料消費量 →134 機械損料数量 →1.49
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧伸縮ジブ型 <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →92 機械損料数量 →1.49
クレーン付台船	35~40t 吊	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 [削る。] 燃料消費量 → <u>146</u> 機械損料数量 →1.49 [削る。] [削る。]
引船	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →57 機械損料数量 →1.22 主燃料 →重油

⑩ 油圧圧入引抜工（ハット形鋼矢板）

1.・2. [略]

3. 機種を選定

3-1 [略]

3-2 付属機械

油圧式杭圧入引抜機に付属する機械の機種、規格は、次表を標準とする。

表 3. 2 付属機械の機種選定

機種	施工方法	圧入 (Nmax ≤ 25)	圧入 (Nmax ≤ 50)	備考
ラフテレーンクレーン		排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧伸縮ジブ型 <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊 (注) 2		陸上からの施工時のみ
杭打ち用ウォータージェット	—		エンジン式・ 排出ガス対策型 （第3次基準値） 圧力 14.7MPa 吐出量 325ℓ/min	
クレーン付台船		35~40t 吊 (注) 3		水上からの施工時のみ
引船		鋼製 D 100PS 型 4.9GT (注) 3		

(注) 1. ~ 5. [略]

4. [略]

杭打ち用ウォータージェット	エンジン式・ 排出ガス対策型（第3次基準値） 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	機-24	燃料消費量 →134 機械損料数量 →1.49
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →92 機械損料数量 →1.49
クレーン付台船	<del>クローラークレーン</del> 35~40t 吊 <u>台船 300 t 積</u>	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 <u>(クローラークレーン)</u> 燃料消費量 → <u>43</u> 機械損料数量 →1.49 <u>(台船)</u> 機械損料数量 → <u>1.49</u>
引船	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →57 機械損料数量 →1.22 主燃料 →重油

⑩ 油圧圧入引抜工（ハット形鋼矢板）

1.・2. [略]

3. 機種を選定

3-1 [略]

3-2 付属機械

油圧式杭圧入引抜機に付属する機械の機種、規格は、次表を標準とする。

表 3. 2 付属機械の機種選定

機種	施工方法	圧入 (Nmax ≤ 25)	圧入 (Nmax ≤ 50)	備考
ラフテレーンクレーン		排出ガス対策型（第3次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊 (注) 2		陸上からの施工時のみ
杭打ち用ウォータージェット	—		エンジン式・ 排出ガス対策型 （第3次基準値） 圧力 14.7MPa 吐出量 325ℓ/min	
クレーン付台船		<del>クローラークレーン</del> 35~40t 吊 <u>台船 300 t 積</u> (注) 3		水上からの施工時のみ
引船		鋼製 D 100PS 型 4.9GT (注) 3		

(注) 1. ~ 5. [略]

4. [略]

5. 日当たり施工枚数

5-1~5-4 [略]

5-5 その他

- (1) ウォータージェット併用施工時に用いる上水道等が必要な場合は、別途計上する。
- (2) ウォータージェット併用施工時に発生する濁水の運搬・処理が必要な場合は、別途計上する。

6. 単価表

(1) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 25)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 1
特殊作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
とび工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
油圧式杭圧入引抜機運	排出ガス対策型 (2014年規制) ハット形鋼矢板 900mm用	日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 <b>最大吊上能力</b> 25 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 2 〃
クレーン付台船運転	35~40t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 3 〃
引船運転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 3 〃
諸雑費		式	1	表 5. 7
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(2) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 50)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 2
特殊作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
とび工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
油圧式杭圧入引抜機運	排出ガス対策型 (2014年規制) ハット形鋼矢板 900mm用	日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 〃
杭打ち用ウォータージェット運転	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第3次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/ min	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 <b>最大吊上能力</b>	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 3 〃

5. 日当たり施工枚数

5-1~5-4 [略]

[新設]

6. 単価表

(1) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 25)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 1
特殊作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
とび工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
油圧式杭圧入引抜機運	排出ガス対策型 (2014年規制) ハット形鋼矢板 900mm用	日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 2 〃
クレーン付台船運転	<b>クローラクレーン</b> 35~40t 吊 <b>台船 300 t 積</b>	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 3 〃
引船運転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 3 〃
諸雑費		式	1	表 5. 7
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(2) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 50)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 2
特殊作業員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
とび工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
油圧式杭圧入引抜機運	排出ガス対策型 (2014年規制) ハット形鋼矢板 900mm用	日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 〃
杭打ち用ウォータージェット運転	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第3次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/ min	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 3 〃

	25 t 吊			
クレーン付台船運転	35~40t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 4 〃
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	〃	$\frac{10}{N}$	4 〃 (注)
諸 雑 費		式	1	表 5. 7
計				

(注) 1. ~ 4. [略]

(3) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 25)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 3、表 5. 5
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
溶 接 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
継 施 工 費		箇所	10 × X	
油圧式杭圧入引抜機運転	排出ガス対策型 (2014年規制) ハット形鋼矢板 900 mm用	日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 表 5. 3、表 5. 5
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 <b>最大吊上 能力 25 t 吊</b>	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 2 〃
クレーン付台船運転	35~40t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 3 〃
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 3 〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 7
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(4) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 50)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 4、表 5. 5
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
溶 接 工		〃	10 × 2	〃

クレーン付台船運転	<b>クローラークレーン</b> 35~40t 吊 <b>台船 300 t 積</b>	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 4 〃
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	〃	$\frac{10}{N}$	4 〃 (注)
諸 雑 費		式	1	表 5. 7
計				

(注) 1. ~ 4. [略]

(3) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 25)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 3、表 5. 5
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
溶 接 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
継 施 工 費		箇所	10 × X	
油圧式杭圧入引抜機運転	排出ガス対策型 (2014年規制) ハット形鋼矢板 900 mm用	日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 表 5. 3、表 5. 5
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 2 〃
クレーン付台船運転	<b>クローラークレーン</b> 35~40t 吊 <b>台船 300 t 積</b>	〃	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 3 〃
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注) 3 〃
諸 雑 費		式	1	表 5. 7
計				

(注) 1. ~ 3. [略]

(4) 継鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (Nmax ≤ 50)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表 4. 1 表 5. 4、表 5. 5
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
溶 接 工		〃	10 × 2	〃

			N	"
継 施 工 費		箇所	10×X	
油圧式杭圧入引抜機 運	排出ガス対策型 (2014年規制) ハット形鋼矢板 900mm用	日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 表 5. 4、表 5. 5
杭打ち用ウォーター ジェット運転	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第3次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	"	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 "
ラフテレーンクレーン 運	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 <b>最大吊上 能力 25 t 吊</b>	"	$\frac{10}{N}$	" (注) 3 "
クレーン付台船運転	35~40t 吊	"	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 4 "
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	"	$\frac{10}{N}$	" (注) 4 "
諸 雑 費		式	1	表 5. 7
計				

(注) 1. ~4. [略]

(5) 油圧式杭圧入引抜機据付・解体 1 回当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 5. 6
特 殊 作 業 員		"		"
と び 工		"		"
油圧式杭圧入引抜機 運	排出ガス対策型 (2014年規制) ハット形鋼矢板 900mm用	日		表 3. 1 表 5. 6
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 <b>最大吊上 能力 25 t 吊</b>	"		表 3. 2 (注) 3 "
クレーン付台船運転	35~40t 吊	"	d a	表 3. 2 (注) 4 "
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	"	d a	" (注) 4 "
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 1. ~3. [略]

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
油圧式杭圧入引抜機	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型 (2014年規制) ハット形鋼矢板 900mm用 圧入力 1,000 kN 引抜力 1,200 kN	機-24	燃料消費量 →171 機械損料数量 →1.49

			N	"
継 施 工 費		箇所	10×X	
油圧式杭圧入引抜機 運	排出ガス対策型 (2014年規制) ハット形鋼矢板 900mm用	日	$\frac{10}{N}$	表 3. 1 表 5. 4、表 5. 5
杭打ち用ウォーター ジェット運転	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第3次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	"	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 "
ラフテレーンクレーン 運	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	"	$\frac{10}{N}$	" (注) 3 "
クレーン付台船運転	<b>クロークレーン</b> 35~40t 吊 <b>台船 300 t 積</b>	"	$\frac{10}{N}$	表 3. 2 (注) 4 "
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	"	$\frac{10}{N}$	" (注) 4 "
諸 雑 費		式	1	表 5. 7
計				

(注) 1. ~4. [略]

(5) 油圧式杭圧入引抜機据付・解体 1 回当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 5. 6
特 殊 作 業 員		"		"
と び 工		"		"
油圧式杭圧入引抜機 運	排出ガス対策型 (2014年規制) ハット形鋼矢板 900mm用	日		表 3. 1 表 5. 6
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	"		表 3. 2 (注) 3 "
クレーン付台船運転	<b>クロークレーン</b> 35~40t 吊 <b>台船 300 t 積</b>	"	d a	表 3. 2 (注) 4 "
引 船 運 転	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	"	d a	" (注) 4 "
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 1. ~3. [略]

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
油圧式杭圧入引抜機	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型 (2014年規制) ハット形鋼矢板 900mm用 圧入力 1,000 kN 引抜力 1,200 kN	機-24	燃料消費量 →171 機械損料数量 →1.49

杭打ち用ウォーター ジェット	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第3次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	機-24	燃料消費量 →134 機械損料数量 →1.49
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →92 機械損料数量 →1.49
クレーン付台船	35~40t 吊	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 [削る。] 燃料消費量 →146 機械損料数量 →1.49 [削る。] [削る。] [削る。]
引 船	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →57 機械損料数量 →1.22 主燃料 →重油

⑱ 油圧圧入引抜工（硬質地盤）

1.・2. [略]

3. 機種を選定

3-1 [略]

3-2 付属機械

油圧式杭圧入引抜機に付属する機械の機種、規格は、次表を標準とする。

表 3. 2 付属機械の機種選定

機 種	施工方法	圧入 (50<Nmax≤600)	備 考
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 <u>最大吊上能力</u> 50~51 t 吊 (注) 1		陸上施工時

(注) 1.・2. [略]

4. ~7. [略]

8. 単価表

(1) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (50<Nmax≤600)

名 称	規 格	単 位	数 量	適 用
世 話 役		人	10 ×	表 4. 1

杭打ち用ウォーター ジェット	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第3次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	機-24	燃料消費量 →134 機械損料数量 →1.49
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →92 機械損料数量 →1.49
クレーン付台船	<u>クローラクレーン</u> 35~40t 吊 <u>台船 300 t 積</u>	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 (クローラクレーン) 燃料消費量 →43 機械損料数量 →1.49 (台船) 機械損料数量 →1.49
引 船	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →57 機械損料数量 →1.22 主燃料 →重油

⑱ 油圧圧入引抜工（硬質地盤）

1.・2. [略]

3. 機種を選定

3-1 [略]

3-2 付属機械

油圧式杭圧入引抜機に付属する機械の機種、規格は、次表を標準とする。

表 3. 2 付属機械の機種選定

機 種	施工方法	圧入 (50<Nmax≤600)	備 考
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 50~51 t 吊 (注) 1		陸上施工時

(注) 1.・2. [略]

4. ~7. [略]

8. 単価表

(1) 鋼矢板圧入 10 枚当り単価表 (50<Nmax≤600)

名 称	規 格	単 位	数 量	適 用
世 話 役		人	10 ×	表 4. 1

			N	1	表 5. 1、表 5. 2、表 5. 3 表 5. 4、表 5. 5
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N}$	× 1	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N}$	× 2	〃 〃
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 運 転		日	$\frac{10}{N}$		表 3. 1 〃 〃
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 運 転	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 <u>最大吊上能力</u> 50~51 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$		表 3. 2 〃
諸 雑 費		式		1	表 7. 1
計					

(注) [略]

(2) 油圧式杭圧入引抜機据付・解体1回当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 6. 1
特 殊 作 業 員		〃		〃
と び 工		〃		〃
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 運 転		日		表 3. 1 表 6. 1
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 運 転	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 <u>最大吊上能力</u> 50~51 t 吊	〃		表 3. 2 〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 (鋼 矢 板 II・III・IV 型 用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (第3次基準値) 普通鋼矢板用 圧入力 800kN 引抜力 900kN	機-24	燃料消費量 →171 機械損料数量 →1.49
〃 (鋼 矢 板 VL・VII・IIw・IIIw・IVw 型 用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (第3次基準値) 広幅鋼矢板用 圧入力 800kN	機-24	燃料消費量 →171 機械損料数量 →1.49

			N	1	表 5. 1、表 5. 2、表 5. 3 表 5. 4、表 5. 5
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N}$	× 1	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N}$	× 2	〃 〃
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 運 転		日	$\frac{10}{N}$		表 3. 1 〃 〃
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 運 転	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 50~51 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$		表 3. 2 〃
諸 雑 費		式		1	表 7. 1
計					

(注) [略]

(2) 油圧式杭圧入引抜機据付・解体1回当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 6. 1
特 殊 作 業 員		〃		〃
と び 工		〃		〃
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 運 転		日		表 3. 1 表 6. 1
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 運 転	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 50~51 t 吊	〃		表 3. 2 〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 (鋼 矢 板 II・III・IV 型 用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (第3次基準値) 普通鋼矢板用 圧入力 800kN 引抜力 900kN	機-24	燃料消費量 →171 機械損料数量 →1.49
〃 (鋼 矢 板 VL・VII・IIw・IIIw・IVw 型 用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (第3次基準値) 広幅鋼矢板用 圧入力 800kN	機-24	燃料消費量 →171 機械損料数量 →1.49

	引抜き力 1,000kN		
油圧式杭圧入引抜機 (鋼矢板 10H・25H 型用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (2014 年規制) ハット形鋼矢板 900 mm 用 圧入力 800kN 引抜き力 900kN	機 - 2 4	燃料消費量 →201 機械損料数量 →1.49
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (2011 年規制) 油圧伸縮ジブ型 <u>最大吊上能力</u> 50~51 t 吊	機 - 1 8	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →128 機械損料数量 →1.49

⑳ [略]

## 17. 共通仮設

### ① 重建設機械分解組立運搬

#### 1. 適用範囲

本歩掛は、工事現場に搬入搬出する標準的な重建設機械の分解・組立及び輸送に適用し、適用する建設機械は次表とする。

表 1.1 適用建設機械

機械区分	適用建設機械
ブルドーザ	ブルドーザ (リッパ装置付を含む) 普通 <u>通称</u> 21 t 級以上~44 t 級以下 湿地 <u>通称</u> 20 t 級以上~28 t 級以下
バックホウ系	バックホウ (超ロングアーム型は除く) <u>バケット容量</u> 1.0m <sup>3</sup> 以上~2.1m <sup>3</sup> 以下 油圧クラムシェル・テレスコピック <u>バケット容量 (平積)</u> 0.4m <sup>3</sup> 以上~0.6m <sup>3</sup> 以下
クローラクレーン系	クローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型] <u>最大吊上能力</u> 16 t 以上~300 t 以下 クラムシェル [油圧ロープ式] <u>バケット容量 (平積)</u> 0.6m <sup>3</sup> 以上~3.0m <sup>3</sup> 以下 パイプロハンマ [クローラクレーン・油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・ <u>最大吊上能力</u> 50~55 t 吊]
トラッククレーン系	トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] オールテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型] <u>最大吊上能力</u> 100 t 以上~550 t 以下
クローラ式杭打機	ディーゼルハンマ 油圧ハンマ アースオーガ (二軸同軸式を含む) ディーゼルハンマ・アースオーガ併用 モンケン・アースオーガ併用 鋼管ソイルセメント杭打機

	引抜き力 1,000kN		
油圧式杭圧入引抜機 (鋼矢板 10H・25H 型用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (2014 年規制) ハット形鋼矢板 900 mm 用 圧入力 800kN 引抜き力 900kN	機 - 2 4	燃料消費量 →201 機械損料数量 →1.49
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (2011 年規制) 油圧伸縮ジブ型 50~51 t 吊	機 - 1 8	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →128 機械損料数量 →1.49

⑳ [略]

## 16. 共通仮設

### ① 重建設機械分解組立運搬

#### 1. 適用範囲

本歩掛は、工事現場に搬入搬出する標準的な重建設機械の分解・組立及び輸送に適用し、適用する建設機械は次表とする。

表 1.1 適用建設機械

機械区分	適用建設機械
ブルドーザ	ブルドーザ (リッパ装置付を含む) 普通 21 t 級以上~44 t 級以下 湿地 20 t 級以上~28 t 級以下
バックホウ系	バックホウ (超ロングアーム型は除く) 山積 1.0m <sup>3</sup> 以上~2.1m <sup>3</sup> 以下 <u>(平積 0.7m<sup>3</sup> 以上~1.5m<sup>3</sup> 以下)</u> 油圧クラムシェル・テレスコピック 平積 0.4m <sup>3</sup> 以上~0.6m <sup>3</sup> 以下
クローラクレーン系	クローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型] <u>吊り能力</u> 16 t 以上~300 t 以下 クラムシェル [油圧ロープ式] 平積 0.6m <sup>3</sup> 以上~3.0m <sup>3</sup> 以下 パイプロハンマ [クローラクレーン・油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・50~55 t 吊]
トラッククレーン系	トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] オールテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型] <u>吊り能力</u> 100 t 以上~550 t 以下
クローラ式杭打機	ディーゼルハンマ 油圧ハンマ アースオーガ (二軸同軸式を含む) ディーゼルハンマ・アースオーガ併用 モンケン・アースオーガ併用 鋼管ソイルセメント杭打機

	アースオーガ併用圧入杭打機 アースオーガ中掘式 機械質量 20 t 以上～150 t 以下
オールケーシング掘削機	オールケーシング掘削機〔クローラ式〕 掘削径 2,000 mm 以下 オールケーシング掘削機〔スキッド式〕 掘削径 2,000 mm 以下
地盤改良機械	中層混合処理機 機械質量 20 t 以上～120 t 以下
	サンドパイル打機 粉体噴射攪拌機（付属機器除く） 深層混合処理機 プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機 機械質量 20 t 以上～180 t 以下
トンネル用機械	自由断面トンネル掘削機 ドリルジャンボ コンクリート吹付機 機械質量 20 t 以上～60 t 以下

	アースオーガ併用圧入杭打機 アースオーガ中掘式 機械質量 20 t 以上～150 t 以下
オールケーシング掘削機	オールケーシング掘削機〔クローラ式〕 掘削径 2,000 mm 以下 オールケーシング掘削機〔スキッド式〕 掘削径 2,000 mm 以下
地盤改良機械	中層混合処理機 機械質量 20 t 以上～120 t 以下
	サンドパイル打機 粉体噴射攪拌機（付属機器除く） 深層混合処理機 プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機 機械質量 20 t 以上～180 t 以下
トンネル用機械	自由断面トンネル掘削機 ドリルジャンボ コンクリート吹付機 機械質量 20 t 以上～60 t 以下

## 2. 施工歩掛

### 2-1 使用機械の規格選定

分解・組立に使用するクレーンは、次表を標準とする。

表 2.1 クレーンの規格選定

機 械 区 分	規 格	分 解 組 立 用 ク レ ー ン		
		名 称	規 格	
バックハウ系 オールケーシング掘削機 (クローラ式) トンネル用機械	表 1.1 参照	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	最大吊 上能力 25t 吊	
ブルドーザ	21 t 級以下	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2011 年規制)	最大吊 上能力 25t 吊	
	44 t 級以下			
地盤改良機械	中層混合処理機	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	最大吊 上能力 25t 吊	
			質量 60 t 以下	
	質量 120 t 以下		最大吊 上能力 60t 吊	
	質量 180 t 以下			
サンドパイル打機 粉体噴射攪拌機 深層混合処理機 プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機	質量 60 t 以下	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	最大吊 上能力 60t 吊	
	質量 120 t 以下			
	質量 180 t 以下			
	質量 180 t 以下			
クローラクレーン系	35 t 吊以下 (クラムシェル平積 0.6m <sup>3</sup> 含む)	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	最大吊 上能力 25t 吊	
	80 t 吊以下 (クラムシェル平積 2.0m <sup>3</sup> 以下含む)			
	150 t 吊以下 (クラムシェル平積 3.0m <sup>3</sup> 以下含む)			最大吊 上能力 60t 吊
	300 t 吊以下			
トラッククレーン系	表 1.1 参照	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	最大吊 上能力 70t 吊	
	200t 吊以上 360t 吊以下			リフター [せり上げ能力]
	550t 吊以下			

## 2. 施工歩掛

### 2-1 使用機械の規格選定

分解・組立に使用するクレーンは、次表を標準とする。

表 2.1 クレーンの規格選定

機 械 区 分	規 格	分 解 組 立 用 ク レ ー ン		
		名 称	規 格	
バックハウ系 オールケーシング掘削機 (クローラ式) トンネル用機械	表 1.1 参照	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	25t 吊	
ブルドーザ	21 t 級以下	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2011 年規制)	25t 吊	
	44 t 級以下			
地盤改良機械	中層混合処理機	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	25t 吊	
			質量 60 t 以下	
	質量 120 t 以下		60t 吊	
	質量 180 t 以下			
サンドパイル打機 粉体噴射攪拌機 深層混合処理機 プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機	質量 60 t 以下	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	60t 吊	
	質量 120 t 以下			
	質量 180 t 以下			
	質量 180 t 以下			
クローラクレーン系	35 t 吊以下 (クラムシェル平積 0.6m <sup>3</sup> 含む)	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	25t 吊	
	80 t 吊以下 (クラムシェル平積 2.0m <sup>3</sup> 以下含む)			
	150 t 吊以下 (クラムシェル平積 3.0m <sup>3</sup> 以下含む)			60t 吊
	300 t 吊以下			
トラッククレーン系	表 1.1 参照	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014 年規制)	70t 吊	
	200t 吊以上 360t 吊以下			リフター [せり上げ能力]
	550t 吊以下			

クローラ式杭打機	質量60t以下	ラフテレーンクレーン	最大吊 上能力 60t吊
	質量100t以下	油圧伸縮ジブ型	
	質量150t以下	排出ガス対策型(2014年規制)	
オールケーシング掘削機 〔スキッド式〕	表1.1参照 本体工事でクローラクレーン 〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジ ブ型・基礎工事用・排出ガス対 策型(2014年規制)〕 <u>最大吊上 能力70~90t吊を使用する場合</u>	クローラクレーン 油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用・ 排出ガス対策型(2014年規制)	最大吊 上能力 70~90t 吊
	表1.1参照 本体工事でクローラクレーン 〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジ ブ型・基礎工事用・排出ガス対 策型(2014年規制)〕 <u>最大吊上 能力100t吊を使用する場合</u>	クローラクレーン 油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型・ 基礎工事用・排出ガス対策型 (2014年規制)	最大吊 上能力 100t吊

(注) 1.~3. [略]

2-2 歩 掛

分解組立1台1回当り歩掛は、次表とする。

表2.2 歩 掛

機 械 区 分	規 格 区 分	労 務 歩 掛 特殊作業員 (人) (分解+組立)	クレーン 運転歩掛 (日) (分解+組立)	運搬費 等 率 (%)	諸 雑 費 率 (%)
ブルドーザ	21t級以下	2.8	2.1	155	21
	44t級以下	4.6	3.4	153	21
バックホウ系	山積1.5m <sup>3</sup> 以下 (油圧クラムシェル・テレスコピック 0.4m <sup>3</sup> 以上0.6m <sup>3</sup> 以下含む)	2.7	1.4	250	24
	山積2.1m <sup>3</sup> 以下	4.5	2.3	256	25
クローラクレーン系	35t吊以下 (クラムシェル平積0.6m <sup>3</sup> 含む)	3.0	0.8	444	22
	80t吊以下 (クラムシェル平積2.0m <sup>3</sup> 以下含む)	5.5	1.5	434	21
	150t吊以下 (クラムシェル平積3.0m <sup>3</sup> 以下含む)	11.3	3.1	315	15
	300t吊以下	20.5	5.7	313	15
トラッククレーン系	120t吊以下	4.3	1.5	394	75
	160t吊以下	5.7	1.9	409	78
	360t吊以下	11.7	4.0	399	75
	550t吊以下	20.9	7.1	401	76
	200t吊以上360t吊以下 (リフターを使用する場合)	11.0	2.7	392	83
	550t吊以下 (リフターを使用する場合)	19.4	4.9	390	83
クローラ式杭打機	60t以下	8.6	2.1	163	2
	100t以下	15.5	3.7	164	2
	150t以下	23.5	5.6	163	2
オールケーシング掘削機 〔クローラ式〕	—	3.9	3.4	595	5

クローラ式杭打機	質量60t以下	ラフテレーンクレーン	60t吊
	質量100t以下	油圧伸縮ジブ型	
	質量150t以下	排出ガス対策型(2014年規制)	
オールケーシング掘削機 〔スキッド式〕	表1.1参照 本体工事でクローラクレーン 〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジ ブ型・基礎工事用・排出ガス対 策型(2014年規制)〕70~90t吊 を使用する場合	クローラクレーン 油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型・ 基礎工事用・排出ガス対策型 (2014年規制)	70~90t 吊
	表1.1参照 本体工事でクローラクレーン 〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジ ブ型・基礎工事用・排出ガス対 策型(2014年規制)〕100t吊を 使用する場合	クローラクレーン 油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型・ 基礎工事用・排出ガス対策型 (2014年規制)	100t吊

(注) 1.~3. [略]

2-2 歩 掛

分解組立1台1回当り歩掛は、次表とする。

表2.2 歩 掛

機 械 区 分	規 格 区 分	労 務 歩 掛 特殊作業員 (人) (分解+組立)	クレーン 運転歩掛 (日) (分解+組立)	運搬費 等 率 (%)	諸 雑 費 率 (%)
ブルドーザ	21t級以下	2.8	2.1	155	21
	44t級以下	4.6	3.4	153	21
バックホウ系	山積1.4m <sup>3</sup> 以下 (油圧クラムシェル・テレスコピック 0.4m <sup>3</sup> 以上0.6m <sup>3</sup> 以下含む)	2.7	1.4	250	24
	山積2.1m <sup>3</sup> 以下	4.5	2.3	256	25
クローラクレーン系	35t吊以下 (クラムシェル平積0.6m <sup>3</sup> 含む)	3.0	0.8	444	22
	80t吊以下 (クラムシェル平積2.0m <sup>3</sup> 以下含む)	5.5	1.5	434	21
	150t吊以下 (クラムシェル平積3.0m <sup>3</sup> 以下含む)	11.3	3.1	315	15
	300t吊以下	20.5	5.7	313	15
トラッククレーン系	120t吊以下	4.3	1.5	394	75
	160t吊以下	5.7	1.9	409	78
	360t吊以下	11.7	4.0	399	75
	550t吊以下	20.9	7.1	401	76
	200t吊以上360t吊以下 (リフターを使用する場合)	11.0	2.7	392	83
	550t吊以下 (リフターを使用する場合)	19.4	4.9	390	83
クローラ式杭打機	60t以下	8.6	2.1	163	2
	100t以下	15.5	3.7	164	2
	150t以下	23.5	5.6	163	2
オールケーシング掘削機 〔クローラ式〕	—	3.9	3.4	595	5

オールケーシング掘削機 〔スキッド式〕	本体工事でクローラクレーン〔油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用・排出 ガス対策型(2014年規制)〕 <u>最大吊上能力</u> 70 ～90 t 吊を使用する場合	4.9	11.9 (h)	490	4	
	本体工事でクローラクレーン〔油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用・排出 ガス対策型(2014年規制)〕 <u>最大吊上能力</u> 100 t 吊を使用する場合	4.9	11.9 (h)	361	3	
地盤改良機械	中層混合処理機	60 t 以下	16.0	2.4	265	4
		120 t 以下	41.2	6.3	211	3
	サントハイル打機 粉体噴射攪拌機 深層混合処理機 プレファブリケイ ティッドバーチカ ルドレーン打機	60 t 以下	16.0	2.4	213	3
		120 t 以下	41.2	6.3	211	3
		180 t 以下	64.6	9.9	210	3
トンネル用機械	—	5.4	2.0	582	8	

(注) 1. ～ 3. [略]

3. [略]

②・③ [略]

## 17. 市場単価

市場単価方式により積算を行う工種

[削る。]

[削る。]

① 防護柵設置工 (ガードレール)

② 防護柵設置工 (横断・転落防止柵)

オールケーシング掘削機 〔スキッド式〕	本体工事でクローラクレーン〔油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用・排出 ガス対策型(2014年規制)〕70～90 t 吊を使 用する場合	4.9	11.9 (h)	490	4	
	本体工事でクローラクレーン〔油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用・排出 ガス対策型(2014年規制)〕100 t 吊を使用 する場合	4.9	11.9 (h)	361	3	
地盤改良機械	中層混合処理機	60 t 以下	16.0	2.4	265	4
		120 t 以下	41.2	6.3	211	3
	サントハイル打機 粉体噴射攪拌機 深層混合処理機 プレファブリケイ ティッドバーチカ ルドレーン打機	60 t 以下	16.0	2.4	213	3
		120 t 以下	41.2	6.3	211	3
		180 t 以下	64.6	9.9	210	3
トンネル用機械	—	5.4	2.0	582	8	

(注) 1. ～ 3. [略]

3. [略]

②・③ [略]

## 17. 市場単価

市場単価方式により積算を行う工種

① 鉄筋工 (太径鉄筋を含む)

市場単価方式によるもの	(参考)市場単価方式によらないもの
法面工のコンクリート法枠(現場打)工、擁壁工の補強土壁(壁面上端処理)工、鋼管・既製コンクリート打工の既製杭頭処理工(パイルハンマ工、プレボーリング・中掘工)、場所打杭工の深礎工、オープンケーソン工、ニューマチックケーソン工、付属施設工(洞門工及び各種コンクリート基礎工)、共同溝、橋梁上部工(鋼橋床版工、グレーチング床版架設工及び足場工)、RC場所打ホロースラブ橋、その他(河川、海岸、道路、コンクリート橋梁、鋼橋用及びコンクリート橋(PCコンポ橋、PC合成桁橋)用床版等の構造物)、さし筋(削孔等を行うあと施工アンカーは除く)、場所打杭の鉄筋かご、(オールケーシング、リバースサーキュレーション、アースオーガ、大口径ボーリングマシン)、トンネル覆工、電線共同溝	コンクリート山止め壁工の場所打連続壁工、道路維持修繕の橋梁地覆補修工、橋梁上部工(ポストテンション桁製作工、PC橋架設工、ポストテンション場所打ホロースラブ橋、ポストテンション場所打箱桁橋)、沓座拡幅工、その他(特に加工・組立が困難な構造物)

② 鉄筋工 (ガス圧接)

③ 防護柵設置工 (ガードレール)

④ 防護柵設置工 (横断・転落防止柵)

- ③ 防護柵設置工（落石防護柵）
- ④ 防護柵設置工（落石防止網）
- ⑤ 防護柵設置工（ガードパイプ）

⑥ 道路標識設置工

⑦ 道路付属物設置工

- ・視線誘導標

⑧ 法面工

- ・モルタル吹付工
- ・コンクリート吹付工
- ・植生基材吹付工
- ・客土吹付工
- ・種子散布工
- ・枠内吹付工（コンクリート・モルタル・植生基材）
- ・植生マット工、植生シート工、繊維ネット工
- ・植生筋工、筋芝工、張芝工

⑨ 吹付砕工

[削る。]

⑤ 防護柵設置工（落石防護柵）

⑥ 防護柵設置工（落石防止網）

⑦ 防護柵設置工（ガードパイプ）

⑧ 道路標識設置工

⑨ 道路付属物設置工

- ・視線誘導標

⑩ 法面工

- ・モルタル吹付工
- ・コンクリート吹付工
- ・植生基材吹付工
- ・客土吹付工
- ・種子散布工
- ・枠内吹付工（コンクリート・モルタル・植生基材）
- ・植生マット工、植生シート工、繊維ネット工
- ・植生筋工、筋芝工、張芝工

⑪ 吹付砕工

⑫ 軟弱地盤処理工

- ・サンドドレーン工
- ・サンドコンパクションパイル工

## 19. 機械単価表

本資料は、各工種に使用する機械のうち、標準的な機種について機械運転単価表を表したものであり、各工種の単価表に指定された、運転労務数量、燃料消費量、機械損料（賃料）数量を使用し作成する。  
1.・2. [略]

機-1~機-35 [略]

機-36 運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 ( 特 殊 )		人		
( 電 力 )		kWh		
燃 料 費		ℓ		
機 械 損 料 1 ( )		供用日		
機 械 損 料 2 ( )		〃		
機 械 損 料 3 ( )		〃		
I C T 建 設 機 械 経 費 損 料 加 算 額		〃		
諸 雑 費 計		式	1	

(注) 1. 機械損料の( )内には、機械名を記入する。  
2. 発動発電機を電源とする場合は、電力の積算はしない。

## 19. 機械単価表

本資料は、各工種に使用する機械のうち、標準的な機種について機械運転単価表を表したものであり、各工種の単価表に指定された、運転労務数量、燃料消費量、機械損料（賃料）数量を使用し作成する。  
1.・2. [略]

機-1~機-35 [略]

[新設]